

# 中山間地域住民の生活実態に関する調査 報告書

令和5年3月

島根県



# 《 目 次 》

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査対象の選定	1
3. 調査期間	2
4. アンケート調査の発送・回答状況	2
5. グラフについて	2
6. アンケート調査の回答者属性	3
7. ヒアリング調査の参加者の概要	8

## II 調査結果の概要

1. 生活利便性について	9
2. 外出と移動手段について	28
3. 移動販売・通信販売等の利用について	41
4. 情報通信機器の活用について	51
5. 別居の家族等との付き合いについて	58
6. 生活を手助けしてくれる家族・親族の状況について	65
7. 自治会等の活動について	76
8. 現在の地域に暮らしている理由と今後の居住意向について	78

## III 設問間のクロス分析

1. 自動車の運転と買い物	90
2. 別居の家族・親族による手助け	92
3. 居住地域の暮らしやすさと今後の居住意向	94

## IV 調査結果の総合分析

1. 調査結果のまとめ（調査で把握された生活実態等）	95
2. 調査結果を踏まえた中山間地域対策の方向性	99

## 参考資料

1. 調査対象地域の選定	107
2. アンケート調査の標本誤差と信頼度	111
3. アンケート調査票	112
4. 調査対象地区別ヒアリングの主な意見	126

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

島根県では、市町村と連携し、生活に必要な機能・サービスを確保する「小さな拠点づくり」の取組を支援してきたことにより、各地で住民主体による実践活動が取り組まれている。現在の活動をみると、高齢者支援や自主防災活動などが多い一方で、買い物支援や生活交通など生活機能の確保に直結する実践活動は少数にとどまっている。

他方、人口減少と高齢化の進展により、県の一部の地域においては買い物などの生活機能が失われてきている状況にあり、今後、県民が安心して暮らすことができるよう、生活機能の維持・確保に向けた新たな対策を検討する必要がある。

そこで、本調査は買い物や通院先、生活交通（移動手段）、家族等の支援状況など中山間地域の住民の生活実態をアンケート調査およびヒアリング調査で把握し、今後の中山間地域対策を検討するための基礎資料をとりまとめることを目的として実施する。

## 2. 調査対象の選定

### (1) 調査対象地域

調査対象地域については、県と市町村で協議の上、以下のとおり選定した。

○令和4年4月1日時点で中山間地域に指定されている平成合併前の旧59市町村から、人口及び集落の状況、人口推計、生活機能関連施設までの時間等を総合的に評価し、県と市町村で協議の上、調査対象地域18エリア（旧18市町村）を選定した。

※邑南町は同種の調査を町単独で実施しているため、調査対象地域から除いた。

市町村名	調査対象地域	市町村名	調査対象地域
松江市	旧美保関町	飯南町	旧頓原町
浜田市	旧弥栄村	川本町	川本町
出雲市	旧佐田町	美郷町	旧大和村
益田市	旧匹見町	津和野町	旧津和野町
大田市	旧仁摩町	吉賀町	旧柿木村
安来市	旧広瀬町	海士町	海士町
江津市	旧江津市	西ノ島町	西ノ島町
雲南市	旧吉田村	知夫村	知夫村
奥出雲町	旧横田町	隠岐の島町	旧布施村

○各調査対象地域において、平成合併前の旧市役所・町村役場があるエリアを「基幹集落」、それ以外のエリアを「周辺部集落」として設定した。

※川本町、海士町、西ノ島町、知夫村は現町村区域において、基幹集落と周辺部集落を設定した。

※知夫村は全域を基幹集落として実施した。

## (2) 調査対象者

- ① 中山間地域住民の生活実態に関する調査（以下、アンケート調査）  
調査対象地域に居住する 18 歳以上の住民から無作為抽出した 12,000 人
- ② 中山間地域住民ヒアリング調査（以下、ヒアリング調査）  
調査対象地域の住民（市町村、地域運営組織等を通じて参加者を募集）

## 3. 調査期間

- ① アンケート調査  
令和 4 年 7 月～8 月
- ② ヒアリング調査  
令和 4 年 10 月～11 月

## 4. アンケート調査の発送・回答状況

- ① アンケート調査
  - 回答数を 50%と仮定し、市町村ごとに十分な回答数が確保できるように配布数を設定した。
  - 回答の状況を踏まえ、回答期限の 1 週間前頃に再度の協力依頼を行った。
  - アンケートの配布数は 12,000 人、回答数は 6,207 人、回答率は 51.7%であった。
- ② ヒアリング調査
  - 調査対象地域の住民 383 人に実施した。（基幹集落：195 人、周辺部集落 188 人）

## 5. グラフについて

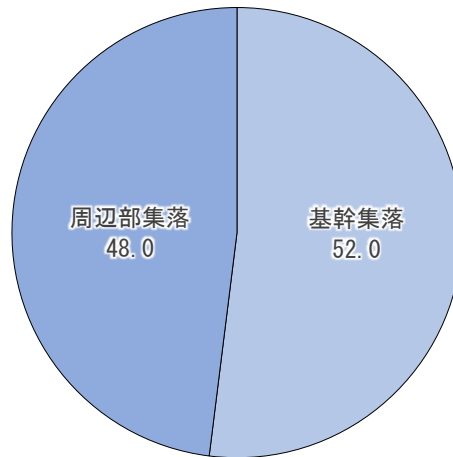
- ・構成比は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。
- ・グラフ中「全体」の数値は年齢未回答者を含めているため、年齢別の合計と一致しない。

## 6. アンケート調査の回答者属性

### (1) 集落類型（基幹集落と周辺部集落に分けた集計。以下同じ）

○基幹集落が52%、周辺部集落が48%となっている。

図 回答者の集落類型（全体）

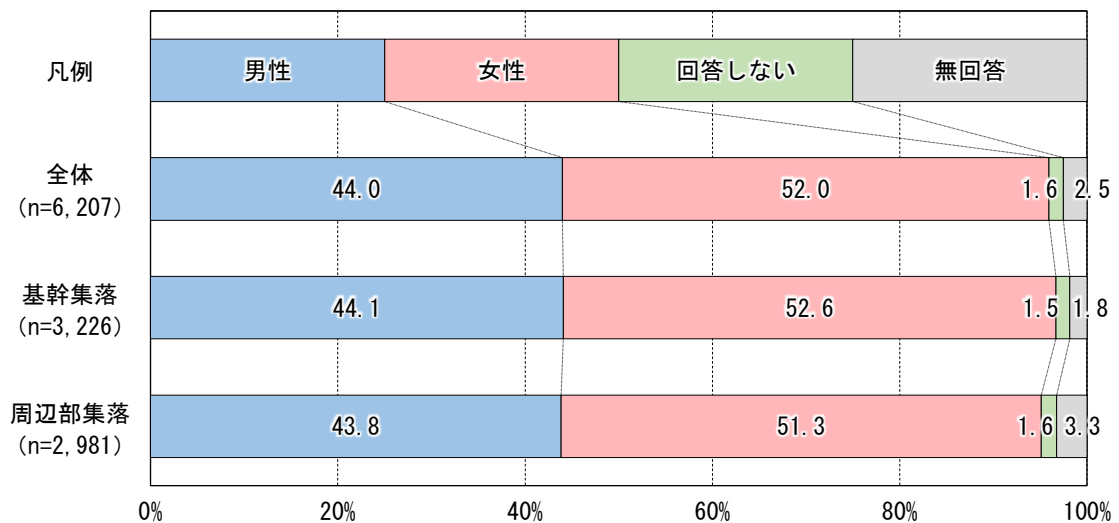


(n=6, 207)

### (2) 性別

○男性が44%、女性が52%となっている。

図 回答者の性別（全体・集落類型別）

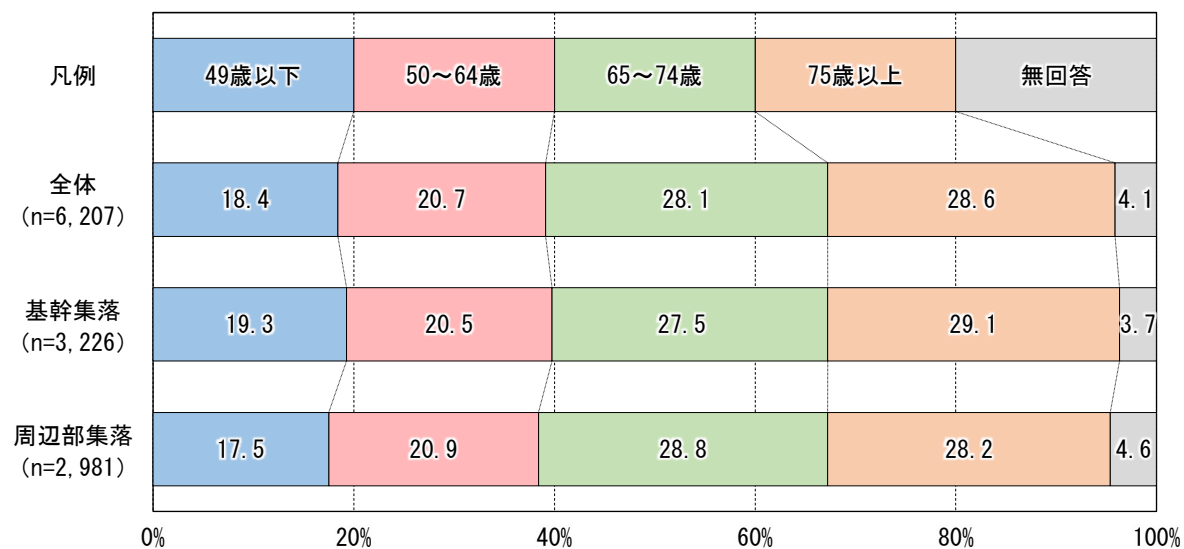


### (3) 年齢

○49歳以下が18.4%、50～64歳20.7%、65～74歳が28.1%、75歳以上が28.6%となっている。

○64歳以下は39.1%、65歳以上が56.7%となっている。

図 回答者の年齢（全体・集落類型別）

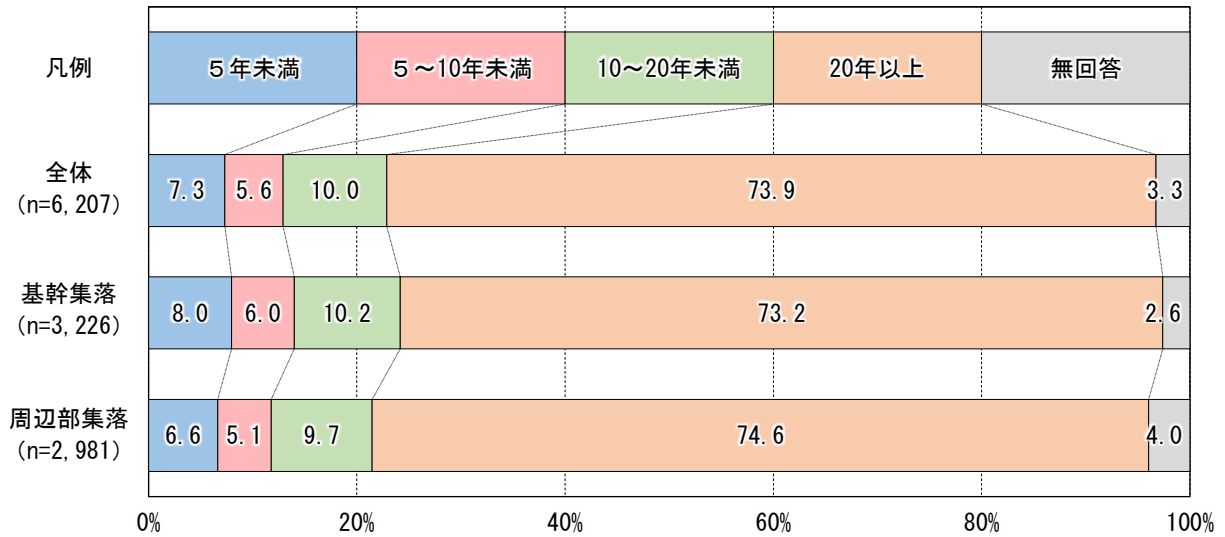




#### (4) 居住年数

○居住年数が20年以上と回答した人は最も高く73.9%であり、10年以上では83.9%となっている。

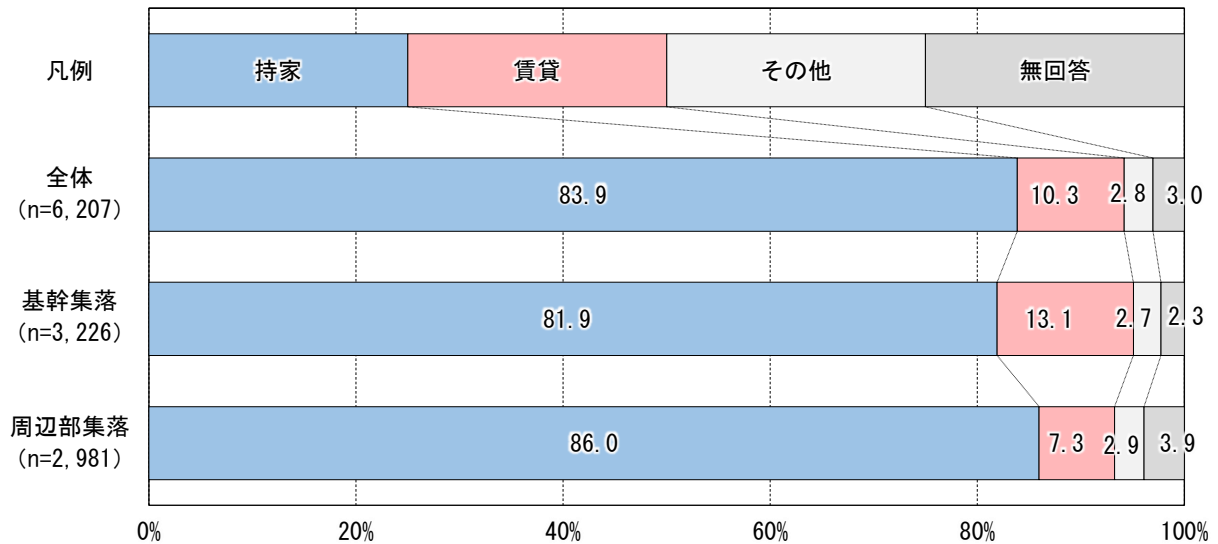
図 回答者の居住年数（全体・集落類型別）



#### (5) 住宅の形態

○「持家」と回答した人は最も高く83.9%となっている。

図 回答者の住宅の形態（全体・集落類型別）



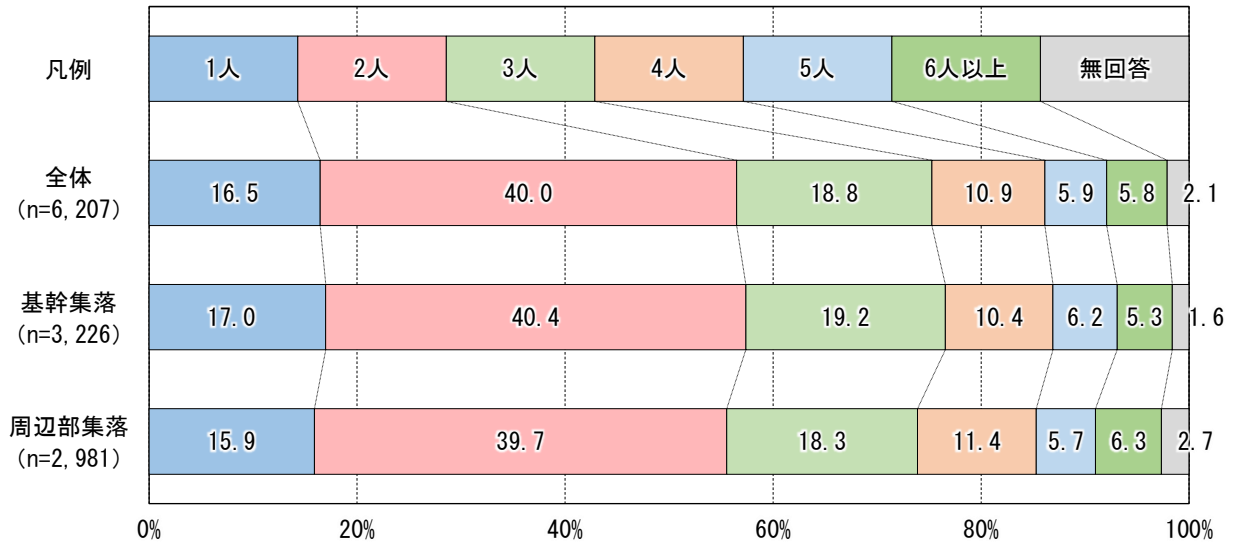
【その他 (n=126) の回答のうち記載の多かったもの】

家族親族等の持家	61件	公営住宅（賃貸）	19件
官舎・社宅（賃貸）	18件	施設	15件 など

## (6) 同居人数（回答者を含む世帯の人員）

○同居人数（回答者を含む世帯の人員）は「2人」と回答する人が40%と最も高くなっており、次いで「3人」が18.8%、「1人」が16.5%となっている。

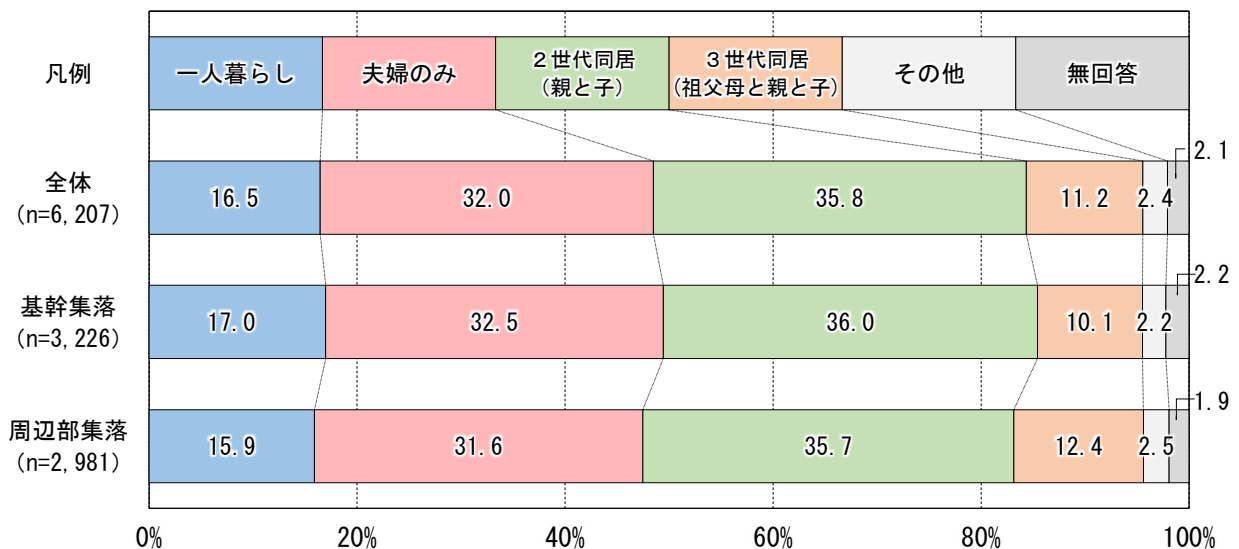
図 回答者の同居人数（全体・集落類型別）



## (7) 家族構成

○「2世代同居（親と子）」は35.8%と最も高くなっており、次いで「夫婦のみ」が32%「一人暮らし」が16.5%となっている。

図 回答者の家族構成（全体・集落類型別）



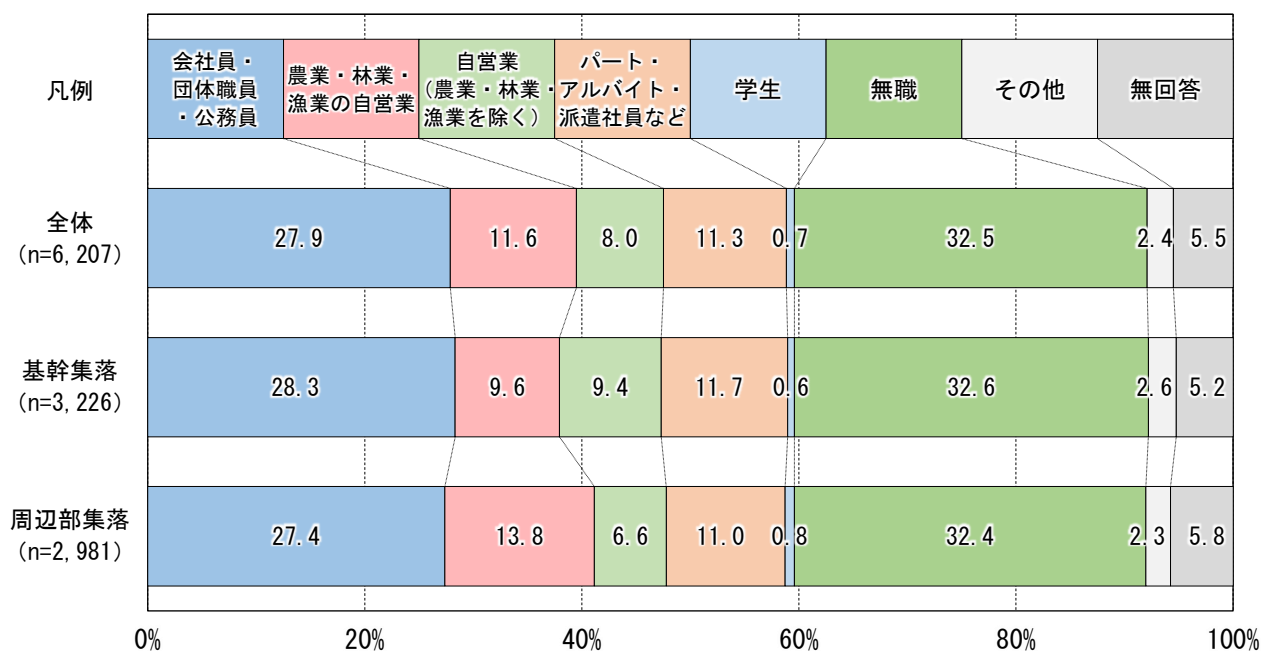
【その他 (n=109) の回答のうち記載の多かったもの】

4世代同居	32件	兄弟	25件
親族 (祖父母、孫等)	16件	シェアハウス	10件 など

## (8) 就業状況

- 「無職」が最も高く 32.5%、次いで「会社員・団体職員・公務員」が 27.9%、「農業・林業・漁業の自営業」が 11.6%、「パート・アルバイト・派遣社員など」が 11.3%となっている。
- 集落類型別にみると、基幹集落では「自営業（農業・林業・漁業を除く）」と回答した人の割合が高く、周辺部集落では「農業・林業・漁業の自営業」が高くなっている。

図 回答者の就業状況（全体・集落類型別）

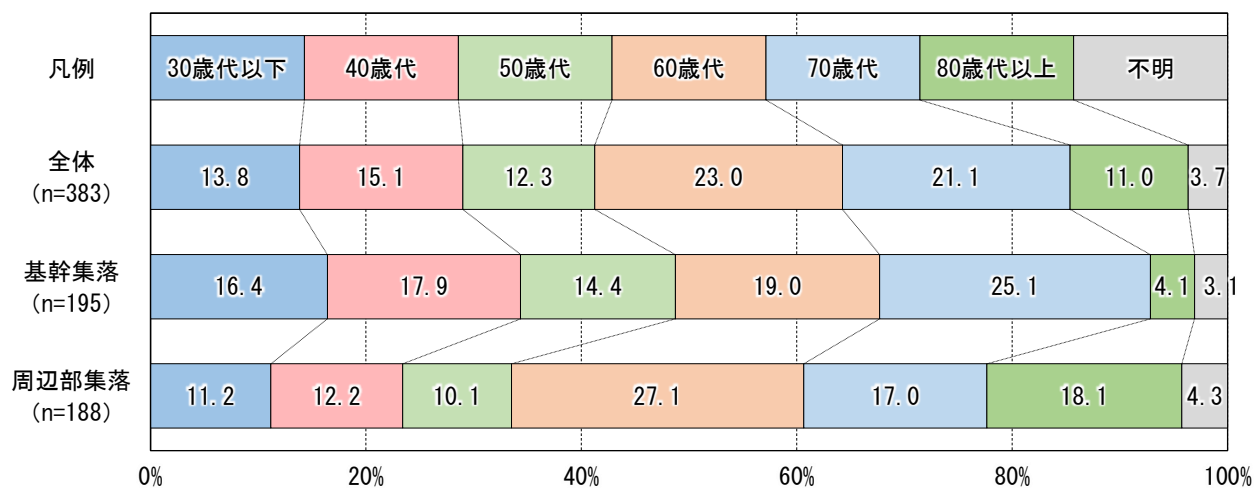


## 7. ヒアリング調査の参加者の概要

○ヒアリング調査の参加者は 383 人となっている。

○60 歳代が最も高く 23%、次いで 70 歳代が 21.1%となっている。

図 ヒアリング参加者の年齢構成（全体・集落類型別）



## Ⅱ 調査結果の概要

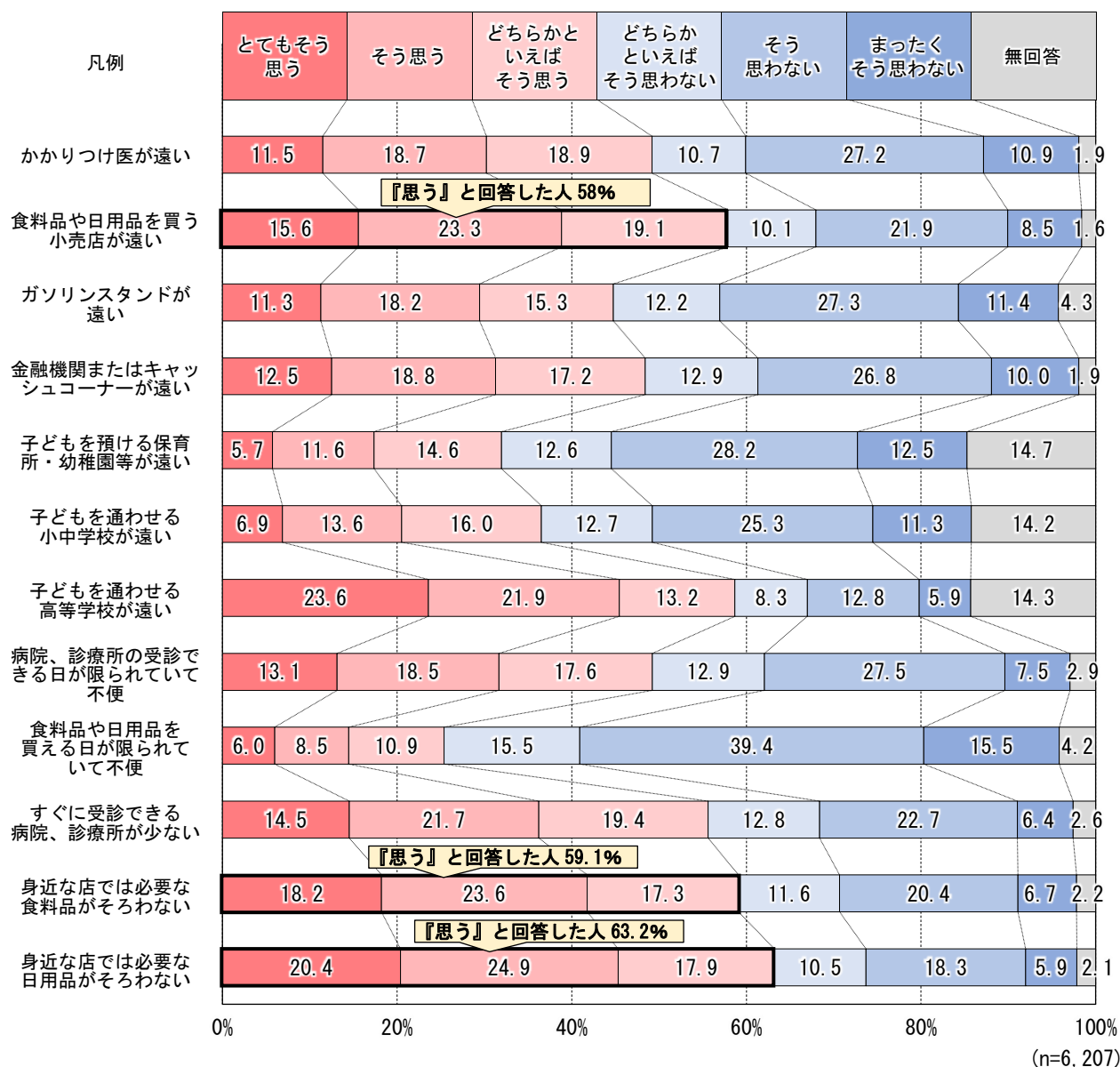
### 1. 生活利便性について

問1 あなたは、日々の暮らしについてどのように感じていますか。

○日々の暮らしの評価（買い物に関する項目）については、「食料品や日用品を買う小売店が遠い」について、『思う』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計。以下この間において同じ）と回答した人は58%、「身近な店では必要な食料品がそろわない」について『思う』と回答した人は59.1%、「身近な店では必要な日用品がそろわない」について『思う』と回答した人は63.2%と、『思う』と回答する人が高くなっている。

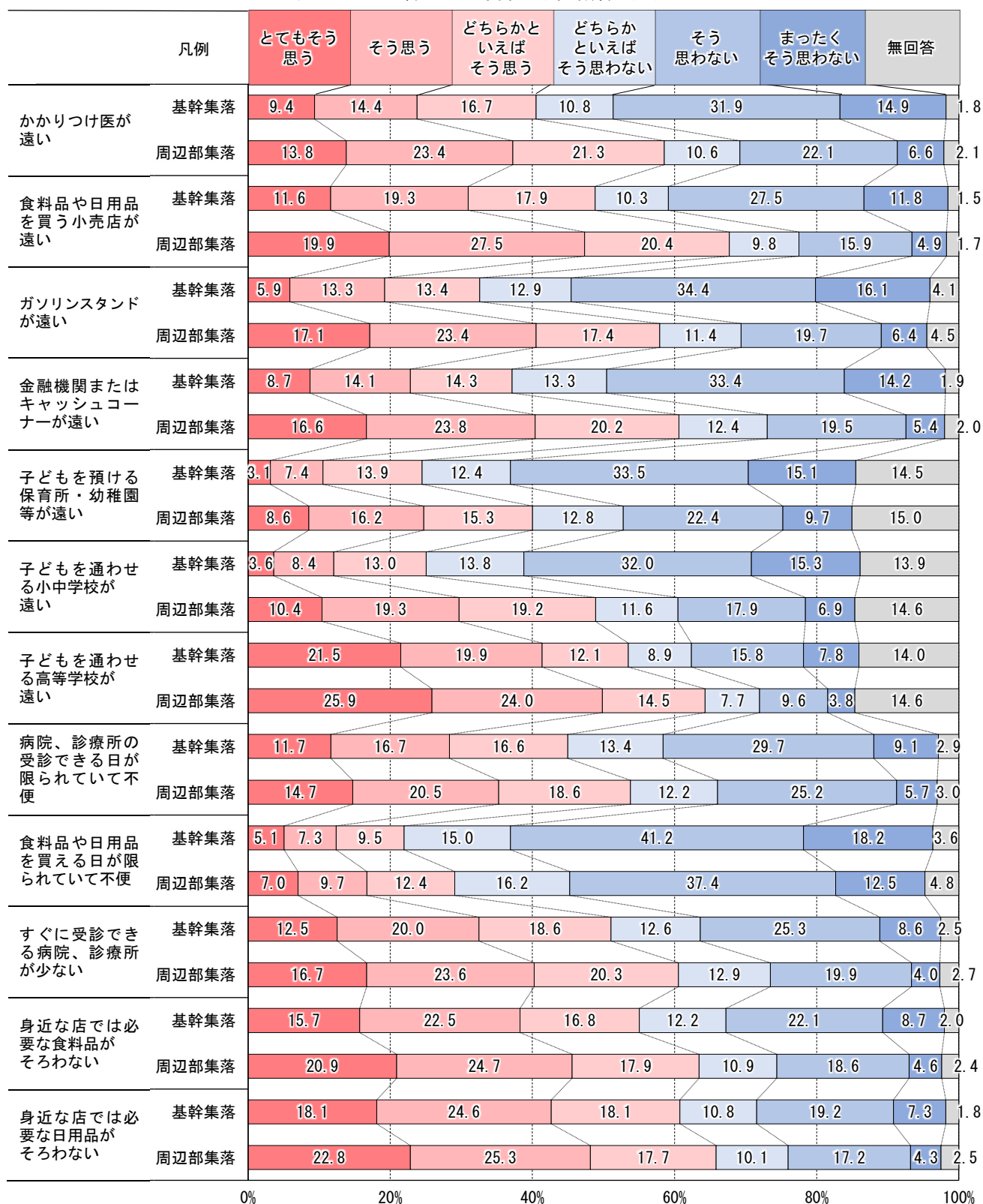
○また、「子どもを通わせる高等学校が遠い」では「とてもそう思う」との回答が高くなっているほか、「すぐに受診できる病院、診療所が少ない」や「病院、診療所の受診できる日が限られていて不便」「かかりつけ医が遠い」等の医療関連の項目も『思う』との回答が高くなっている。

図 日々の暮らしの評価（全体）



○集落類型別にみると、全ての項目で周辺部集落の方が『思う』と回答した人の割合が高くなっている。

図 日々の暮らしの評価（集落類型別）



(基幹集落 : n=3, 226、周辺部集落 : n=2, 981)

○年齢別にみると、49歳以下では「かかりつけ医が遠い」「病院、診療所の受診できる日が限られていて不便」について『思う』と回答した人の割合が高くなっている。

図 日々の暮らしの評価（年齢別）

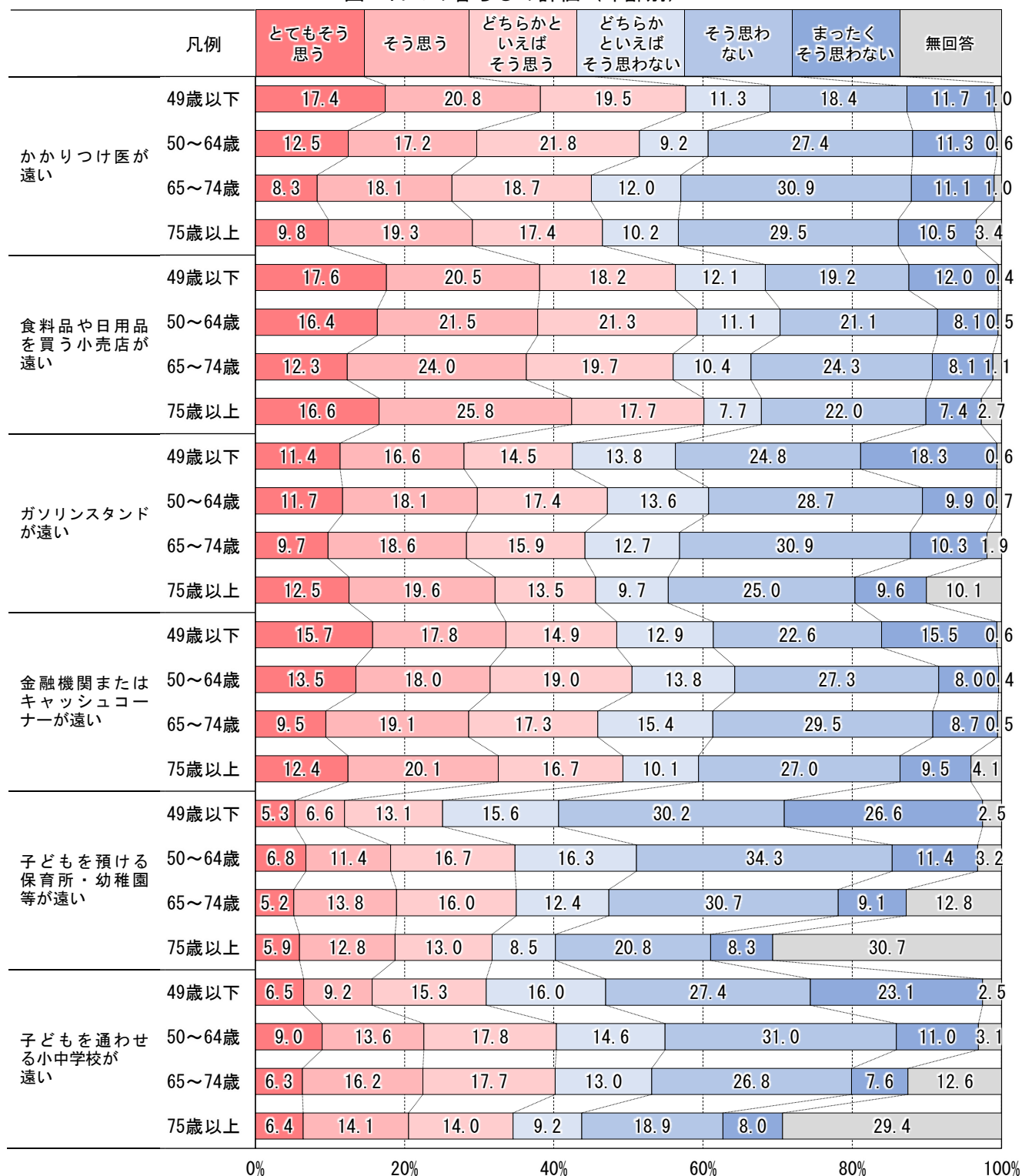
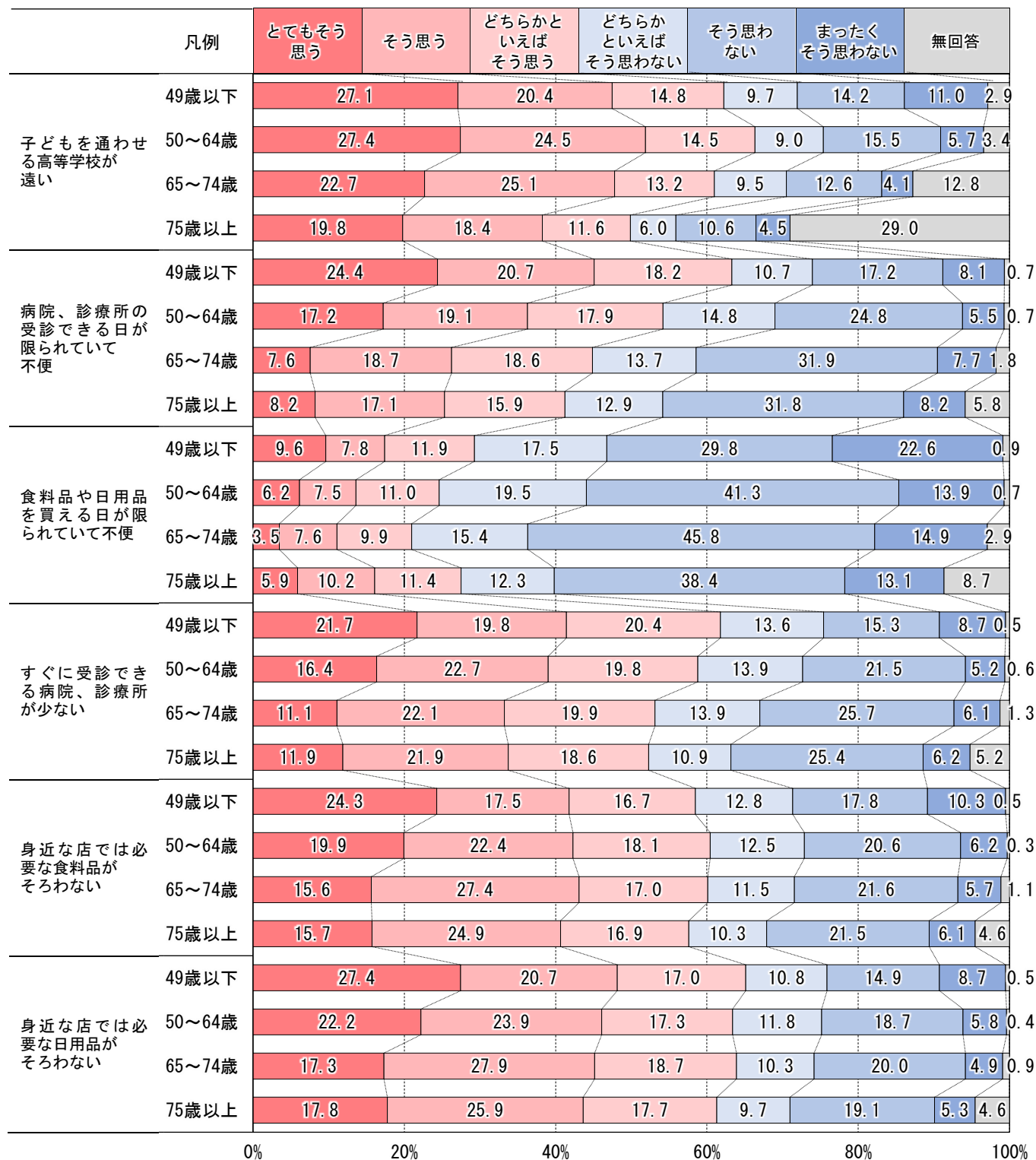


図 日々の暮らしの評価（年齢別）続き



(49歳以下:n=1,144、50~64歳:n=1,284、65~74歳:n=1,745、75歳以上:n=1,778)

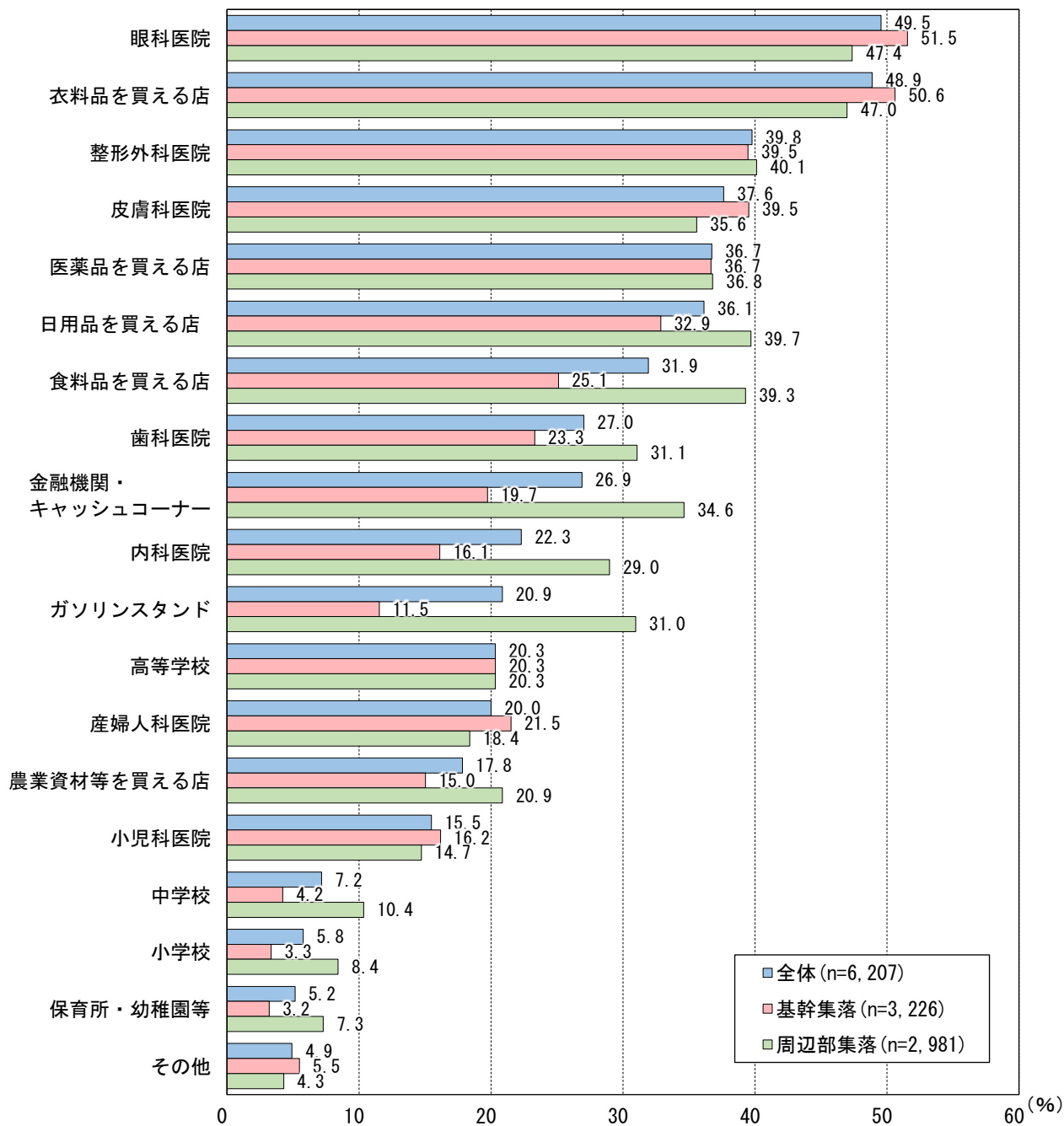


問2 あなたが、近くなくて不便を感じている施設は何ですか。(複数回答)

○近くなくて不便を感じている施設としては、「眼科医院」が49.5%で最も高く、次いで「衣料品を買える店」が48.9%となっている。

○集落類型別にみると、「ガソリンスタンド」「金融機関・キャッシュコーナー」「食料品を買える店」「内科医院」について、基幹集落よりも周辺部集落で不便であると回答した人の割合が10ポイント以上高くなっている。

図 近くなくて不便を感じている施設 (全体・集落類型別)



【その他 (n=311) の回答のうち記載の多かったもの】

耳鼻科	30件	コンビニ	29件
飲食店	25件	ホームセンター	15件
書店	13件	総合病院	10件
家電量販店	10件	娯楽施設	10件
		など	

○65歳以上では「眼科医院」と回答する割合が最も高いが、64歳以下でみると「衣料品を買える店」が最も高くなっている。

○また、49歳以下では「産婦人科医院」「小児科医院」「皮膚科医院」「高等学校」が、50～64歳においても「皮膚科医院」が高くなっている。

図 近くになくて不便を感じている施設（年齢別）

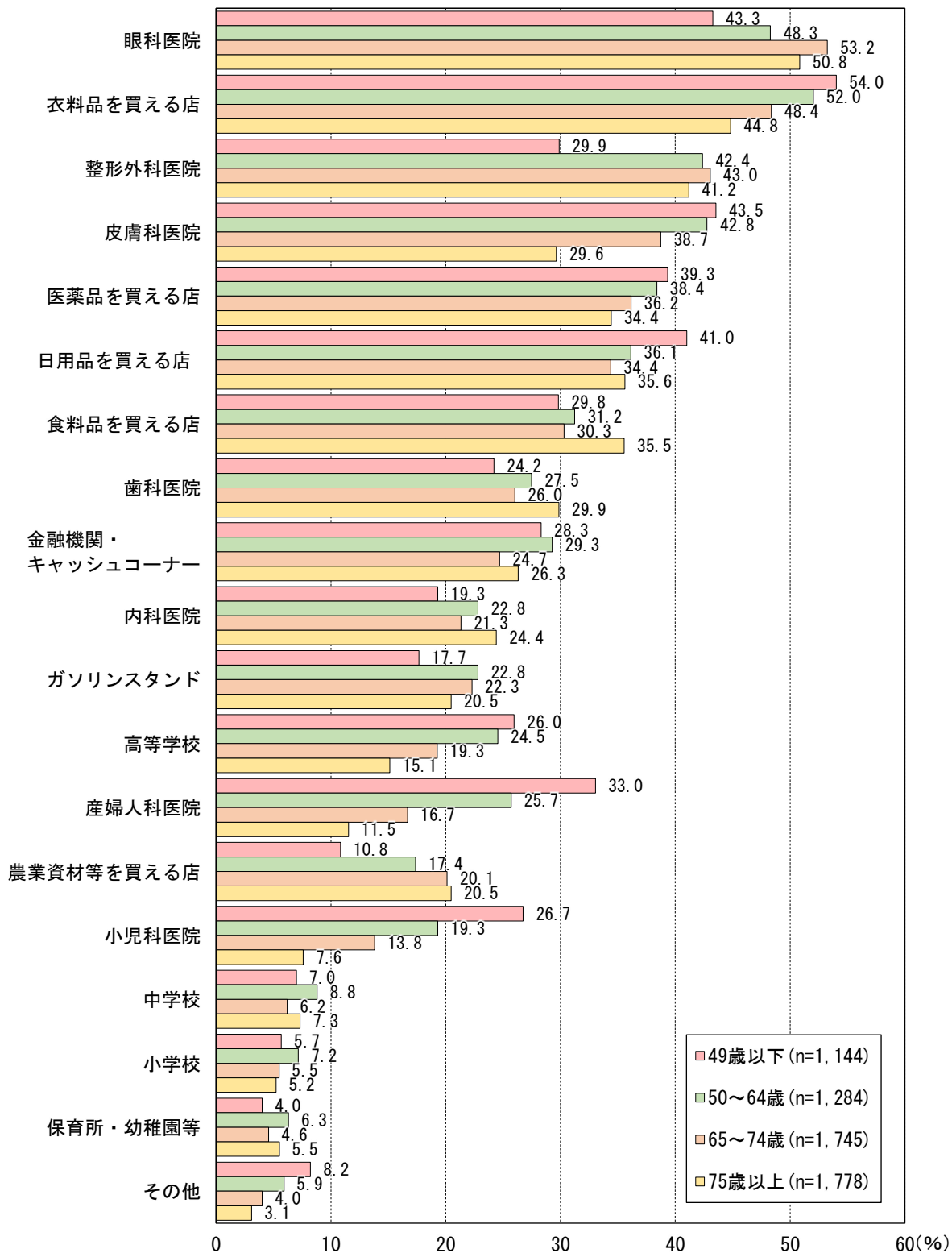
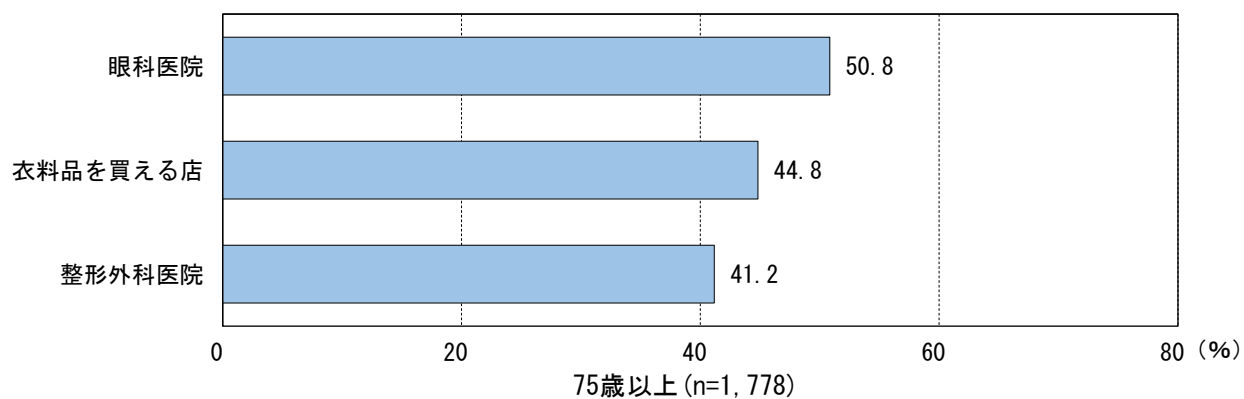
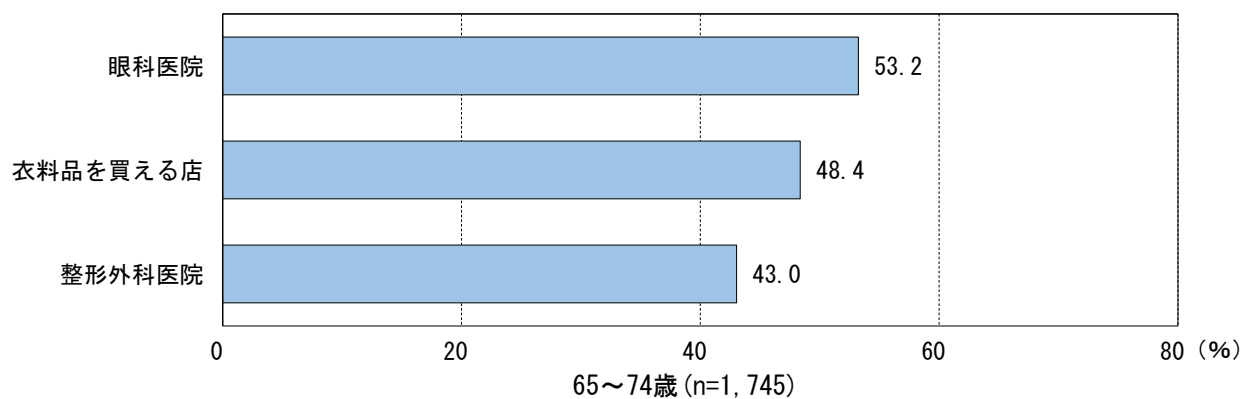
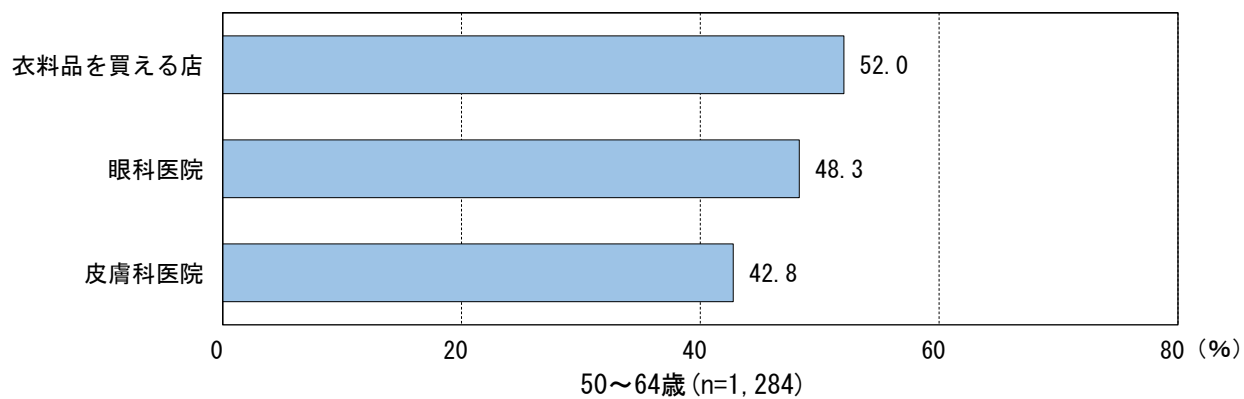
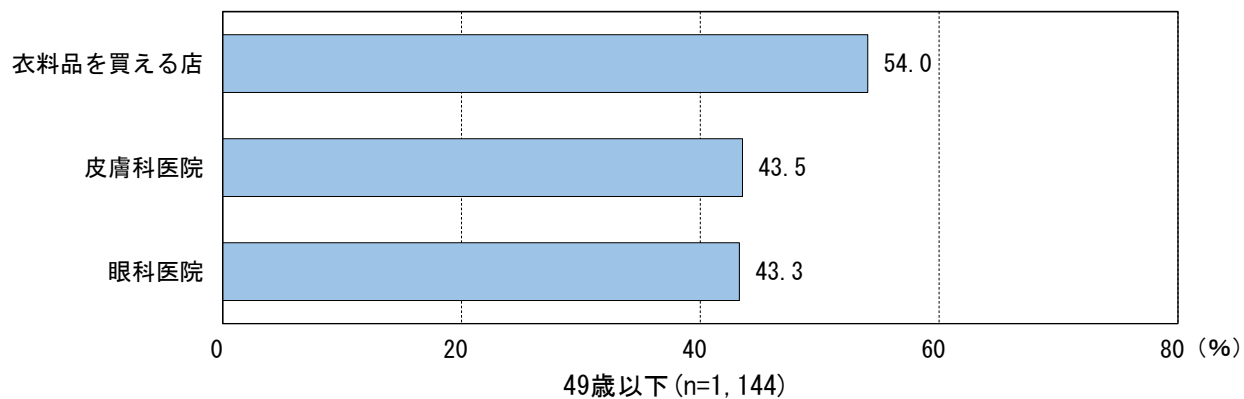


図 近くになくて不便を感じている施設【再掲】（年齢別、上位3施設）



問3 あなたの住まいの地域は暮らしやすいですか。

- 居住地の暮らしやすさについて、「やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている」と回答した人は57.2%と最も高く、次いで「不便を感じており、不安なことはあるが、なんとか暮らしている」が27.8%となっている。
- 『大きな問題はなく暮らしている』（「不便なく、安心して暮らしている」「やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている」の計。以下この間において同じ）と回答した人は66.9%となっている。
- 集落類型別にみると、周辺部集落と比べて基幹集落で『大きな問題はなく暮らしている』と回答した割合が高くなっている。
- 年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて、『大きな問題はなく暮らしている』と回答した割合が高くなっている。

図 居住地の暮らしやすさ（全体・集落類型別）

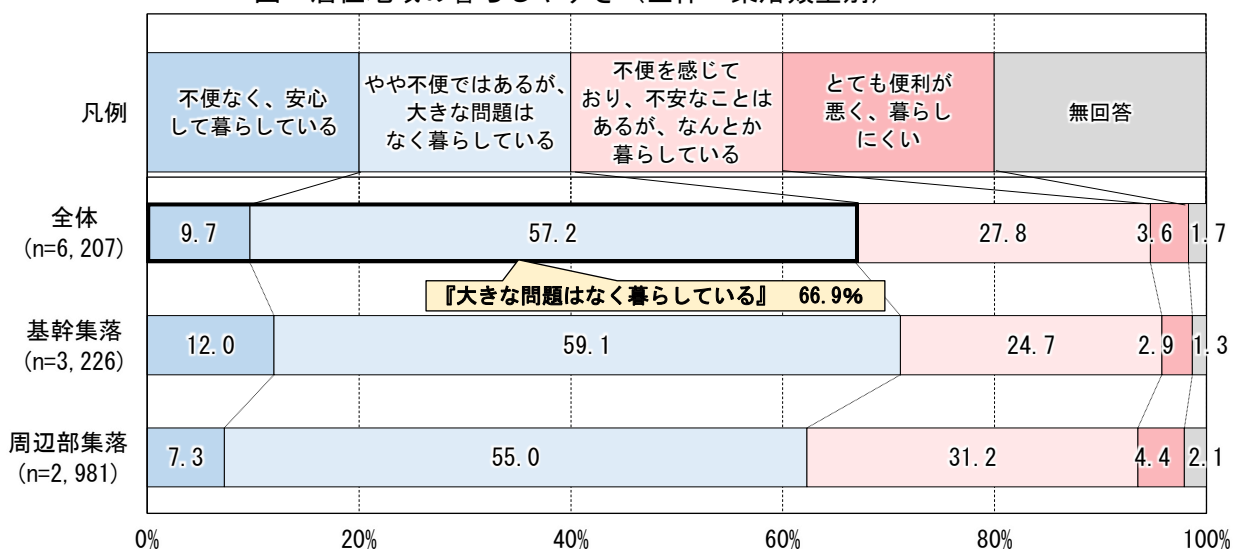
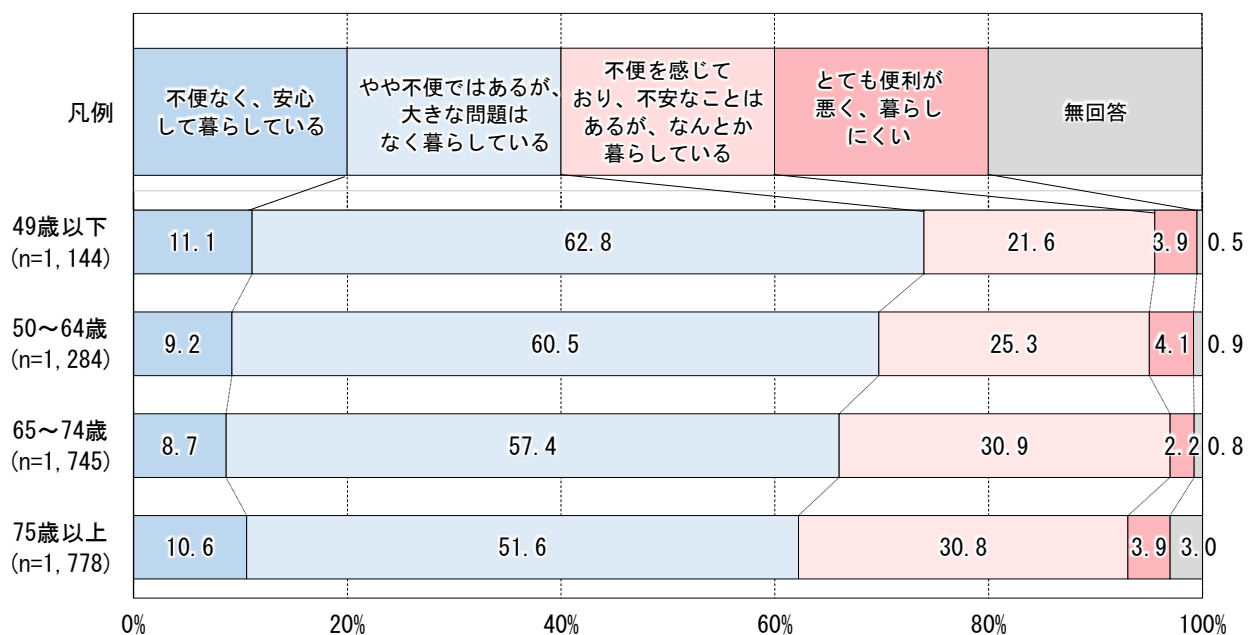


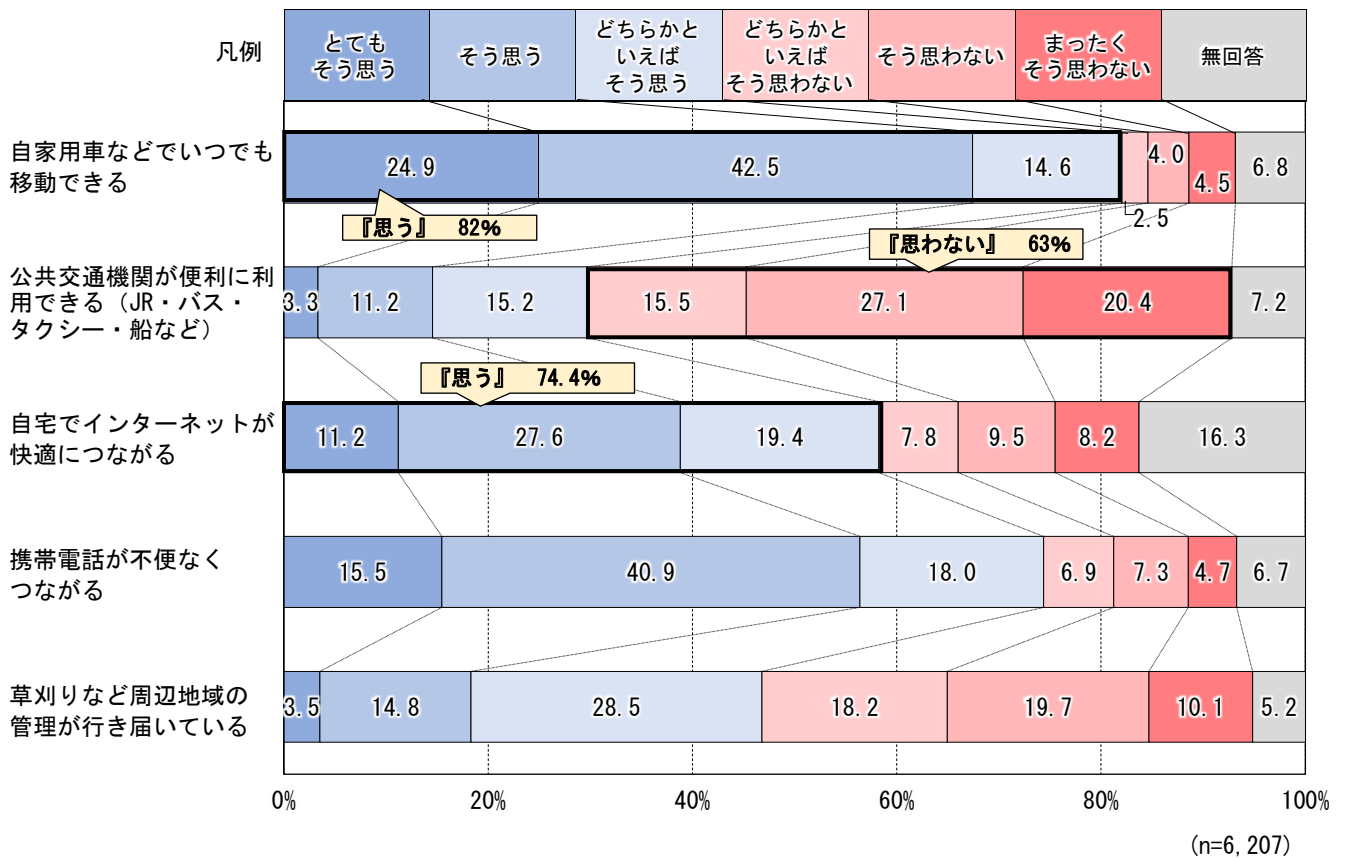
図 居住地の暮らしやすさ（年齢別）



問4 あなたは、日々の暮らしの中で次の項目をどう思いますか。

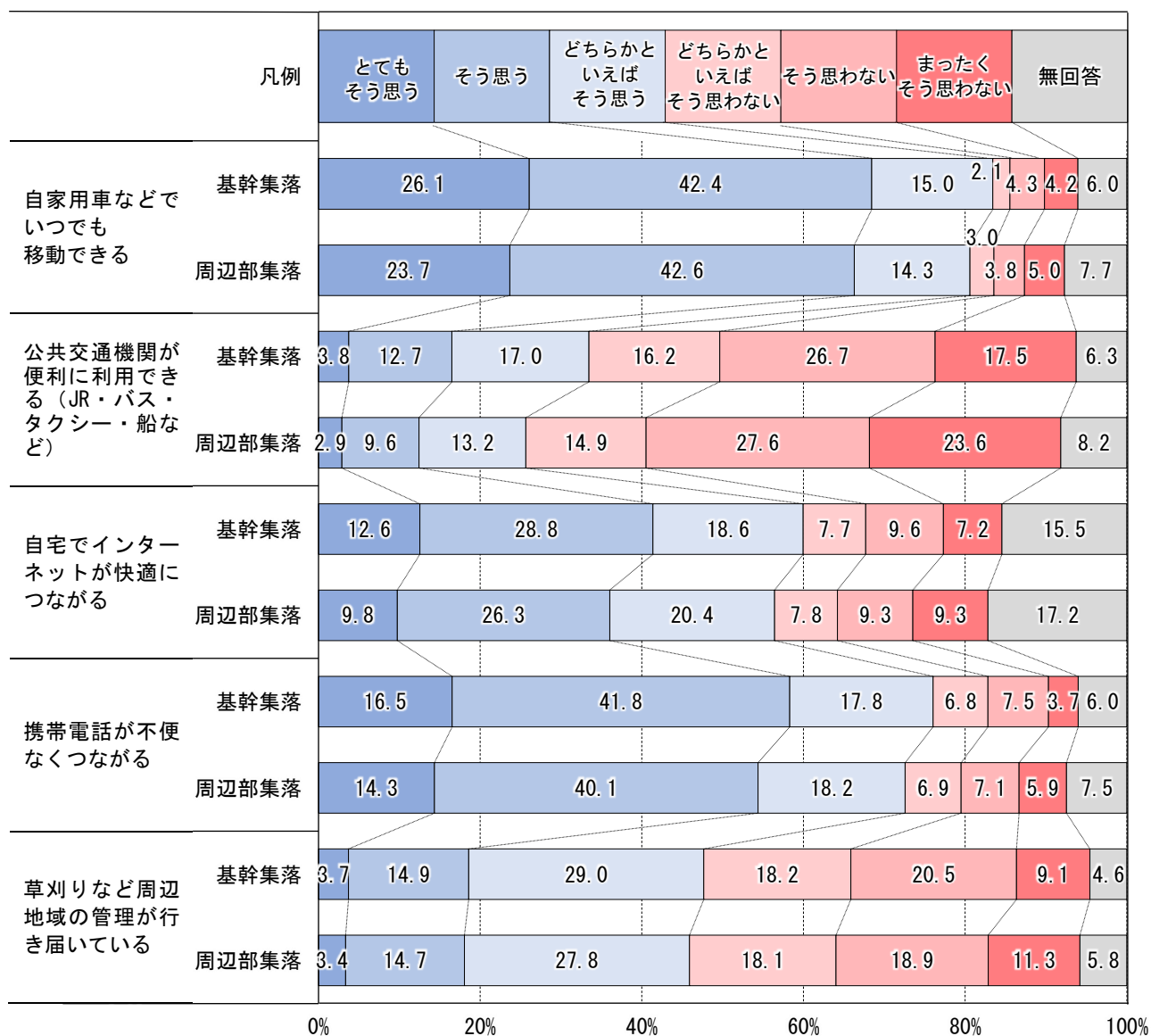
- 問1に関連して、日々の暮らしに関する項目の評価をみると、「自家用車などでいつでも移動できる」については『思う』（「とても思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計。以下この間において同じ）が82%、「携帯電話が不便なくつながる」は『思う』が74.4%と高くなっている。
- 一方、「公共交通機関が便利に利用できる」は『思わない』（「まったくそう思わない」「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の計。以下この間において同じ）が63%と高くなっている。

図 日々の暮らしに関する項目の評価（全体）



○集落類型別にみると、「公共交通機関が便利に利用できる」は、基幹集落と比べて周辺部集落で『思わない』が高くなっている。

図 日々の暮らしに関連する項目の評価（集落類型別）

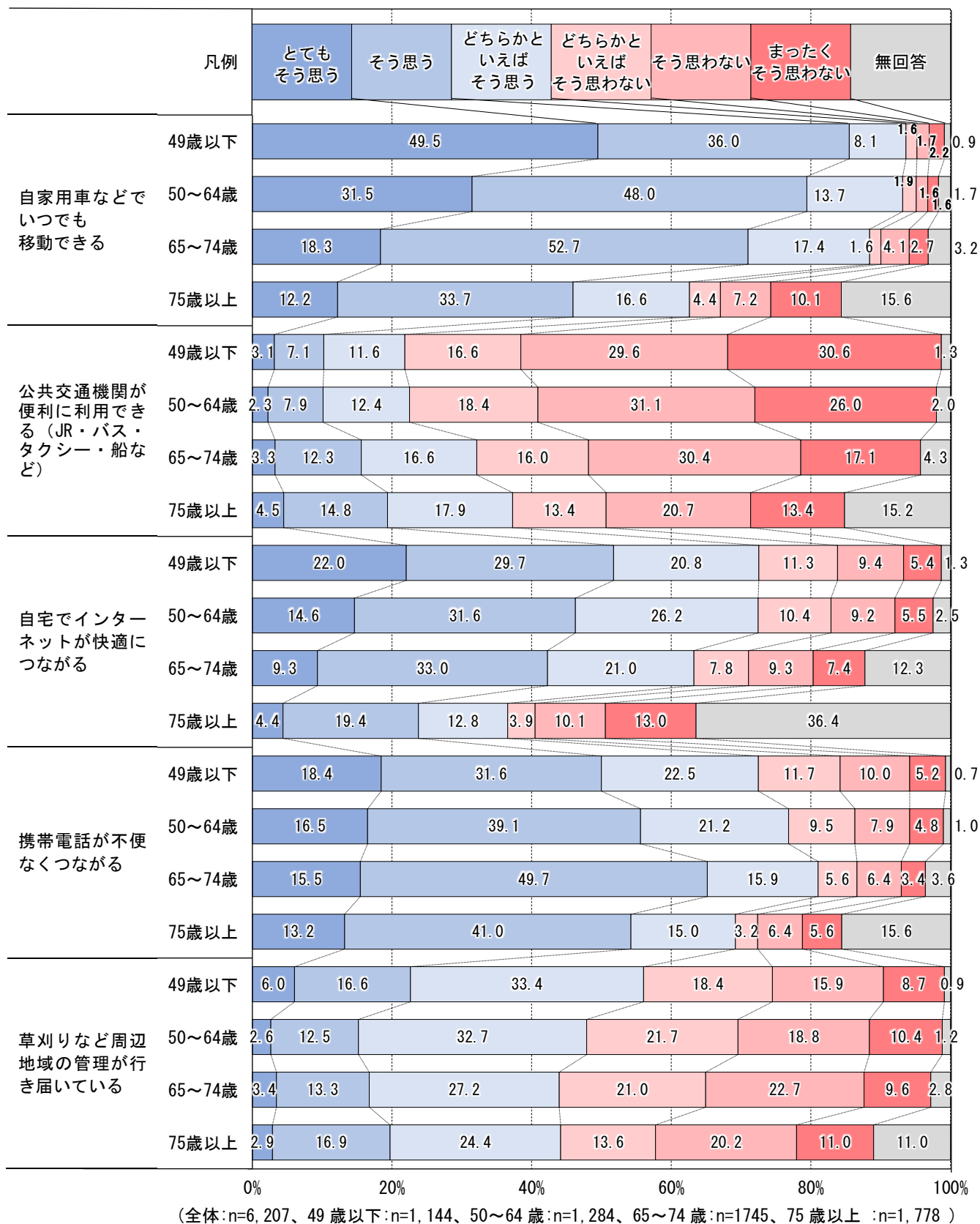


(基幹集落 : n=3,226、周辺部集落 : n=2,981)

○年齢別にみると「自家用車などでいつでも移動できる」「自宅でインターネットが快適につながる」は、年齢層が下がるにつれて『思う』が高くなっている。

○一方、「公共交通機関が便利に利用できる」は年齢層が上がるにつれて『思う』が高くなっている。

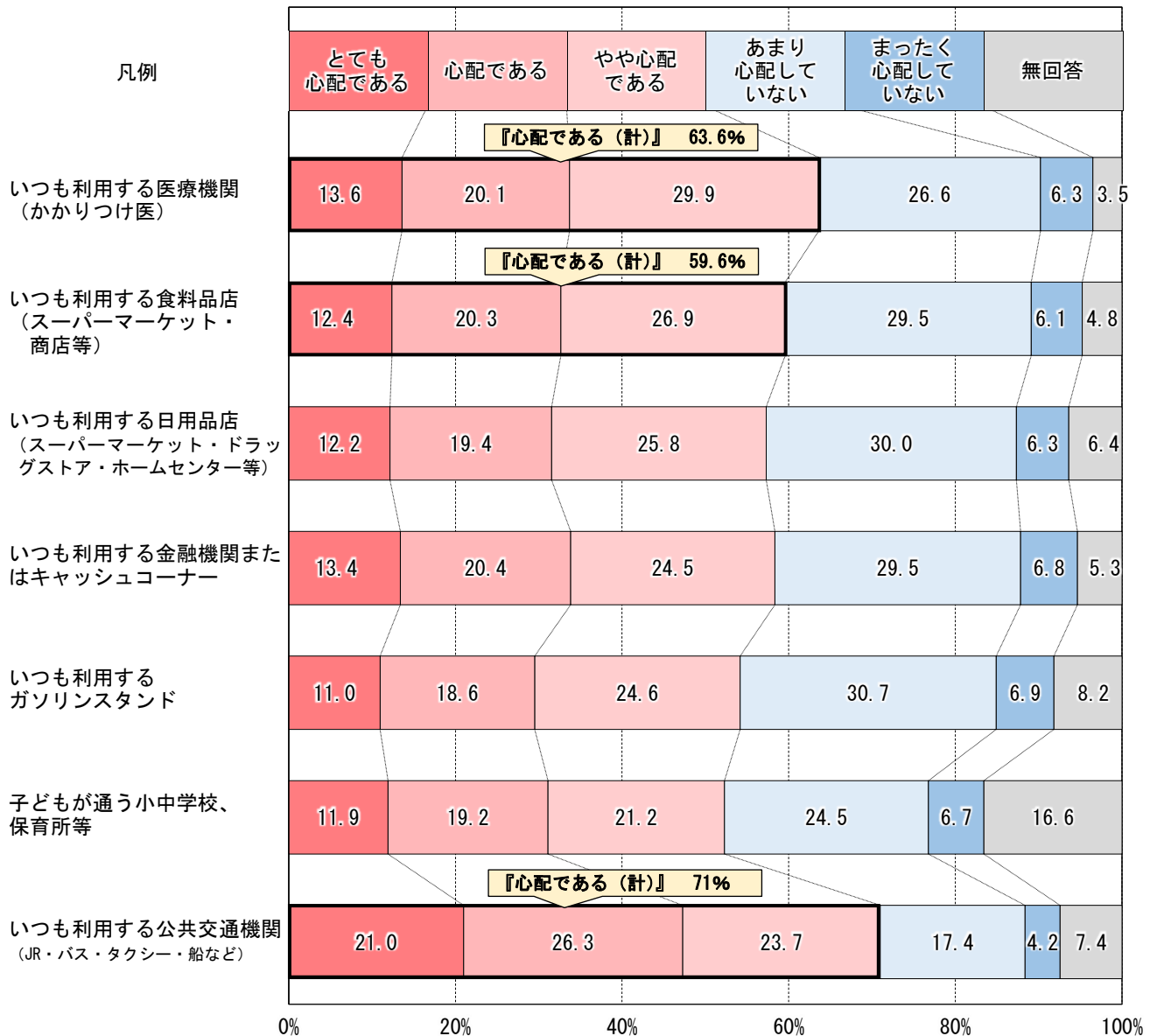
図 日々の暮らしに関する項目の評価（年齢別）



問5 今後、人口減少や高齢化が進むと、生活に必要な施設が減っていく懸念があります。以下の施設やサービスについて、将来（5年後）を想像したときに、なくなったりしないかと、あなたが心配になるものはありますか。

- いつも利用している施設・サービスが、将来（5年後）も心配なく利用できると思うかについては、いずれの項目も『心配である（計）』（「とても心配である」「心配である」「やや心配である」の計。以下この間において同じ）が50%以上となっている。
- 「いつも利用する公共交通機関」について『心配である（計）』は71%と最も高く、次いで「いつも利用する医療機関」が63.6%、「いつも利用する食料品店」が59.6%と高くなっている。

図 生活に必要な施設の将来（全体）

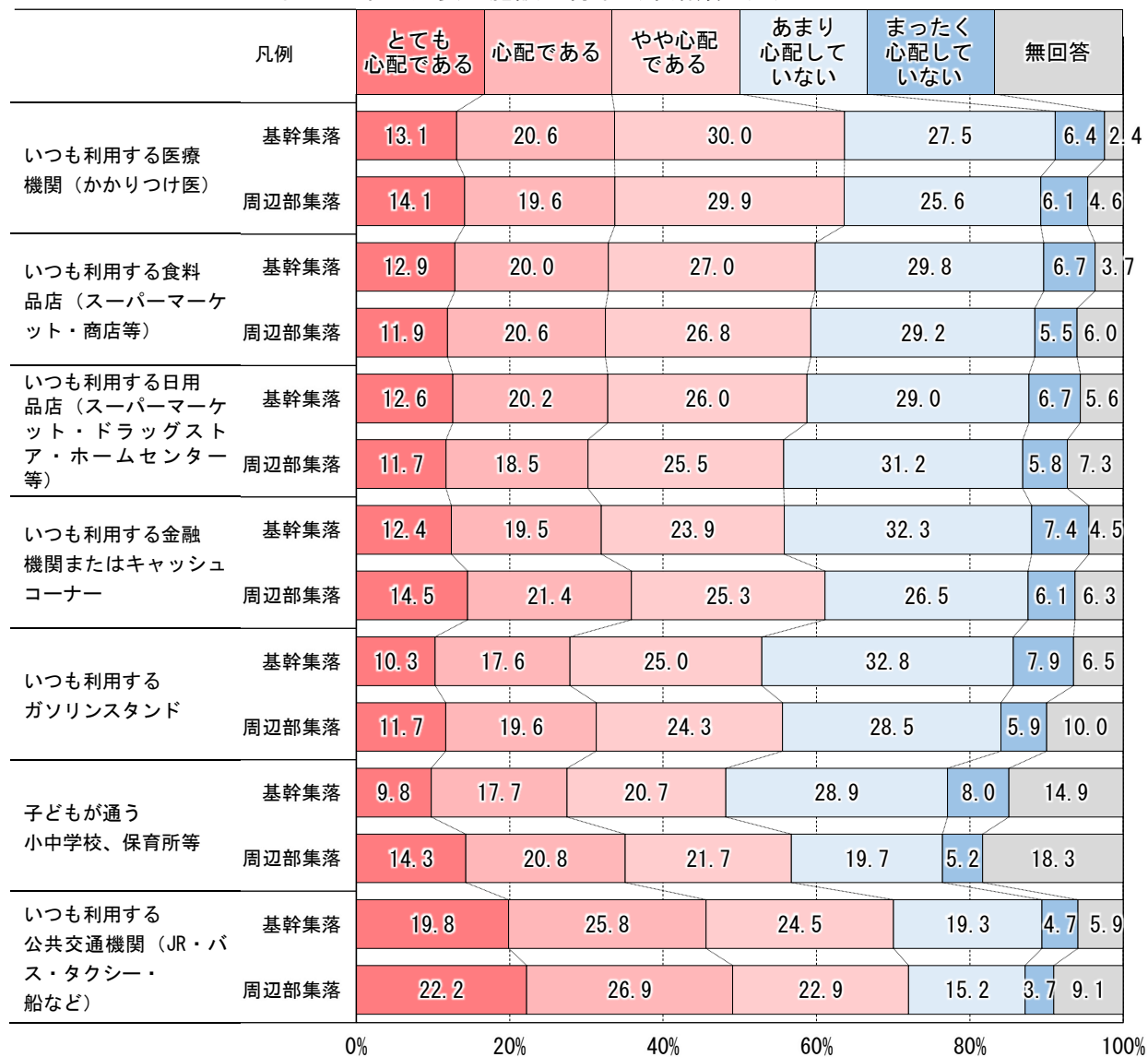


(n=6, 207)



○集落類型別にみると、「子どもが通う小中学校、保育所等」と「いつも利用する金融機関またはキャッシュコーナー」については、基幹集落と比べて周辺部集落で『心配である（計）』が高くなっている。

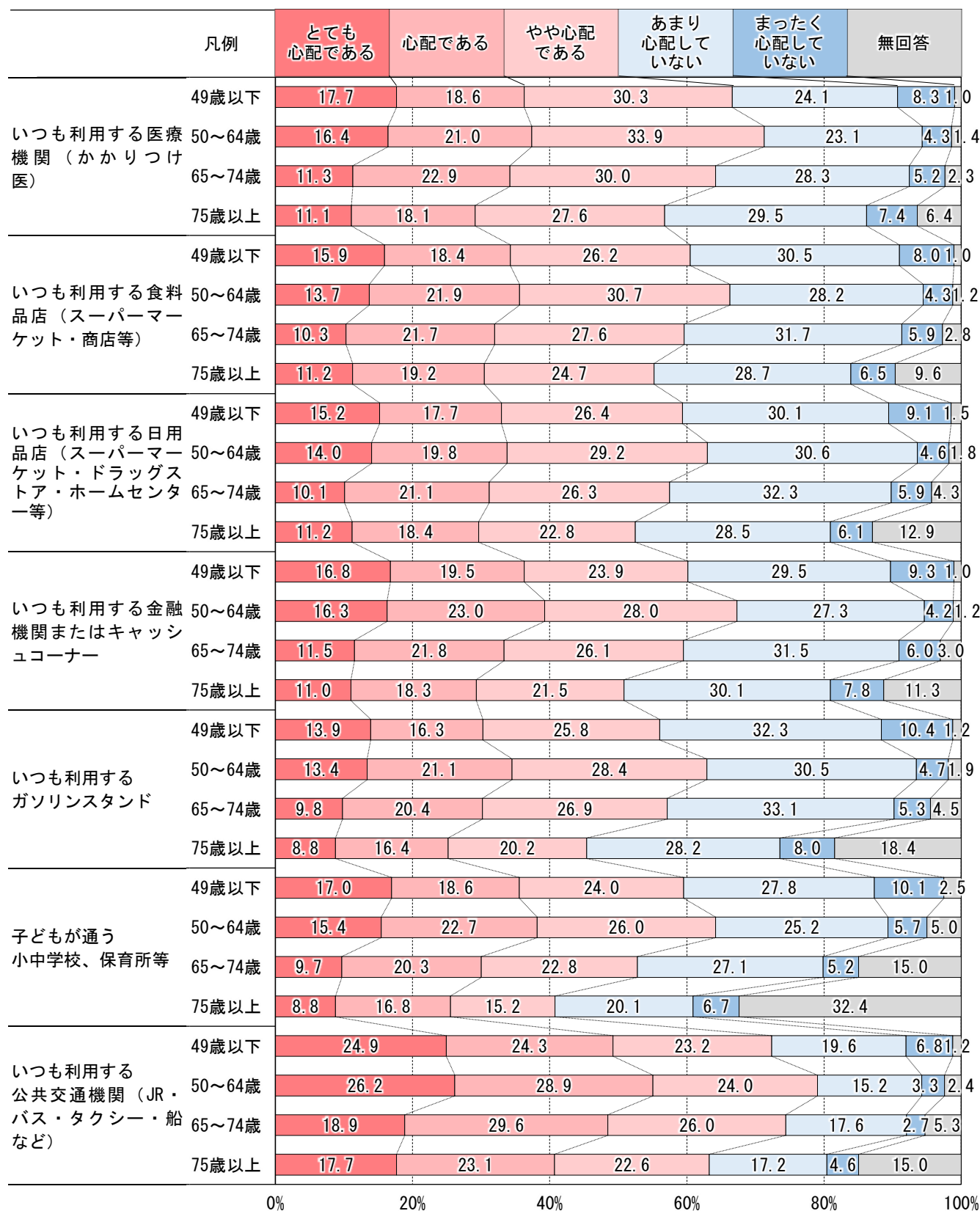
図 生活に必要な施設の将来（集落類型別）



（基幹集落：n=3,226、周辺部集落：n=2,981）

○年齢別にみると、全ての項目において、「50～64歳」で『心配である（計）』と回答した割合が最も高くなっている。

図 生活に必要な施設の将来（年齢別）



（全体：n=6,207、49歳以下：n=1,144、50～64歳：n=1,284、65～74歳：n=1,745、75歳以上：n=1,778）

問6

あなたがいつも利用している①～⑤の施設の場所と、その施設がなくなったとき代わりになると思う施設の場所を、記入例を参考に記載してください。

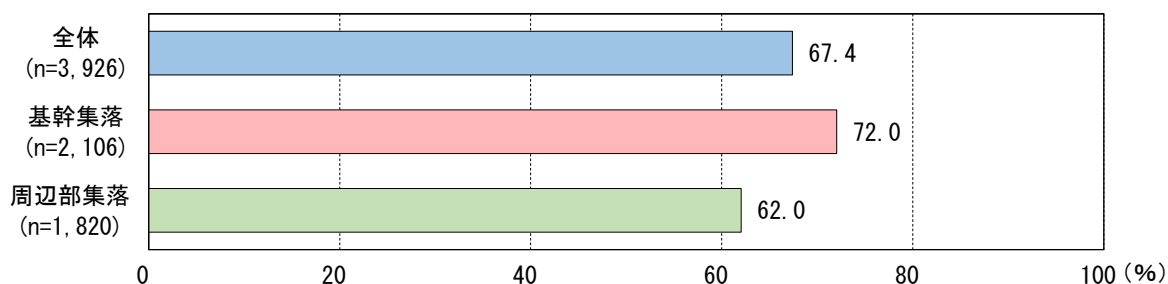
■いつも利用している施設の場所

①「かかりつけ医」

いつも利用する医療機関（かかりつけ医）が居住地域内（旧市町村内）にあると回答した人は67.4%となっている。

集落類型別にみると、周辺部集落と比べ基幹集落で居住地域内（旧市町村内）の施設を利用している割合が高くなっている。

図 かかりつけ医が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



（ヒアリング調査での主な意見）

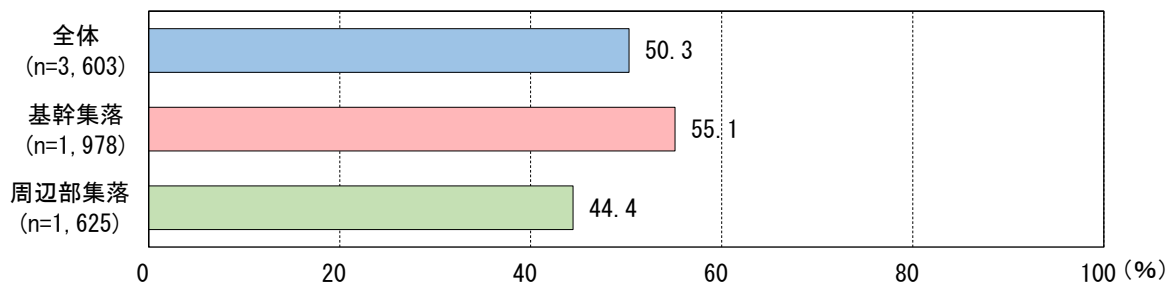
- ・顔なじみの安心感もあり、近くの医療機関に通っている人が多い。
- ・眼科、皮膚科、耳鼻科などの専門的な診療科目の受診は、現市町村の中心部や近隣の市部に通っている。
- ・かかりつけ医が高齢で後継者もないため、今後の不安である。

②「かかりつけの歯科診療所」

いつも利用する医療機関（かかりつけの歯科診療所）が居住地域内（旧市町村内）にあると回答した人は50.3%となっている。

集落類型別にみると、周辺部集落と比べ基幹集落で居住地域内（旧市町村内）の施設を利用している割合が高くなっている。

図 かかりつけの歯科診療所が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）

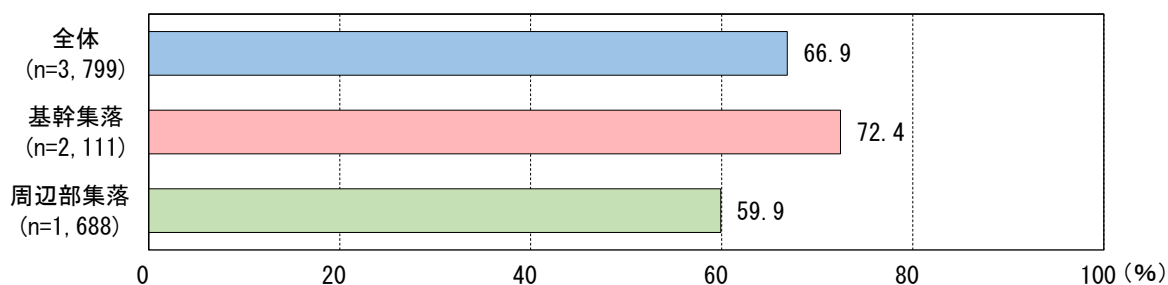


### ③ 「食料品店」

「食料品店」については66.9%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗をいつも利用していると回答している。

集落類型別にみると、周辺部集落と比べ基幹集落で居住地域内（旧市町村内）の施設を利用している割合が高くなっている。

図 いつも利用する食料品店が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



#### （ヒアリング調査での主な意見）

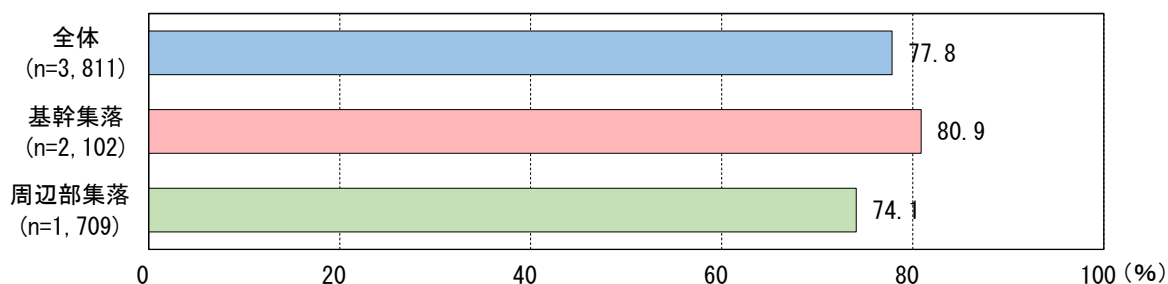
- ・高齢者や自動車の運転ができない人は近くの店舗で買い物をしている。
- ・生鮮食品は近くの店舗で買うことが多い。
- ・自動車を運転する人は、大型店舗のある現市町村の中心部や近隣の市部を利用する人も多く、休日等を利用してまとめ買いをすることが多い。
- ・大型店と比べると、品揃えが少なかったり、価格が高かったりしても、居住地域内の施設を維持していくために買い支える意識を持っている。
- ・商店の経営者が高齢で、いつまで営業されるか不安である。

### ④ 「金融機関・キャッシュコーナー」

「金融機関・キャッシュコーナー」については77.8%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗をいつも利用していると回答している。

集落類型別にみると、周辺部集落と比べ基幹集落で居住地域内（旧市町村内）の施設を利用している割合が高くなっている。

図 いつも利用する金融機関等が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



(ヒアリング調査での主な意見)

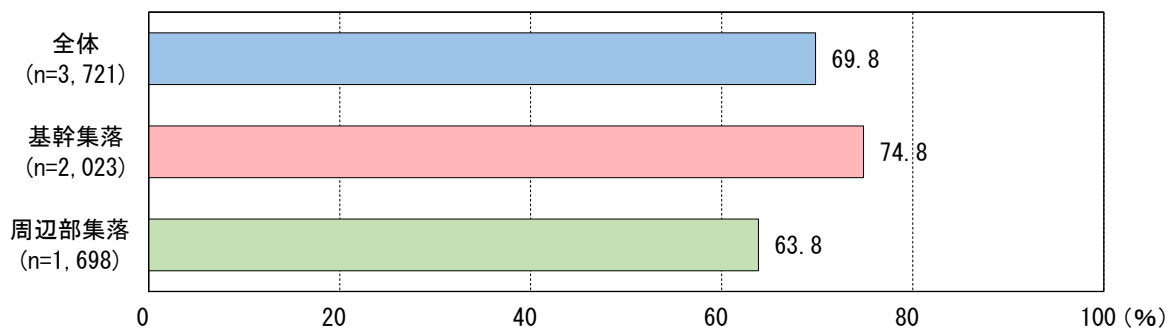
- ・急に現金が必要な場面も多いため、ATM等が近くにないと困る。
- ・金融機関がなくなると移動手段がない人は困る。年金振込口座を他の金融機関に変えた人もいる。
- ・金融機関の支所がなくなったため、居住地域外に行かなければならなくなった。

⑤「ガソリンスタンド」

「ガソリンスタンド」については 69.8%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗をいつも利用していると回答している。

集落類型別にみると、周辺部集落と比べ基幹集落で居住地域内（旧市町村内）の施設を利用している割合が高くなっている。

図 いつも利用するガソリンスタンドが居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



(ヒアリング調査での主な意見)

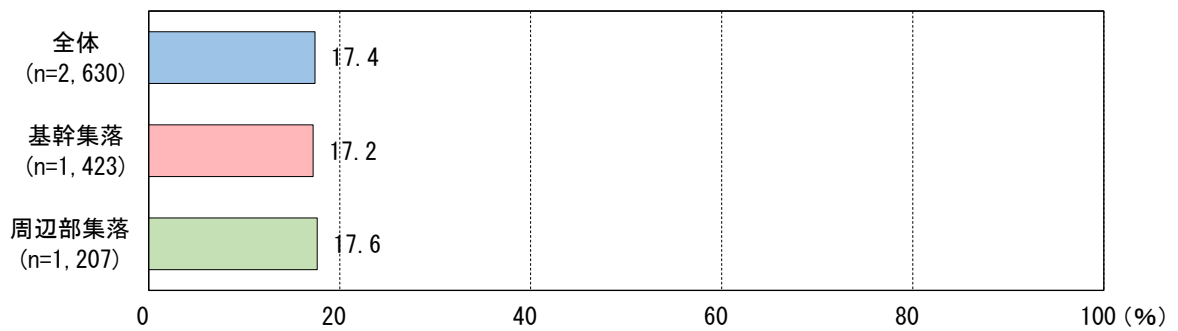
- ・近くのガソリンスタンドがなくならないよう、価格が高くても買い支えていこうという意識をもって利用している。
- ・働いている人は勤務先の近くなどで給油をしている人が多い。
- ・自動車だけでなく、ストーブや農機具等の燃油の購入先としても、近くのガソリンスタンドは大切である。
- ・ローリー車で灯油の配達をしてくれるので、高齢者にはとても助かる。
- ・自動車の故障などにも対応してくれるので、近くにガソリンスタンドがあると安心である。

## ■代わりとなる施設の場所

### ①「かかりつけ医」

代わりに利用する医療機関（かかりつけ医）が居住地域内（旧市町村内）にあると回答した人は17.4%となっている。

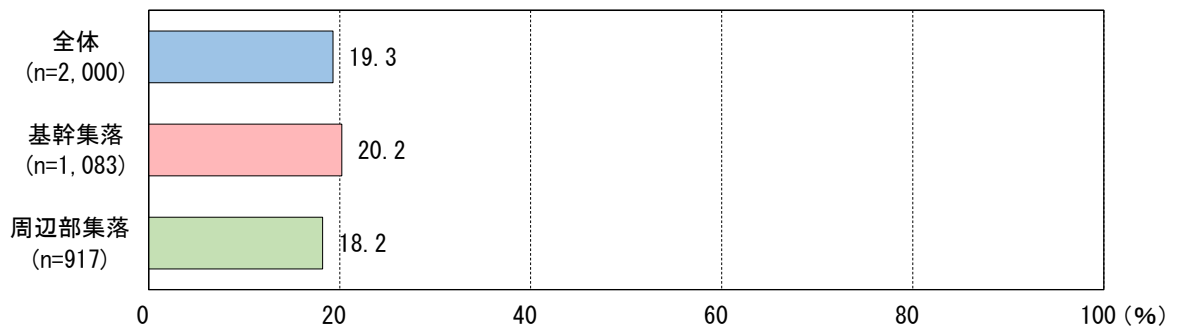
図 代わりに利用する施設（かかりつけ医）が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



### ②「かかりつけの歯科診療所」

代わりに利用する医療機関（かかりつけの歯科診療所）が居住地域内（旧市町村内）にあると回答した人は19.3%となっている。

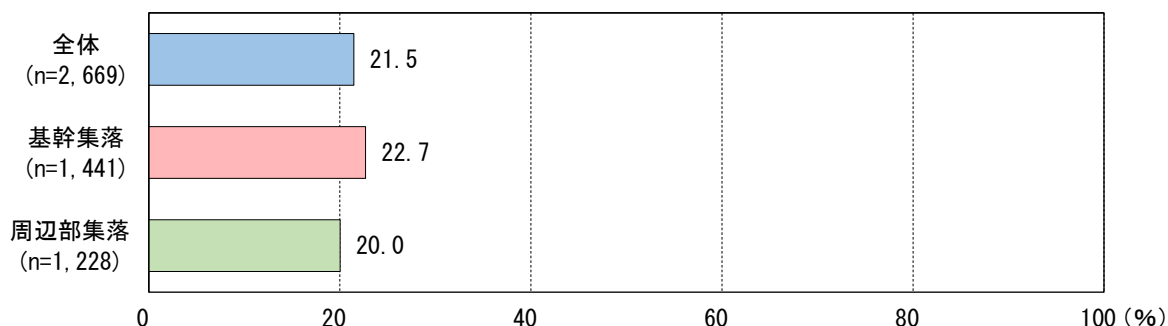
図 代わりに利用する施設（かかりつけ歯科診療所）が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



### ③ 「食料品店」

「食料品店」については21.5%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗を代わりに利用すると回答している。

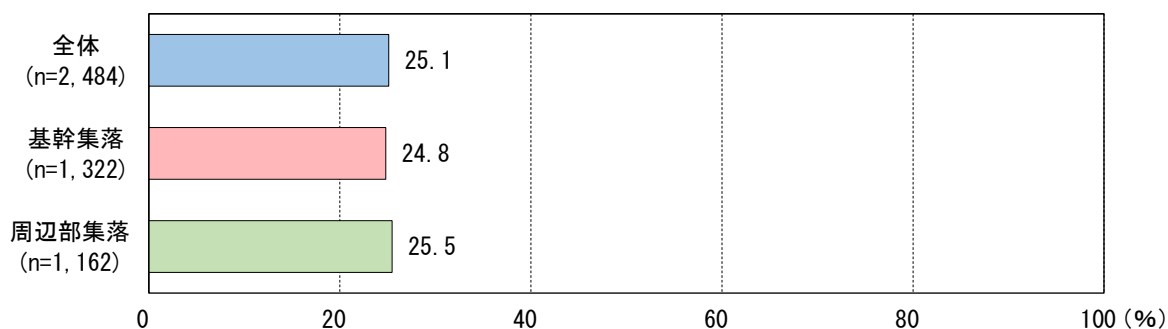
図 代わりに利用する食料品店が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



### ④ 「金融機関・キャッシュコーナー」

「金融機関・キャッシュコーナー」については25.1%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗を代わりに利用すると回答している。

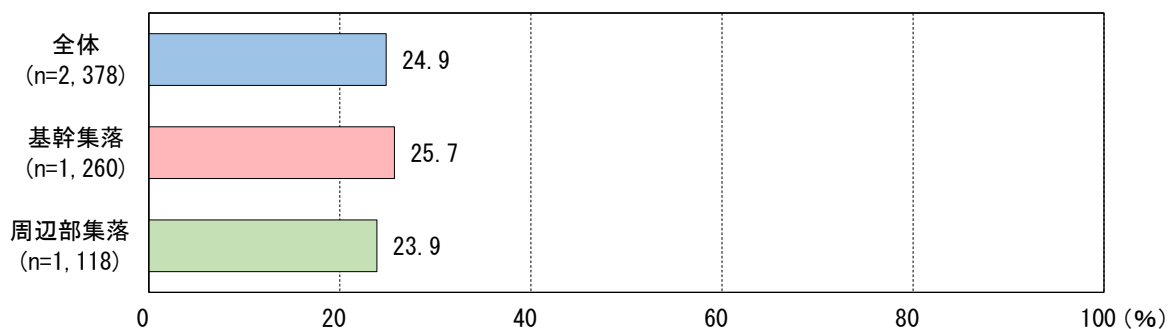
図 代わりに利用する金融機関等が居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



### ⑤ 「ガソリンスタンド」

「ガソリンスタンド」については24.9%の人が、居住地域内（旧市町村内）の店舗を代わりに利用すると回答している。

図 代わりに利用するガソリンスタンドが居住地域内（旧市町村内）にある人の割合  
（全体・集落類型別）



## 2. 外出と移動手段について

### 問7 あなたは、一人で外出することができますか。

○88.6%の人が「一人で外出できる」と回答している。

○年齢別にみると、75歳以上で「一人では外出できない（手助けが必要）」が19.6%と高くなっている。

図 一人での外出の状況（全体・集落類型別）

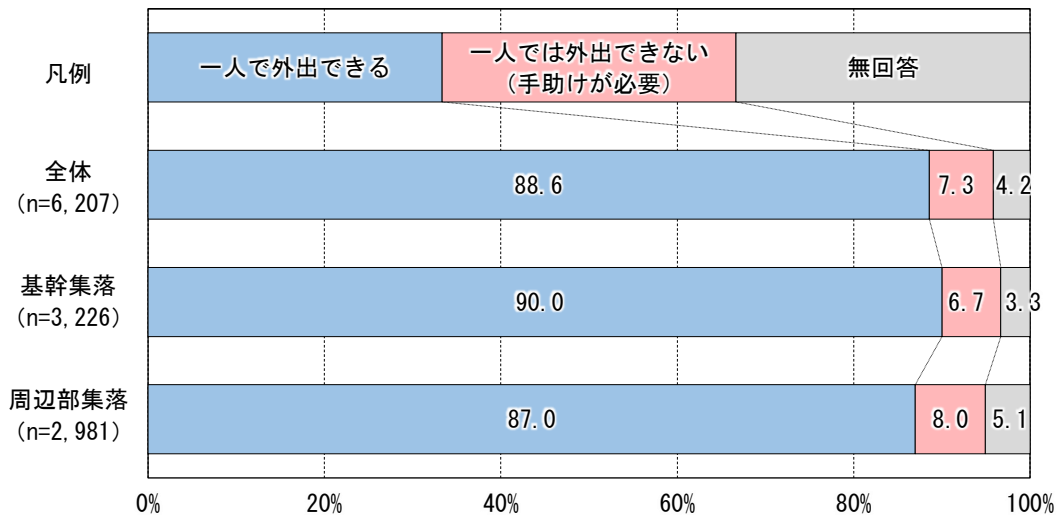
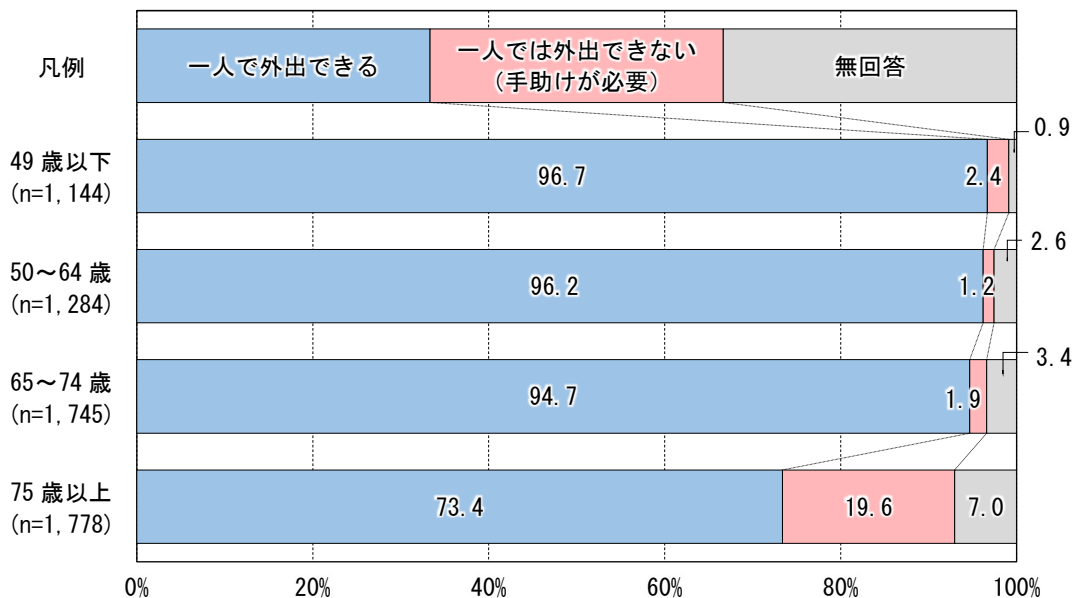


図 一人での外出の状況（年齢別）





問8 現在、普段の通勤等も含め、あなたはどの程度外出していますか。

○普段の外出頻度については、52.6%の人が「ほぼ毎日」と回答しており、87.2%の人が『週に1日以上』（「ほぼ毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」の計。以下この間において同じ）は外出している。

○年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて外出頻度が低下しており、75歳以上になると『週に1日以上』外出する人は70.6%となっている。

図 外出頻度（全体・集落類型別）

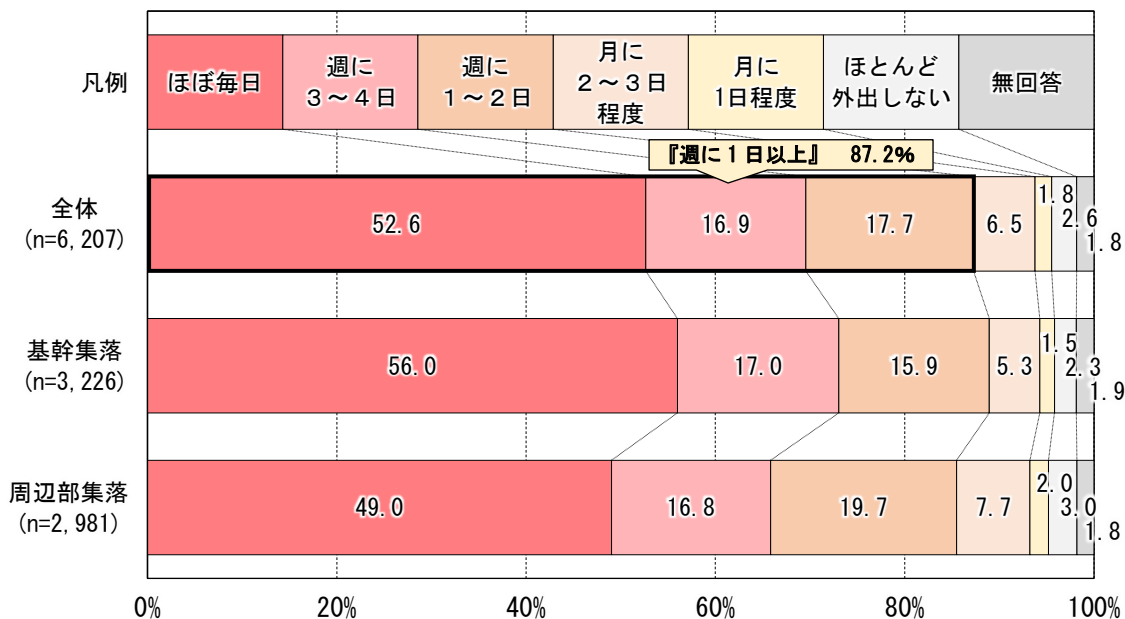
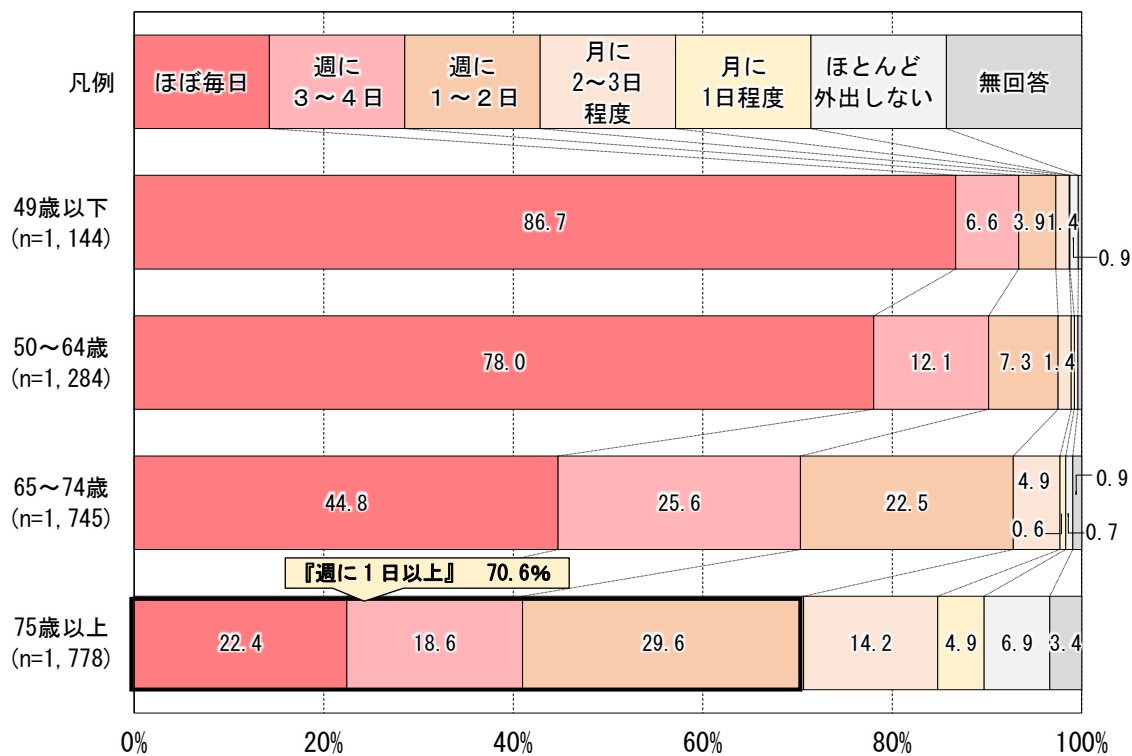


図 外出頻度（年齢別）



※グラフ中の0.5%未満の数値は省略

問9 あなたが最も多く利用する移動手段は何ですか。

○最も多く利用する移動手段として、82%の人が「自動車」と回答している。

○年齢別にみると、75歳以上では「自動車」が62.2%と他の年齢層よりも低く、一方で「公共交通機関」が13.8%、「徒歩」が9.1%と高くなっている。

図 最も多く利用する移動手段（全体・集落類型別）

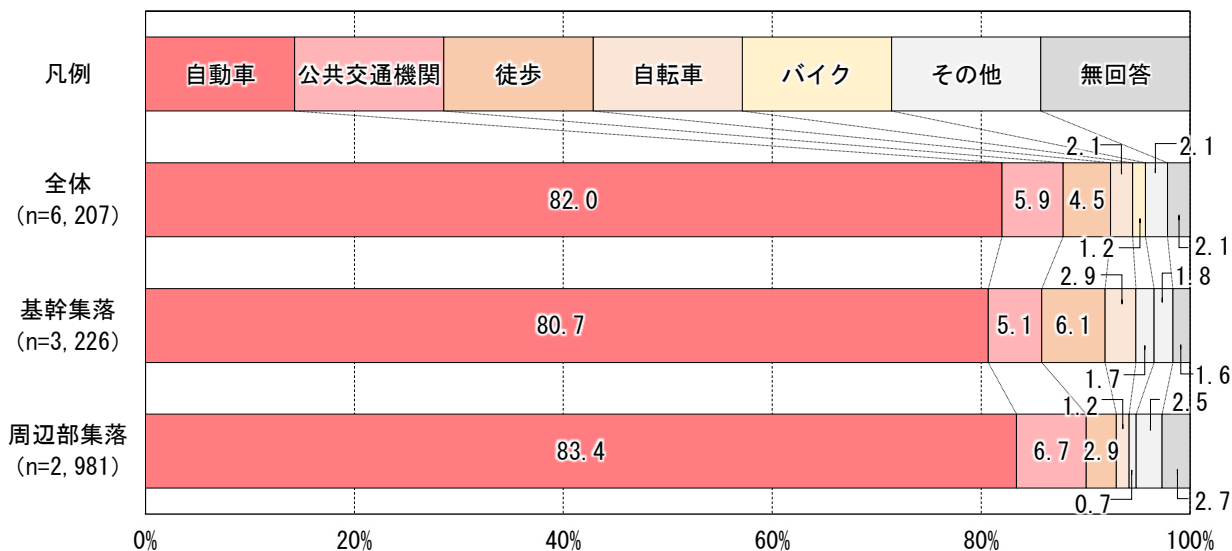
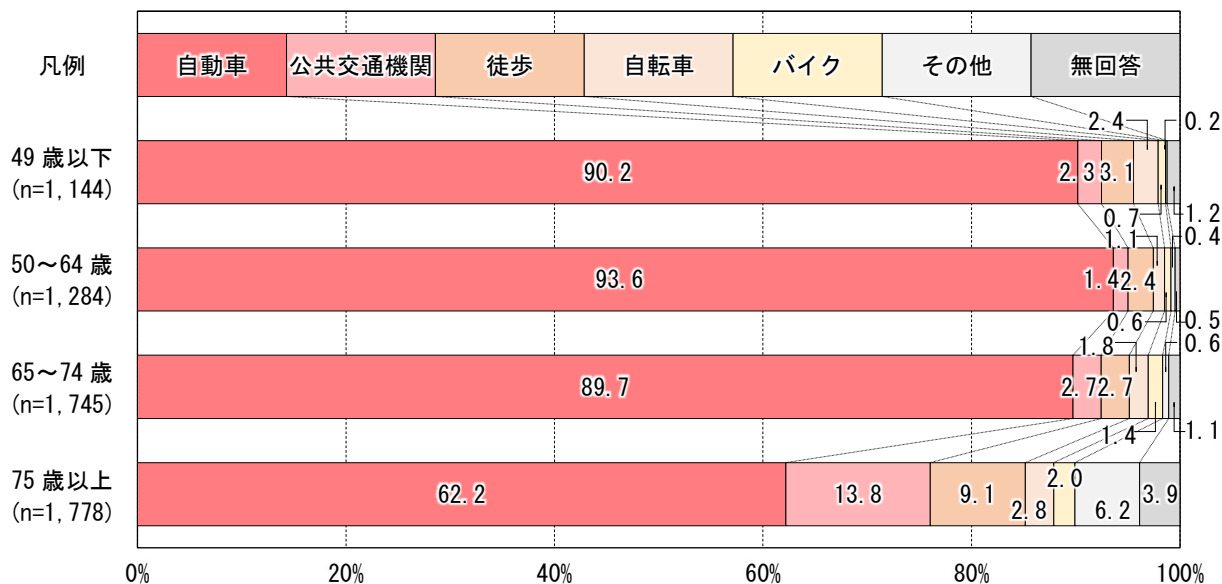


図 最も多く利用する移動手段（年齢別）



問 10 あなたは、自動車の運転はできますか。

○自動車の運転については、「運転できる」が78.9%となっている。

○年齢別にみると、74歳以下では概ね90%以上が自動車を「運転できる」と回答しているが、75歳以上では51.1%と低くなっている。

図 自動車の運転（全体・集落類型別）

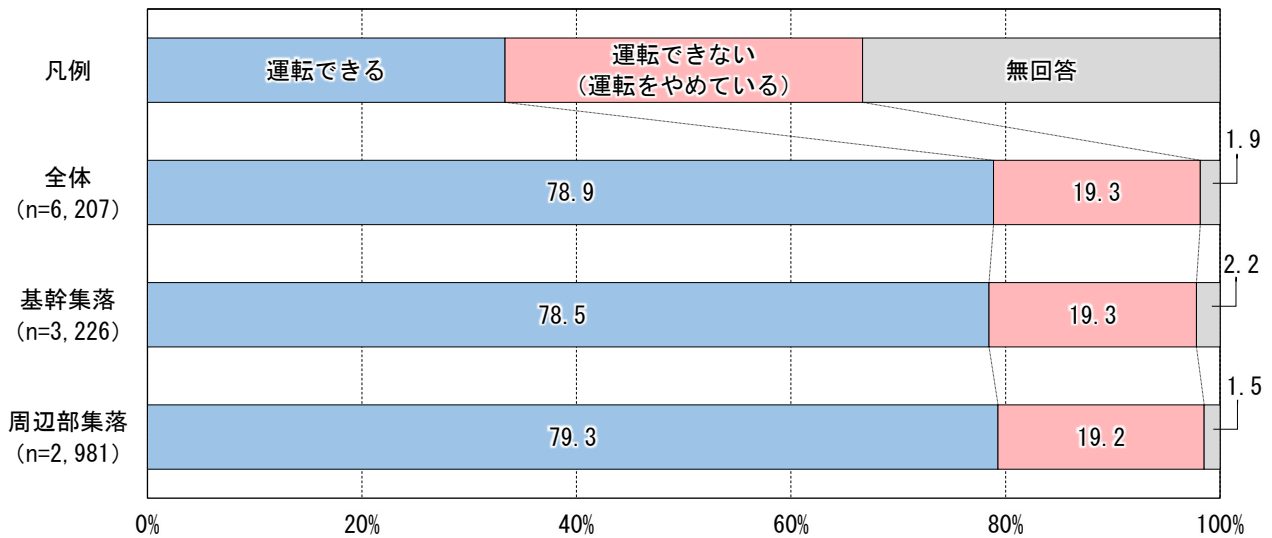
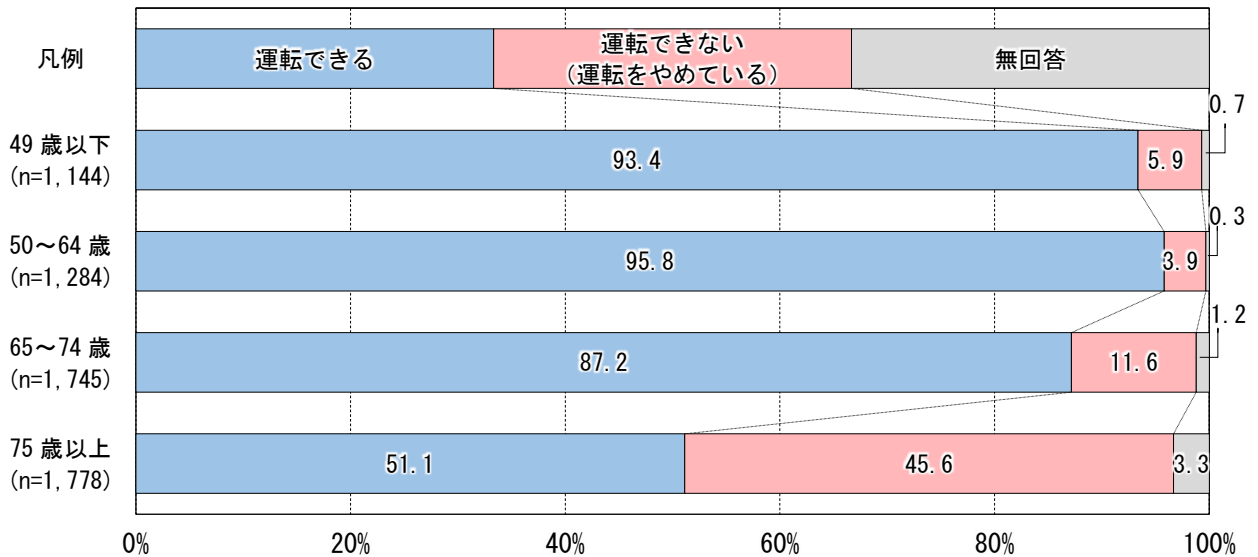


図 自動車の運転（年齢別）



問 11

問 10 で「運転できる」と回答した方にお聞きします。  
あなたは、運転することに不安はありませんか。

- 自動車運転できると回答した人のうち、運転に「不安がある」人は19.1%となっている。
- 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて「不安がある」が高くなっており、65～74歳では22.8%、75歳以上では34%となっている。

図 自動車運転への不安（全体・集落類型別）

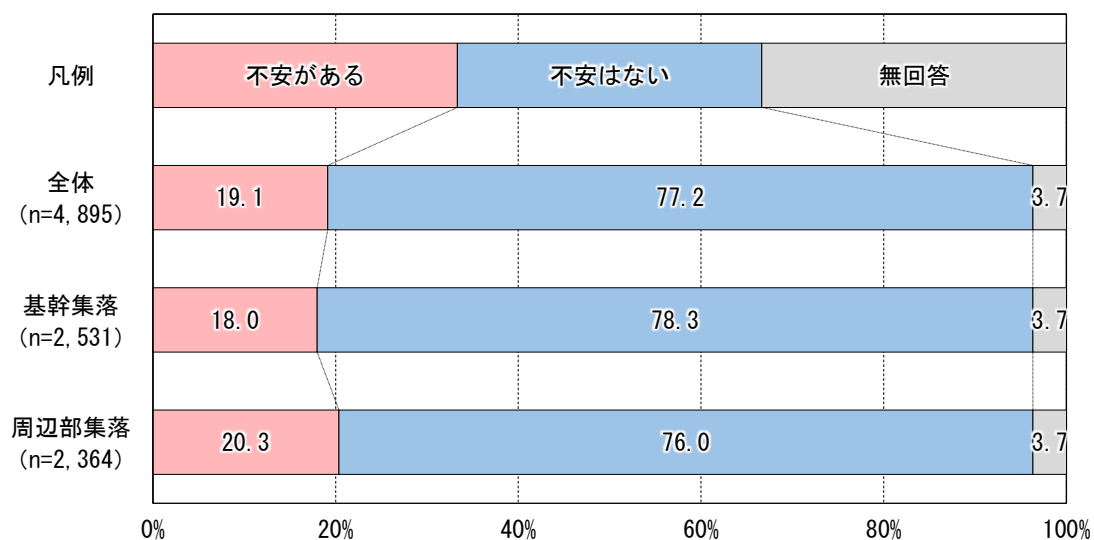
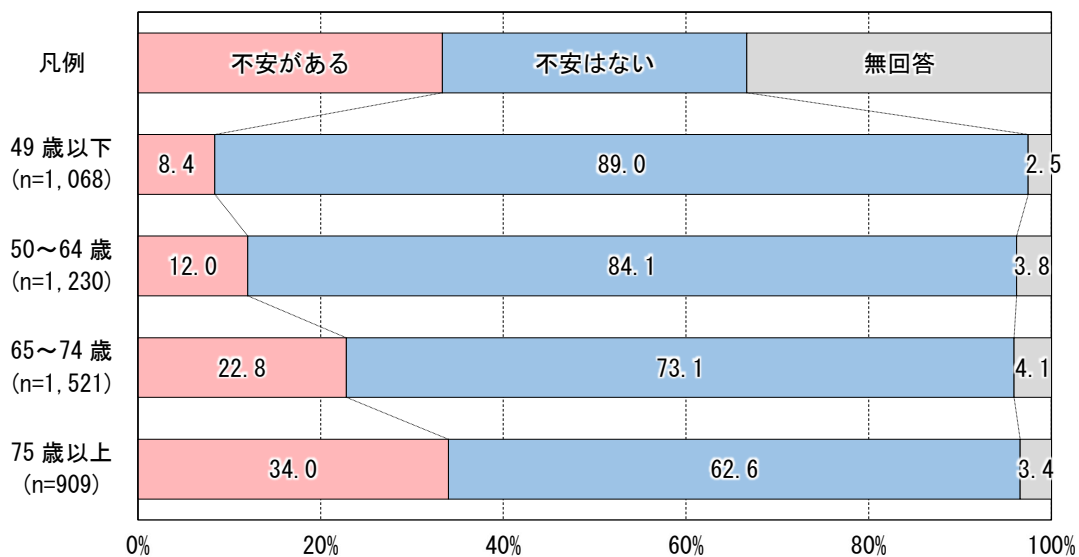


図 自動車運転への不安（年齢別）



問 12① 問 11 で「不安がある」と回答した方にお聞きします。  
何か対応をしていますか。(複数回答)

- 自動車の運転に「不安がある」人では、77%の人が「長距離の運転を控えている」と回答しており、「運転免許証の返納を検討している」は19.4%となっている。
- 年齢別にみると、65歳以上で「長距離の運転を控えている」「運転免許証の返納を検討している」が高くなっており、75歳以上では37.2%の人が「運転免許証の返納を検討している」と回答している。

図 運転不安への対応状況 (全体・集落類型別)

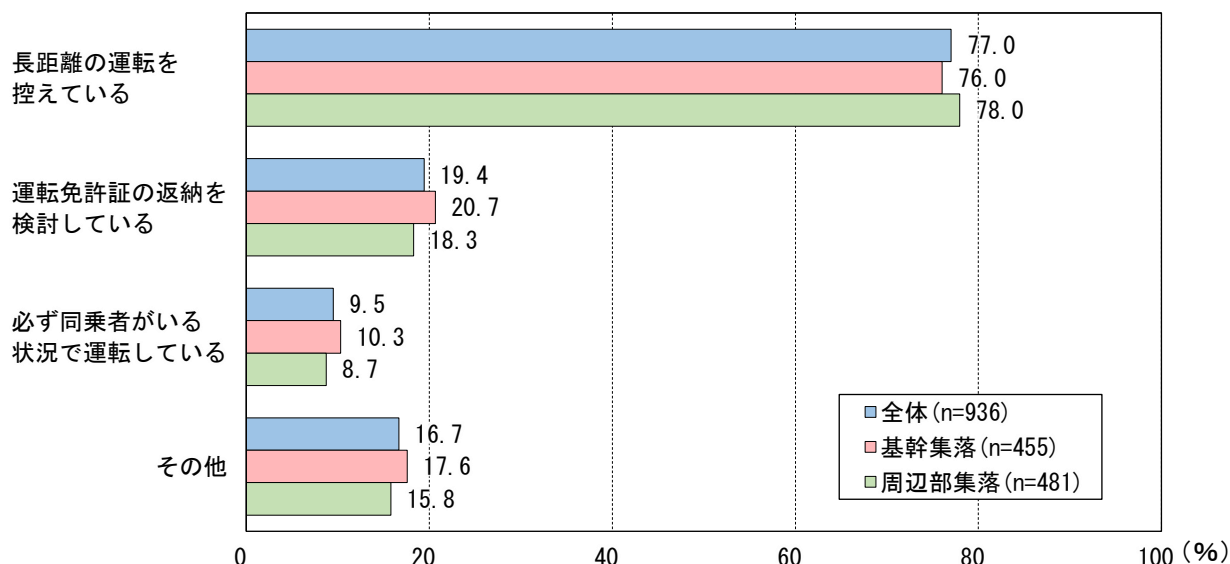
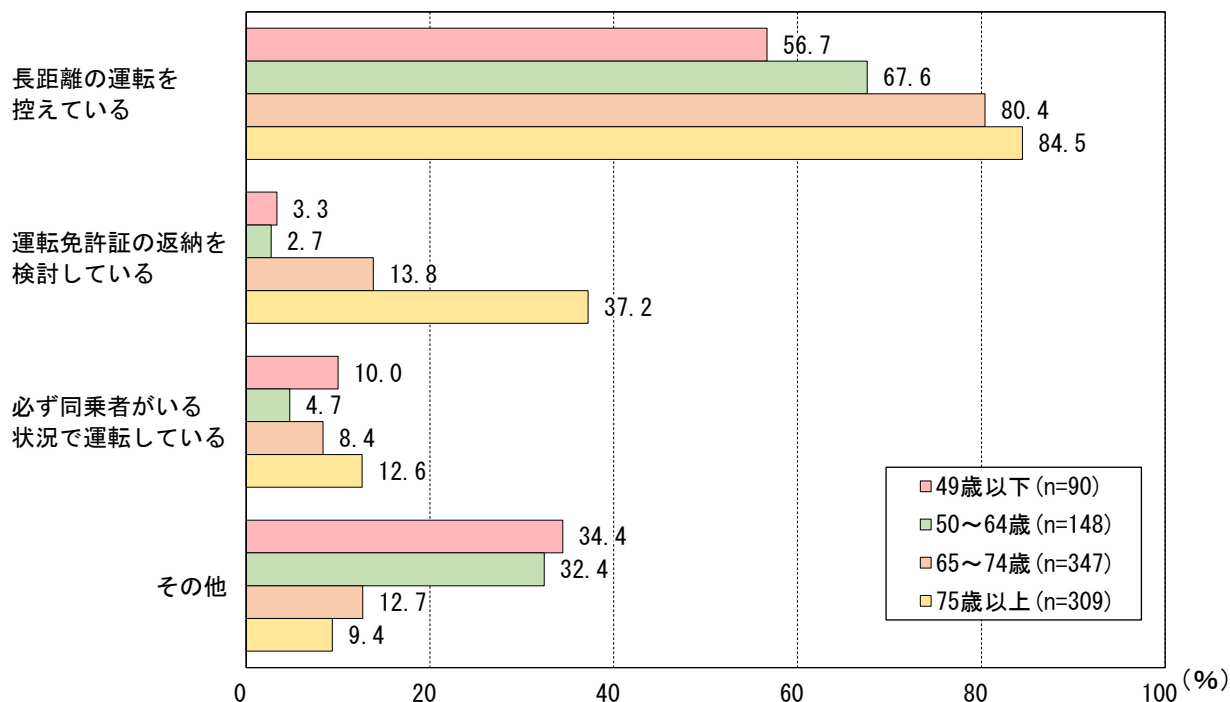


図 運転不安への対応状況 (年齢別)



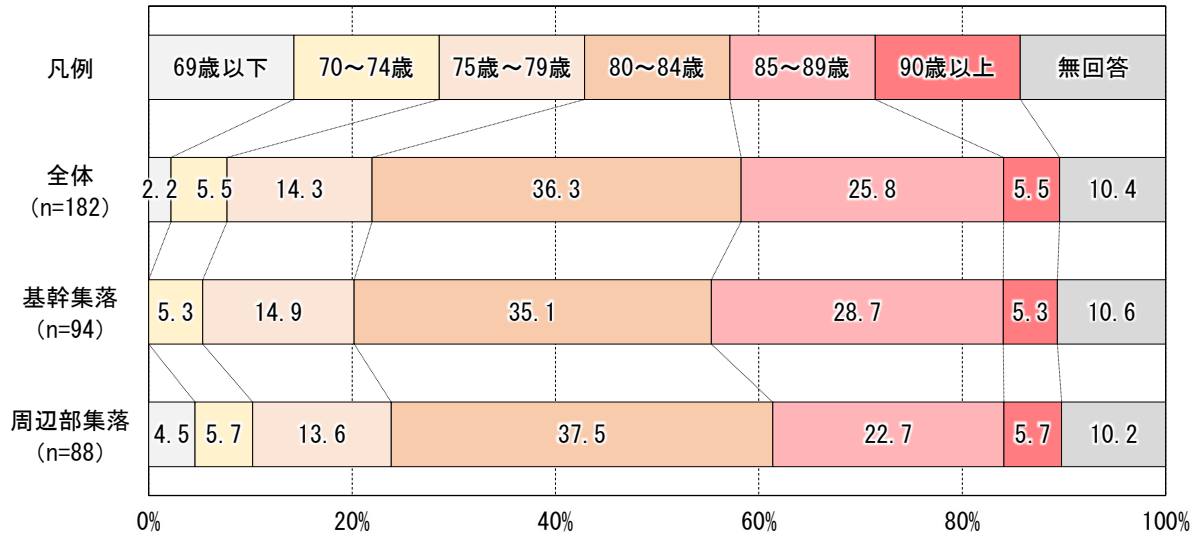
【その他 (n=156) の回答のうち記載の多かったもの】

安全運転	24件	夜間の運転回避	18件
認知症等病気で運転できない	11件	運転機会の抑制	7件
運転していない	3件	家族等に運転を任せている	3件
高速道路は利用しない	3件		
			など

問 12② 問 12①で「運転免許証の返納を検討している」と回答した方にお聞きします。  
返納を予定している年齢は何歳ですか。

○運転免許証の返納を予定している年齢については、「80～84歳」が36.3%と最も高く、次いで「85～89歳」が25.8%、「75～79歳」が14.3%となっている。

図 運転免許証の返納予定時期（全体・集落類型別）



問 13 問 10 で「運転できる」と回答した方にお聞きします。  
 あなたは、もし、運転ができなくなった場合、現在お住まいの地域での暮らしに影響があると思いますか。

- 自動車の運転ができる人において、運転ができなくなった場合の地域での暮らしへの影響については、54.1%の人が「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答している。
- また、「あまり影響はなく、現在と変わりなく暮らすことができる」と回答した人は2.4%と少なく、ほとんどの人が、何らかの不便を感じると回答している。
- 集落類型別にみると、基幹集落と比べて周辺部集落で「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答する割合が高くなっている。
- 年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて、「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答する割合が高くなっている。

図 運転できなくなった場合の暮らしへの影響（全体・集落類型別）

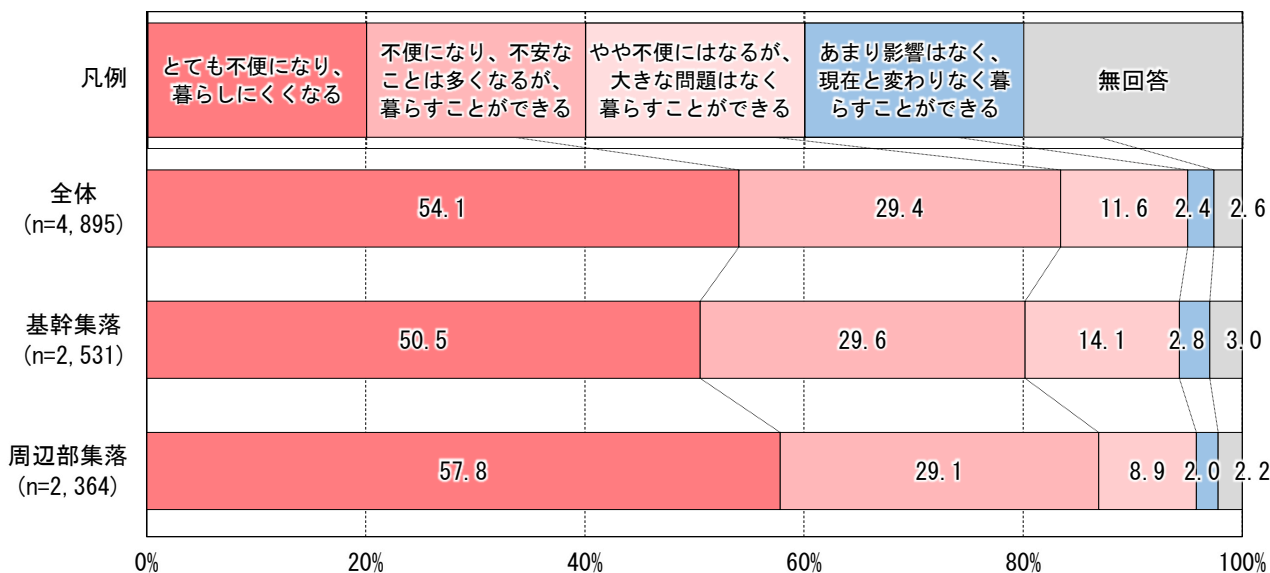
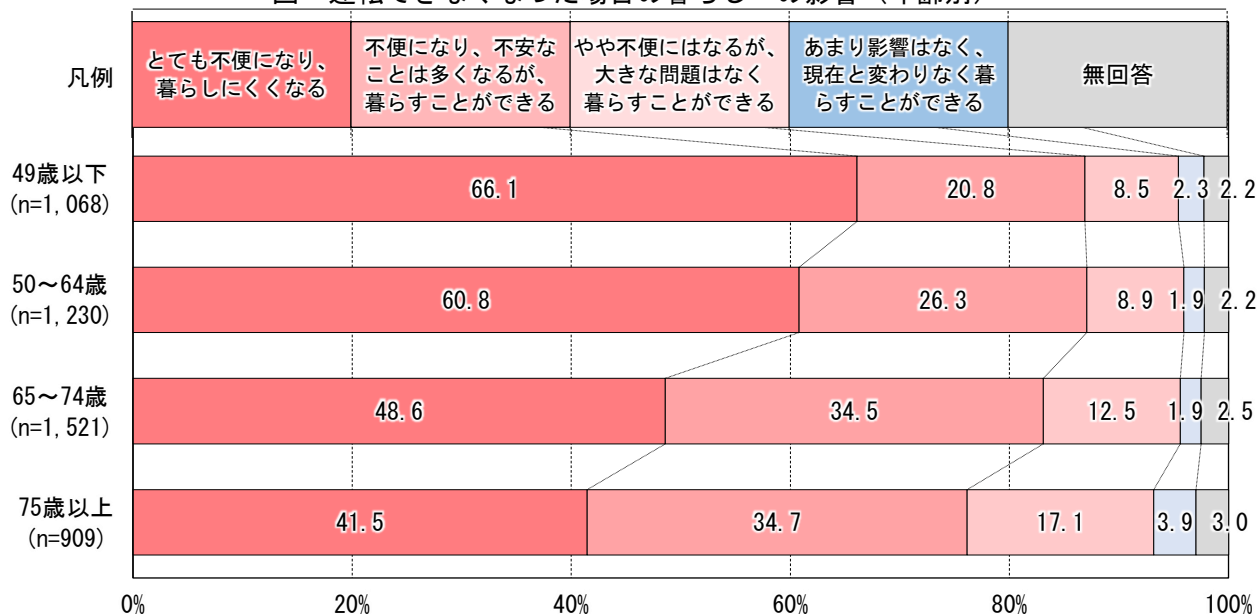


図 運転できなくなった場合の暮らしへの影響（年齢別）



問 14①

問 10 で「運転できない（運転をやめている）」と回答した方にお聞きします。  
 運転できない理由は何ですか。

○自動車を運転できない（運転をやめている）人の運転できない理由をみると、「自動車運転免許証を取得していない」が 58.3%、次いで「運転が不安になり免許を返納した」が 22.1%となっている。

図 運転できない理由（全体・集落類型別）

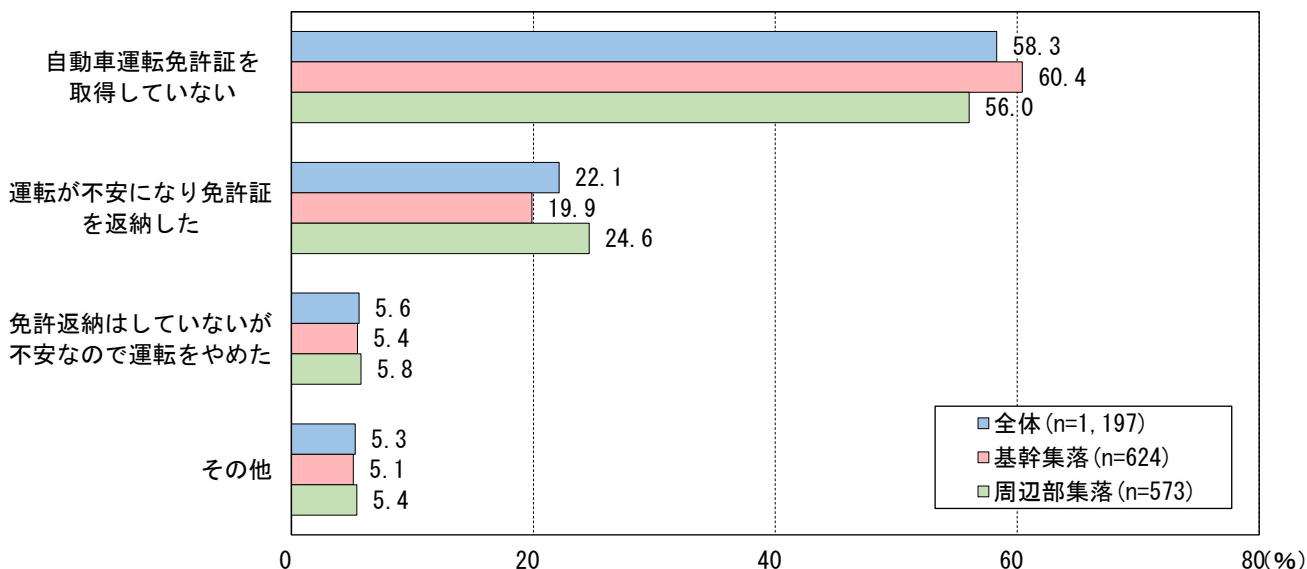
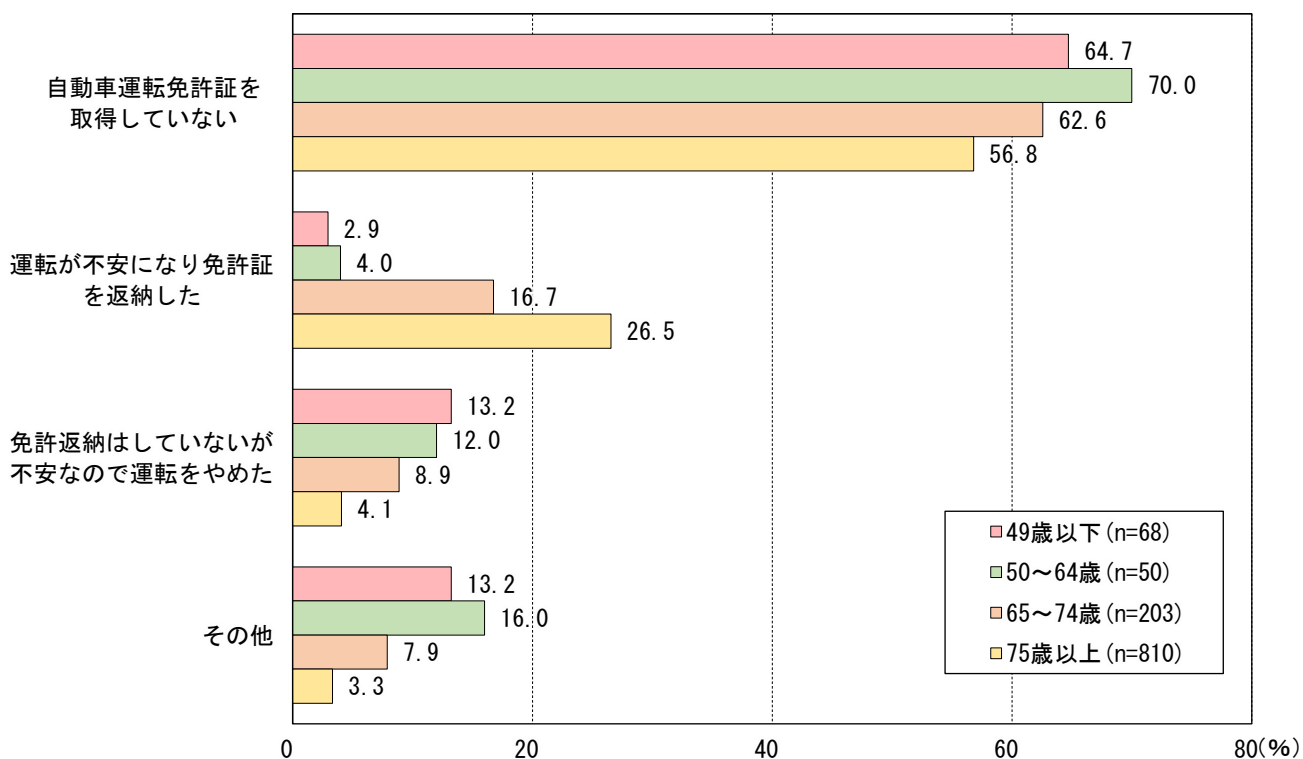


図 運転できない理由（年齢別）



【その他 (n=63) の回答のうち記載の多かったもの】

健康上の理由	25 件	高齢のため	12 件
車を所有していない	5 件	バイクのみ利用	4 件
ペーパードライバー	3 件	運転が不安（免許返納不明）	3 件
運転免許証停止等	2 件		など



問 14②

問 14①で「運転が不安になり免許証を返納した」と回答した方にお聞きします。  
返納した年齢を教えてください。

- 自動車の運転が不安になり免許証を返納した人の返納時の年齢については、「80～84歳」が23.8%と最も高く、次いで「85～89歳」が21.1%、「70～74歳」が18.1%となっている。
- 特に、「70歳」、「75歳」、「80歳」と回答した人が多くなっている。

図 運転免許証の返納年齢（5歳区切り）（全体・集落類型別）

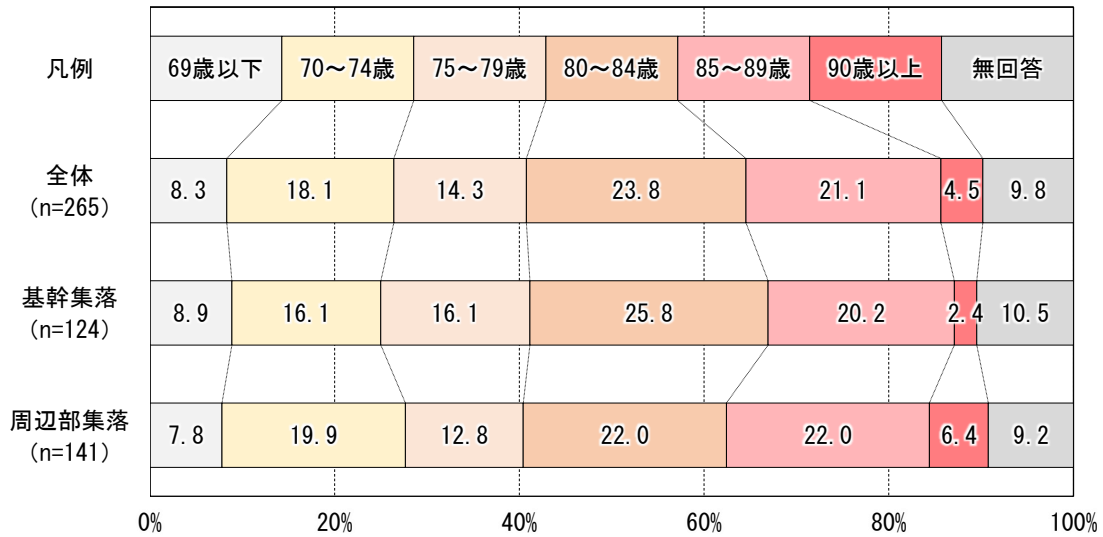
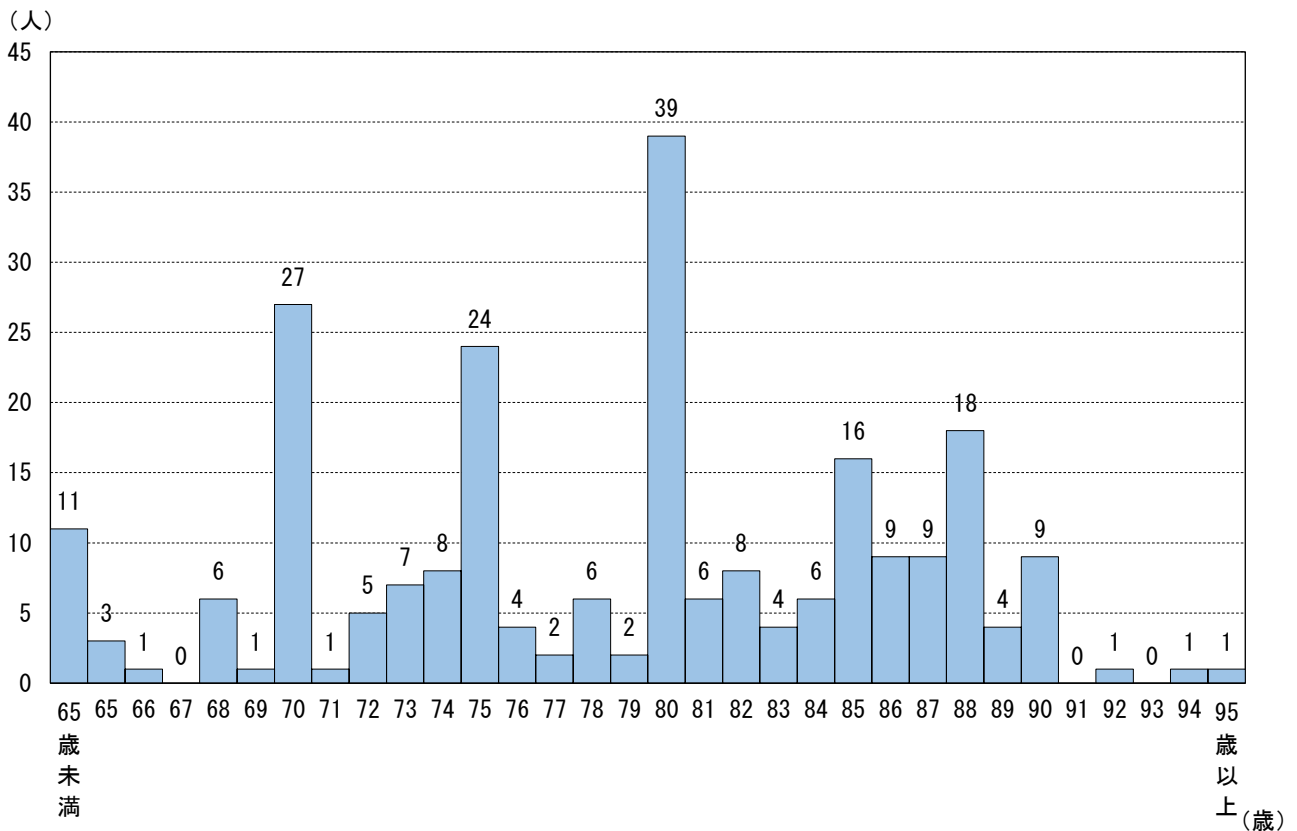


図 年齢別運転免許証の返納時の年齢（全体）



(n=239)

問 15 あなたは、外出の際、困っていることはありますか。(複数回答)

○外出の際に困っていることについては、「公共交通機関の便数が少ない」が32.5%で最も高く、次いで「道路環境が良くない」が18.7%、「駅やバス停、港まで遠い」が14.9%となっている。  
 ○年齢別にみると、49歳以下では「公共交通機関の便数が少ない」が41.6%と高くなっている。  
 ○一方、75歳以上では「足腰が弱って一人での移動が難しい」が22.6%、「自家用車等の移動手段がない」が10.8%と高くなっている。

図 外出時の困りごと (全体・集落類型別)

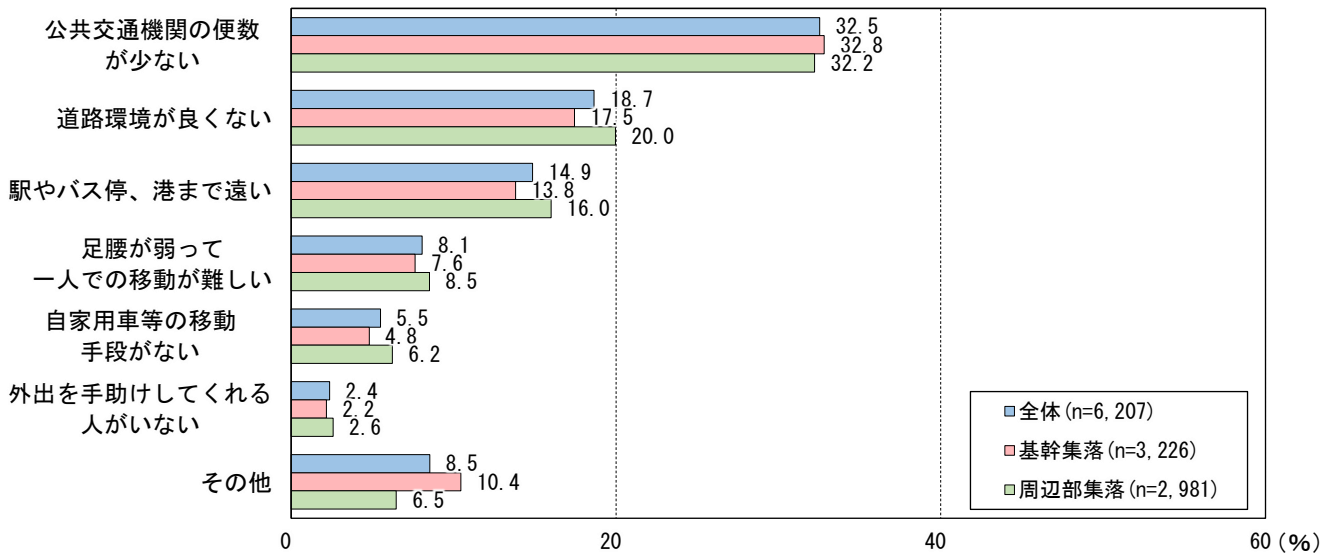
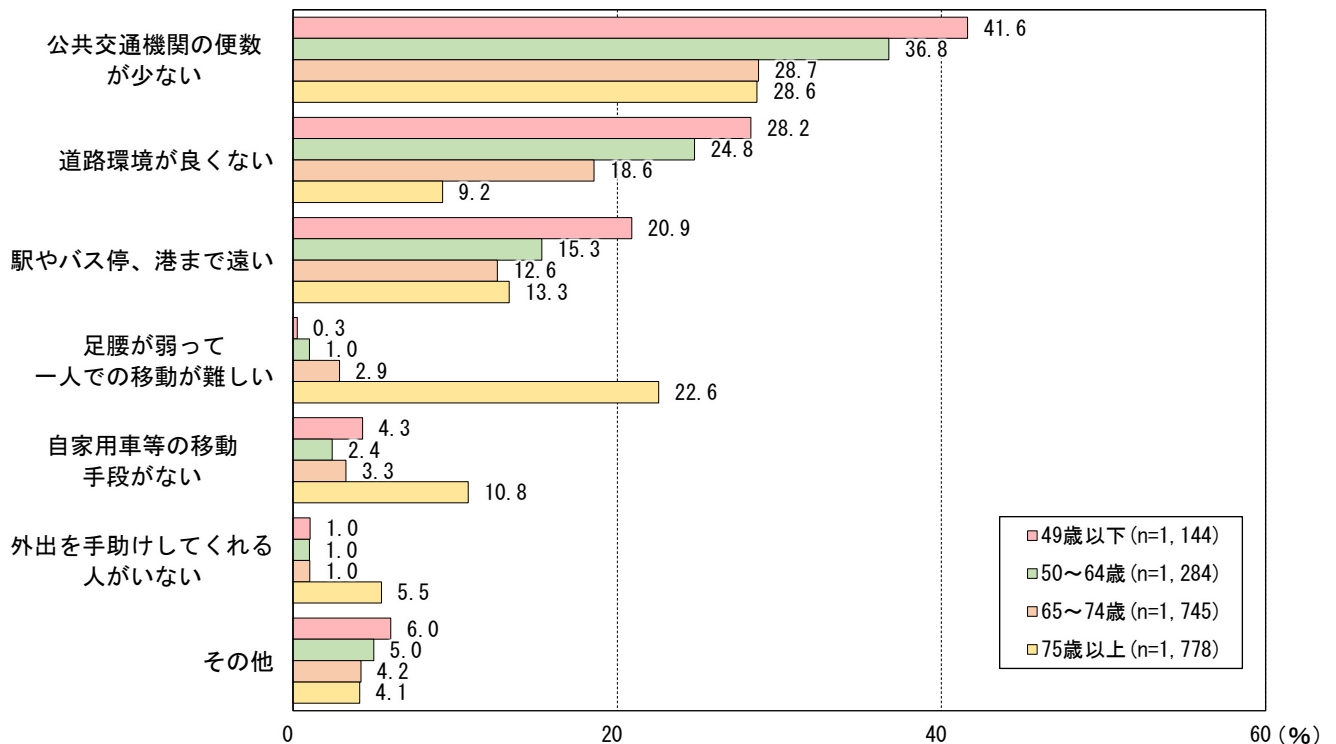


図 外出時の困りごと (年齢別)



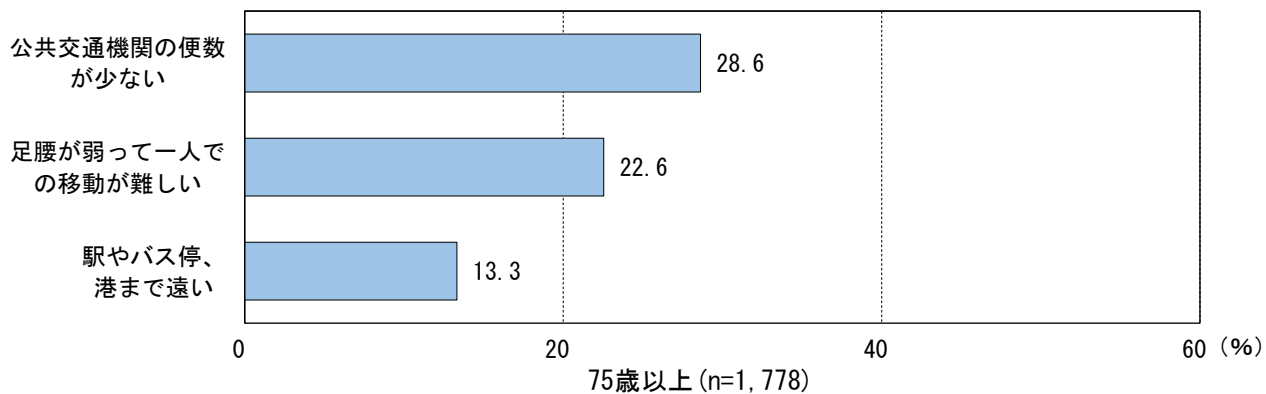
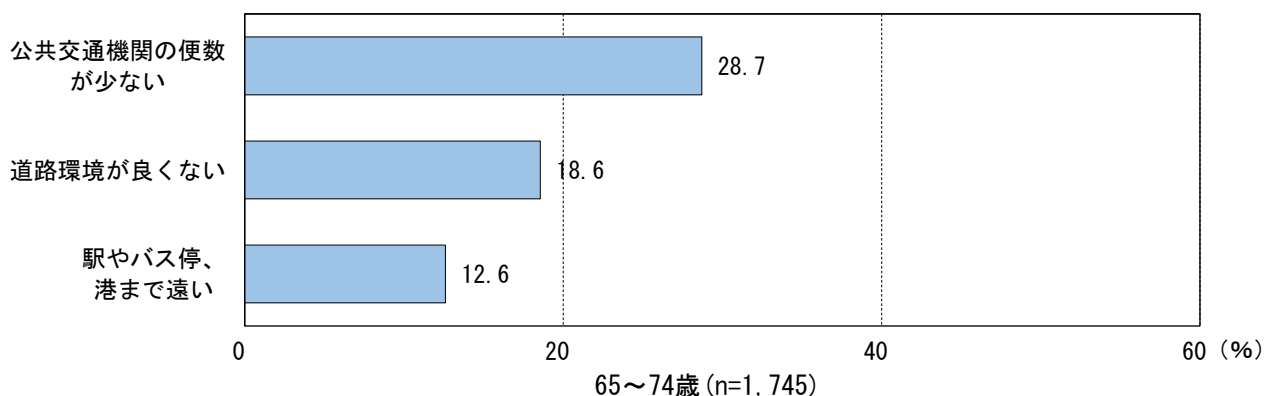
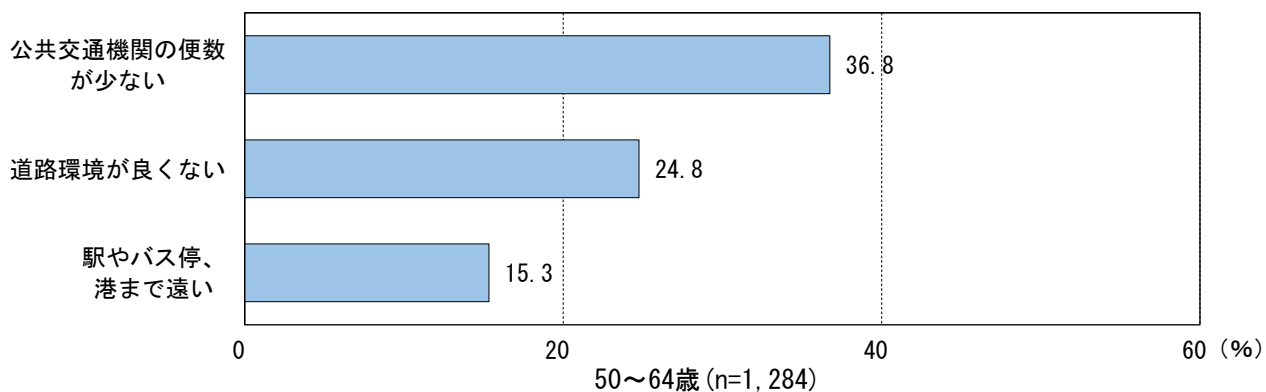
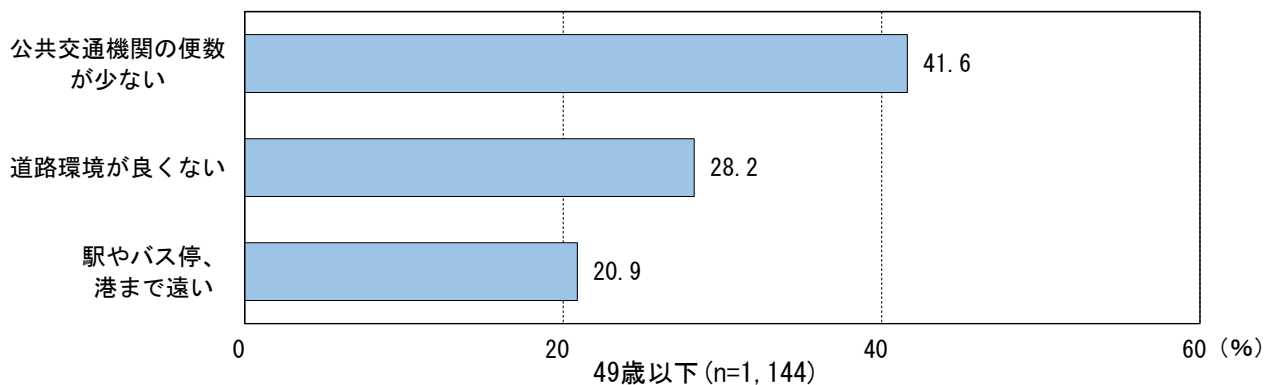
【その他 (n=530) の回答のうち記載の多かったもの】

冬季の積雪	68件	ガソリン代の高騰	28件
高齢化等による将来の不安	18件	目的地まで遠い	17件
		など	

(ヒアリング調査での主な意見)

- ・自動車での移動は生活に欠かせない。
- ・自動車の運転ができる人は多少の不便はあっても生活はできている。
- ・自動車の運転ができなくなった時に生活していけるか不安。
- ・生活のことを考えると免許返納はしづらい。
- ・運転に自信がなくなってきたので、運転しやすい大きな道路や駐車場の広い店舗を利用している。
- ・バスの便数が少ないため、通院時に往路はバス、復路はタクシーを利用せざるをえない。
- ・バス停までの距離が遠いため、バスではなくてタクシーを利用するが、金銭的な負担が大きい。

図 外出時の困りごと【再掲】（年齢別、上位3項目）



### 3. 移動販売・通信販売等の利用について

問 16 あなたは、移動販売や食材配達、通信販売を利用していますか。

#### (1) 移動販売

##### ① 利用の有無

- 移動販売の利用状況をみると、18%が「利用している」と回答している。
- 集落類型別にみると、基幹集落と比べて周辺部集落で利用割合が高くなっている。
- 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて利用割合が高くなっており、75歳以上では25.4%が「利用している」と回答している。

図 移動販売車の利用状況（全体・集落類型別）

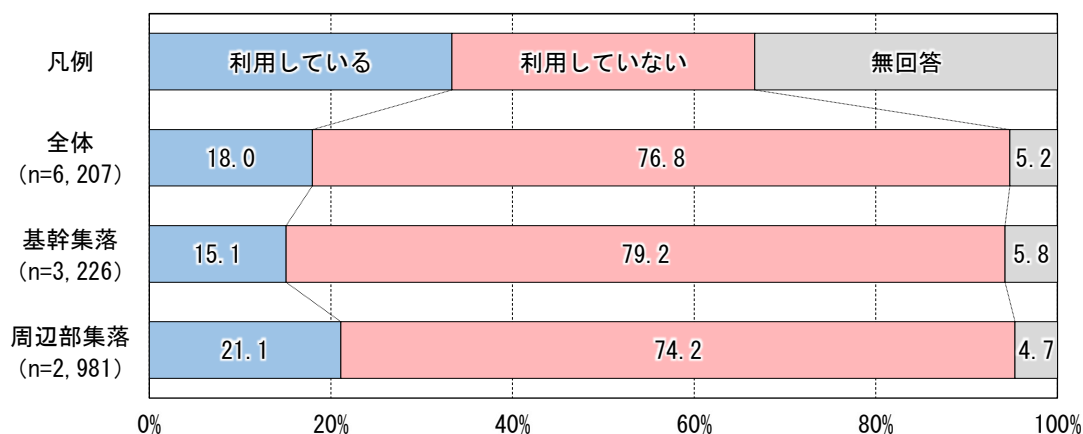
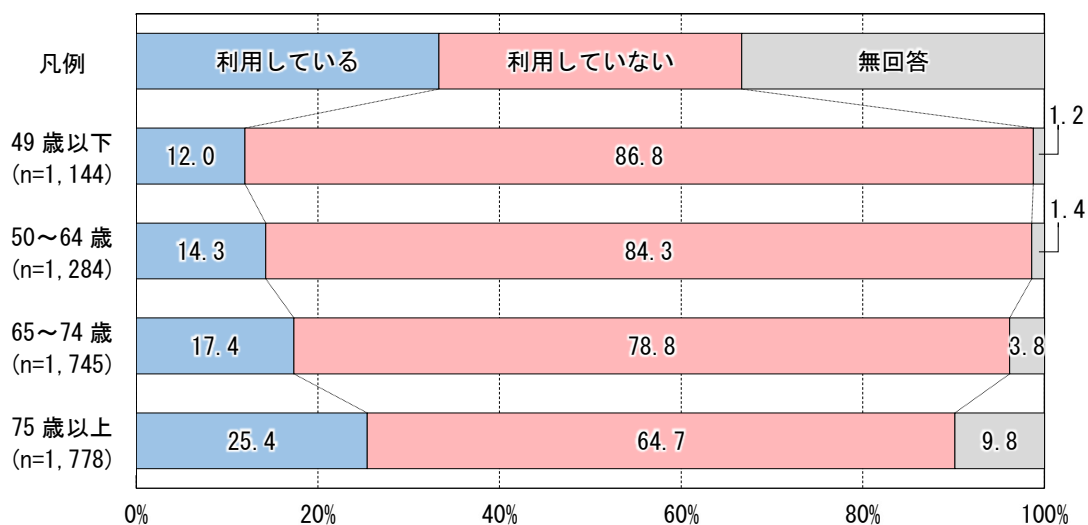


図 移動販売車の利用状況（年齢別）



(ヒアリング調査での主な意見)

- ・高齢者や自動車を運転できない人にとって、移動販売や食材配達は重要な買い物手段となっている。
- ・移動販売は買い物手段であるだけでなく、社交場にもなっている。

## ② 利用理由（複数回答）

- 移動販売を利用する理由をみると、「自宅近くまで来てくれる」が81%と高くなっている。
- 集落類型別にみると、基幹集落よりも周辺部集落で「買い物手段が移動販売車しかない」と回答する割合が高くなっている。
- 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて「自宅近くまで来てくれる」と回答する割合が高くなっている。また、75歳以上では「買い物手段が移動販売車しかない」が12.8%と高くなっている。

図 移動販売車の利用理由（全体・集落類型別）

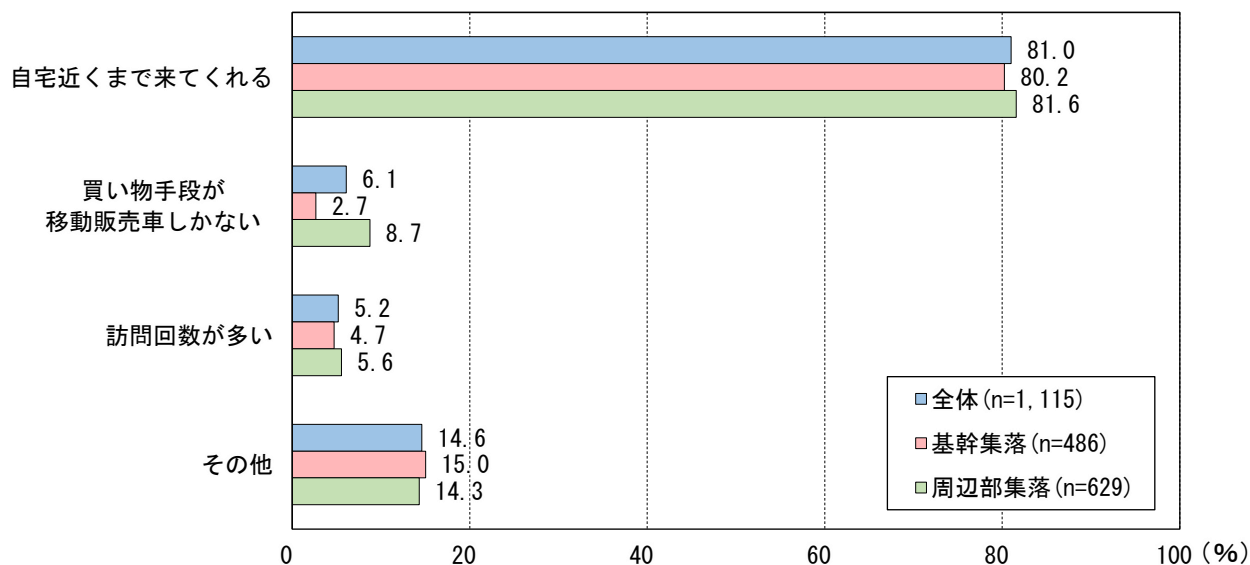
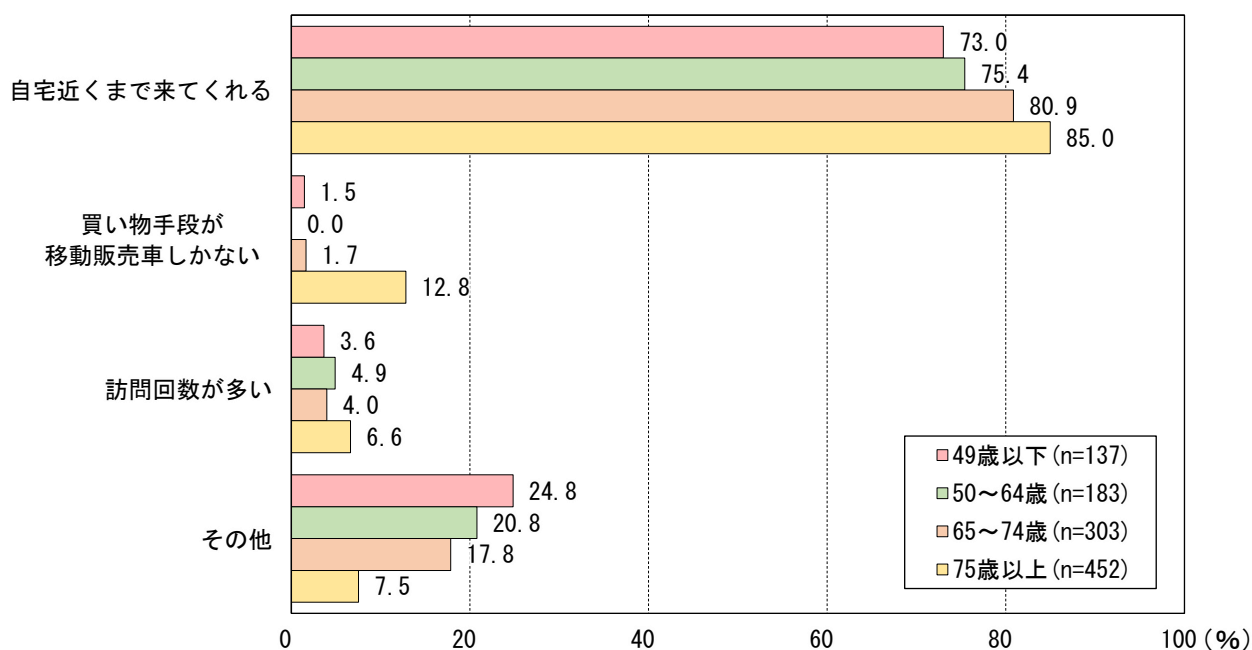


図 移動販売車の利用理由（年齢別）



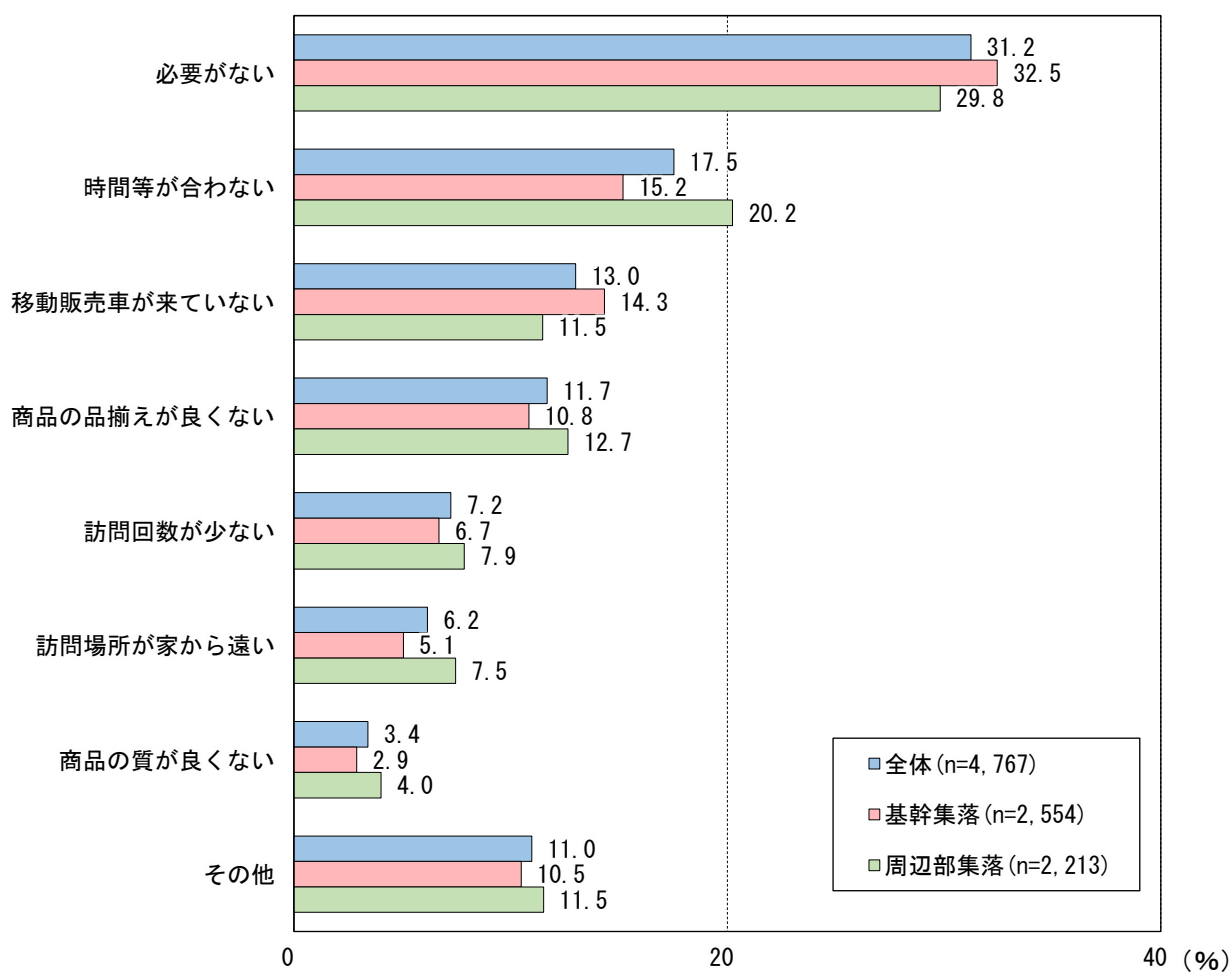
【その他 (n=163) の回答のうち記載の多かったもの】

品揃えがいい	22件	職場にも来てくれる	8件
知人がやっている	5件		など

### ③ 利用していない理由（複数回答）

- 移動販売を利用していない理由をみると、移動販売を利用する「必要がない」が最も高く31.2%、次いで「時間等が合わない」が17.5%となっている。また、「移動販売車が来ていない」は13%となっている。
- 集落類型別にみると、周辺部集落では「時間等が合わない」が高くなっており、基幹集落では「必要がない」「移動販売車が来ていない」が高くなっている。
- 年齢別にみると、64歳以下で「時間等が合わない」が高くなっている。

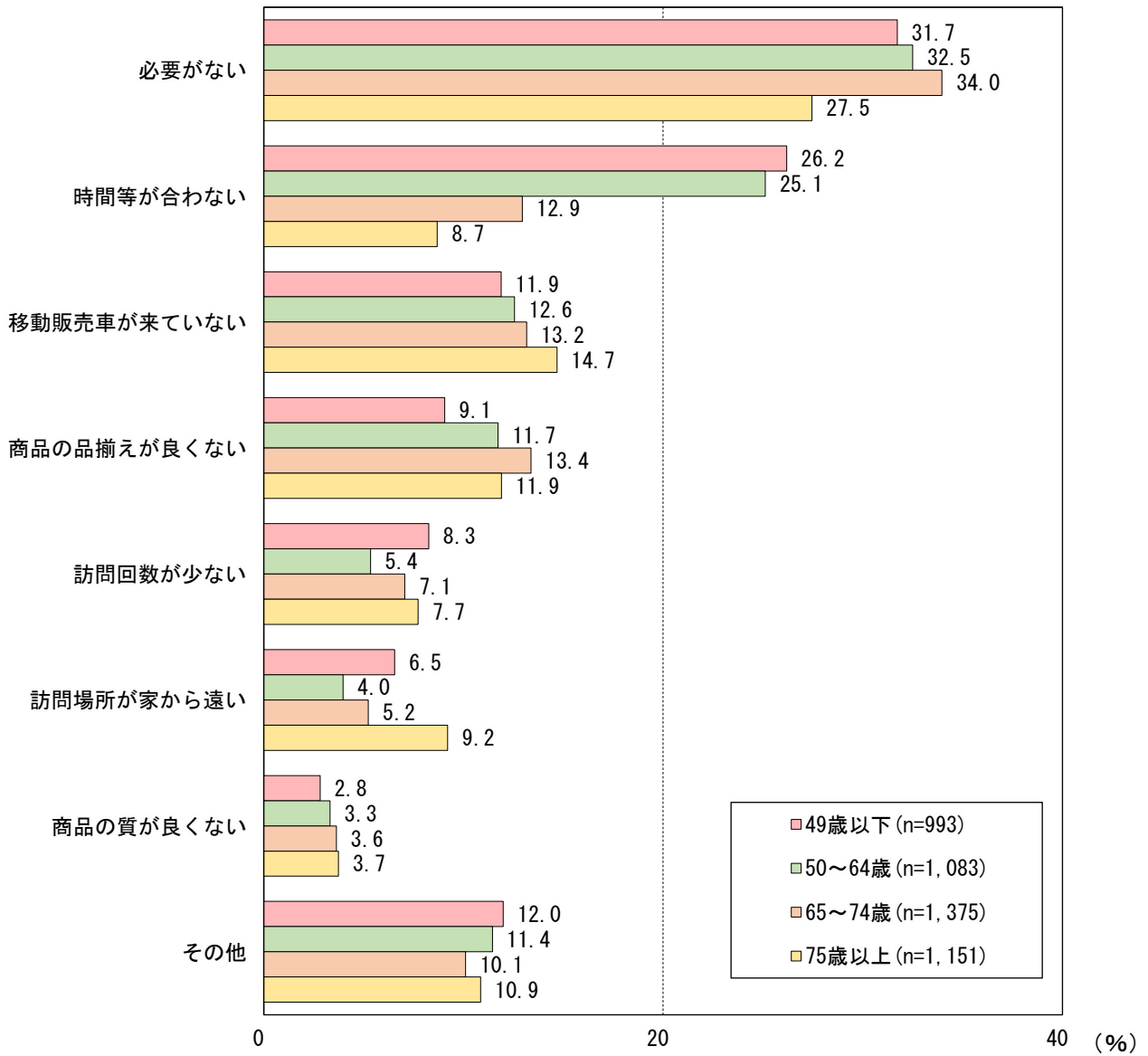
図 移動販売車を利用していない理由（全体・集落類型別）



【その他（n=523）の回答のうち記載の多かったもの】

情報がない	114件	商品が高い	62件
自分で商品を見て選びたい	24件	欲しいものがない	12件
			など

図 移動販売車を利用していない理由（年齢別）





## (2) 食材配達（生協・スーパーマーケット等事業者のスタッフが配送するサービス）

### ① 利用の有無

○食材配達の利用状況をみると、21.3%が「利用している」と回答している。

図 食材配達の利用状況（全体・集落類型別）

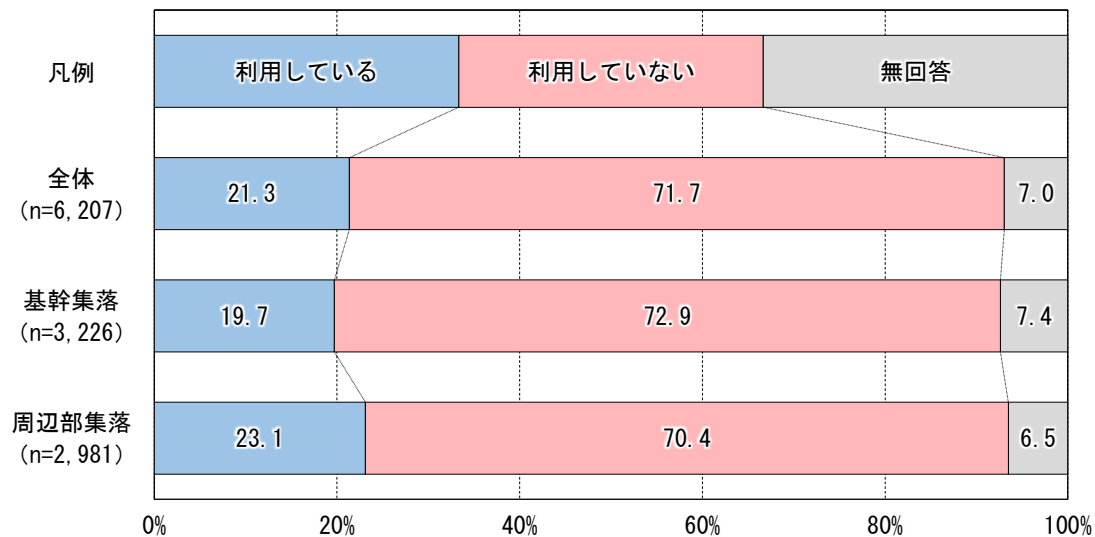
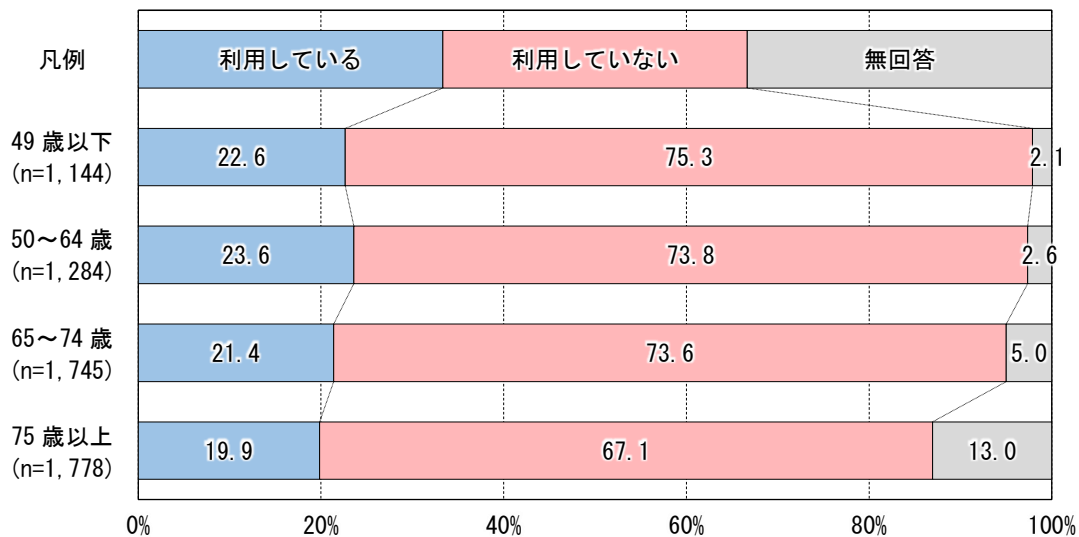


図 食材配達の利用状況（年齢別）



#### （ヒアリング調査での主な意見）

- ・自宅まで届けてくれて助かるので、店舗での買い物に加えて食材配達も利用している。

## ② 利用理由（複数回答）

○食材配達を利用する理由をみると、68.8%が「自宅まで配達してくれる」と回答しており、次いで「商品の品揃えが良い」が40.4%、「商品の質が良い」が27.5%となっている。

○年齢別にみると、75歳以上で「自宅まで配達してくれる」が77.1%と高くなっており、「買い物手段が食材配達しかない」も高くなっている。

図 食材配達の利用理由（全体・集落類型別）

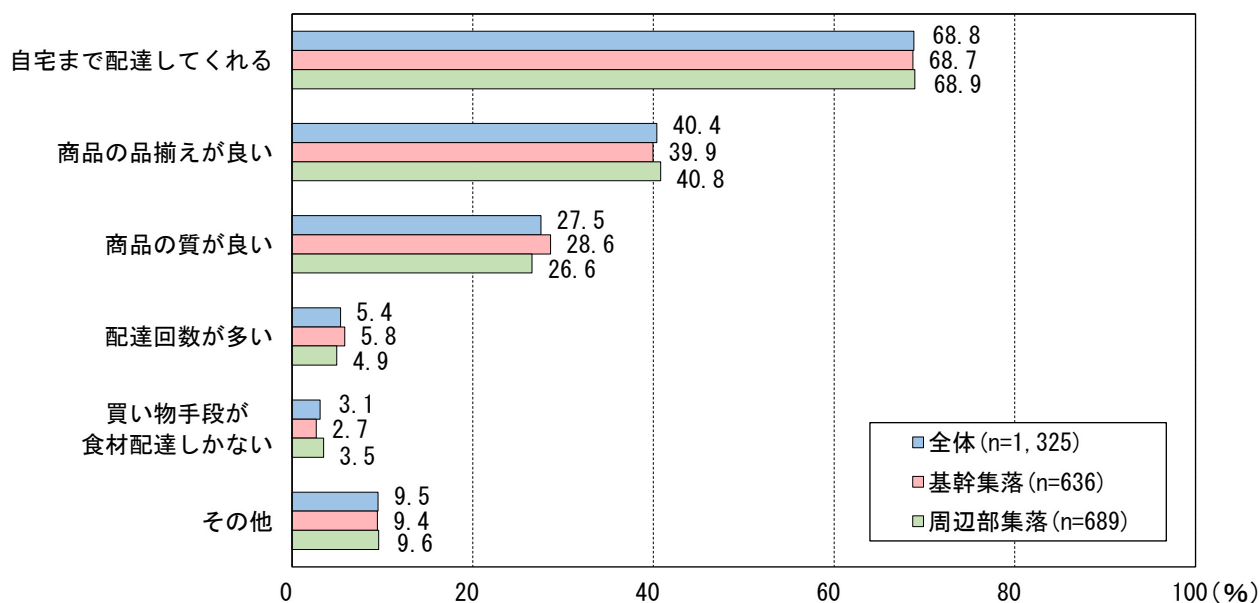
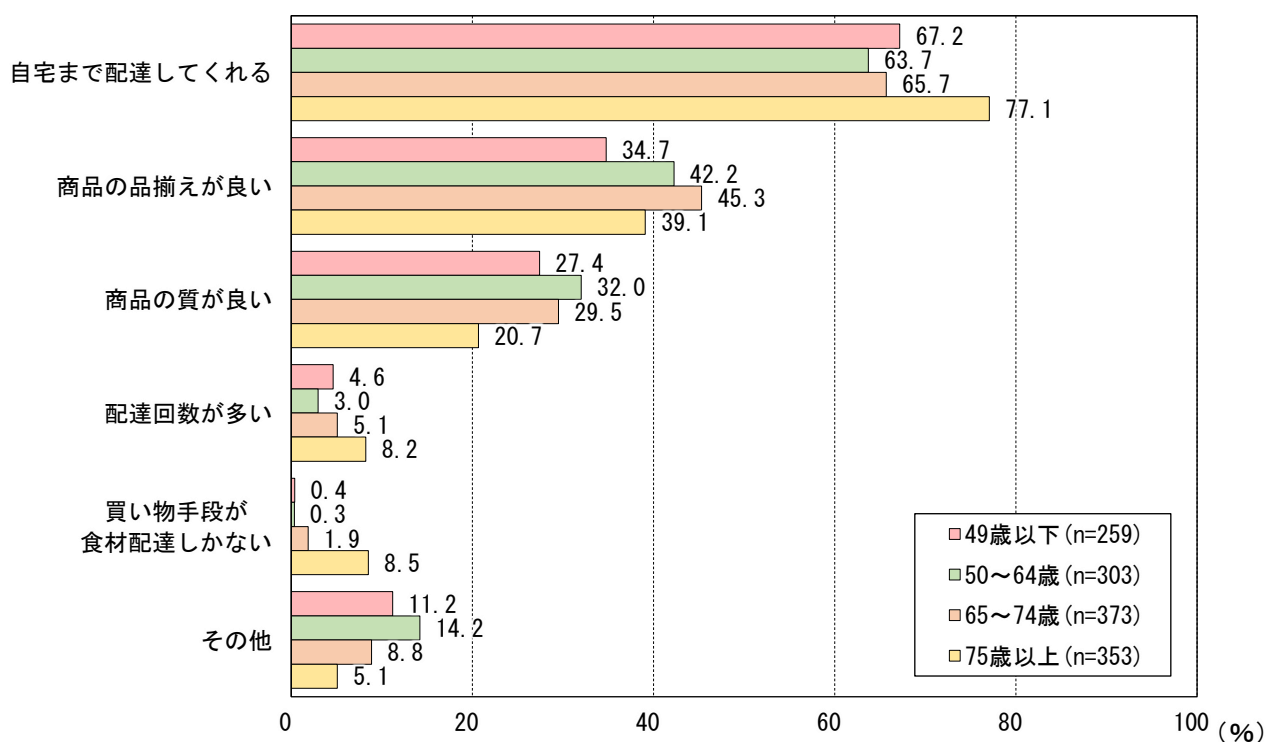


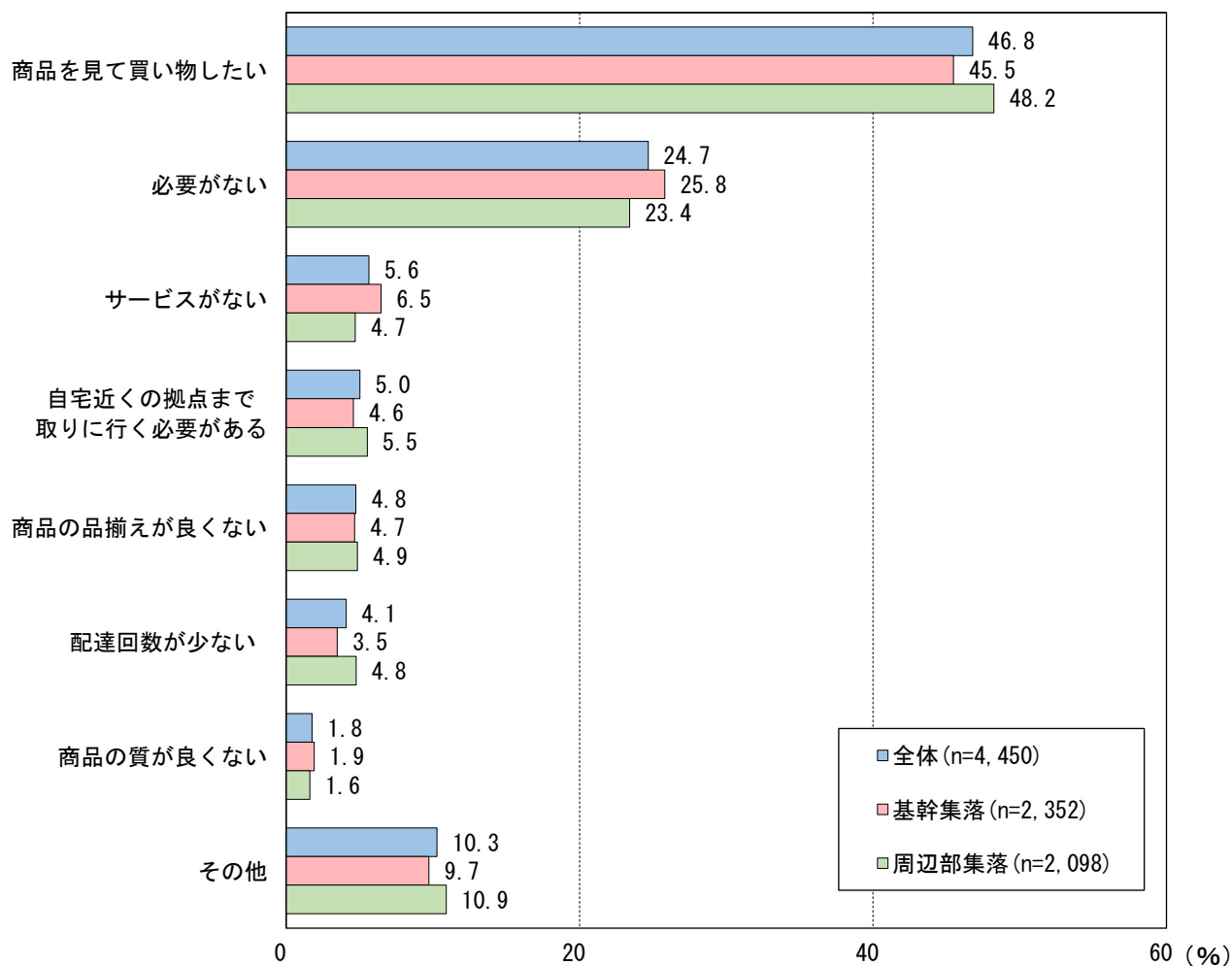
図 食材配達の利用理由（年齢別）



### ③ 利用していない理由（複数回答）

○食材配達を利用していない理由をみると、「商品を見て買い物したい」が46.8%と最も高く、次いで「必要がない」が24.7%となっている。

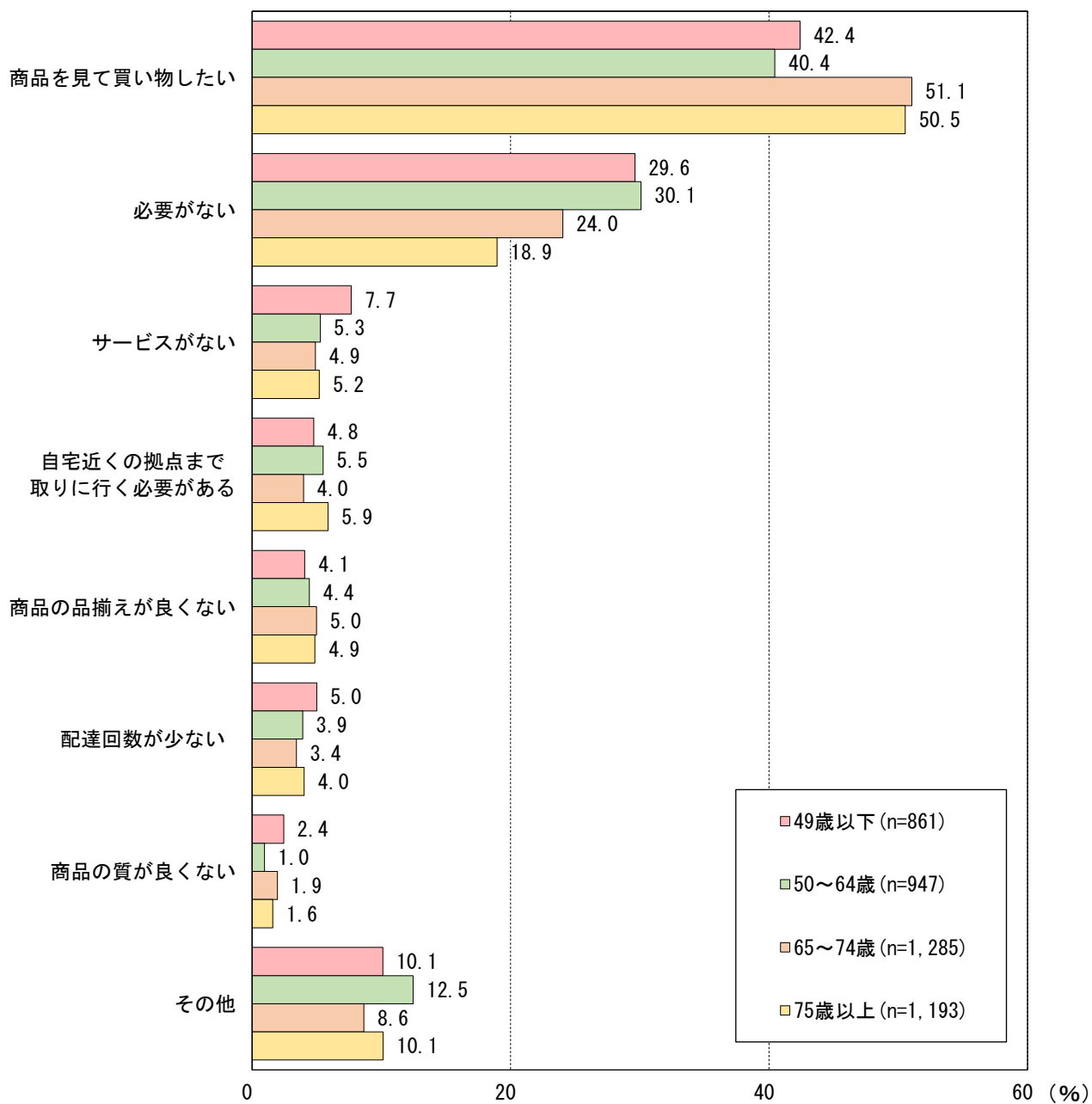
図 食材配達を利用していない理由（全体・集落類型別）



【その他 (n=458) の回答のうち記載の多かったもの】

情報がない	67件	商品が高い	55件
利用方法が面倒	16件	買いすぎてしまうため	10件
		など	

図 食材配達を利用していない理由（年齢別）



【その他 (n=458) の回答のうち記載の多かったもの】

情報がない	67件	商品が高い	55件
利用方法が面倒	16件	買いすぎてしまうため	10件
		など	

### (3) 通信販売（インターネット通販など）

#### ① 利用の有無

○通信販売の利用状況をみると、55%が「利用している」と回答している。

○年齢別にみると、「利用している」人の割合は年齢層が下がるにつれて高くなっており、49歳以下では89.3%の人が利用している。

図 通信販売の利用状況（全体・集落類型別）

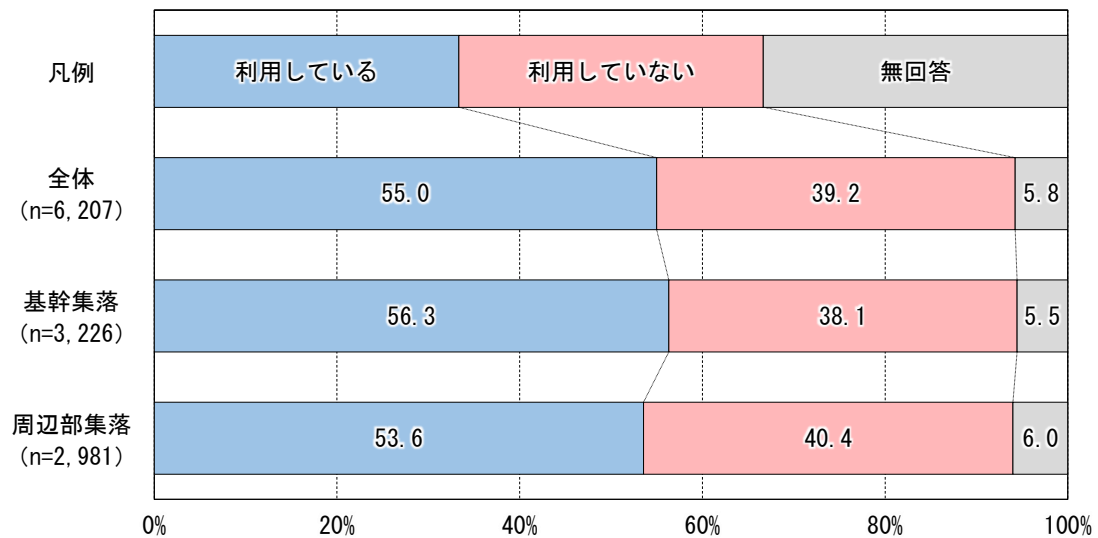
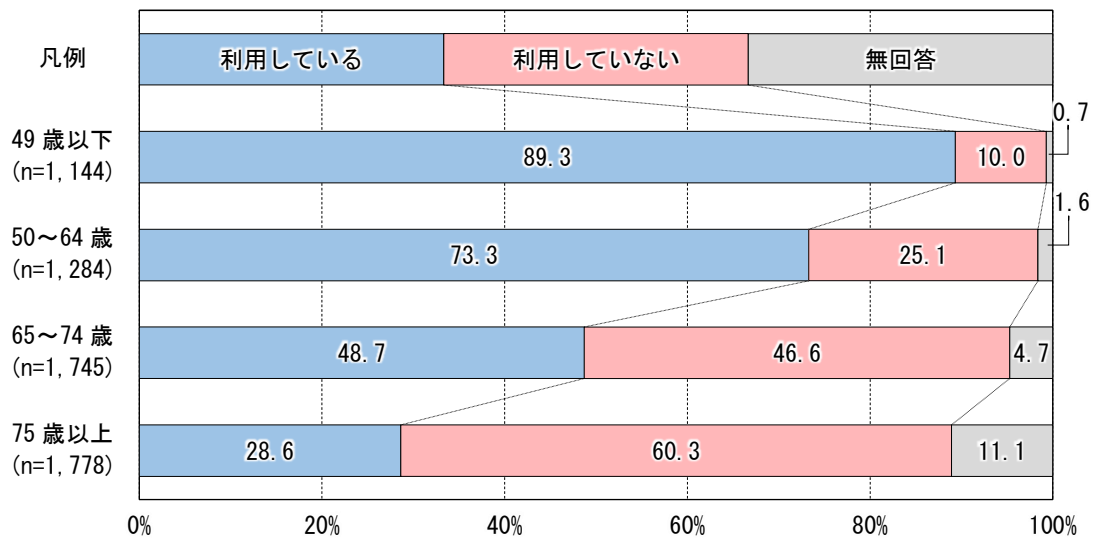


図 通信販売の利用状況（年齢別）



(ヒアリング調査での主な意見)

- ・近隣で衣料品を買うところがないので、通信販売で買うことも多い。

## ② 利用理由（複数回答）

○通信販売を利用する理由をみると、「近くで買えない商品が選べる」「自宅まで配達してくれる」「いつでも注文できる」がそれぞれ70%以上と高くなっている。

図 通信販売の利用理由（全体・集落類型別）

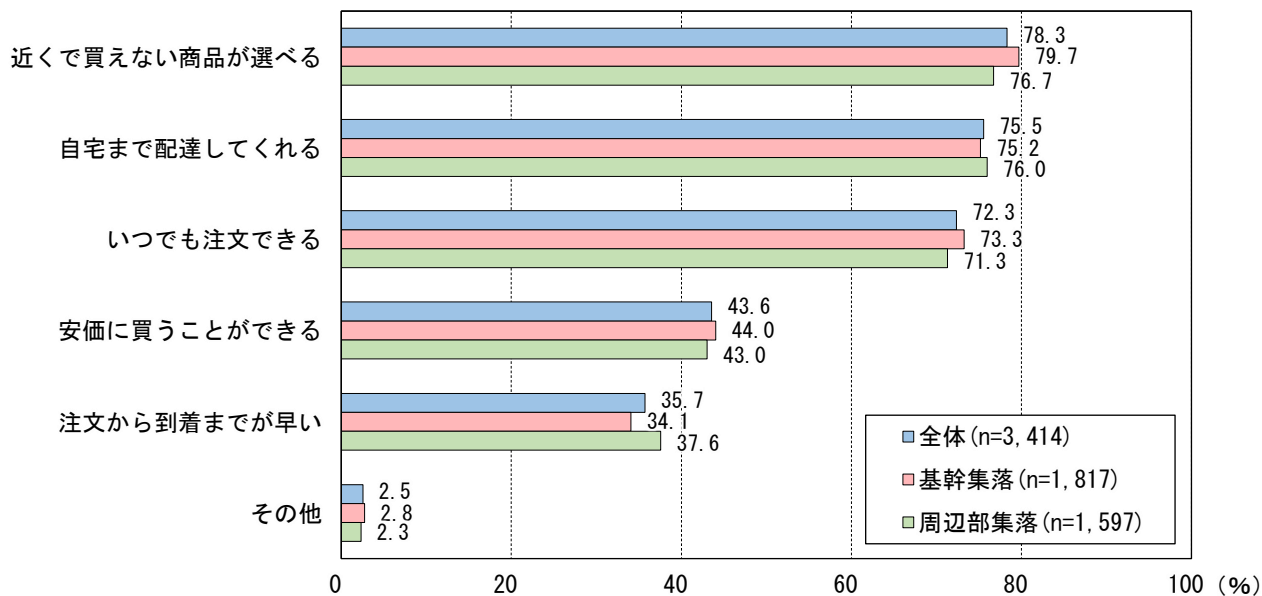
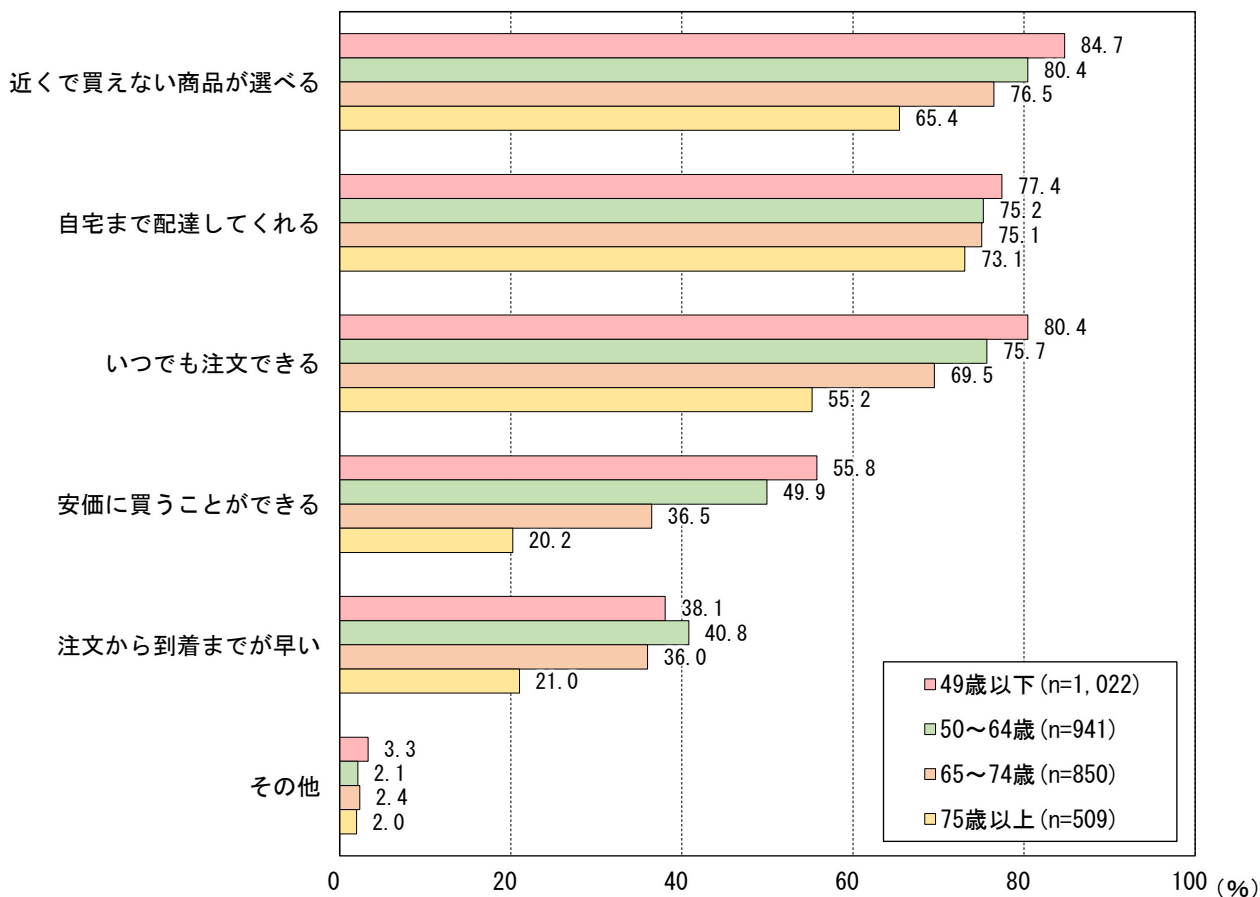


図 通信販売の利用理由（年齢別）



## 4. 情報通信機器の活用について

問 17 あなたは、携帯電話（スマートフォン）やパソコンなどの情報通信機器を利用していますか。

### （1）携帯電話（スマートフォン）

#### ① 利用の有無

○携帯電話（スマートフォン）の利用状況を見ると、79.8%が「使っている」と回答している。

○年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて「使っている」人の割合が高くなっている。

○75歳以上でも55.2%と半数以上が「使っている」と回答している。

図 携帯電話（スマートフォン）の利用状況（全体・集落類型別）

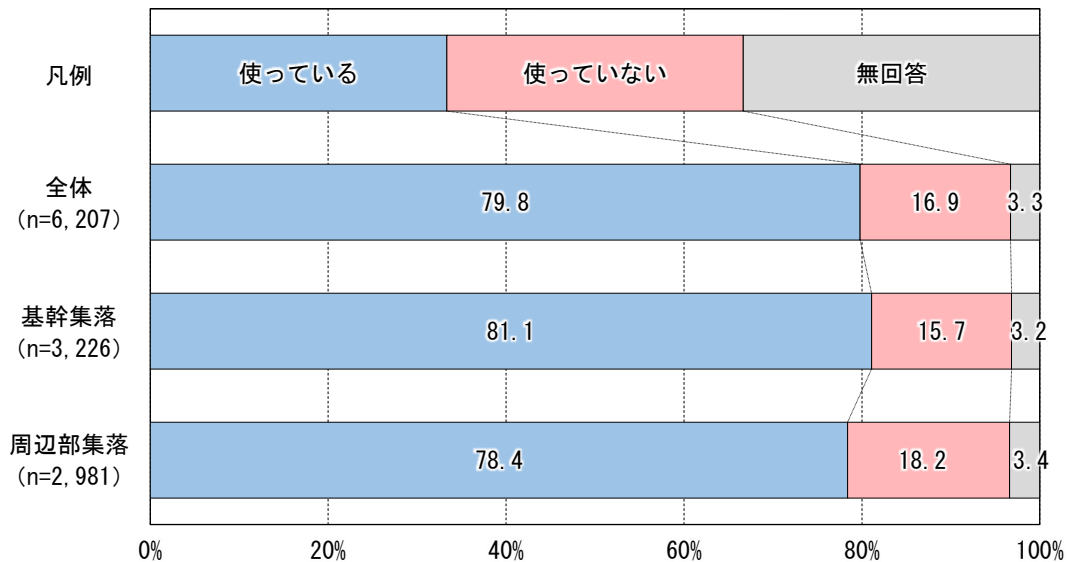
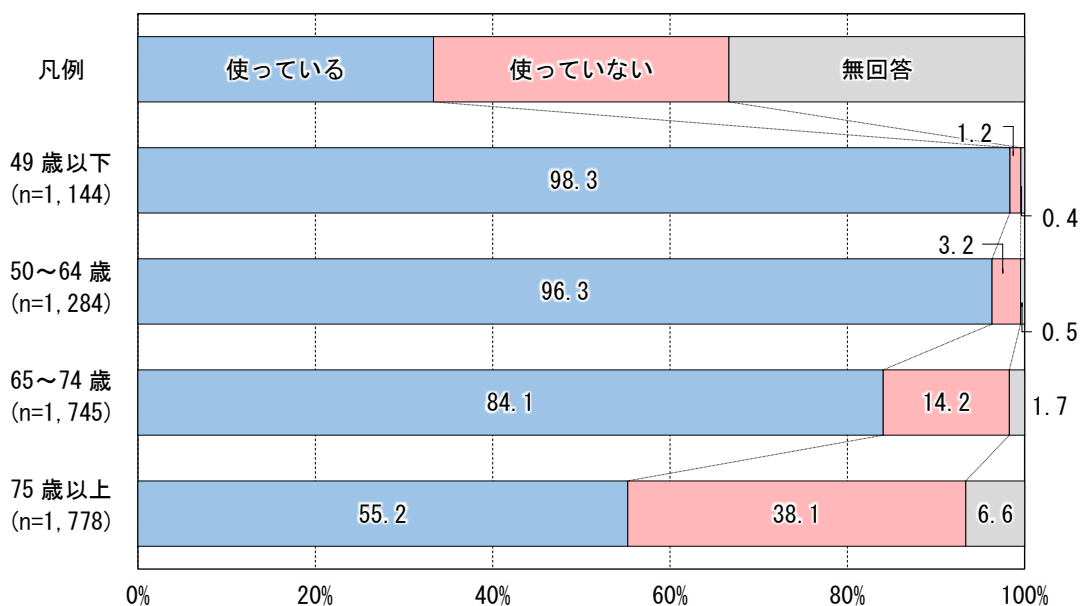


図 携帯電話（スマートフォン）の利用状況（年齢別）



## ② 利用時の手助け

○利用時の手助けについては、94.7%の人が『概ね自分で使える』（「手助けは必要ない」「概ね自分で使えるが一部手助けが必要」の計。以下この間において同じ）と回答している。

○年齢別にみると、75歳以上でも87.1%が『概ね自分で使える』と回答している。

図 携帯電話（スマートフォン）の利用時の手助けの必要性（全体・集落類型別）

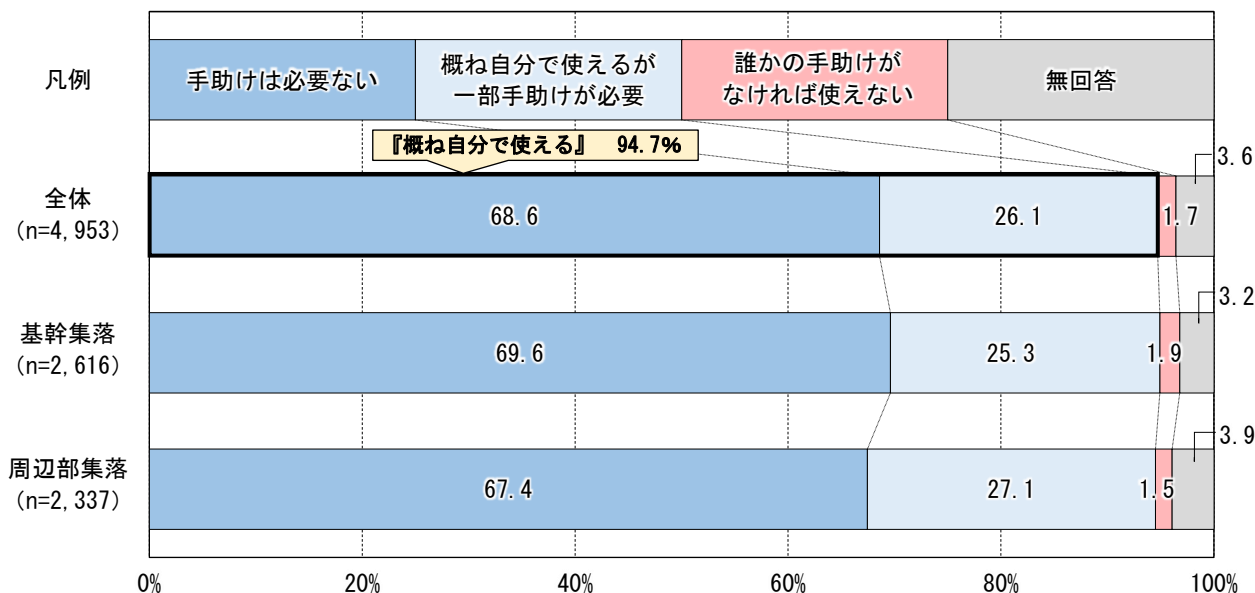
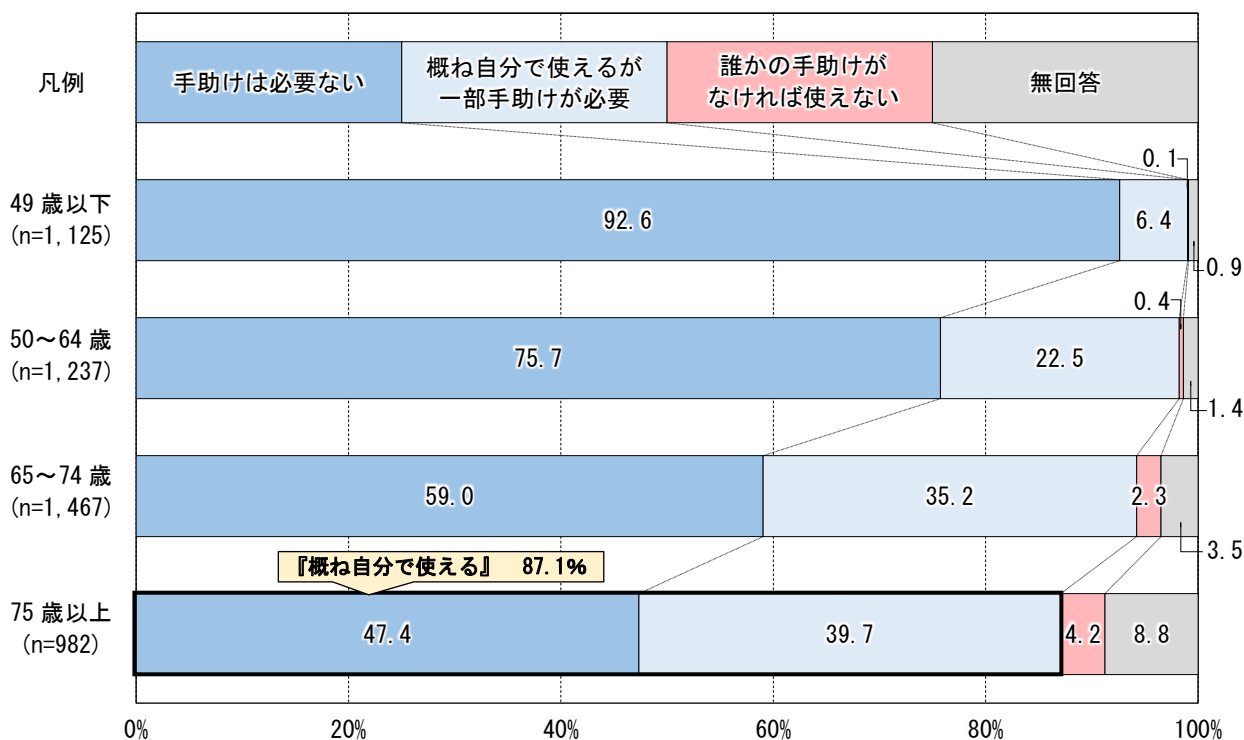


図 携帯電話（スマートフォン）の利用時の手助けの必要性（年齢別）





### ③ 利用内容（複数回答）

○携帯電話の利用内容をみると、92%が「電話」と回答しており、「メールの送受信」「LINE等の無料通信サービス」「インターネットで情報を見る」がそれぞれ70%程度となっている。

○年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて各利用内容を使っている割合が高くなっている。

図 携帯電話（スマートフォン）の利用内容（全体・集落類型別）

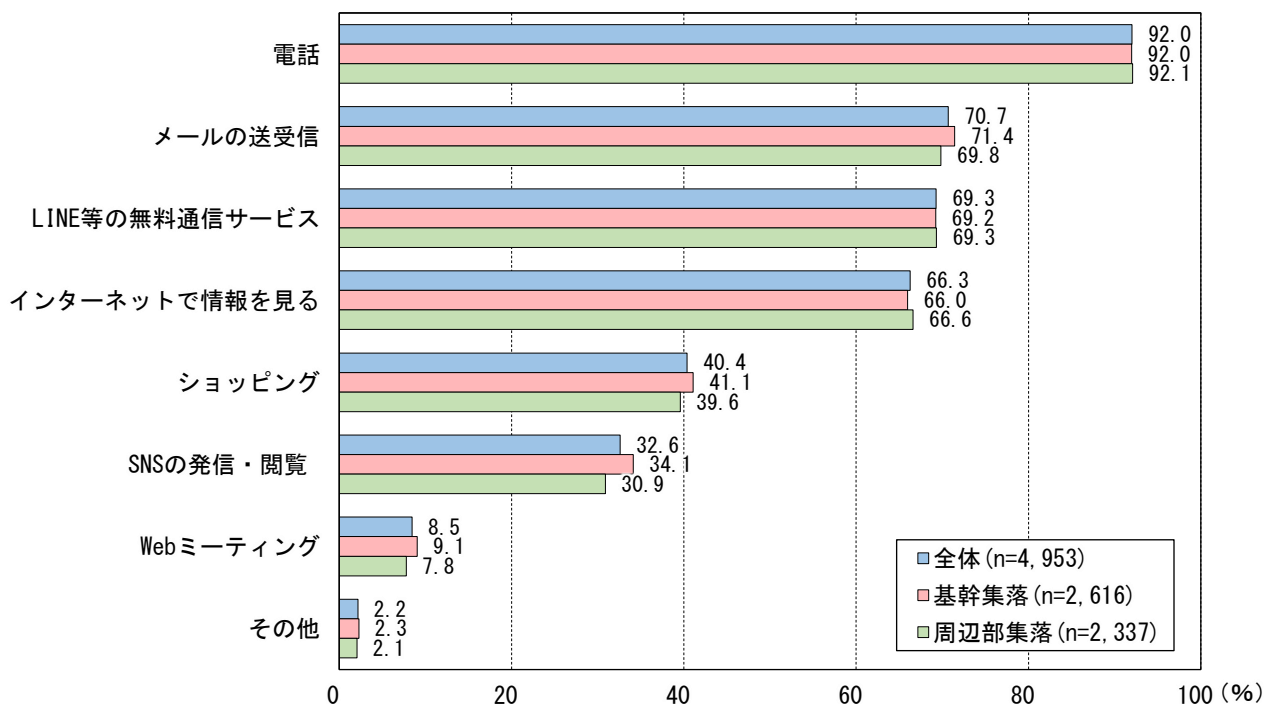
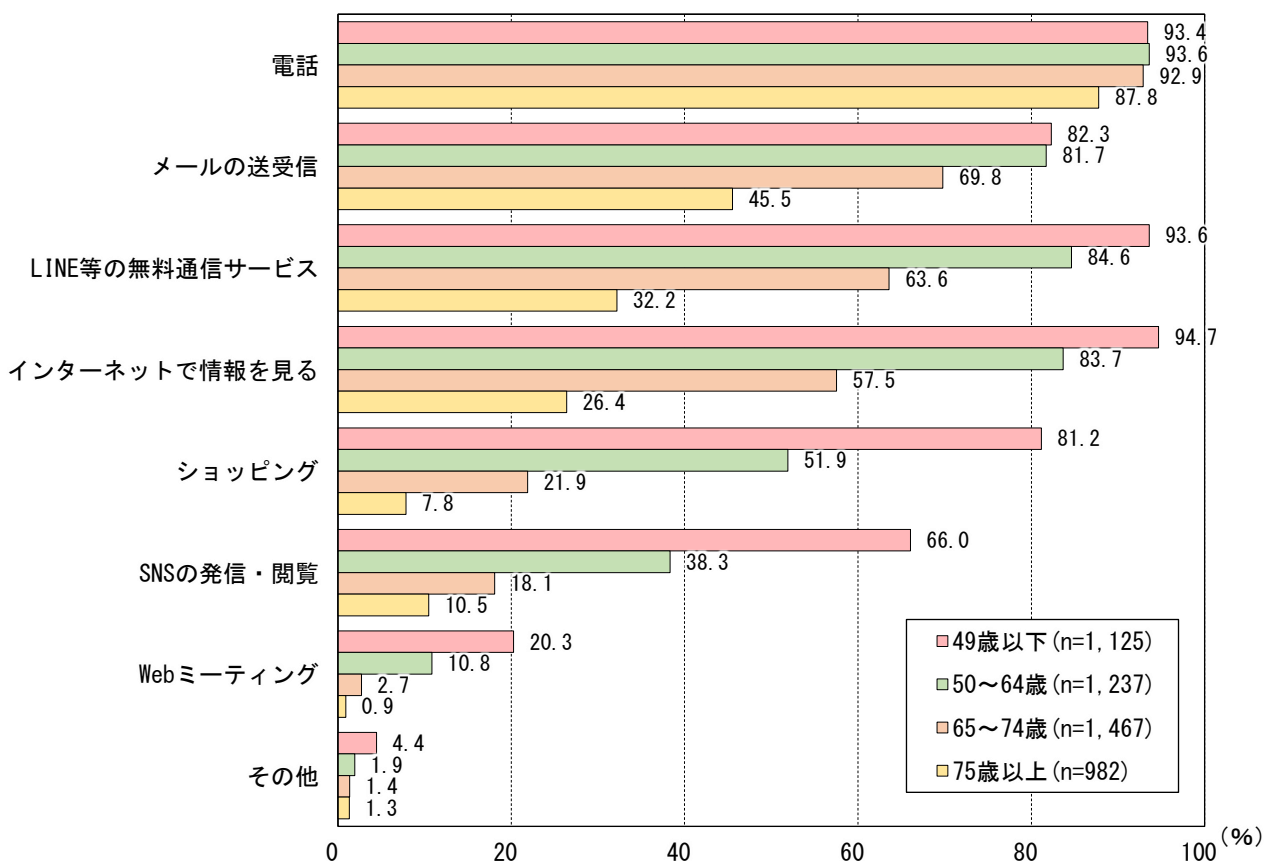


図 携帯電話（スマートフォン）の利用内容（年齢別）



## (2) パソコン・タブレット

### ① 利用の有無

○パソコン・タブレットの利用状況を見ると、43.9%が「使っている」と回答している。

○年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて「使っている」が高くなっており、49歳以下では73.3%が利用している。

図 パソコン・タブレットの利用状況（全体・集落類型別）

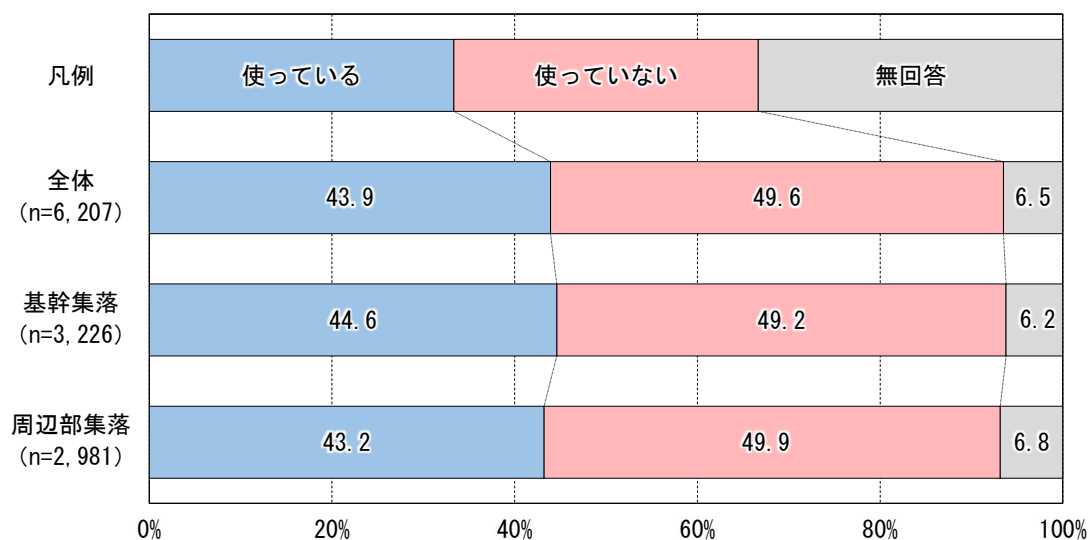
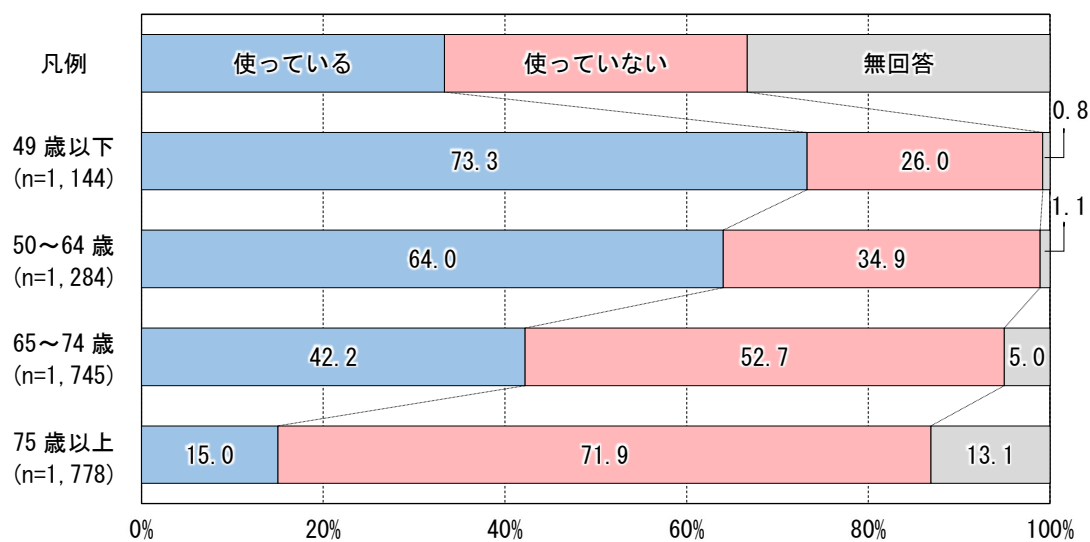


図 パソコン・タブレットの利用状況（年齢別）



## ② 利用時の手助け

○パソコン・タブレットの利用時の手助けについては、97.6%の人が『概ね自分で使える』と回答している。

○年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて「手助けは必要ない」が低くなるものの、75歳以上でも91.4%が『概ね自分で使える』と回答している。

図 パソコン・タブレットの利用時の手助けの必要性（全体・集落類型別）

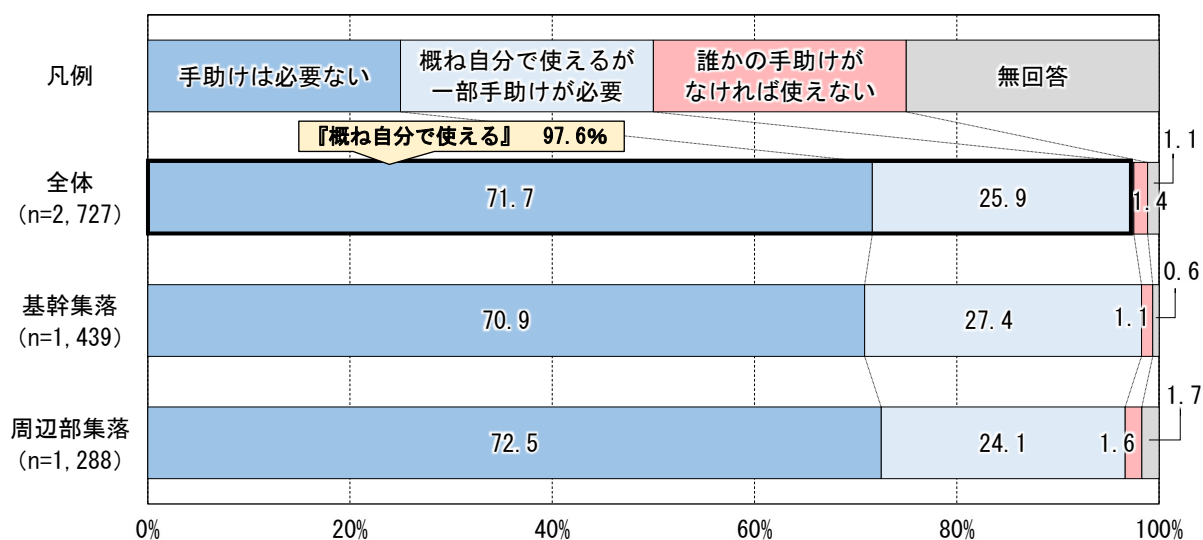
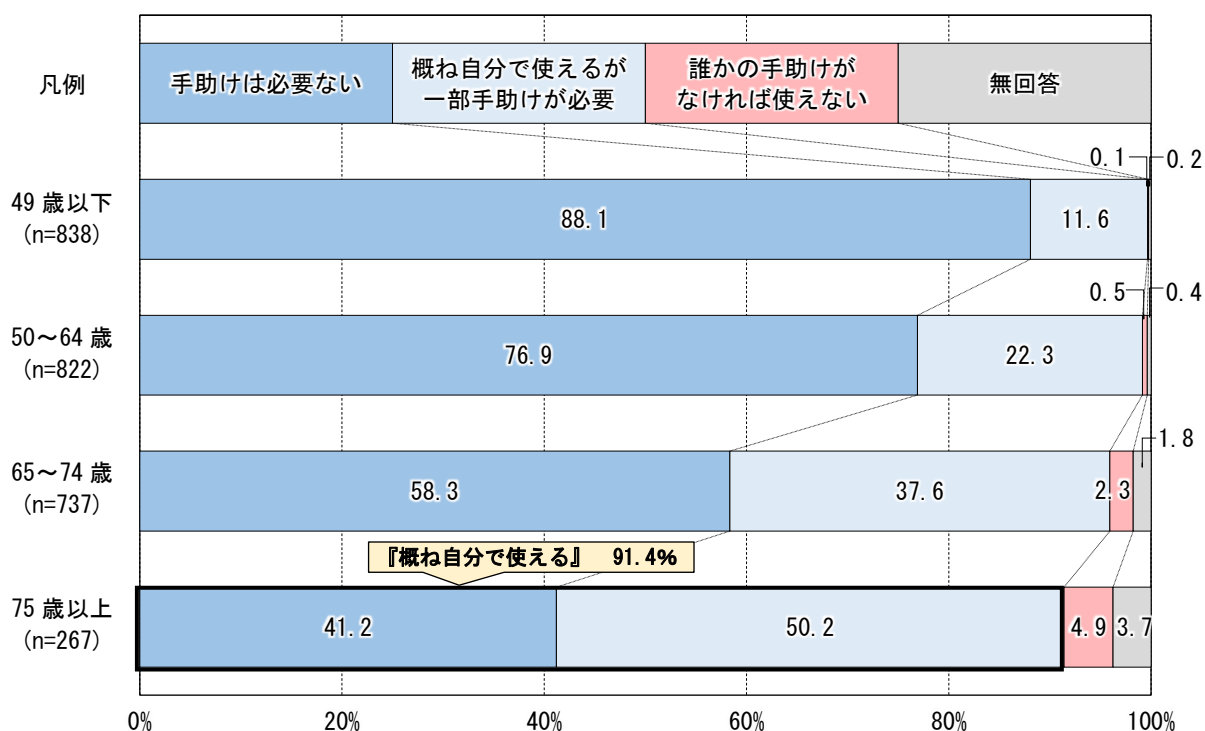


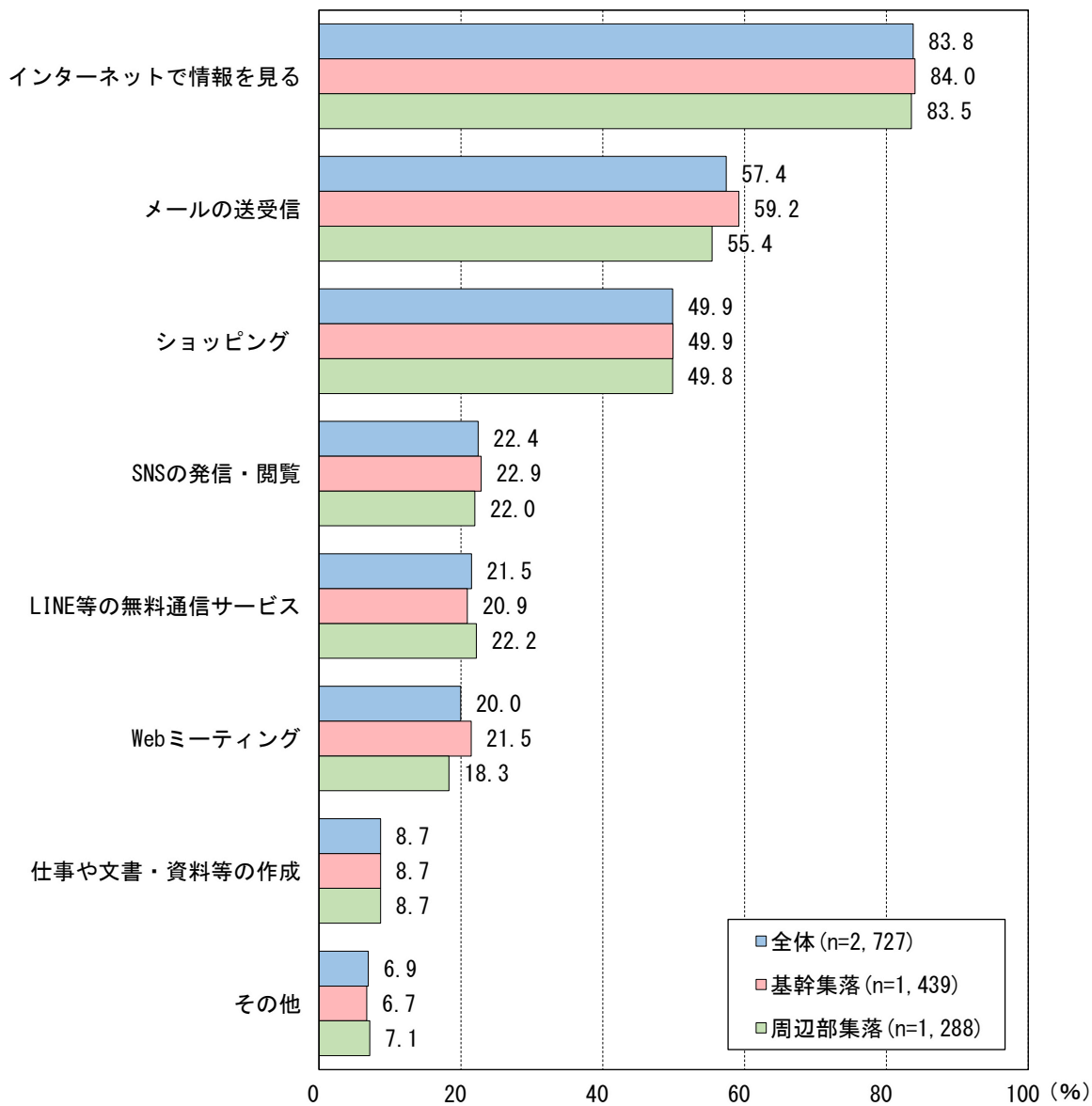
図 パソコン・タブレットの利用時の手助けの必要性（年齢別）



### ③ 利用内容（複数回答）

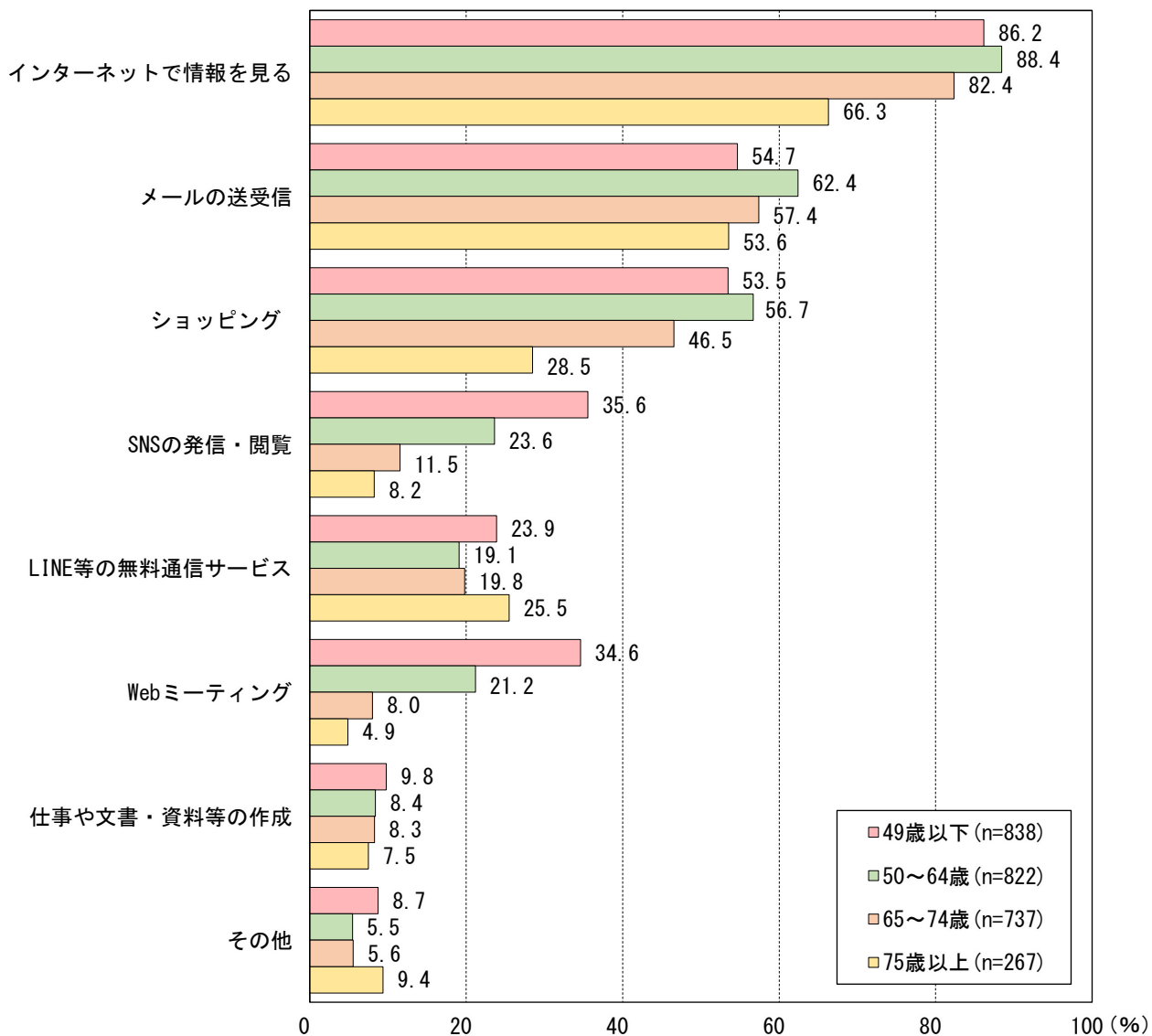
○パソコン・タブレットの利用内容をみると、「インターネットで情報を見る」が83.8%と最も高く、次いで「メールの送受信」が57.4%、「ショッピング」が49.9%となっている。

図 パソコン・タブレットの利用内容（全体・集落類型別）



○年齢別にみると、49歳以下で「SNSの発信・閲覧」「Webミーティング」が高くなっている。

図 パソコン・タブレットの利用内容（年齢別）



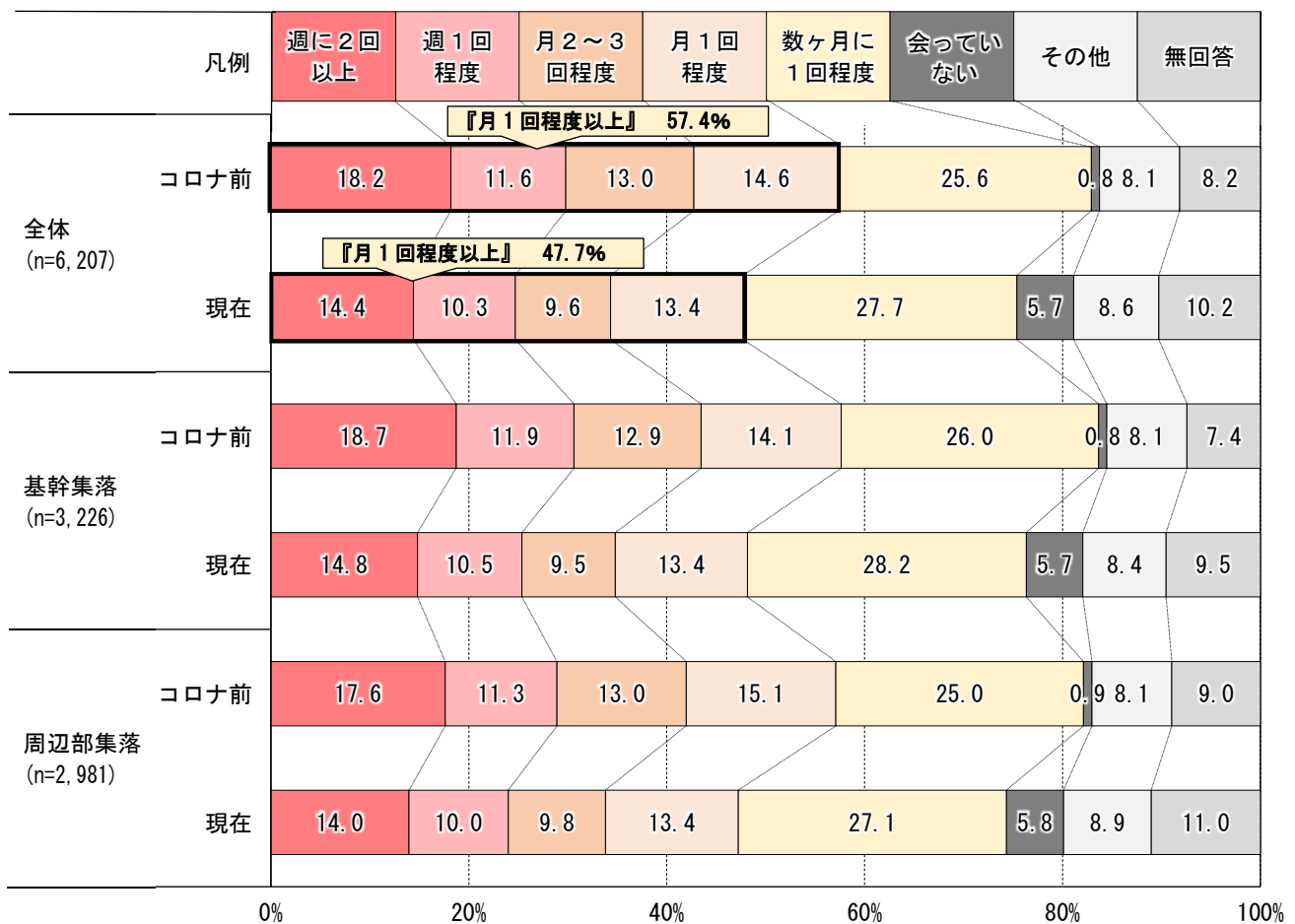
## 5. 別居の家族等との付き合いについて

問 18 あなたと別居の家族・親族、および近所の方が、日常的に会う頻度はどの程度ですか。最も親しい方との関係を想像してお答えください。

### (1) 別居の家族・親族

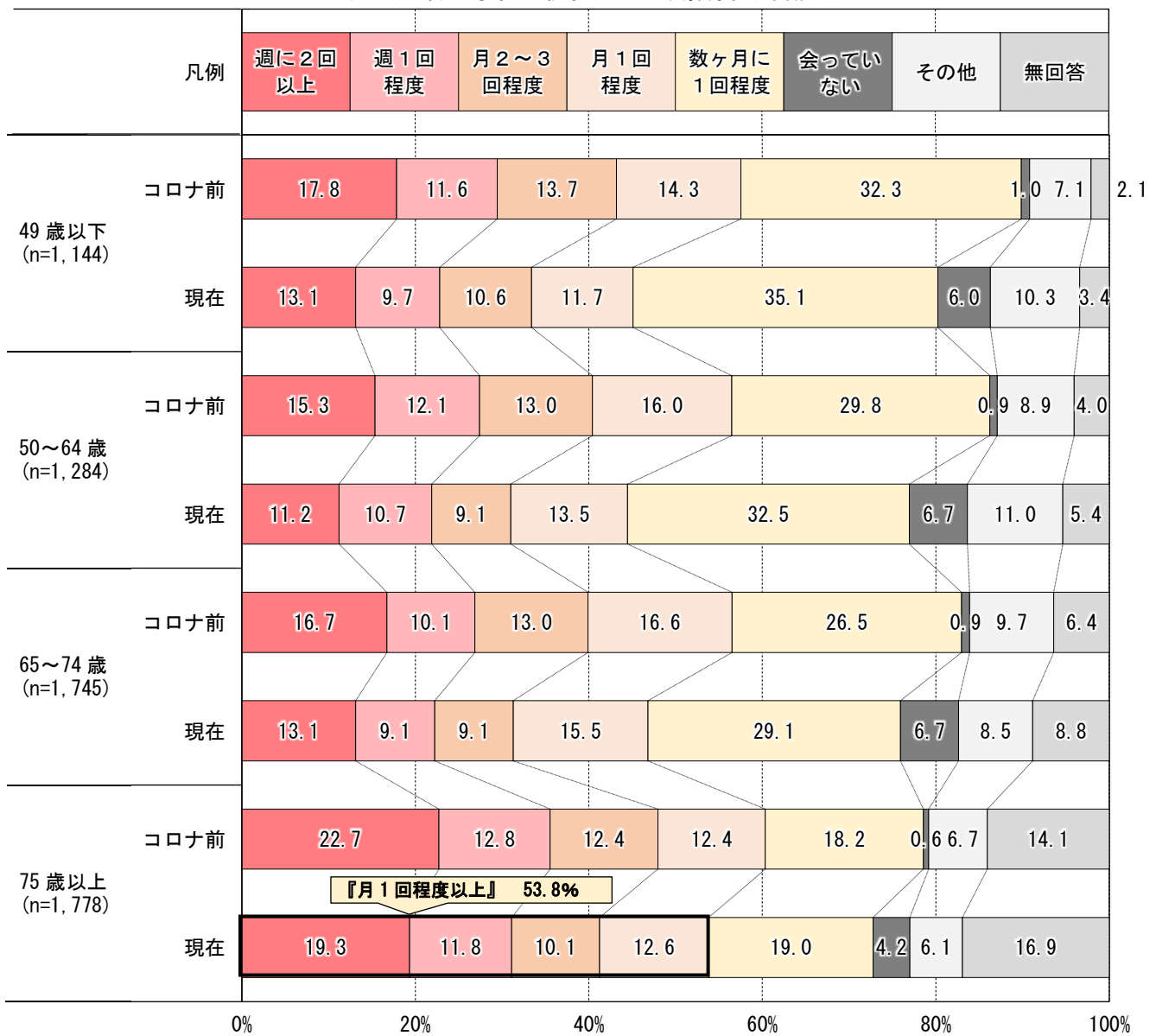
○最も親しい別居の家族・親族との日常的な交流頻度をみると、コロナ前（令和2年4月以前）では『月1回程度以上』（「週に2回以上」「週1回程度」「月2～3回程度」「月1回程度」の計。以下この間において同じ）交流していた人は57.4%であったが、現在は47.7%と低下している。

図 別居の家族・親族との交流頻度（全体・集落類型別）



○年齢別にみると、現在『月1回程度以上』の交流をしている人は、75歳以上で高く、53.8%と半数を超えている。

図 別居の家族・親族との交流頻度（年齢別）



## (2) 近所の方

○最も親しい近所の方との日常的な交流頻度をみると、コロナ前（令和2年4月以前）では『週1回程度以上』（「週に2回以上」「週1回程度」の計。以下この間において同じ）交流していた人は60%であったが、現在は52.2%と低下している。

○年齢別にみると、65～74歳では、現在『週1回程度以上』交流している人が61.5%と高くなっている。

図 近所の方との交流頻度（全体・集落類型別）

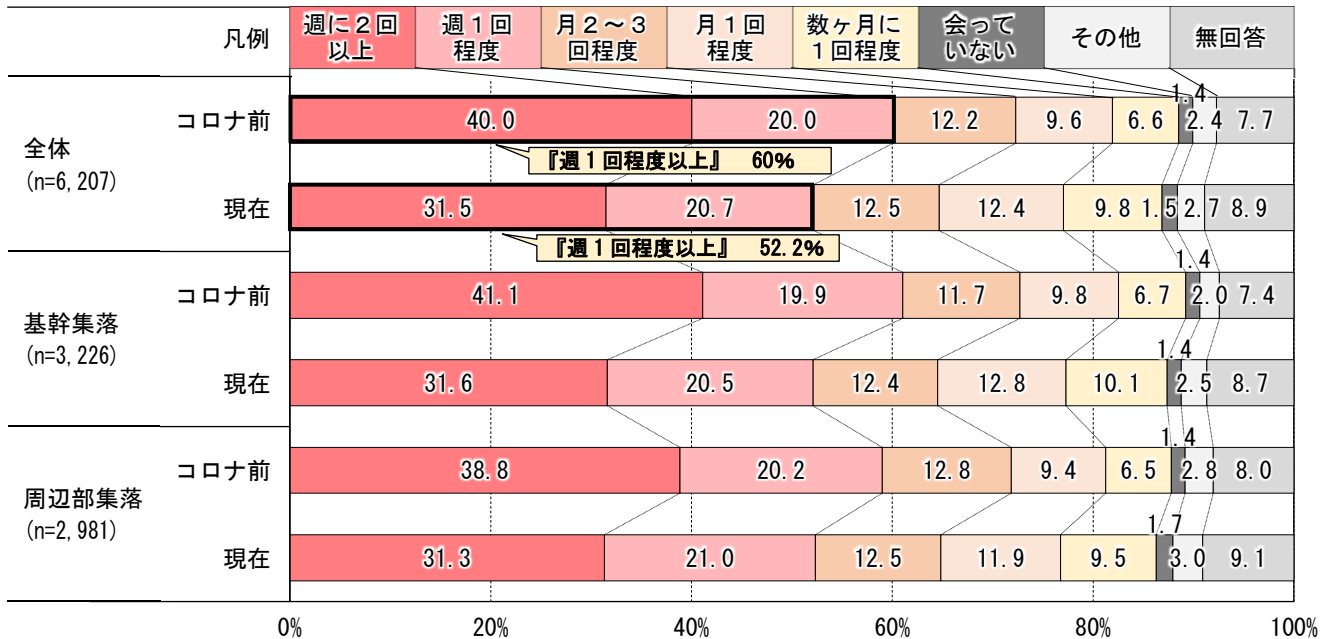
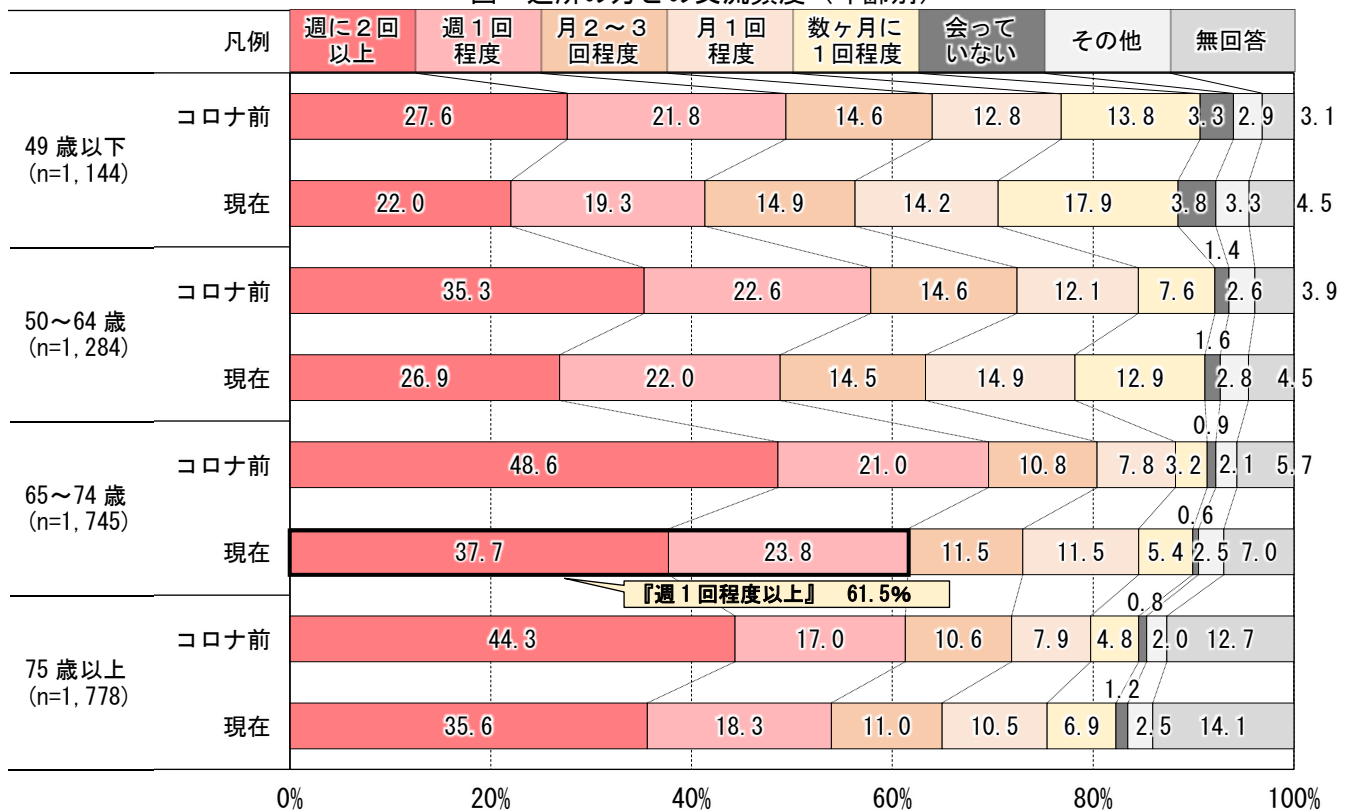


図 近所の方との交流頻度（年齢別）



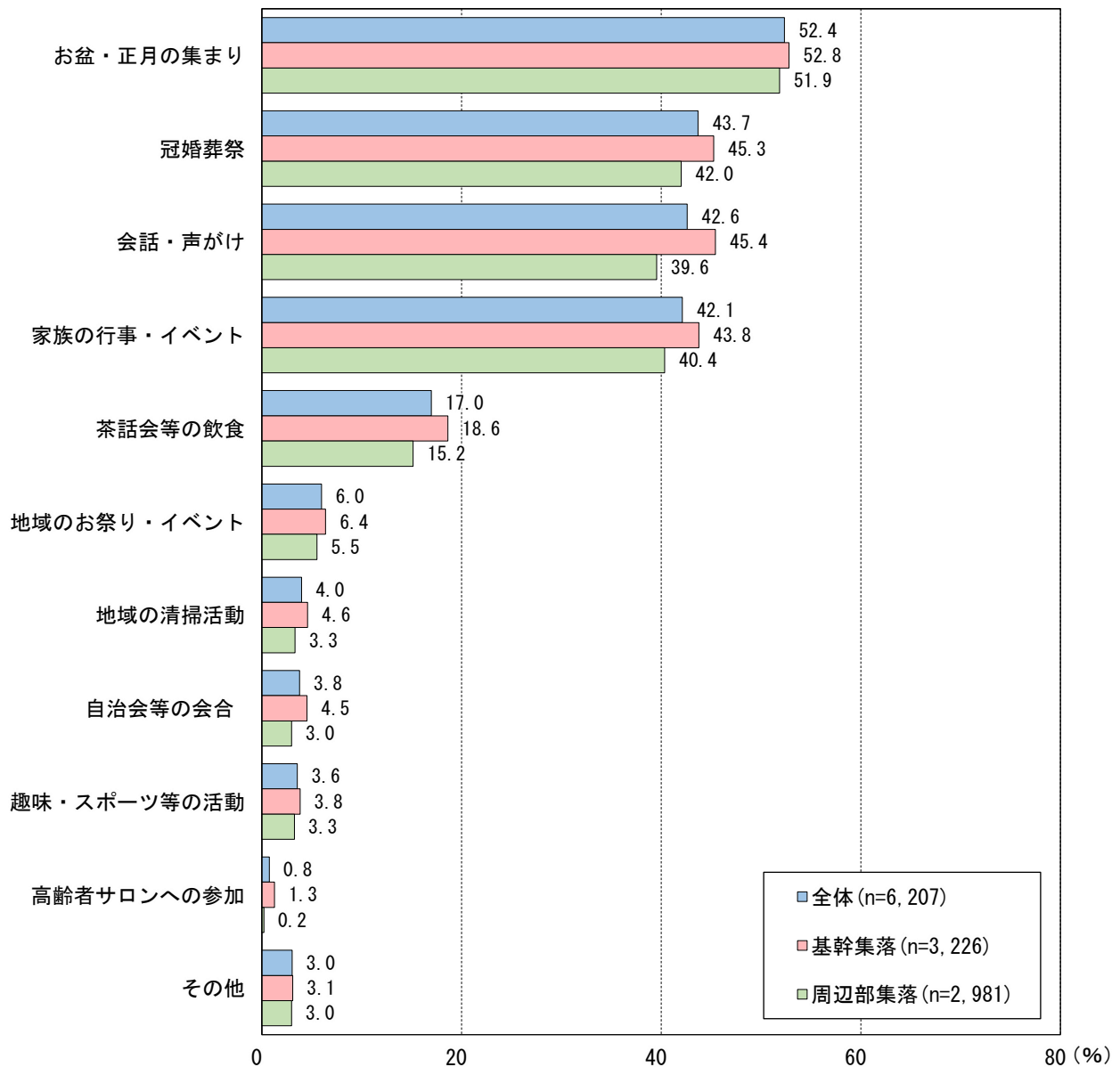


問 19 あなたと別居の家族・親族、および近所の方との、日常的な付き合いの内容はどのようなものがありますか。最も親しい方との関係を想像して、それぞれに該当する選択肢番号をすべてご記入ください。(複数回答)

(1) 別居の家族・親族

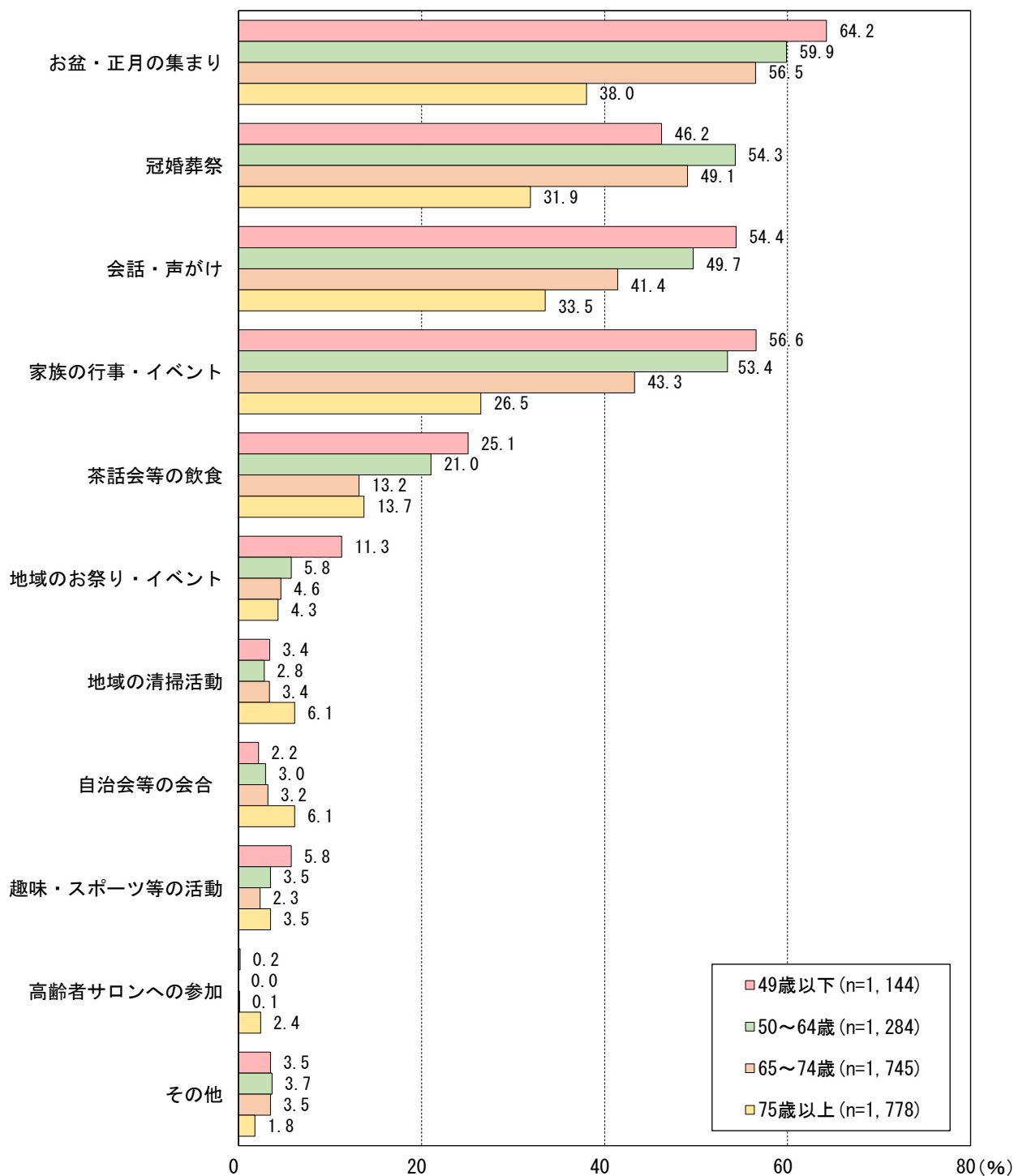
○最も親しい別居の家族・親族との付き合いの内容をみると、「お盆・正月の集まり」が52.4%と最も高くなっており、次いで「冠婚葬祭」が43.7%、「会話・声がけ」が42.6%、「家族の行事・イベント」が42.1%となっている。

図 別居の家族・親族との付き合いの内容 (全体・集落類型別)



○年齢別にみると、「お盆・正月の集まり」「会話・声かけ」「家族の行事・イベント」は、年齢層が下がるにつれて回答割合が高くなっている。

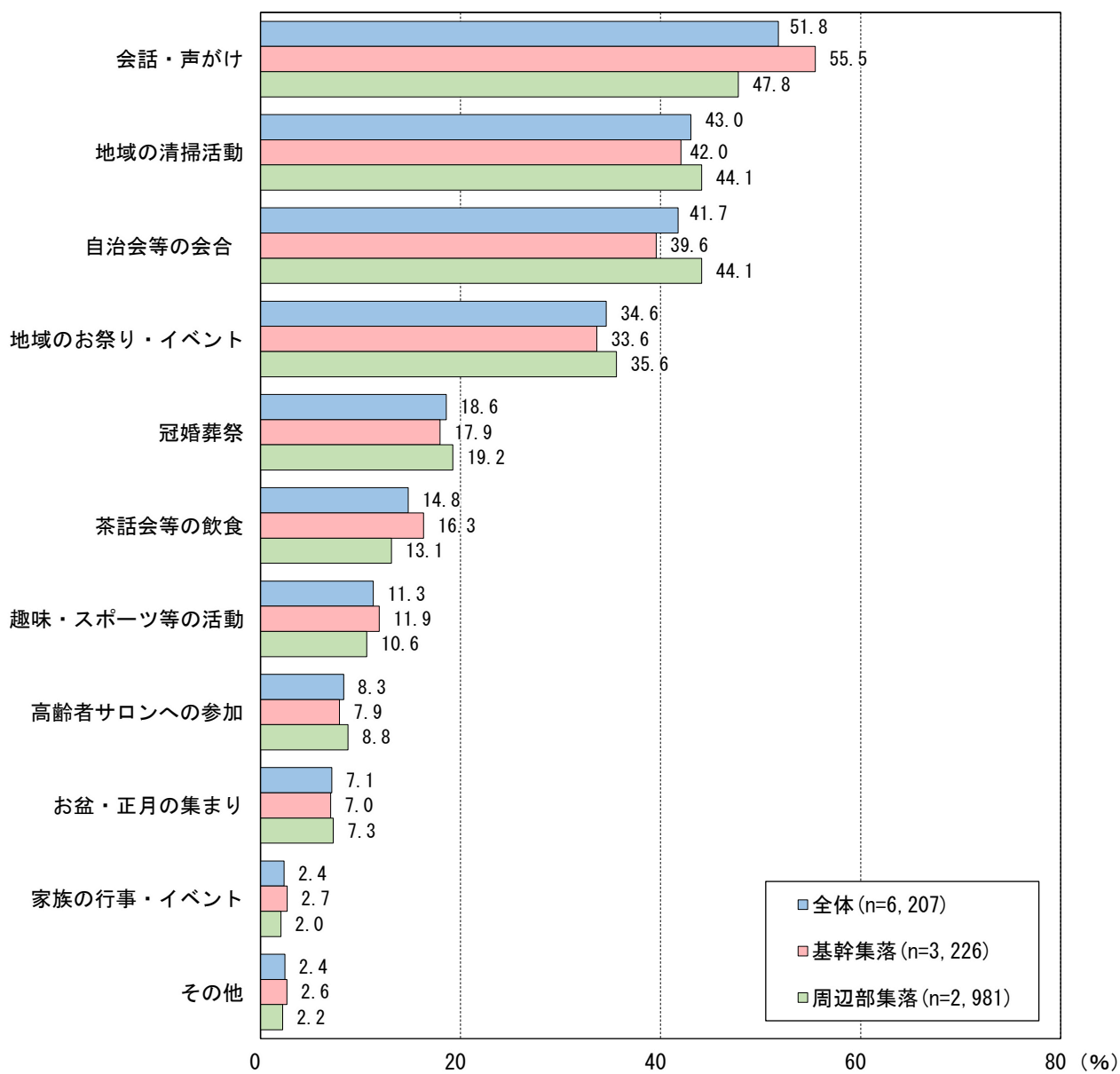
図 別居の家族・親族との付き合いの内容（年齢別）



## (2) 近所の方

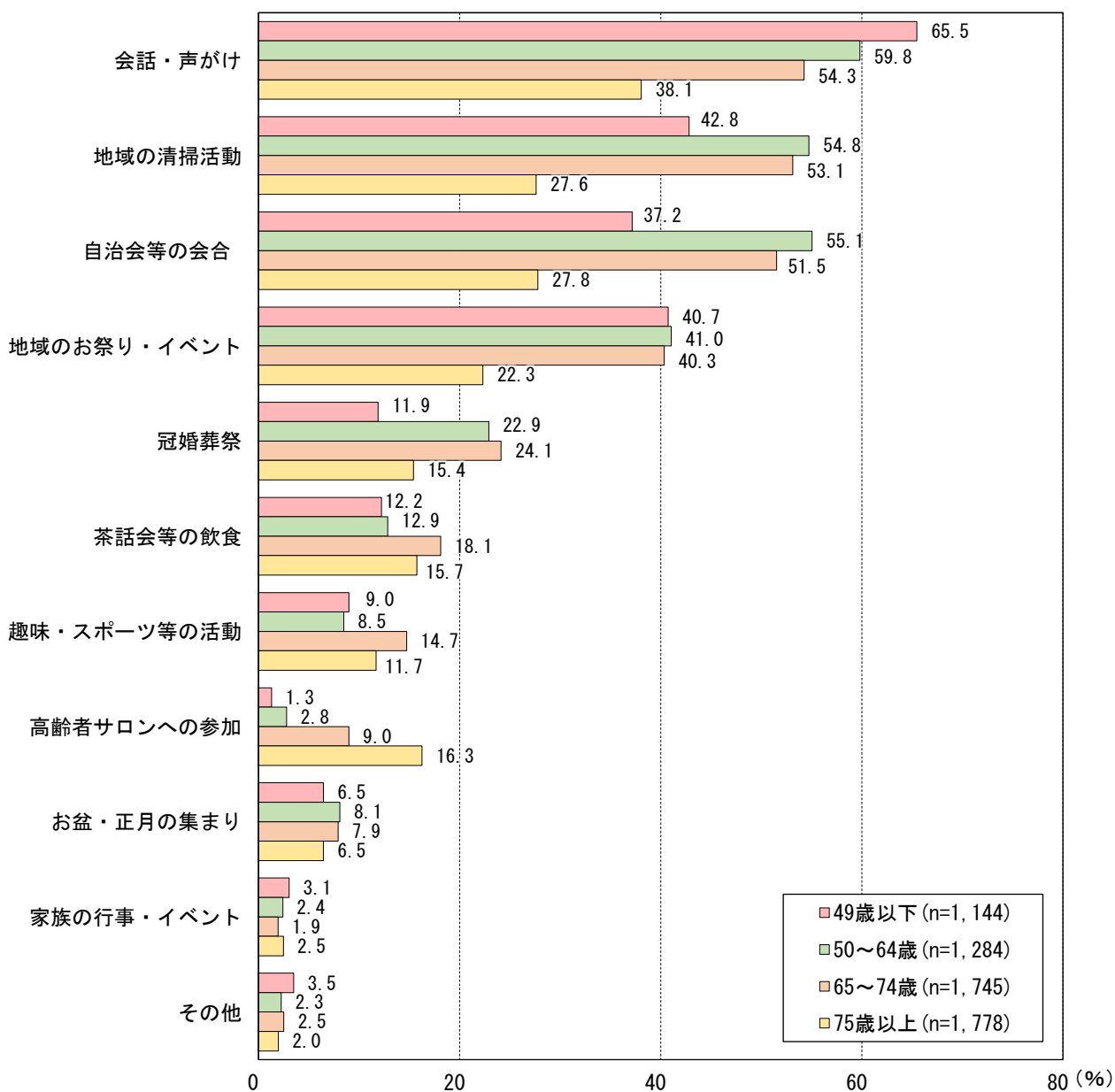
○最も親しい近所の方との付き合いの内容をみると、「会話・声かけ」が51.8%と最も高くなっており、次いで「地域の清掃活動」が43%、「自治会等の会合」が41.7%、「地域のお祭り・イベント」が34.6%となっている。

図 近所の方との付き合いの内容（全体・集落類型別）



○年齢別にみると、年齢層が下がるにつれて「会話・声かけ」が高くなっている。また、50～64歳と65～74歳で「地域の清掃活動」や「自治会等の会合」が高くなっている。

図 近所の方との付き合いの内容（年齢別）



## 6. 生活を手助けしてくれる家族・親族の状況について

問 20 あなたには、日常的に会う機会のある別居の家族・親族のうち、車で 60 分以内で行き来できる距離に住んでいる方は何人いますか。

○日常的に会う機会のある別居の家族・親族で、車で 60 分以内で行き来できる方の人数は、「2-3人」が 24.6%と最も高く、次いで「4-5人」が 18%、「6-9人」が 12.9%となっている。

図 車で 60 分以内で行き来できる距離に住する別居の家族・親族の人数（全体・集落類型別）

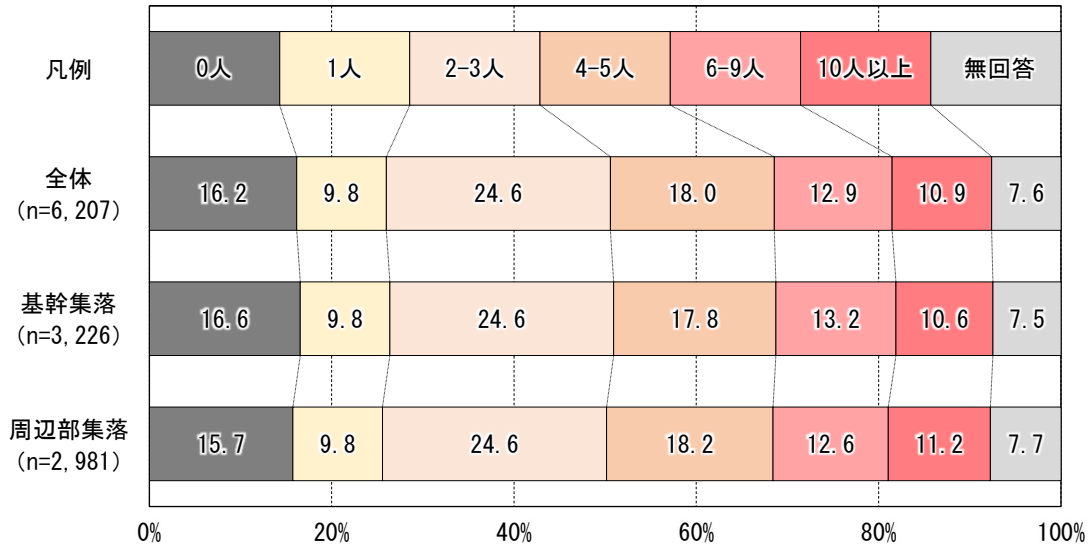
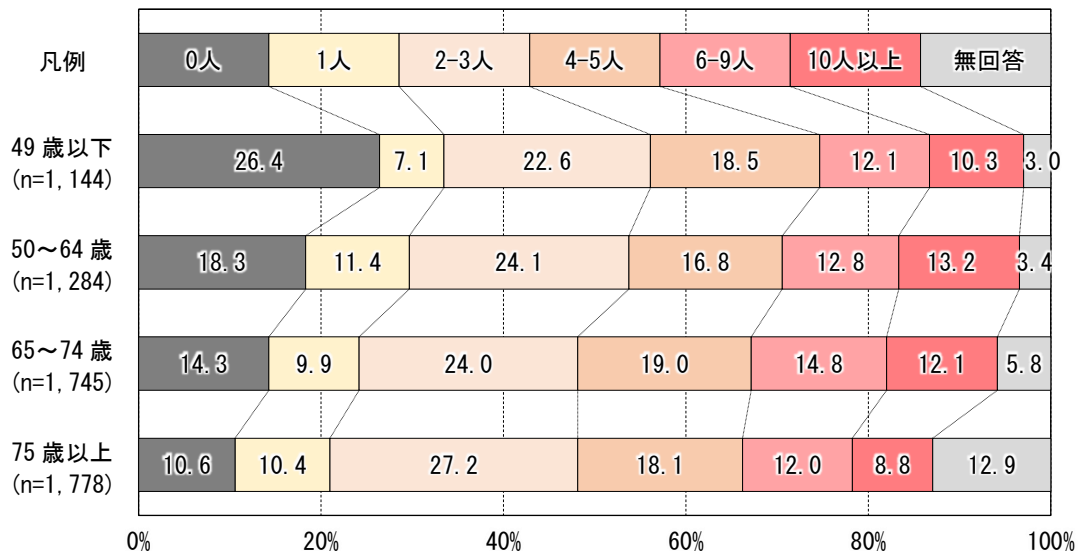


図 車で 60 分以内で行き来できる距離に住する別居の家族・親族の人数（年齢別）



問 21① あなたには、別居の家族・親族で生活を手助けしてくれる人はいますか。

○別居の家族・親族で生活を手助けしてくれる人について、「いる」は39.4%、「いない」は17.3%となっている。

○「手助けを必要としていない」は37.6%となっている。

○年齢別にみると、75歳以上では、手助けをしてくれる人が「いる」が最も高く57.5%となっており、一方で「手助けを必要としていない」は最も低く18%となっている。

図 手助けしてくれる別居の家族・親族の有無（全体・集落類型別）

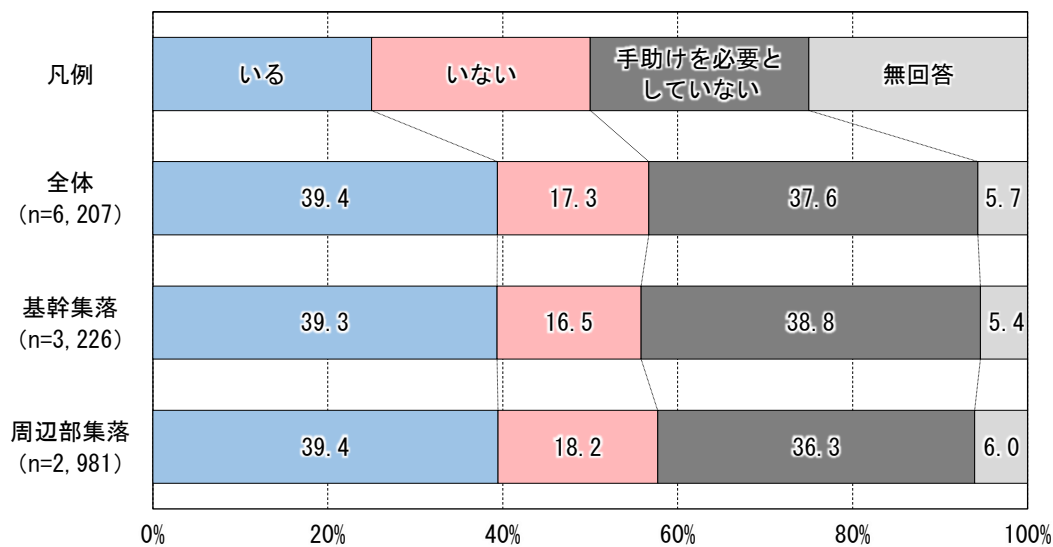
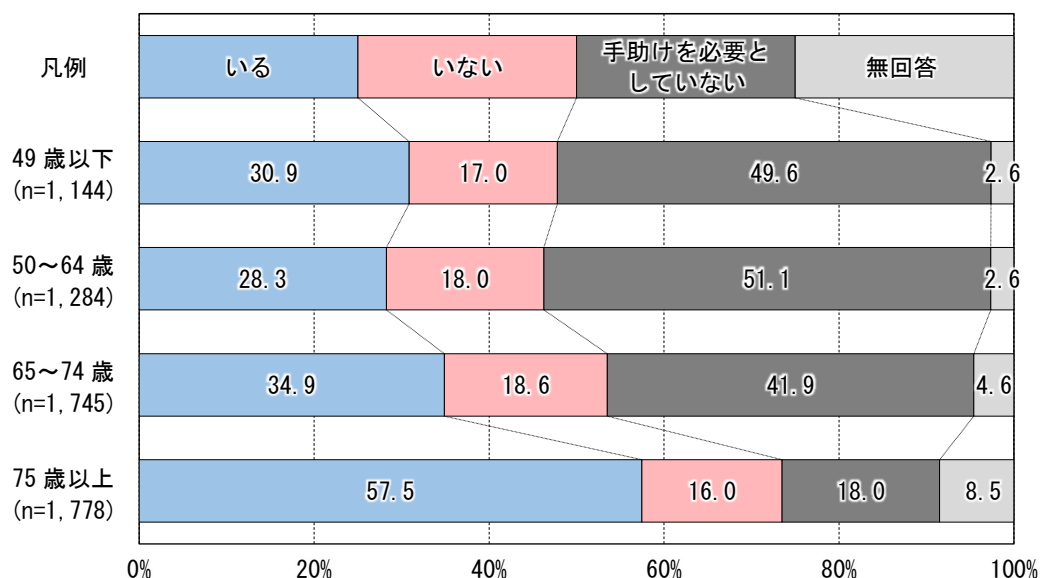


図 手助けしてくれる別居の家族・親族の有無（年齢別）



問 21② 問 21①で「いる」と回答した方にお聞きします。  
手助けをしてくれる人数を記入してください

○手助けしてくれる別居の家族・親族の人数については、「2人」が29.3%と最も高く、次いで「1人」が20.1%、「3人」が15.7%、「4～5人」が15.6%となっている。

図 手助けしてくれる別居の家族・親族の人数（全体・集落類型別）

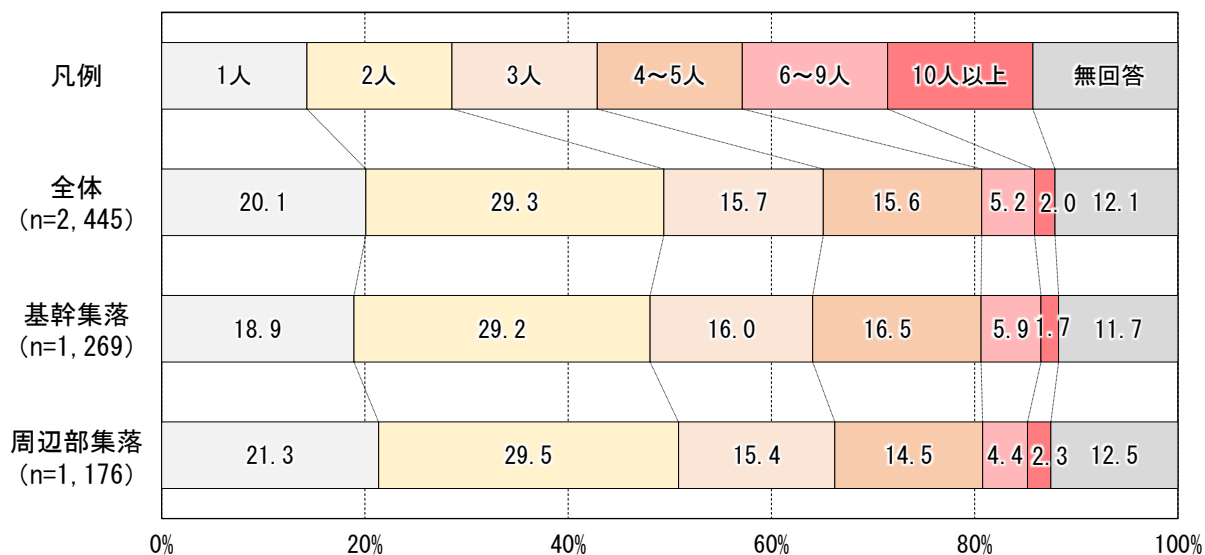
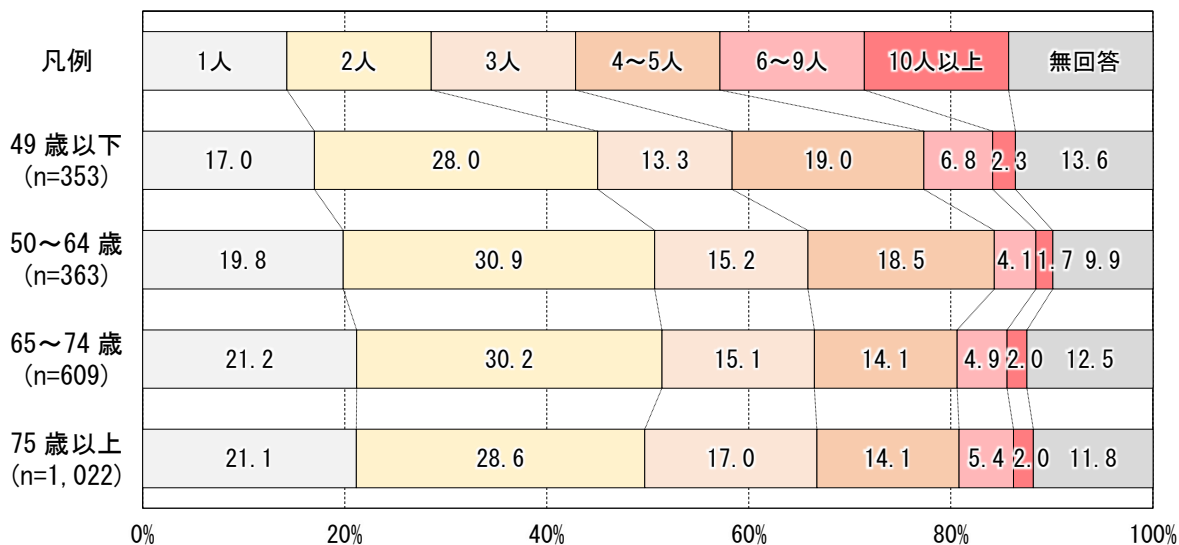


図 手助けしてくれる別居の家族・親族の人数（年齢別）



問 22

問 21①で「いる」と回答した方にお聞きします。  
あなたが手助けしてもらおう理由を教えてください。(複数回答)

- 手助けをしてもらう理由をみると、「健康に不安がある」が最も高く 28.1%、次いで「人手が足りない」が 26%、「体力に不安がある」が 25.6%となっている。
- 年齢別にみると、「健康に不安がある」「体力に不安がある」「自動車の運転ができない」は、年齢層が上がるにつれて高くなっており、75 歳以上では概ね 35%以上と高くなっている。また、「人手が足りない」については、50～64 歳で 36.1%と高くなっている。

図 別居の家族・親族から手助けしてもらおう理由 (全体・集落類型別)

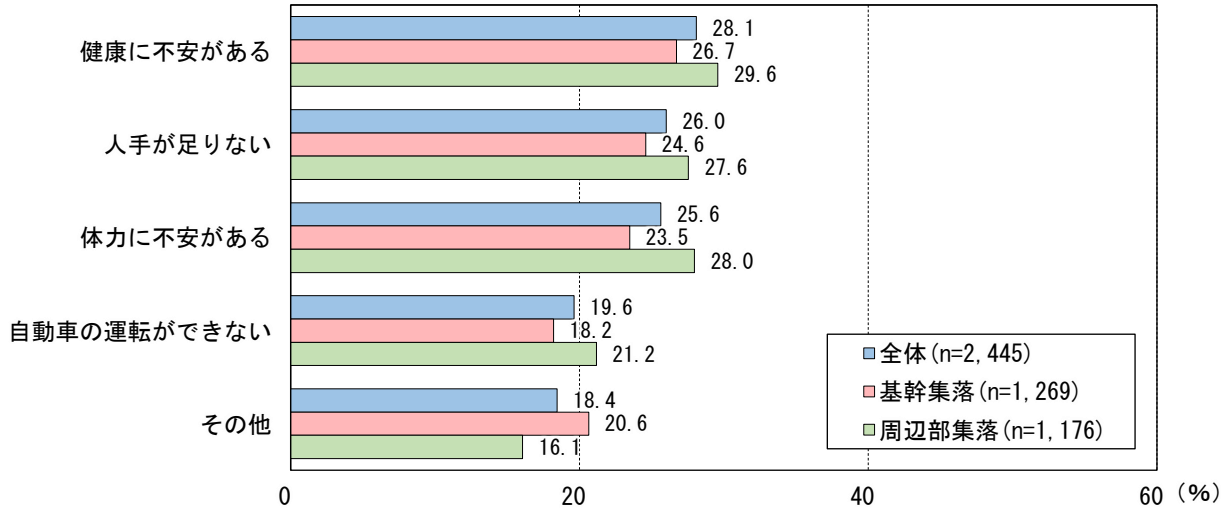
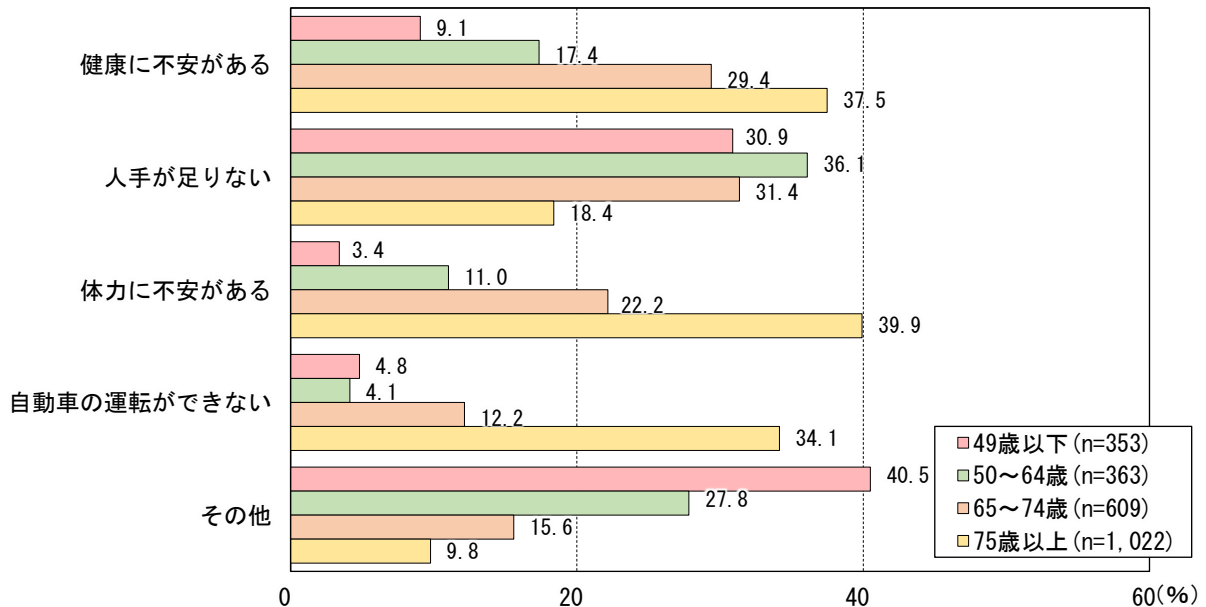


図 別居の家族・親族から手助けしてもらおう理由 (年齢別)



【その他 (n=451) の回答のうち記載の多かったもの】

子育ての手伝い	56 件	介護・介助・看護	42 件
様々な家事の手伝い	30 件	何かあったとき (緊急時等)	24 件
農業・草刈り	22 件	経済的な支援	14 件
仕事が忙しい時の生活支援	14 件	悩みごとの相談	14 件
買い物の手伝い	12 件	食料・食材の提供	10 件
			など



問 23 問 21①で「1. いる」と回答した方にお聞きします。  
最も手助けしてもらっている方2人について、以下の項目を教えてください。

※問 23 は最も手助けしてもらっている方（最大2人）について質問しており、手助けしてくれる人として回答のあった人数を集計している。

### （1）最も手助けしてくれる人の続柄

○手助けしてくれる人の続柄をみると、「子」が47.6%で最も高く、次いで「きょうだい」が24%、「親」が12.3%となっている。

○年齢別にみると、49歳以下では「親」が61.4%と高くなっている。一方で、50歳以上では「子」が最も高く、75歳以上では63.3%となっている。

図 手助けしてくれる人の続柄（全体・集落類型別）

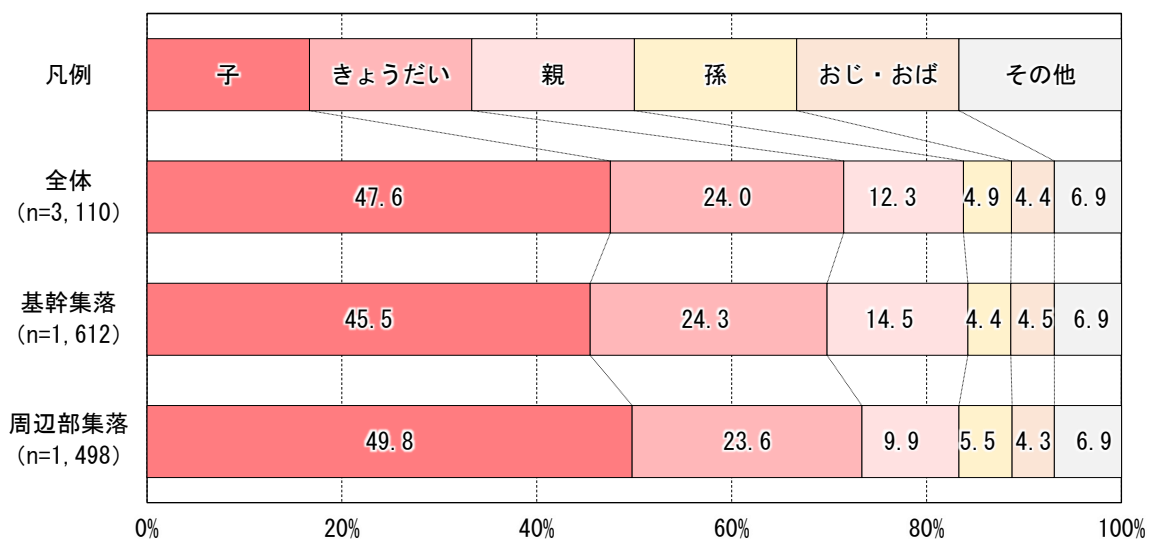
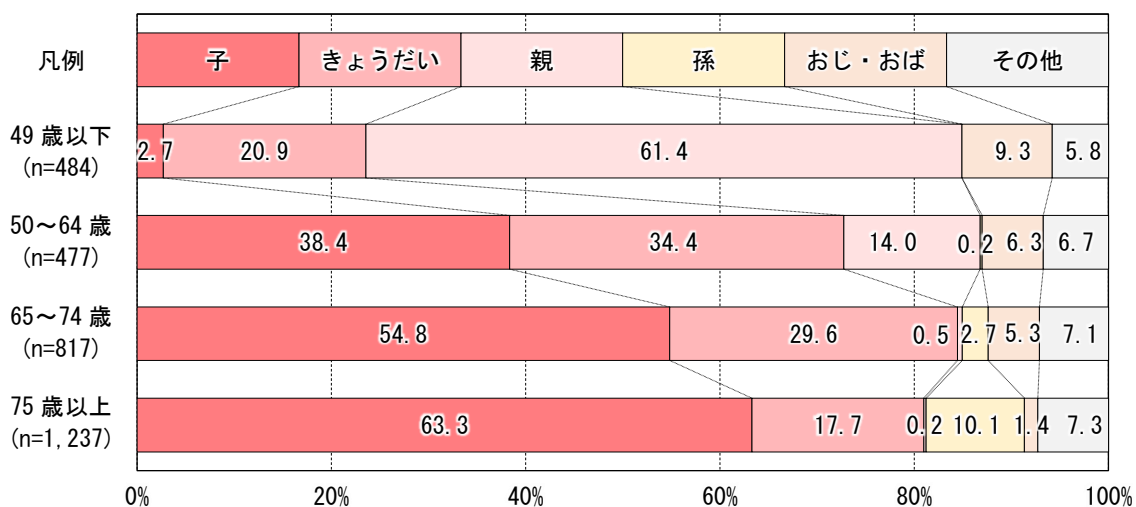


図 手助けしてくれる人の続柄（年齢別）



## (2) 最も手助けしてくれる人の居住地からの時間

- 最も手助けしてくれる人の57.0%は「車で30分以内」の地域に、81.4%は『車で60分以内』（「車で30分以内」「車で30～60分」の計。以下この間において同じ）の地域に居住している。
- 集落類型別でみると、周辺部集落と比べて基幹集落で「車で30分以内」に住んでいる割合が高くなっている。

図 手助けしてくれる人の居住地からの時間（全体・集落類型別）

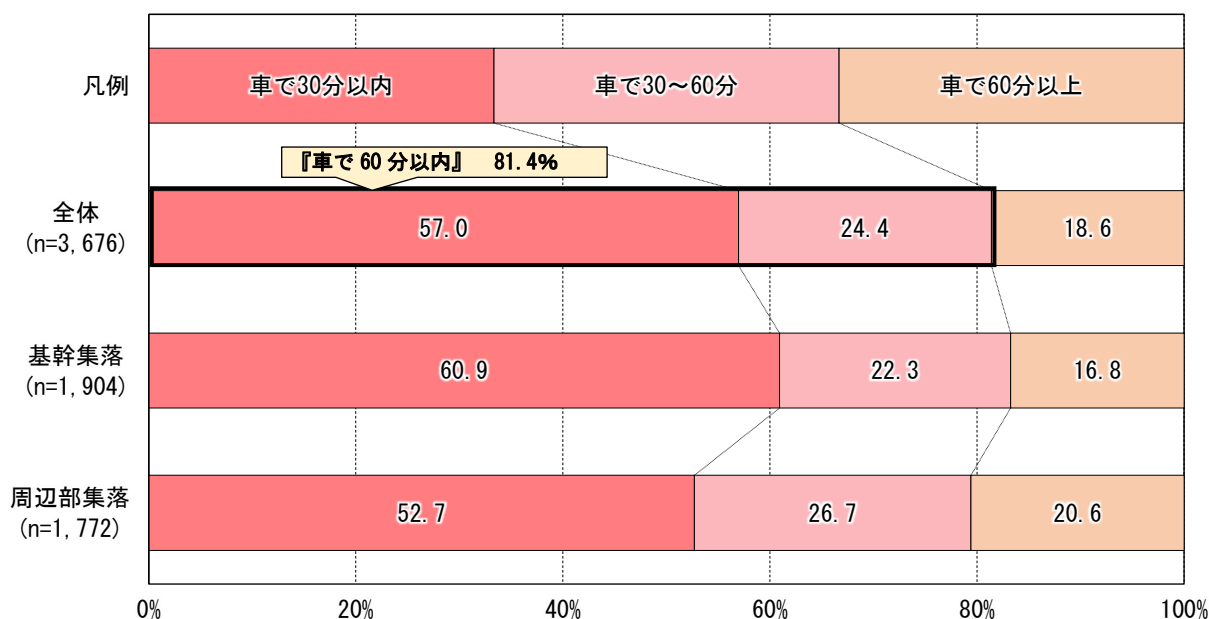
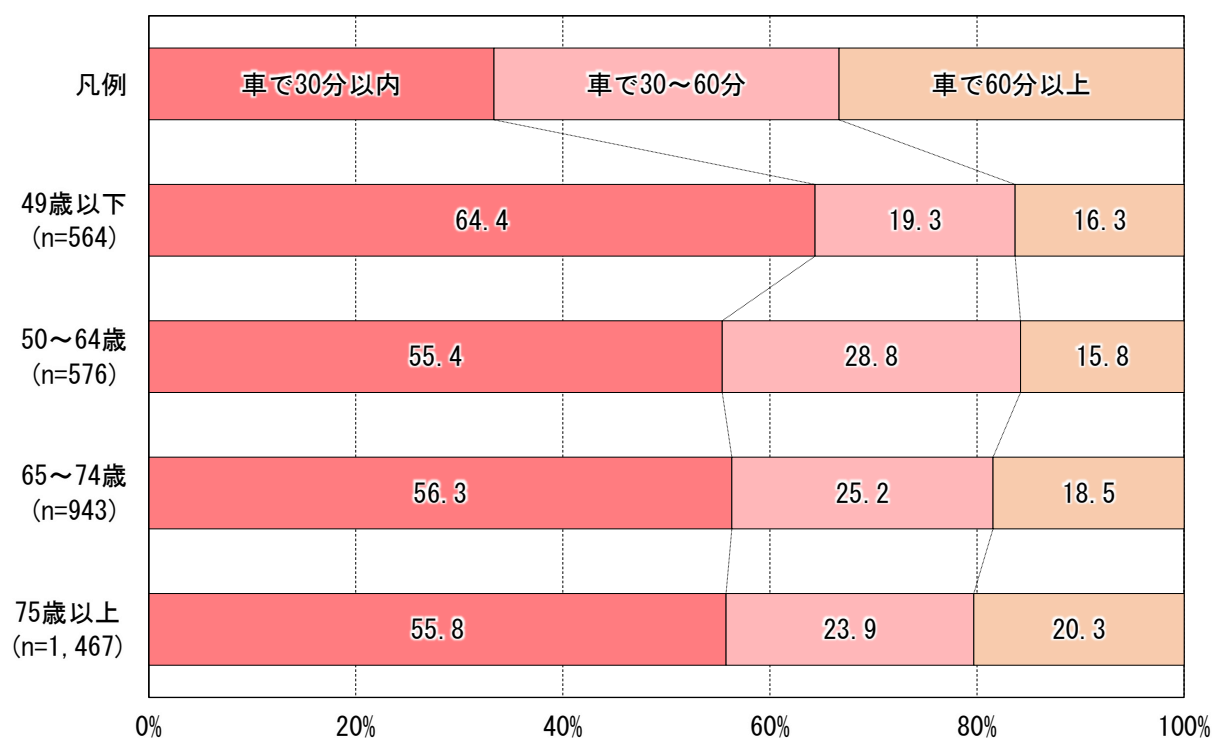


図 手助けしてくれる人の居住地からの時間（年齢別）



### (3) 最も手助けしてくれる人をお願いする頻度

○別居の家族・親族に『週1回程度以上』（「週に2回以上」「週1回程度」の計。以下この間において同じ）の手助けをお願いする人は28.2%となっており、『月1回程度以上』（「週に2回以上」「週1回程度」「月2～3回程度」「月1回程度」の計。以下この間において同じ）では60.6%となっている。

○一方で、「年数回程度」は39.4%と最も高くなっている。

○年齢別にみると、49歳以下で『週1回程度以上』が37.9%と高くなっている。

図 別居の家族・親族による手助けの頻度（全体・集落類型別）

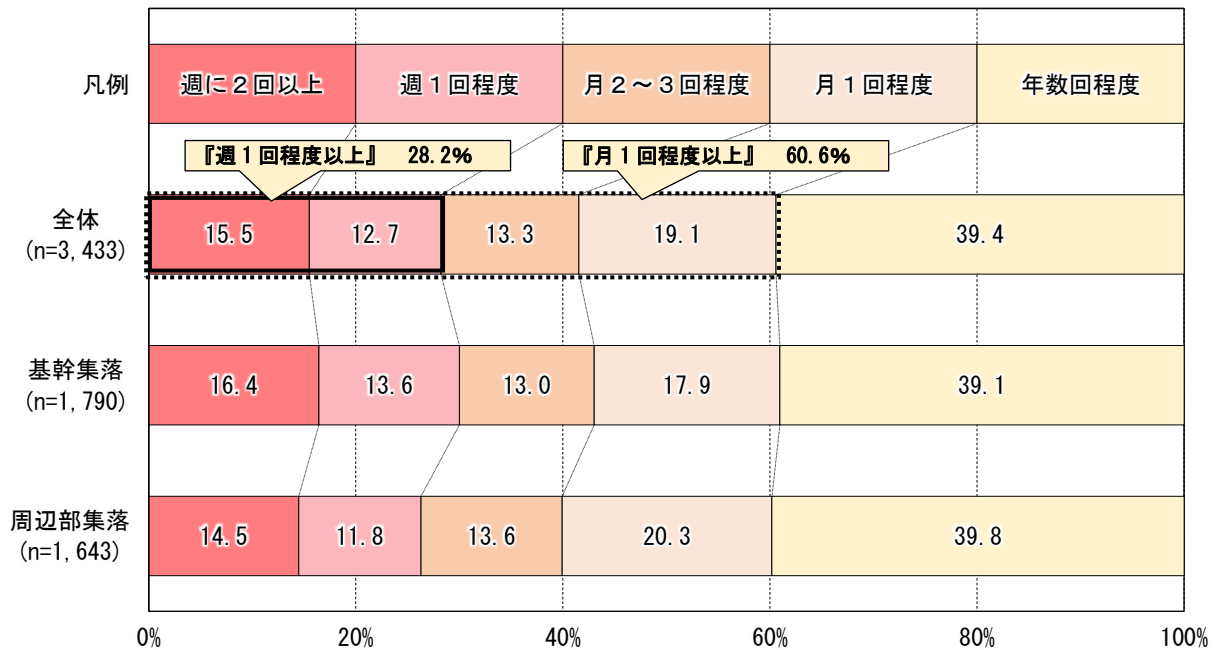
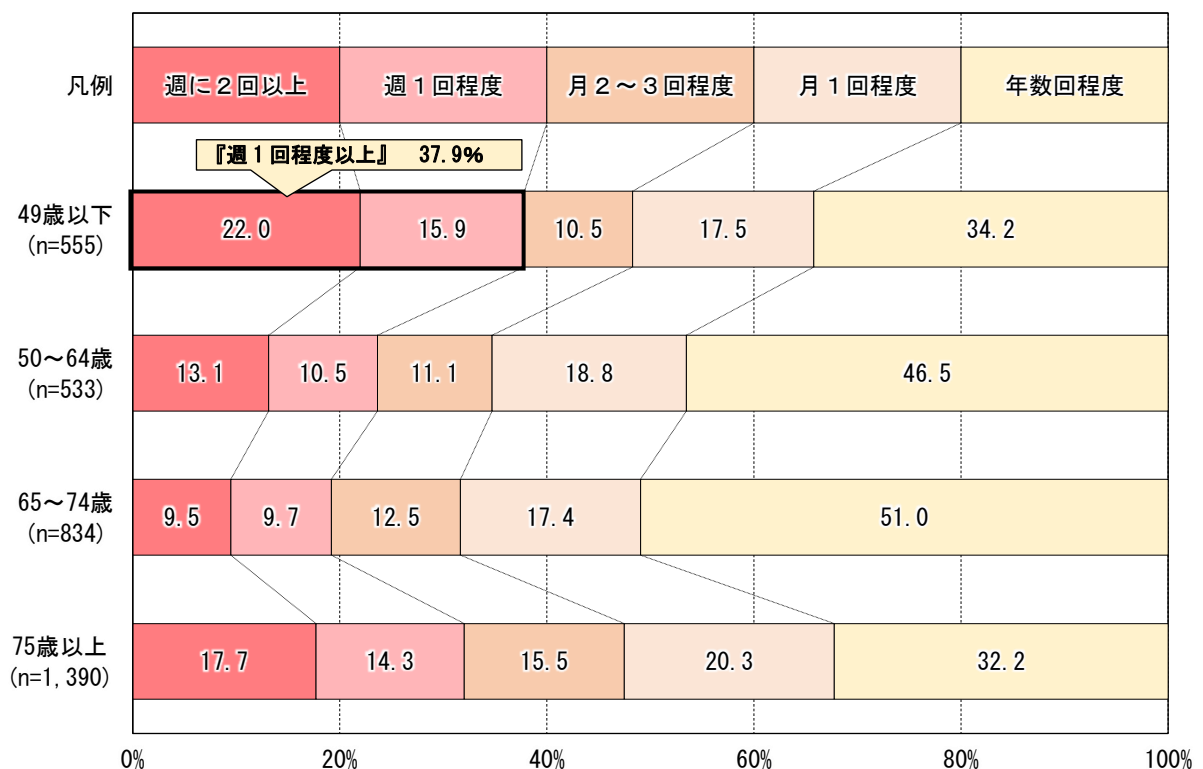


図 別居の家族・親族による手助けの頻度（年齢別）

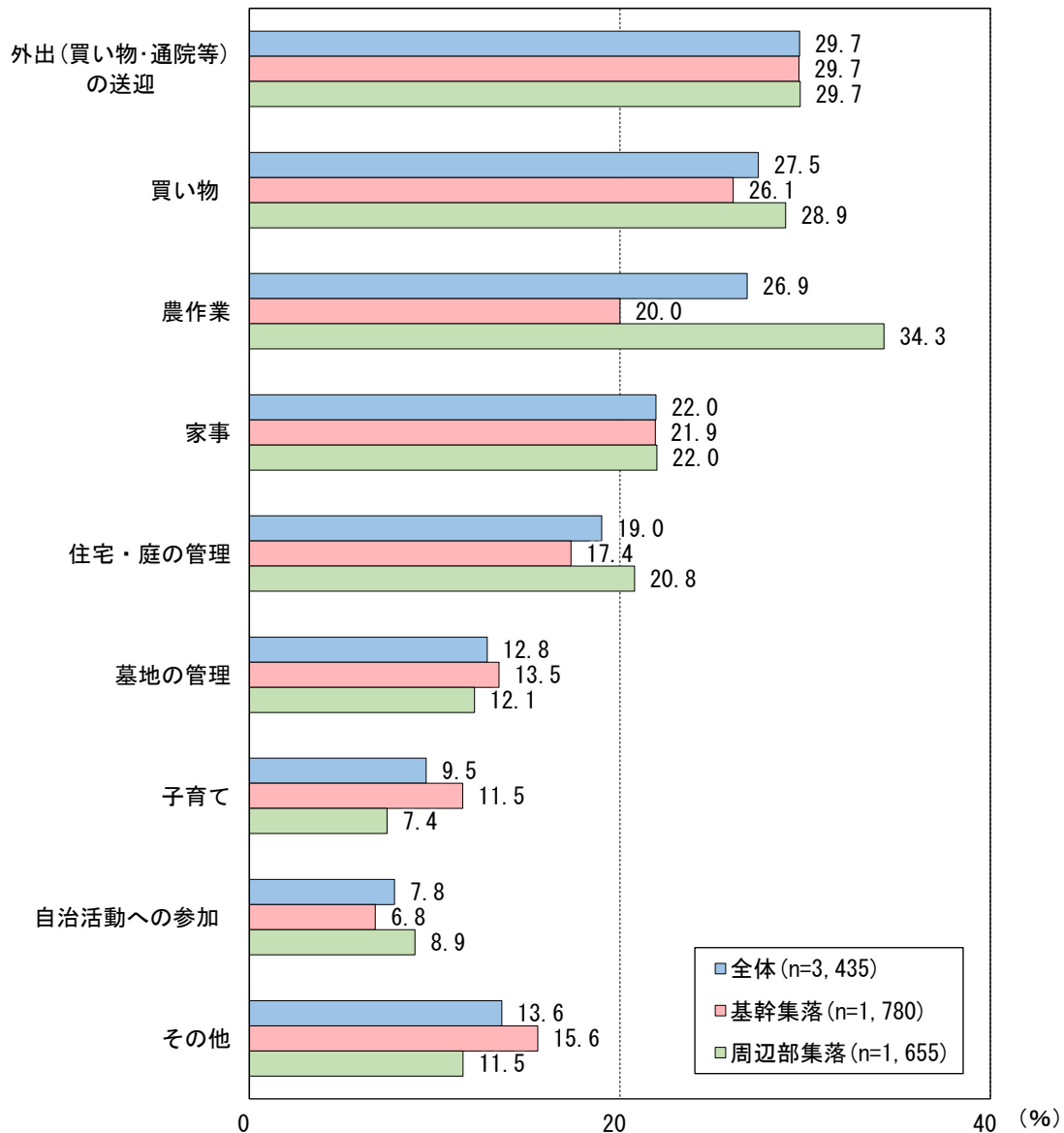


#### (4) 最も手助けしてくれる人をお願いする内容（複数回答）

○別居の家族・親族に手助けをお願いする内容をみると、「外出（買い物・通院等）の送迎」が26%と最も高く、次いで「買い物」が24.1%、農作業が23.5%、家事が19.2%となっている。

○集落類型別にみると、基幹集落と比べて周辺部集落で「農作業」と回答する割合が高くなっている。

図 別居の家族・親族による手助けの内容（全体・集落類型別）



【その他 (n=468) の回答のうち記載の多かったもの】

話し相手・見守り	66件	介護・介助・看護	20件
冠婚葬祭	16件	何かあったとき（緊急時等）	15件
食料・食材の提供	13件	経済支援	13件 など

○年齢別にみると、49歳以下では「子育て」と回答する割合が47.3%と最も高くなっている。

○75歳以上では「外出（買い物・通院等の送迎）」が最も高く38.7%であり、次いで「買い物」が30.2%となっている。

図 別居の家族・親族による手助けの内容（年齢別）

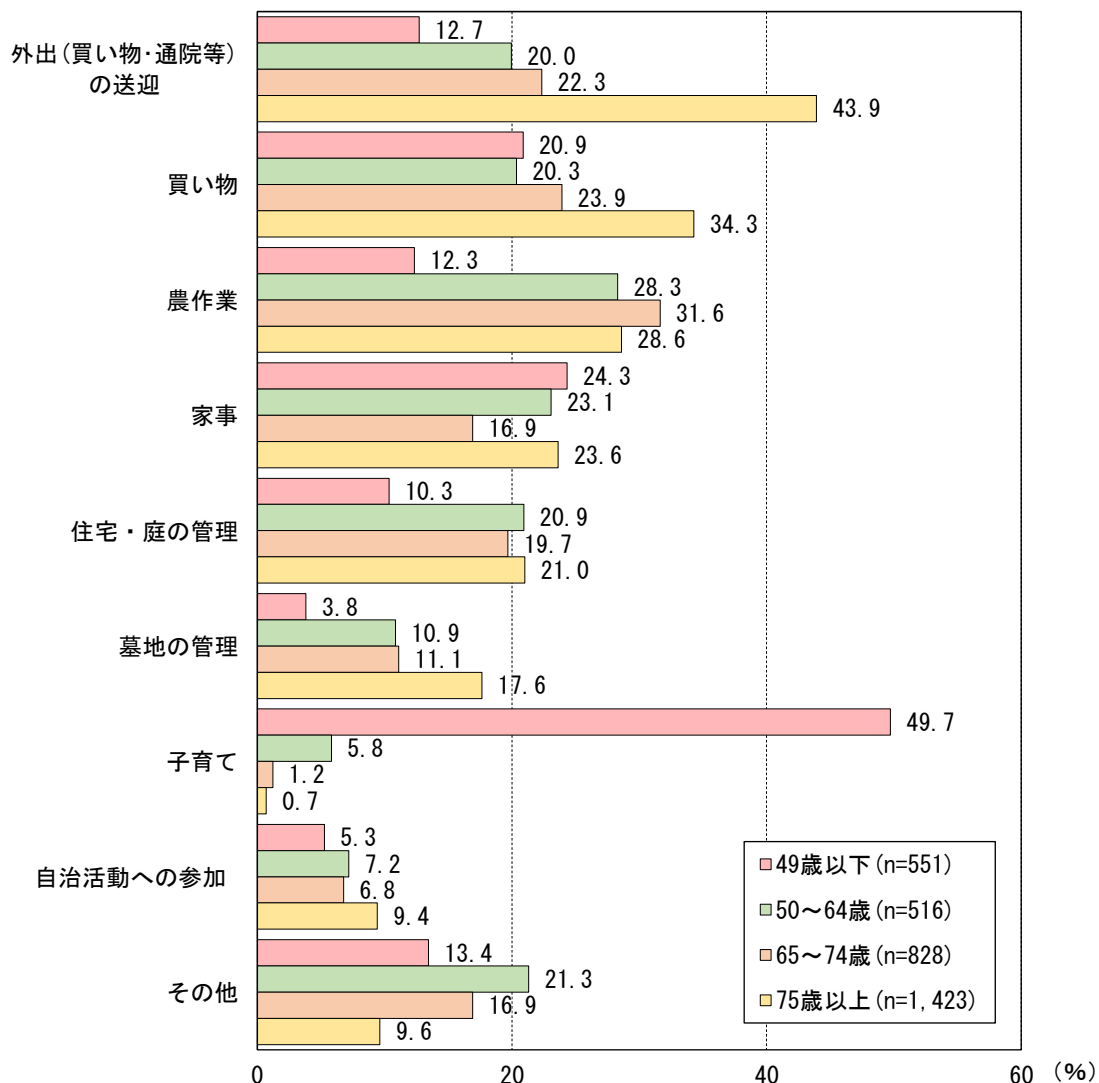
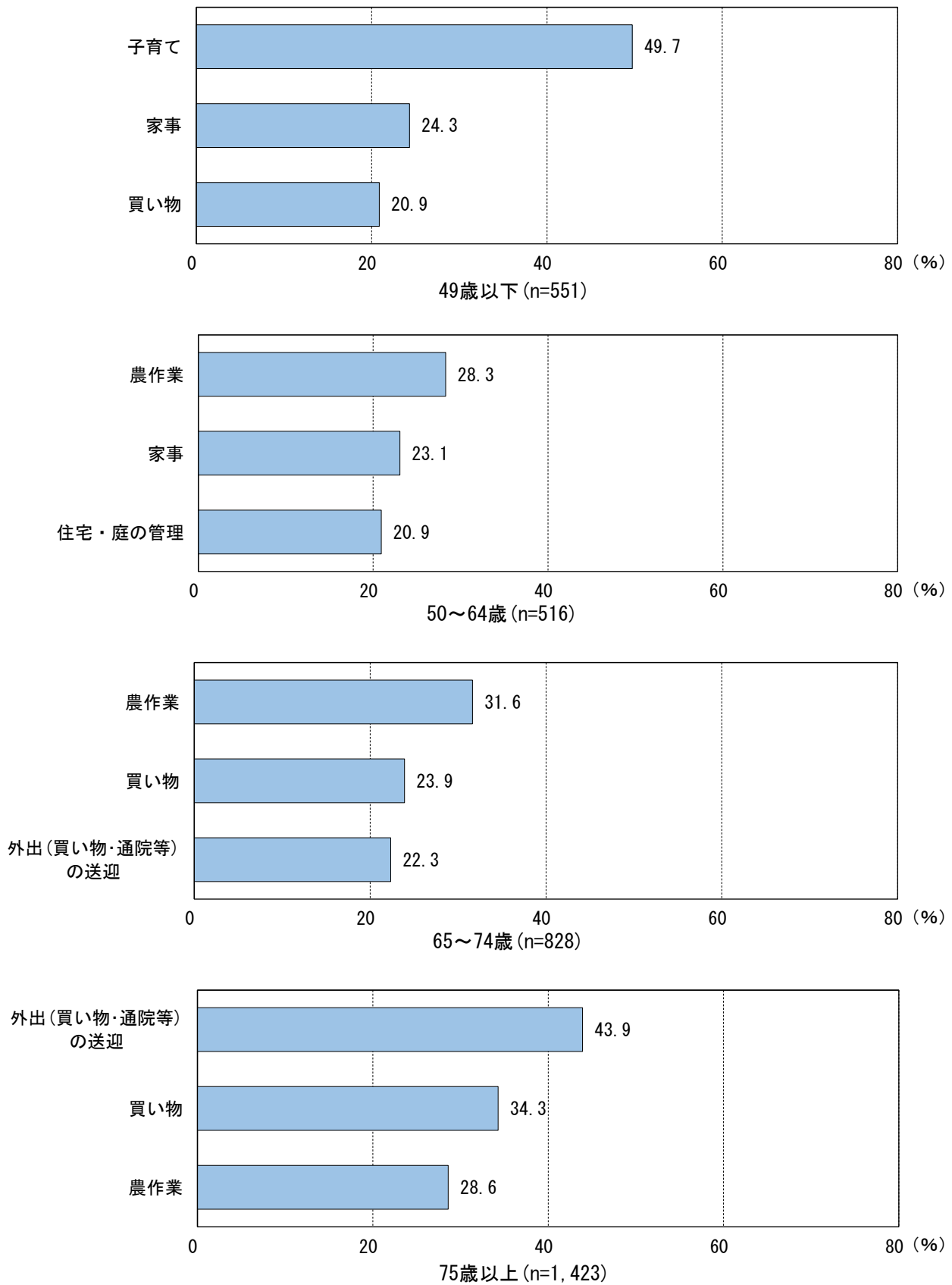


図 別居の家族・親族による手助けの内容【再掲】（年齢別、上位3項目）



(ヒアリング調査での主な意見)

- ・一人暮らしの高齢世帯で買い物や通院などの手助けをしてもらっている人もいる。

問 24 問 21①で「いる」と回答した方にお聞きします。  
 今後、手助けしてくれる人の高齢化等により、手助けの回数が減ったり、手助けしてもらえなくなった場合、あなたの暮らしは変化すると思いますか

○手助けを受けている人が、今後、手助けしてもら回数が減ったり、手助けしてもらえなくなったりした場合の暮らしに与える影響については、24.4%が「とても不安になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答している。

○年齢別にみると、75歳以上で「とても不安になり、自分だけでは暮らしにくくなる」が29.5%と高くなっている。

図 手助け回数の減少等が生じた場合の暮らしへの影響（全体・集落類型別）

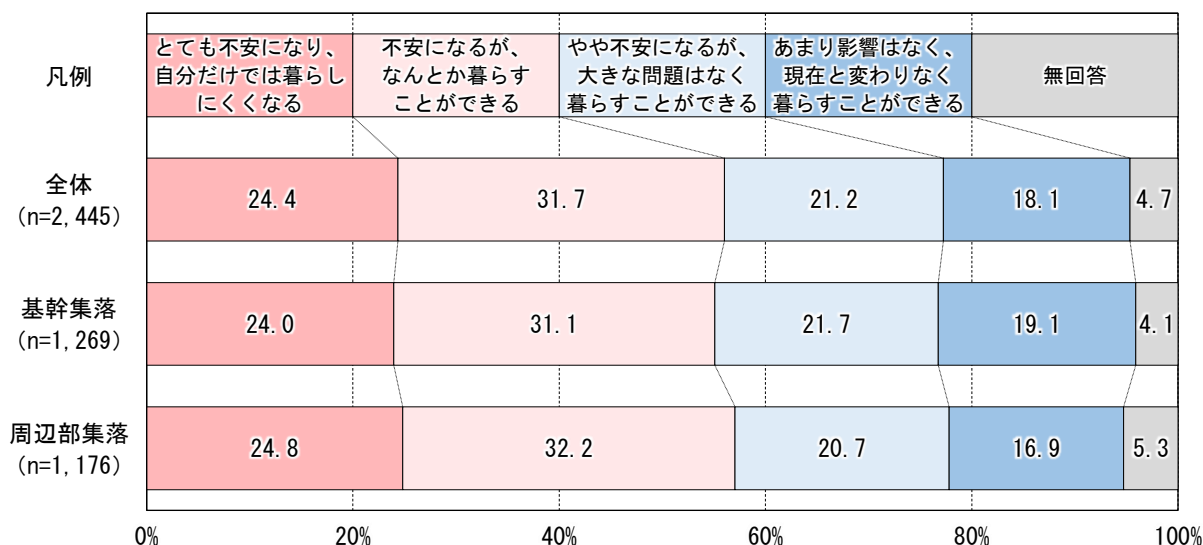
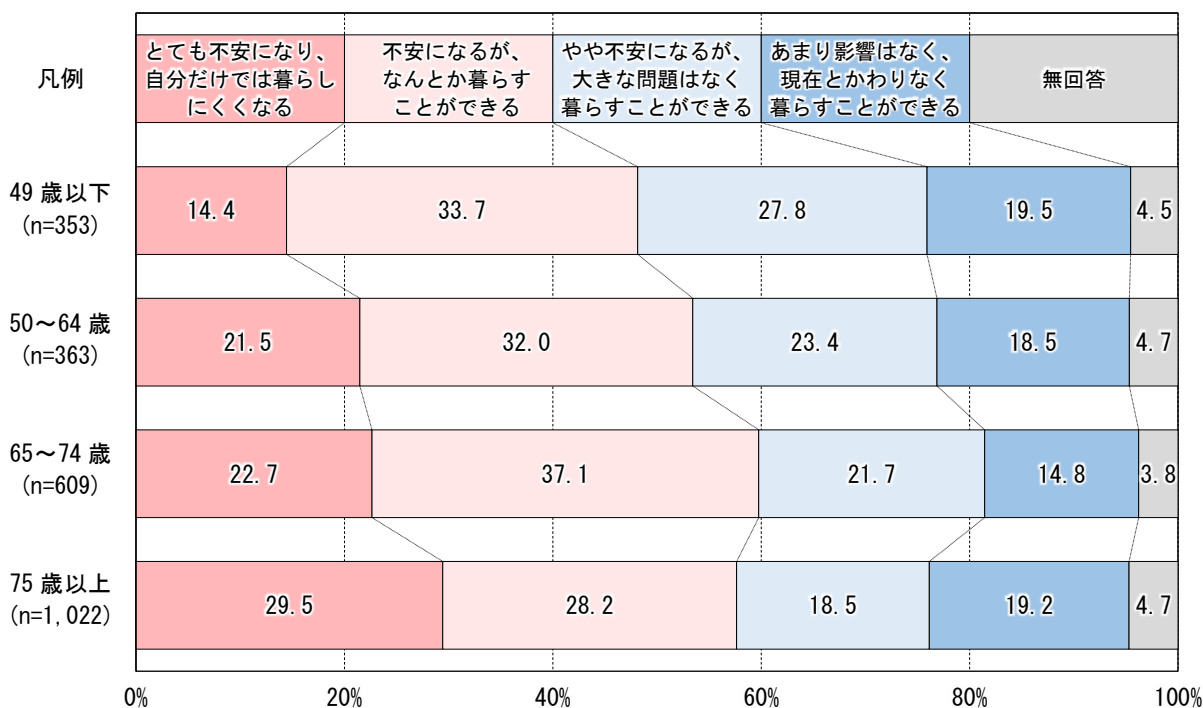


図 手助け回数の減少等が生じた場合の暮らしへの影響（年齢別）



## 7. 自治会等の活動について

### 問 25 あなたは、お住まいの地域の自治会等の活動に参加していますか。

○自治会等の活動の参加状況を見ると、「いつも参加している」が49.3%と最も高く、次いで「時々参加している」が22.5%となっている。

○年齢別にみると、65～74歳で「いつも参加している」が64.7%と最も高くなっている。

図 自治会等への参加状況（全体・集落類型別）

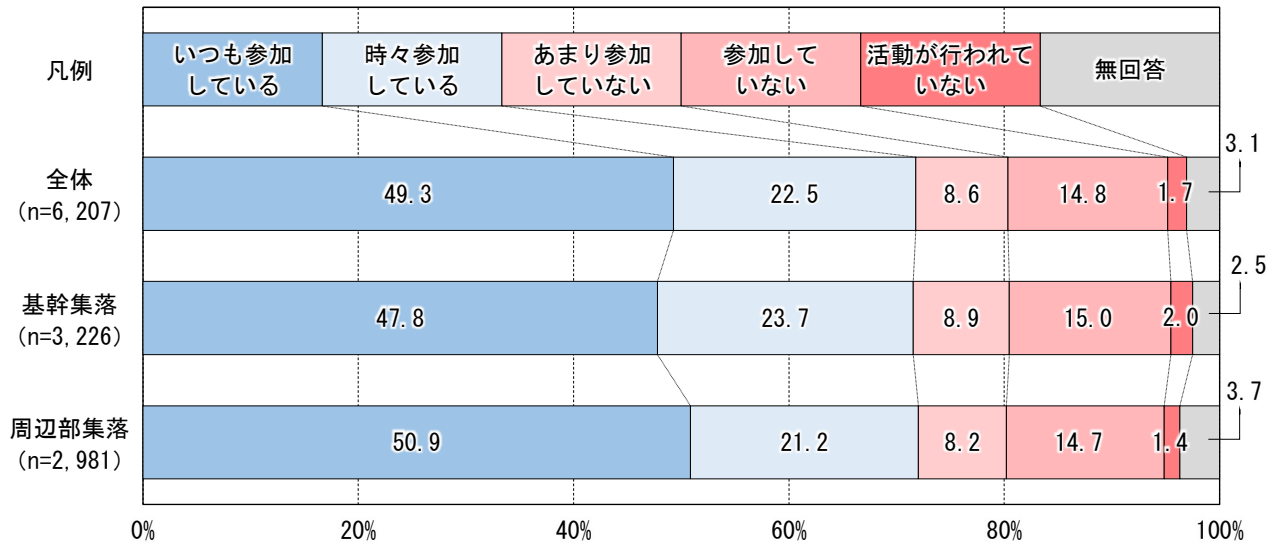
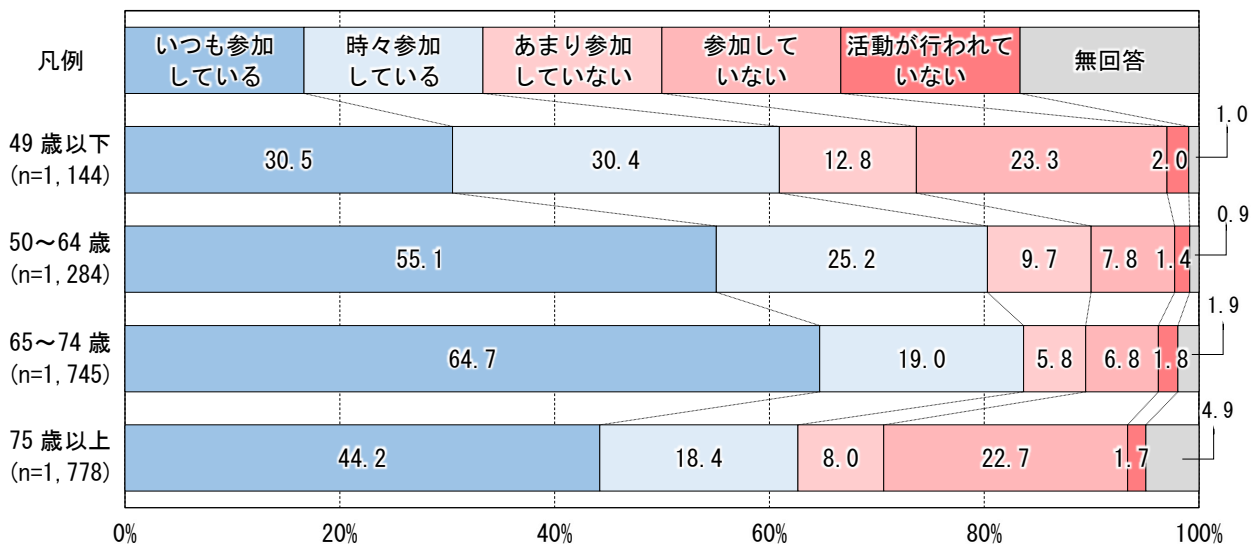


図 自治会等への参加状況（年齢別）





問 26

あなたは、お住まいの地域の自治会等の活動が低下したり、休止された場合、現在の暮らしはどうなると思いますか。

- 自治会等の活動が低下したり、休止された場合の暮らしへの影響をみると、10.6%が「とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答している。
- 一方で、「やや不便になると思うが、大きな問題はなく暮らすことができる」が32.3%で最も高く、次いで「あまり影響はなく、現在と変わりなく暮らすことができる」が30.9%となっている。
- 年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて、「とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる」が高くなり、75歳以上では15.7%となっている。

図 自治会等の活動が低下した場合等の暮らしへの影響（全体・集落類型別）

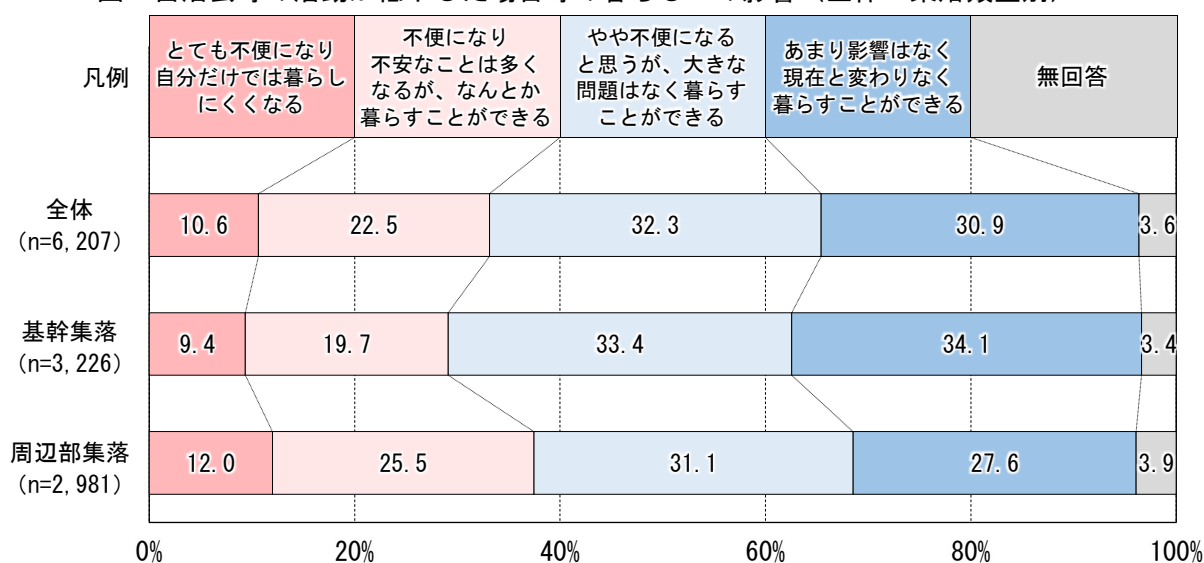
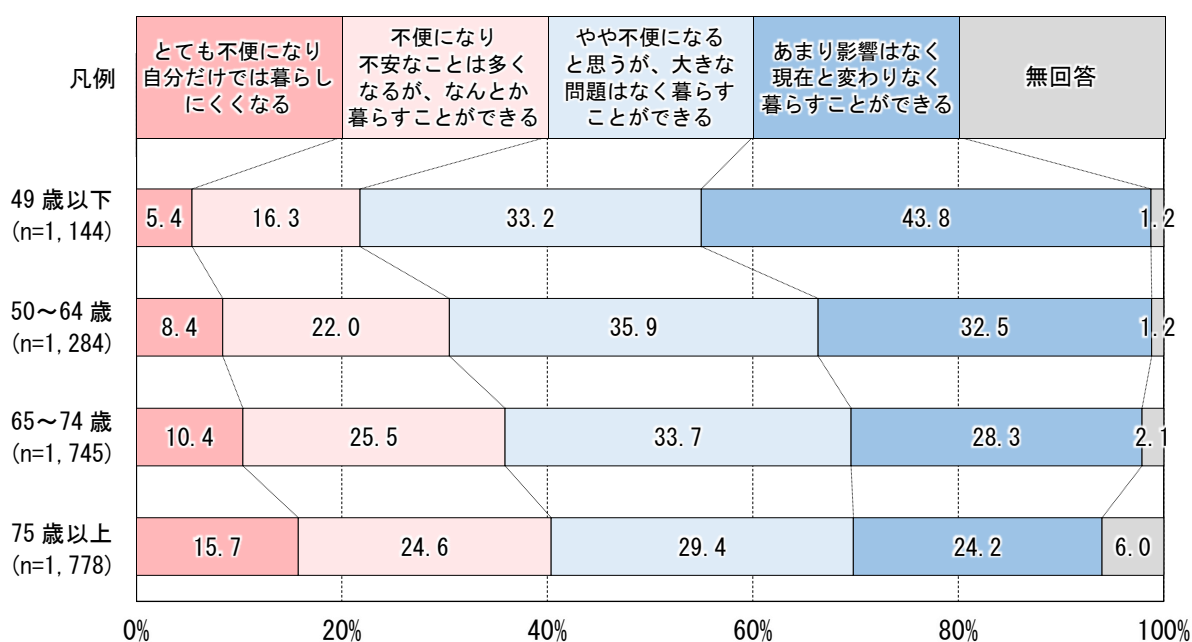


図 自治会等の活動が低下した場合等の暮らしへの影響（年齢別）

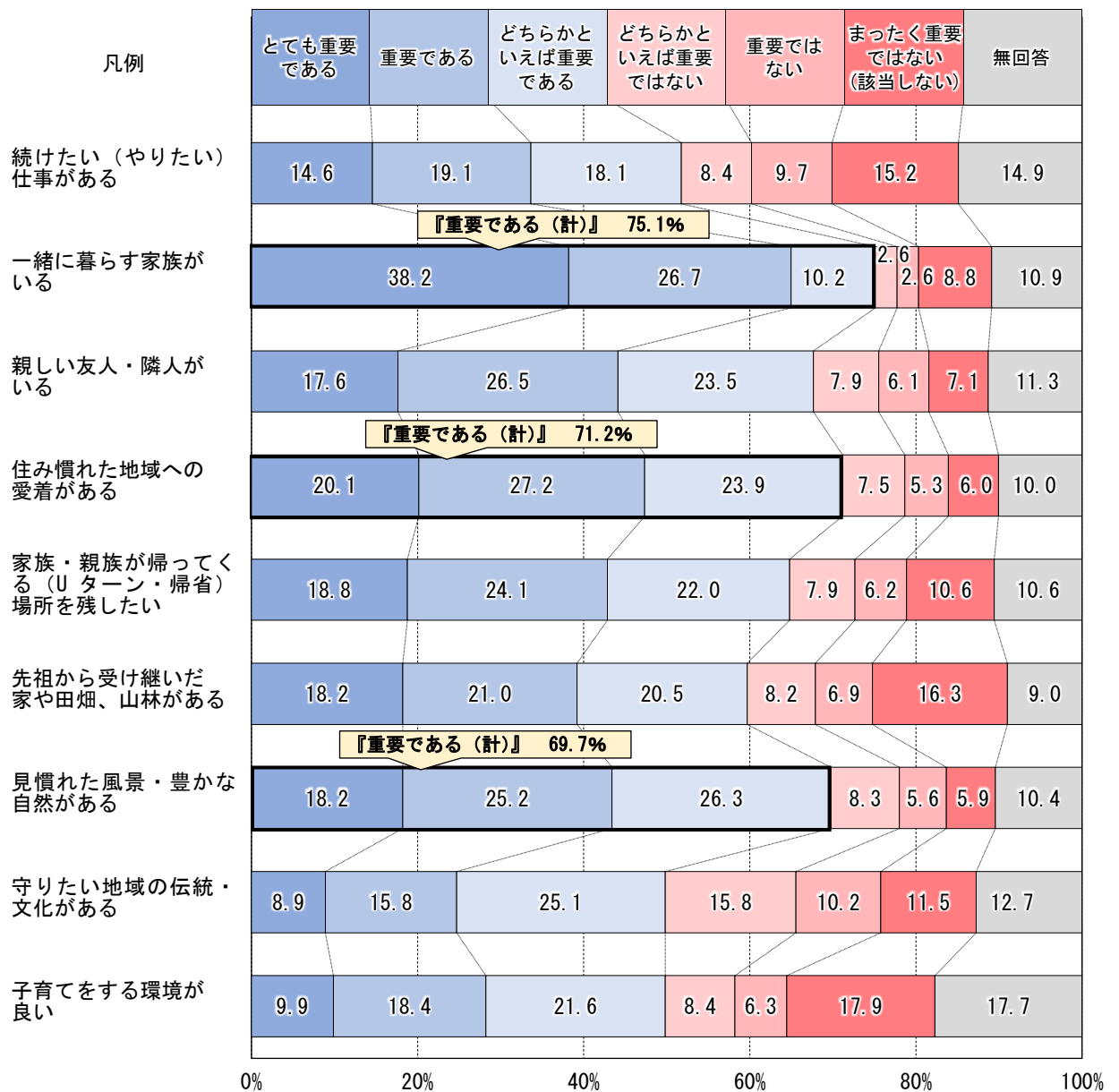


## 8. 現在の地域に暮らしている理由と今後の居住意向について

問 27 あなたが、現在お住まいの地域で暮らしている理由として重要だと思っていることを教えてください。

○現在の居住地域で暮らしている理由として、「一緒に暮らす家族がいる」ことが『重要である（計）』（「とても重要である」「重要である」「どちらかといえば重要である」の計。以下この間において同じ）と回答した人は75.1%と最も高く、次いで「住み慣れた地域への愛着がある」が71.2%、「見慣れた風景・豊かな自然がある」が69.7%となっている。

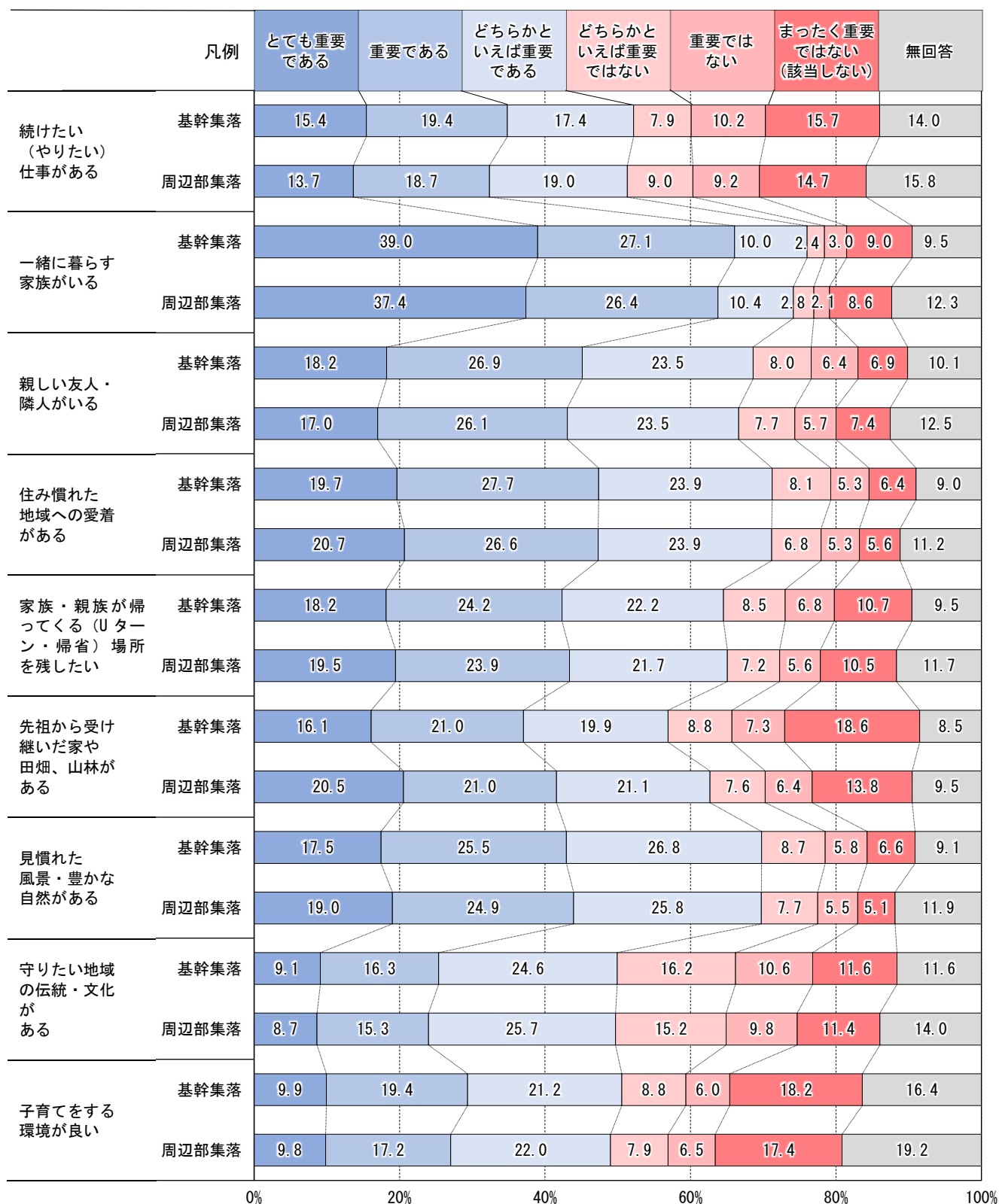
図 地域で暮らしている理由として重要なこと（全体）



(n=6,207)

○集落類型別にみると、基幹集落と比べて周辺部集落で「先祖から受け継いだ家や田畑、山林がある」が『重要である（計）』と回答する割合が高くなっている。

図 地域で暮らしている理由として重要なこと（集落類型別）



(基幹集落 : n=3, 226、周辺部集落 : n=2, 981)

○年齢別にみると、64歳以下では「一緒に暮らす家族がいる」を『重要である（計）』と回答した割合が最も高く、65歳以上では「住み慣れた地域への愛着がある」が最も高くなっている。

図 地域で暮らしている理由として重要なこと（年齢別）

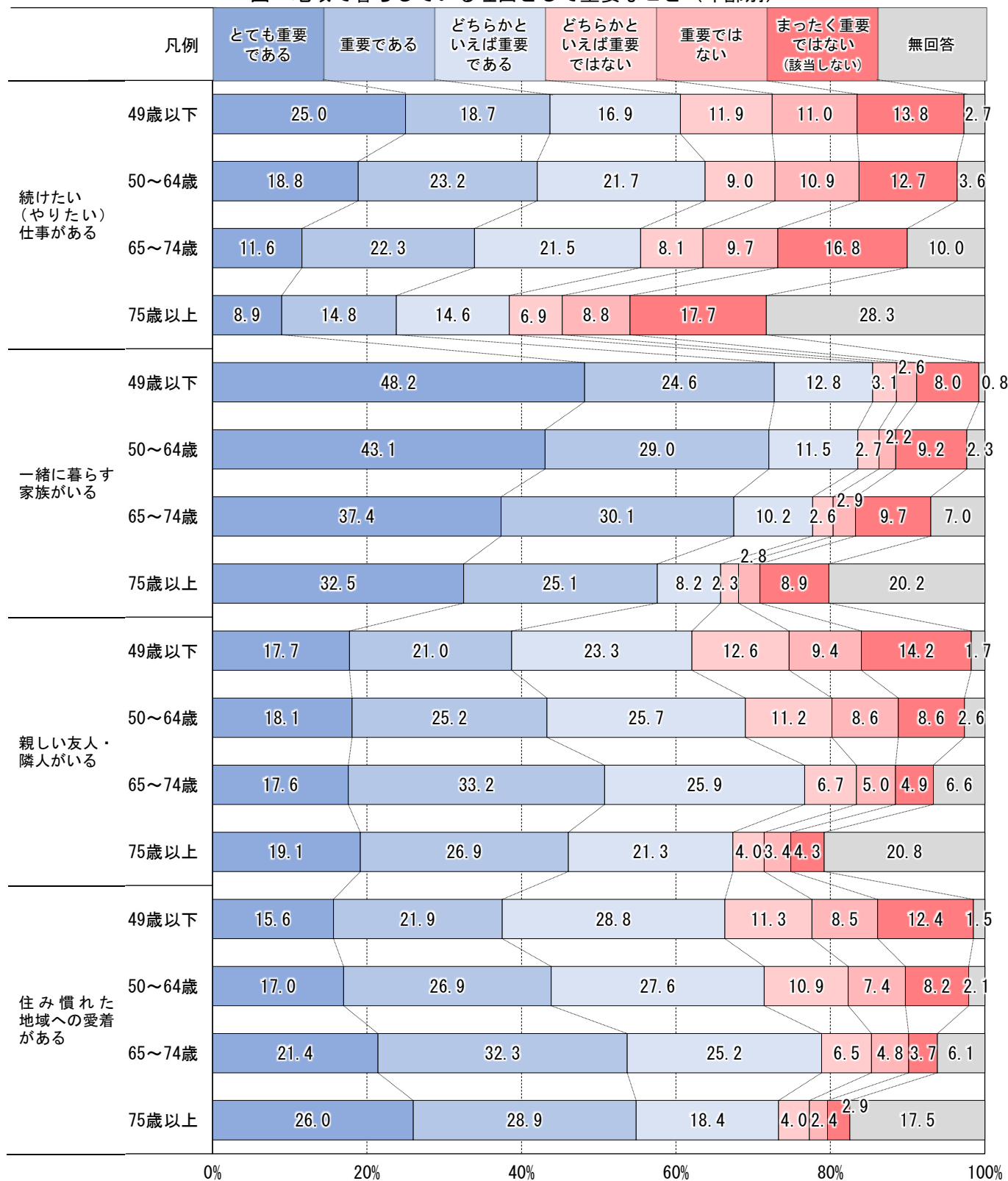
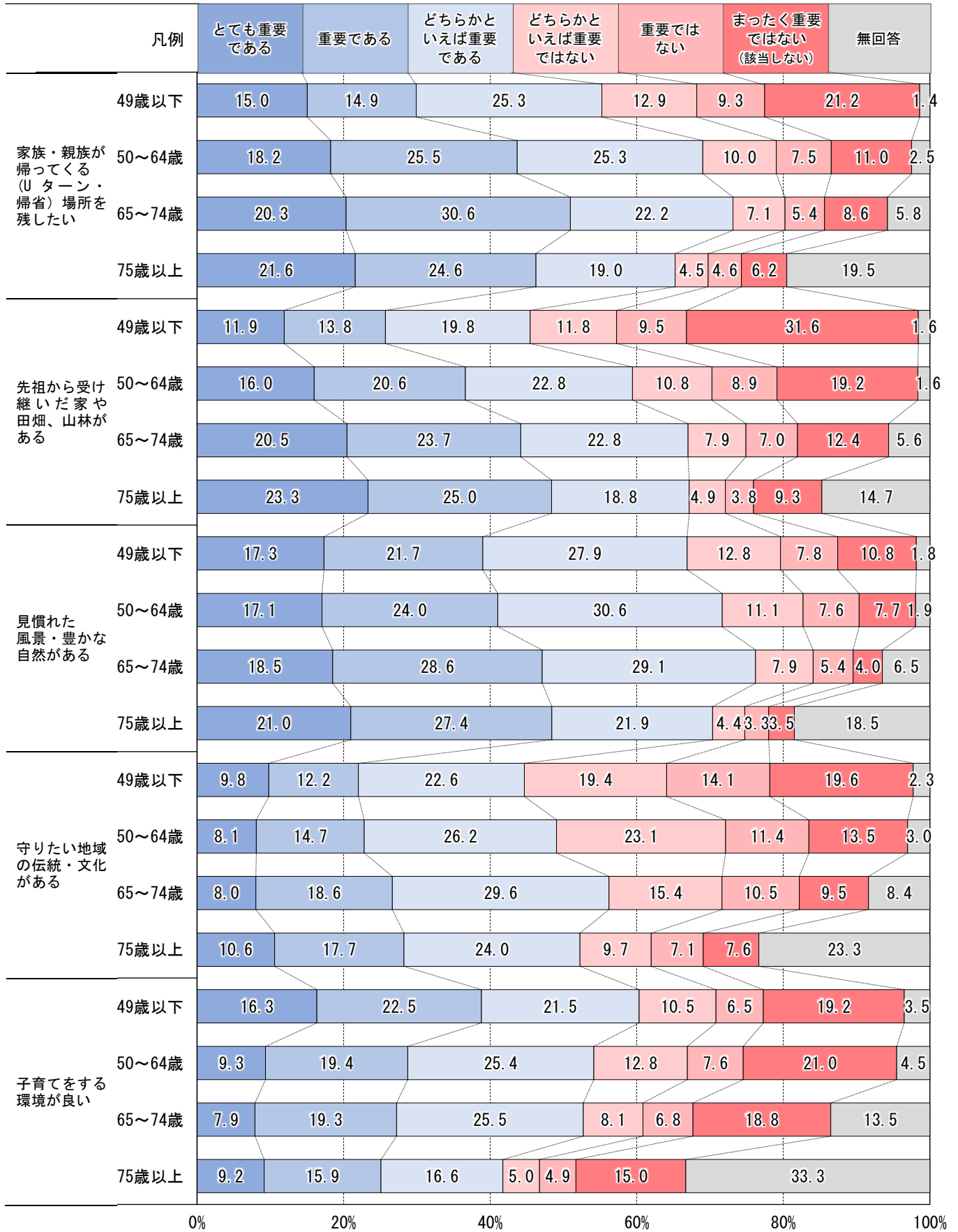
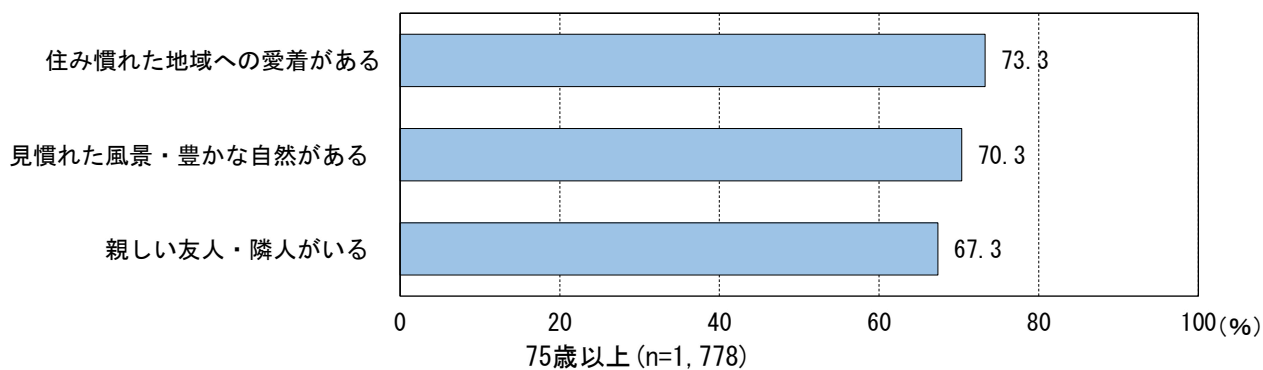
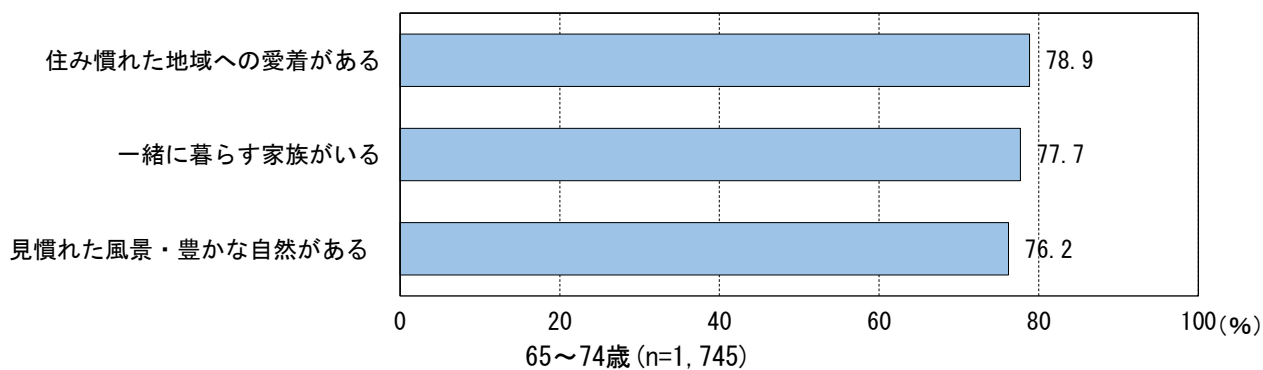
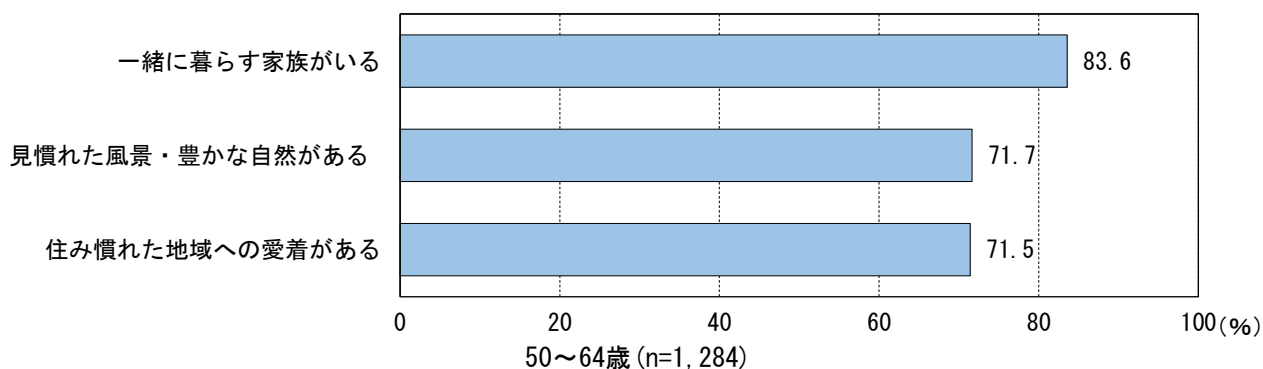
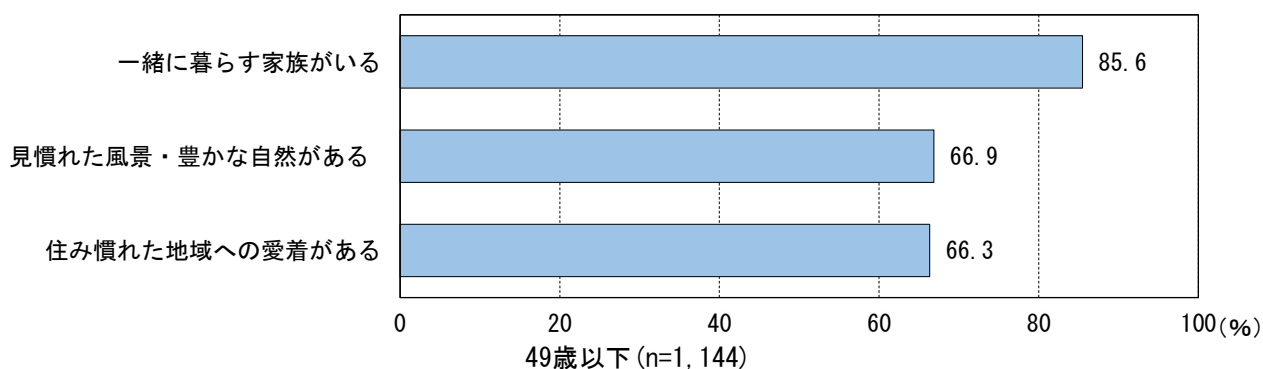


図 地域で暮らしている理由として重要なこと（年齢別） 続き



(全体:n=6,207、49歳以下:n=1,144、50～64歳:n=1,284、65～74歳:n=1,745、75歳以上:n=1,778)

図 地域で暮らしている理由として重要なこと【再掲】(年齢別、上位3項目)



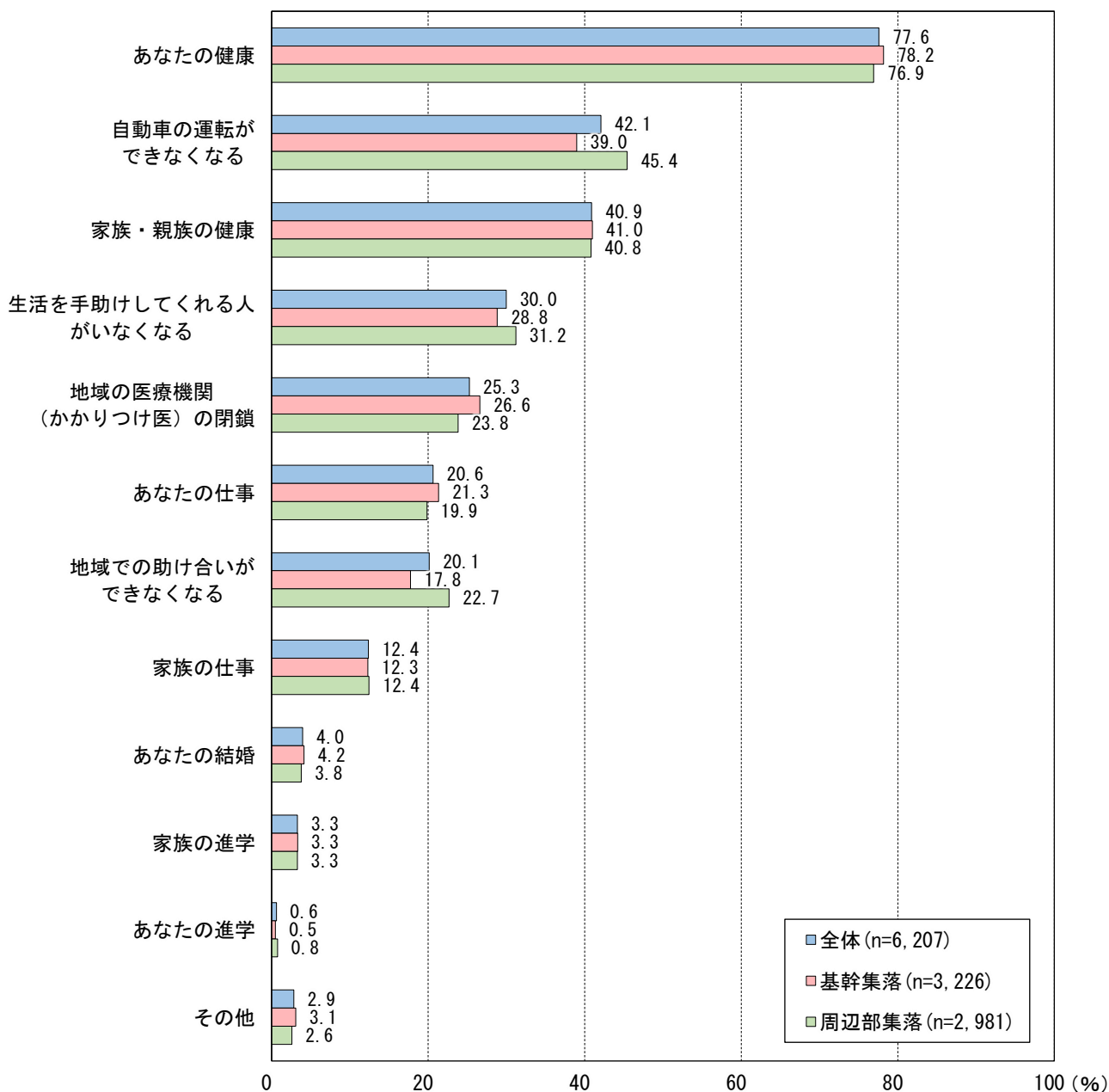
※『重要である (計)』(「とても重要である」「重要である」「どちらかといえば重要である」の合計)と回答した割合

問 28

仮に、あなたが現在お住まいの地域で暮らし続けることができなくなるとしたら、どのようなことが原因になると思いますか。

- 現在の居住地で暮らし続けることができなくなる原因として考えられるものは、「あなたの健康」が77.6%と最も高くなっている。生活に関連する項目でみると、「自動車の運転ができなくなる」が42.1%と高くなっており、次いで「生活を手助けしてくれる人がいなくなる」が30%、「地域の医療機関の閉鎖」が25.3%、「地域での助け合いができなくなる」が20.1%となっている。
- 集落類型別にみると、基幹集落と比べて周辺部集落で「自動車の運転ができなくなる」が高くなっている。

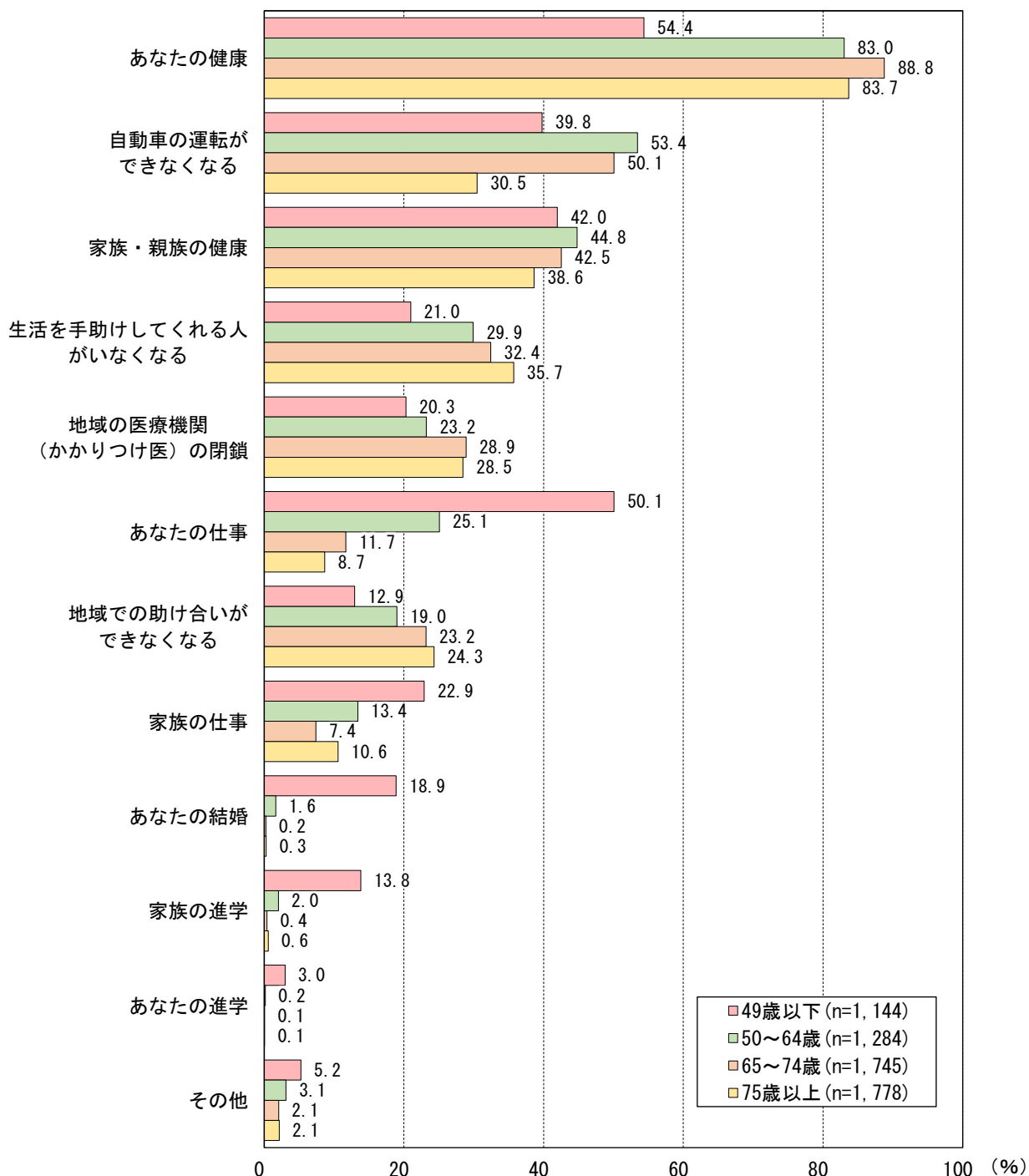
図 現在の居住地で暮らし続けられなくなる場合の原因（全体・集落類型別）



○年齢別にみると、全ての年齢層で「あなたの健康」が高くなっている。

○また、49歳以下では「あなたの仕事」「家族の仕事」「あなたの結婚」「家族の進学」が高く、75歳以上で「生活を手助けしてくれる人がいなくなる」「地域での助け合いができなくなる」が高くなっている。

図 現在の居住地域で暮らし続けられなくなる場合の原因（年齢別）

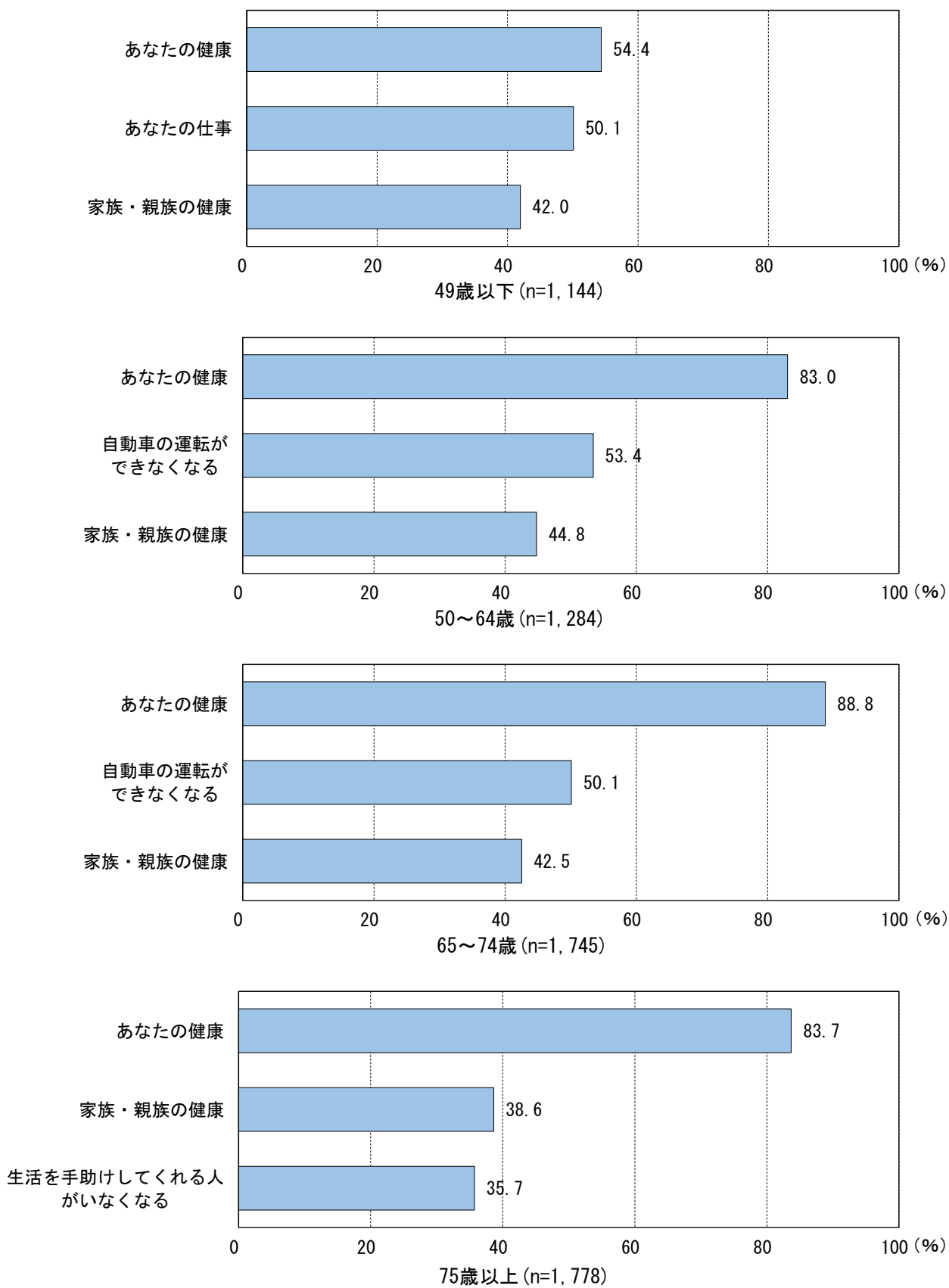


（ヒアリング調査での主な意見）

- ・地域住民のつながりが強く、日常的な見守りや自主防災活動等により地域内で助け合っているため、安心して暮らしている。
- ・通院や買い物の移動、草刈り、雪かきなどに困っている人を地域で支える体制があり、地域の助け合いが高齢者等の暮らしを支えている。



図 現在の居住地で暮らし続けられなくなる場合の原因【再掲】（年齢別、上位3項目）



問 29 あなたは、現在お住まいの地域で暮らし続けたいですか。

○今後の居留意向をみると、80.3%の人が、現在の居住地で『暮らし続けたい』（「暮らしに不満はなく、暮らし続けたい」「暮らしにくいところもあるが、暮らし続けたい」の計。以下この間において同じ）と回答している。

○一方、「暮らしにくいところがあり、便利な場所（同じ市町村内）で暮らしたい」は6.2%、「暮らしにくいところがあり、便利な場所（異なる市町村）で暮らしたい」は9.5%となっている。

○年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて、『暮らし続けたい』が高くなっている。

図 今後の居留意向（全体・集落類型別）

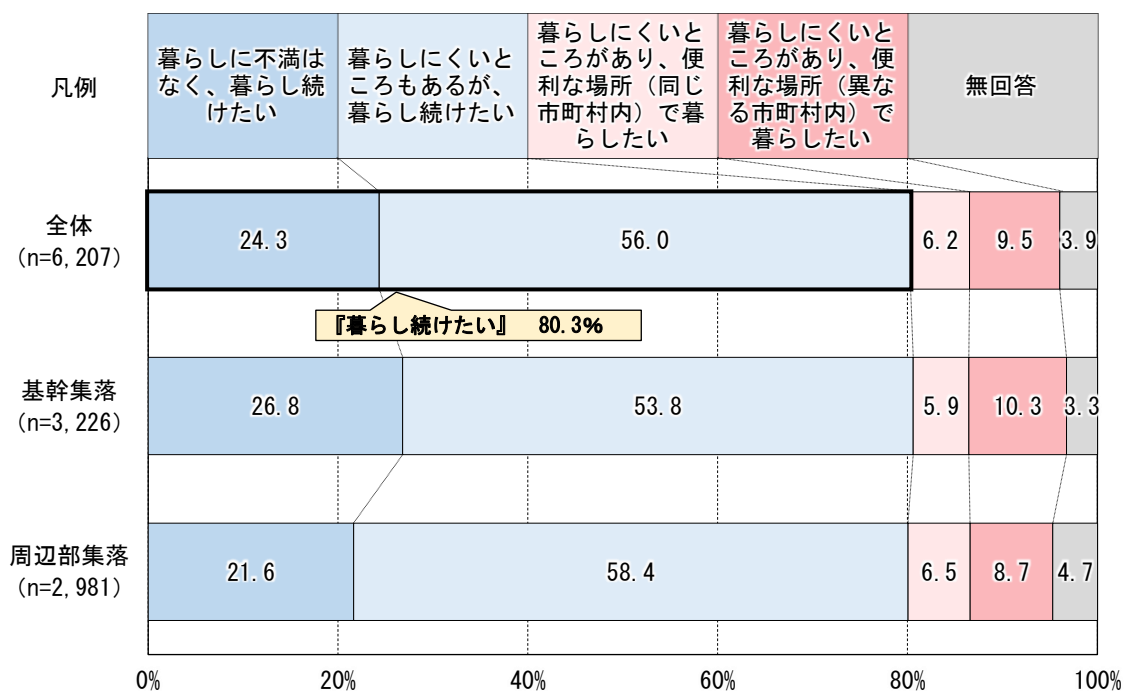
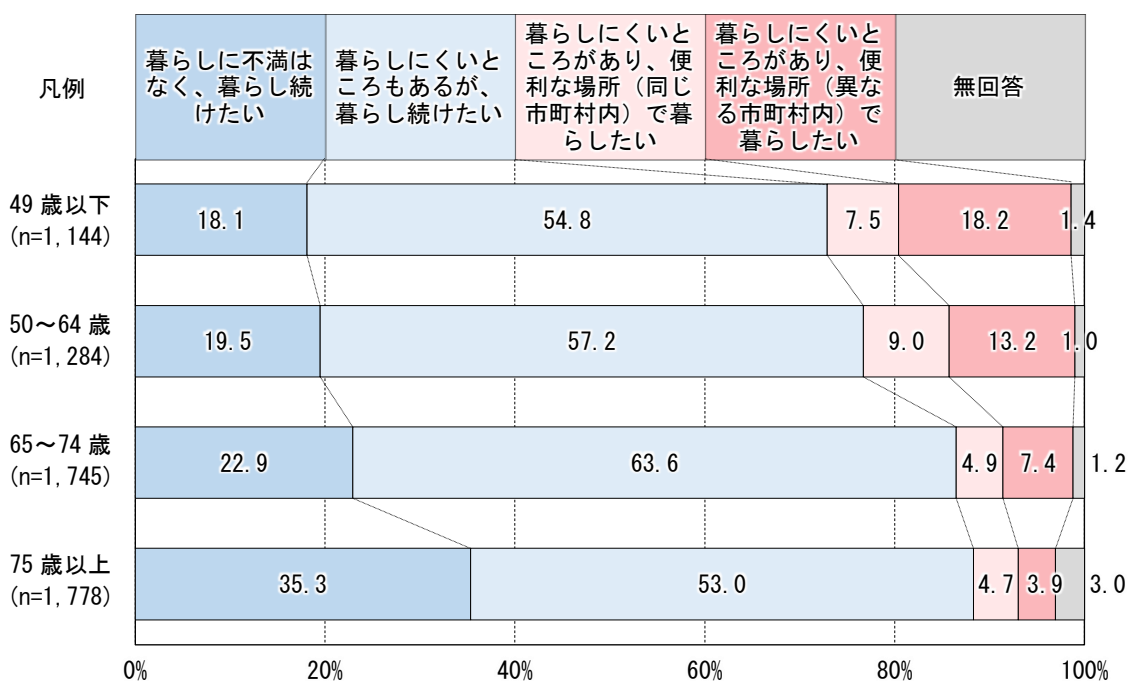


図 今後の居留意向（年齢別）



問 30

ここまでお尋ねしてきた暮らしの状況を踏まえ、あなたの日々の暮らしについての幸福感を教えてください。

○日々の暮らしの幸福感をみると、87.7%が『幸せである（計）』（「とても幸せである」「幸せである」「どちらかといえば幸せである」の計）と回答している。

図 日々の暮らしについての幸福感（全体・集落類型別）

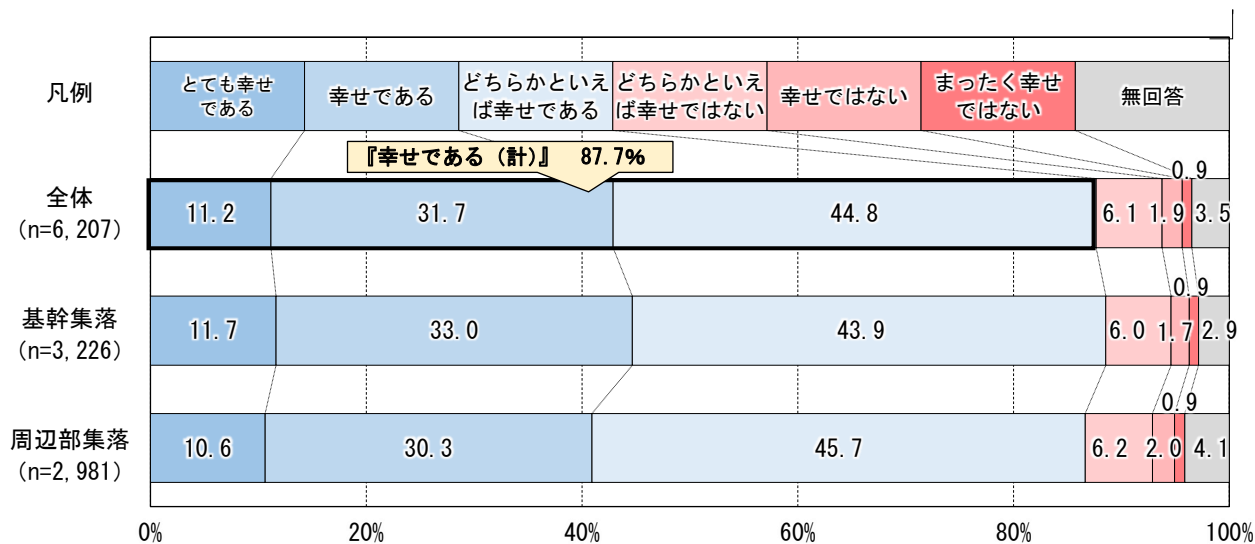
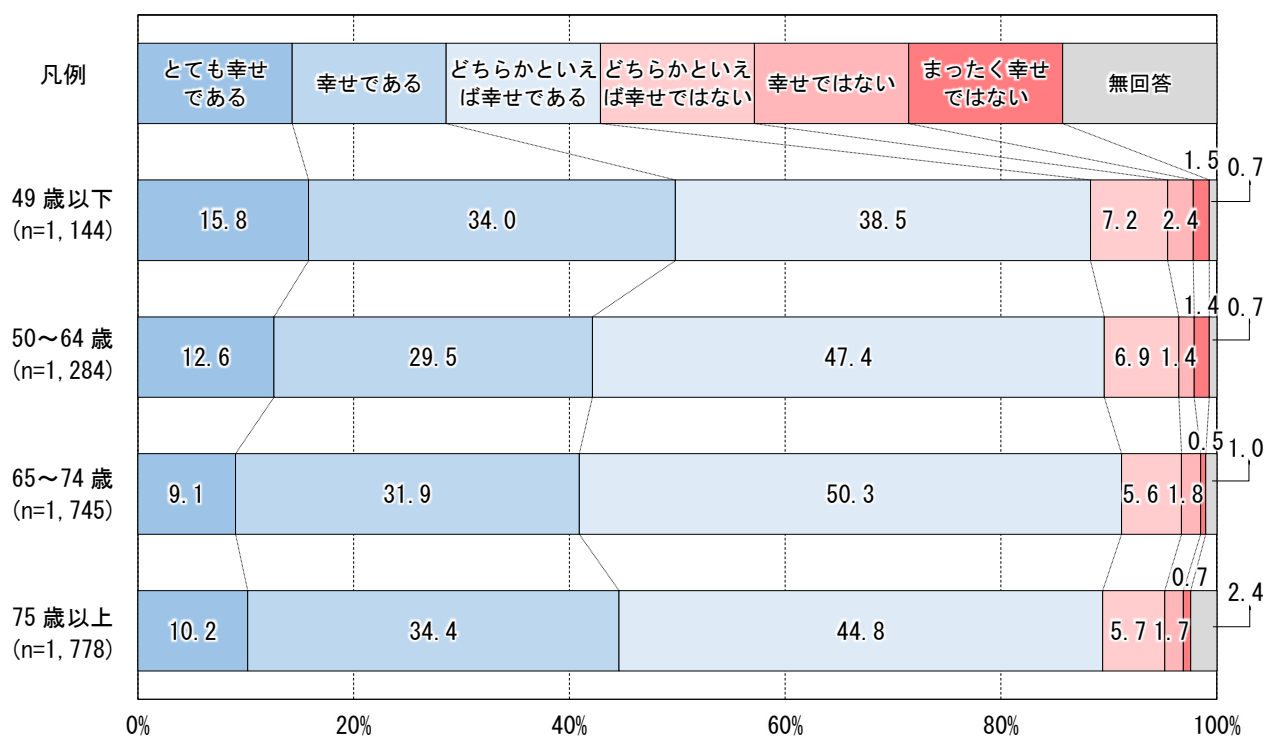


図 日々の暮らしについての幸福感（年齢別）



問 31

あなたが現在お住まいの地域に住み続けるとしたら、月どのくらいの生活費が必要だと思いますか。

○一か月に必要な生活費をみると、「10～20万円未満」が最も高く45.9%となっており、次いで「20～30万円未満」が32.2%となっている。

○年齢別にみると、75歳以上において『20万円未満』（「10万円未満」「10～20万円未満」の計）は64%と高くなっている。

図 毎月の生活費（全体・集落類型別）

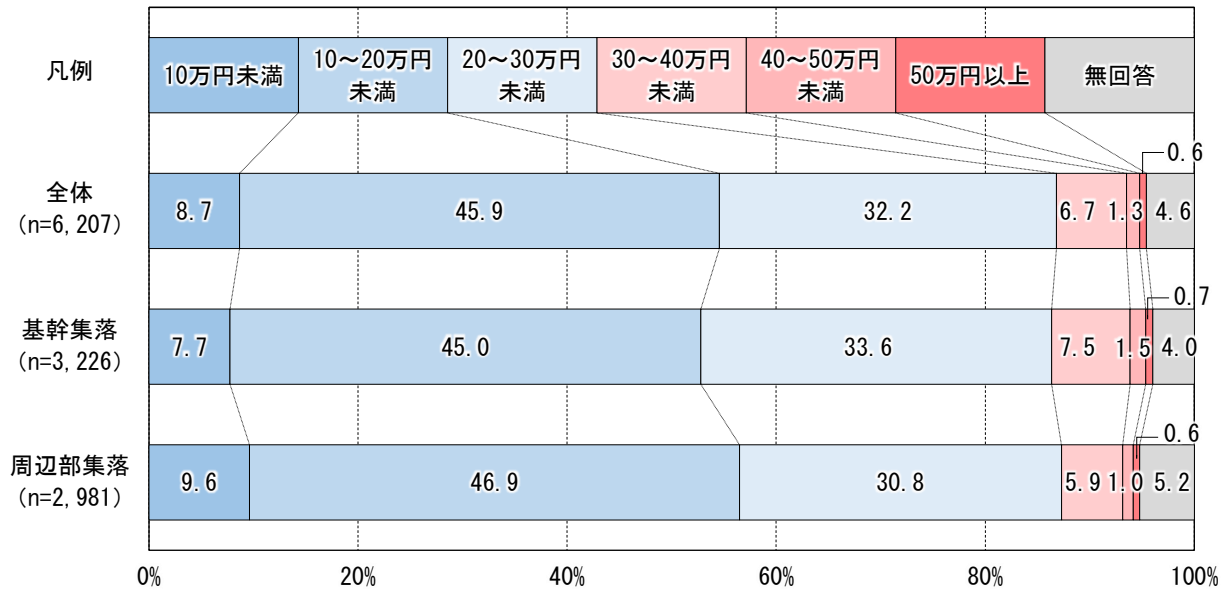


図 毎月の生活費（年齢別）

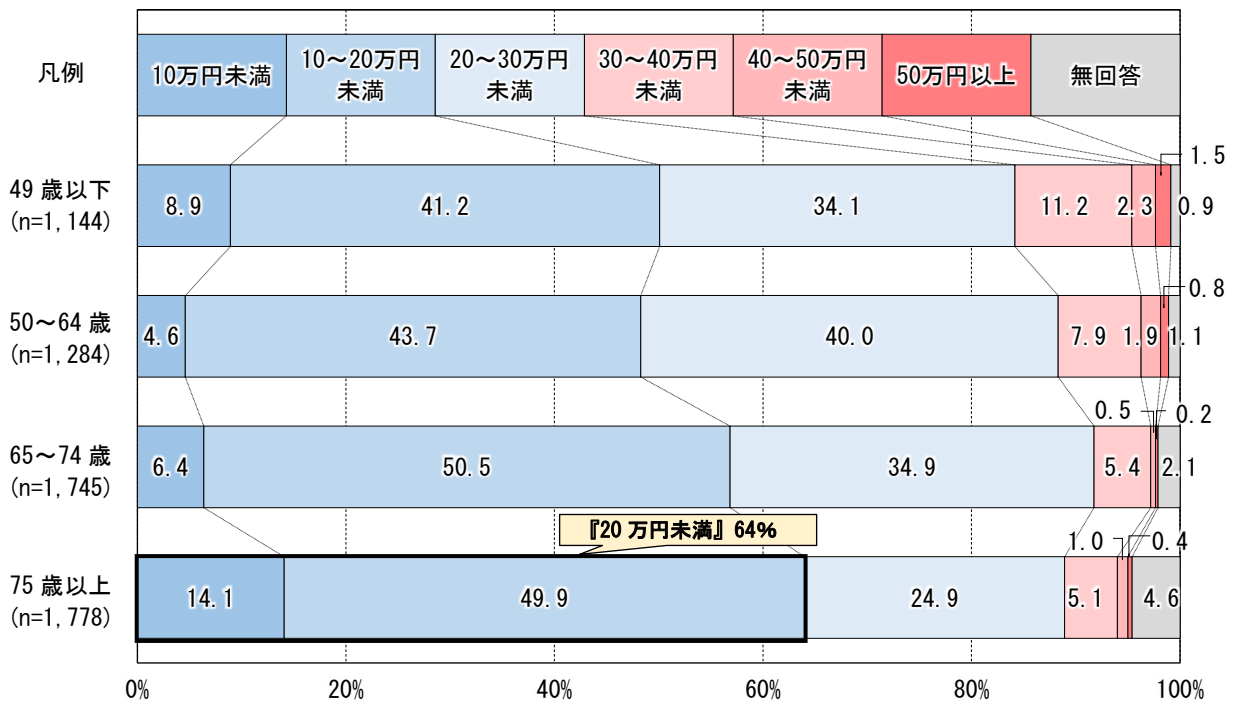
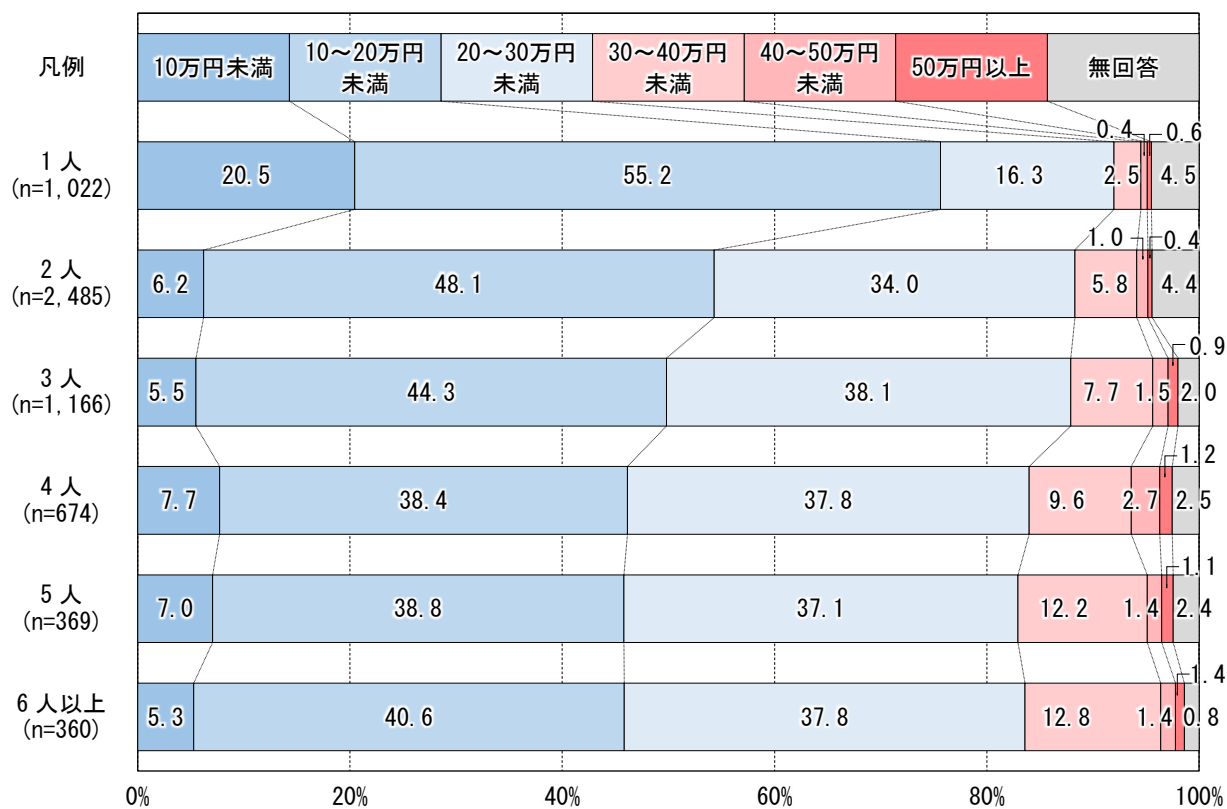


図 毎月の生活費（世帯人員別）

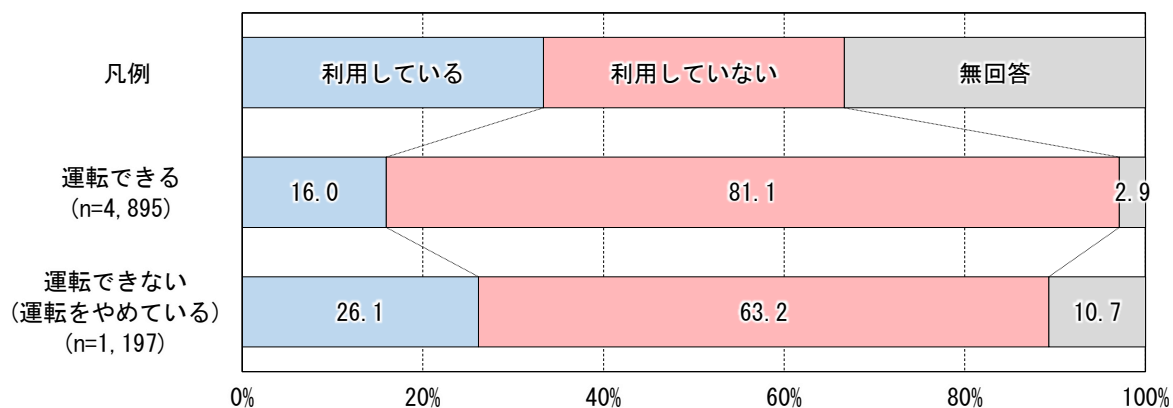


### Ⅲ 設問間のクロス分析

#### 1. 自動車の運転と買い物

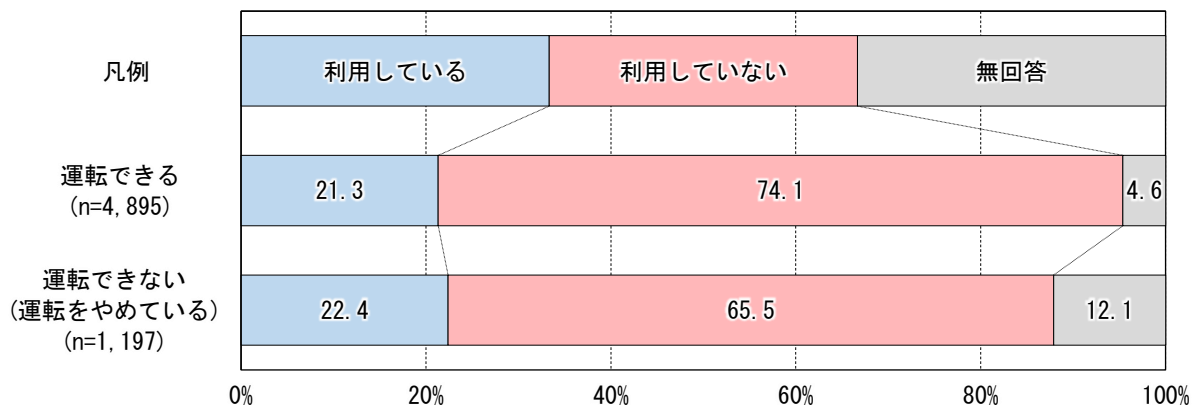
○自動車を「運転できる」人よりも「運転できない（やめている）」人のほうが、移動販売を「利用している」と回答した割合が10.1ポイント高くなっている。

図 自動車の運転（問10）と移動販売の利用（問16（1）①）



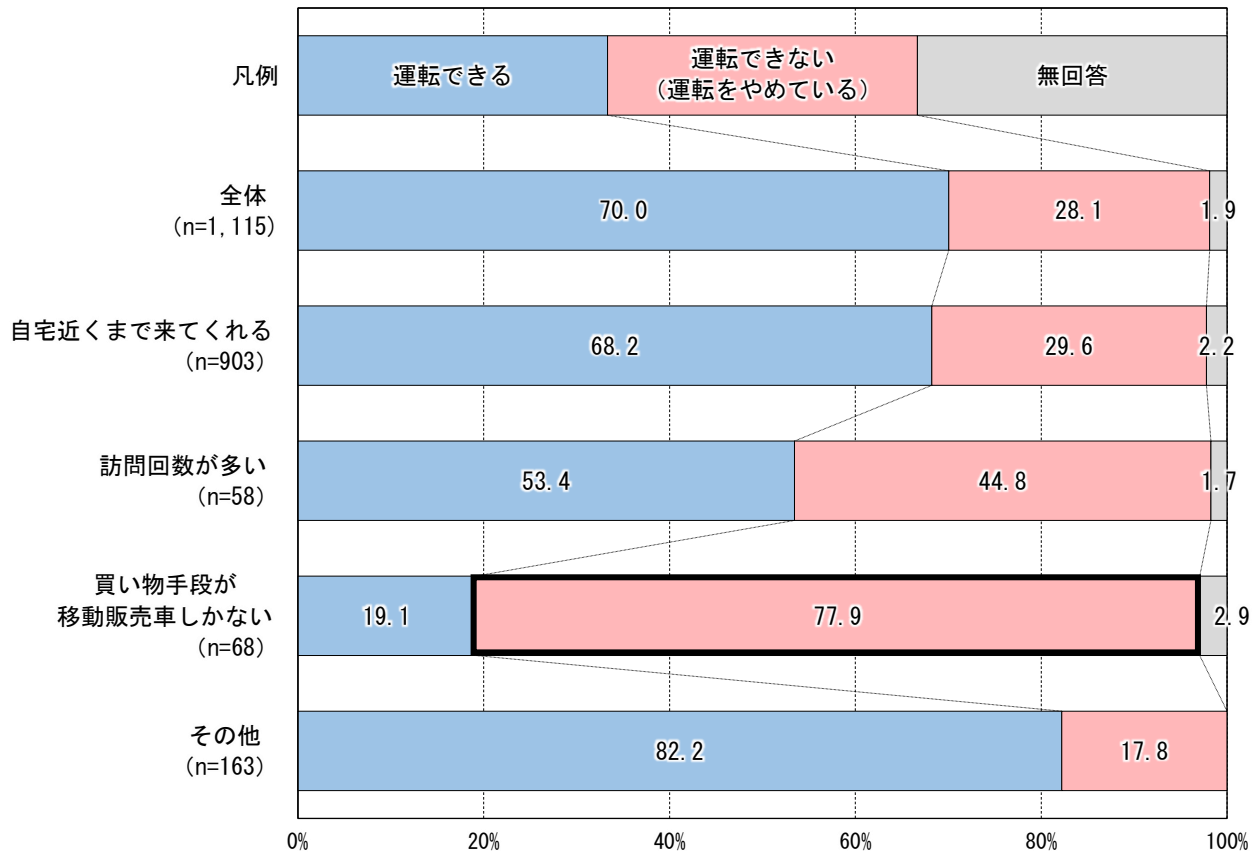
○生協など食材配達の利用については、自動車の運転状況による差はみられなかった。

図 自動車の運転(問10)と食材配達の利用(問16(2)①)



○「買い物手段が移動販売車しかない」と回答した人（68人）のうち、77.9%は「運転できない（運転をやめている）」人となっている。

図 自動車の運転（問10）と移動販売車の利用理由（問16（1）②）

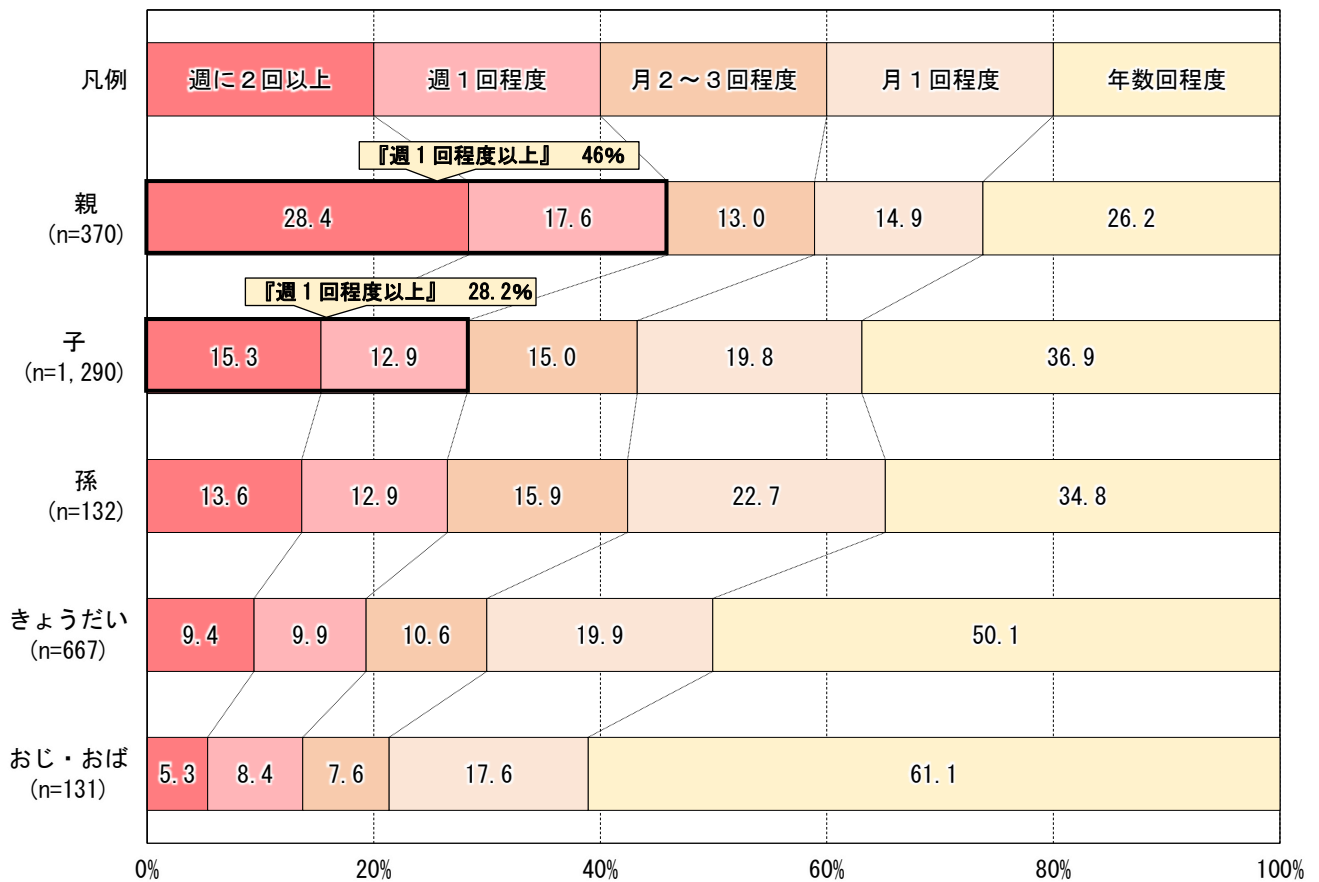


○ヒアリング調査においても、高齢者や自動車を運転できない人にとって、移動販売や食材配達はその重要な買い物手段となっているとの声が聞かれた。

## 2. 別居の家族・親族による手助け

○手助けをしてくれる人の続柄と手助けの頻度をみると、『週1回程度以上』（「週に2回以上」「週1回程度」の計）の手助けをお願いする続柄は、親が46%と最も高くなっており、次いで子が28.2%となっている。

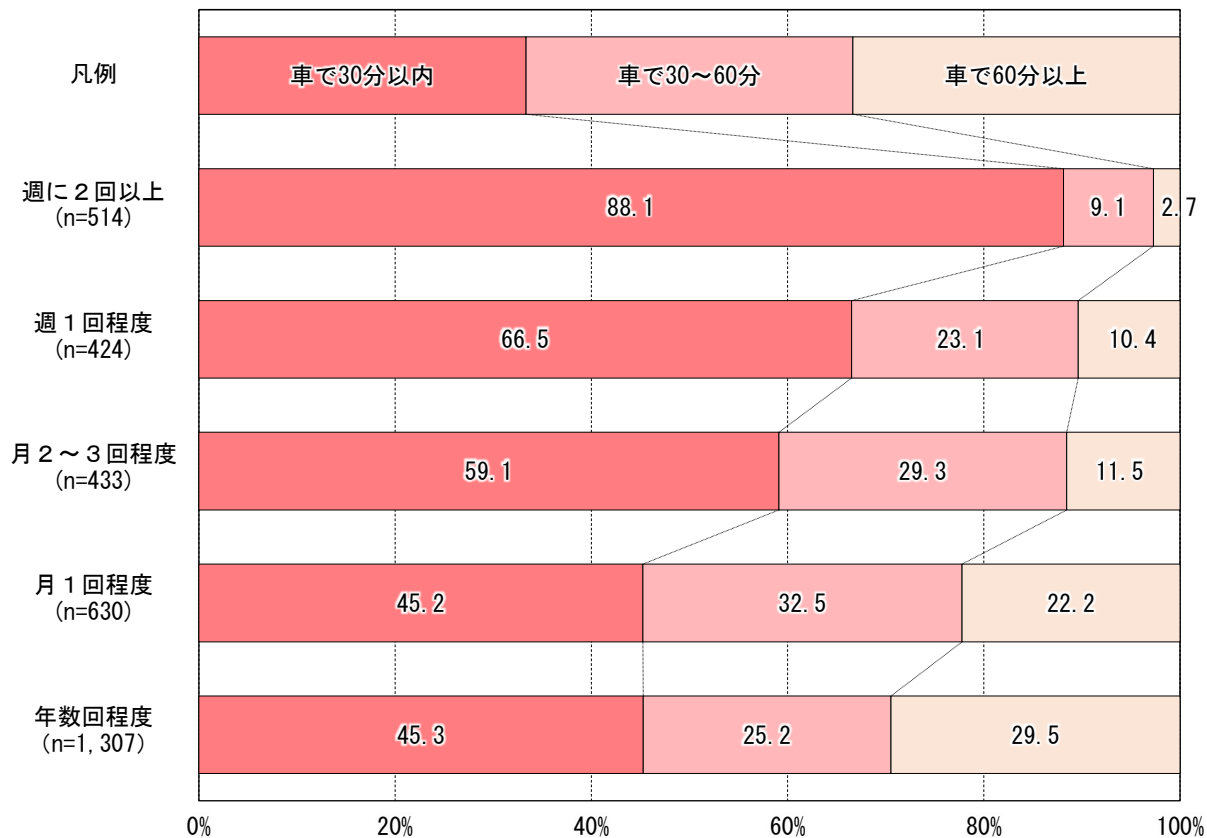
図 手助けをしてくれる人の続柄（問23（1））と手助けの頻度（問23（3））





○手助けの頻度と手助けしてくれる人の居住地からの時間の関係を見ると、手助けの頻度が高くなるにつれて、手助けしてくれる人が「車で30分以内」の地域にいる割合も高くなっている。

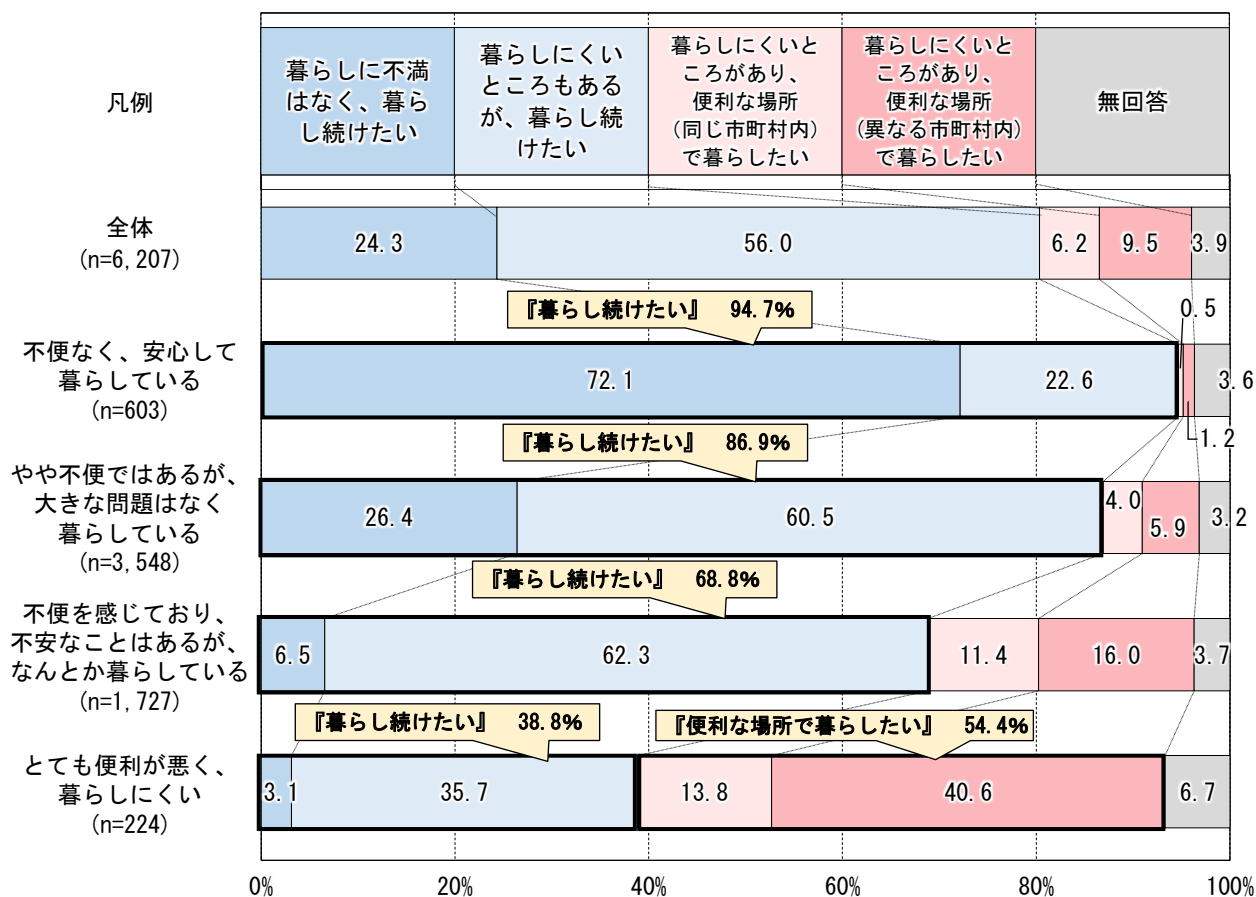
図 手助けしてくれる人の居住地からの時間（問23（2））と手助けの頻度（問23（3））



### 3. 居住地域の暮らしやすさと今後の居留意向

- 居住地域の暮らしやすさと今後の居留意向の関係をみると、「不便なく、安心して暮らしている」人のうち、現在の居住地域で『暮らし続けたい』（「暮らしに不満はなく、暮らし続けたい」「暮らしにくいところもあるが、暮らし続けたい」の計。以下この項目において同じ）と考えている人は94.7%と高くなっている。また、「やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている」人においても、『暮らし続けたい』と考えている人は86.9%と高くなっている。
- 「不便を感じており、不安なことはあるが、なんとか暮らしている」人においては、68.8%が『暮らし続けたい』と考えている。
- 一方で、「とても便利が悪く、暮らしにくい」人では、『暮らし続けたい』は38.8%、『便利な場所で暮らしたい』（「暮らしにくいところがあり、便利な場所（同じ市町村内）で暮らしたい」「暮らしにくいところがあり、便利な場所（異なる市町村内）で暮らしたい」の計）は54.4%と、現在の居住地を離れたと考えている人が半数を超えている。

図 居住地域の暮らしやすさ（問3）と今後の居留意向（問29）



## Ⅳ 調査結果の総合分析

### 【本調査の妥当性について】

- アンケート調査では、同一の設問であっても、対象となる母集団（今回の場合は 18 歳以上の中山間地域住民）から抽出されたサンプルが異なれば、結果に誤差が生じることになる。ただし、多くのサンプル数が集まれば、その誤差は小さくなり、1 回の調査でも調査対象の母集団の意見を正確に反映していることになる。
- 本アンケート調査では、6,207 人からの回答が得られており、統計学上の試算によれば、ある設問の選択肢の回答率が 50%であった場合、サンプルの違いによる誤差は約 1.24%となる。
- アンケートを行う際の一般的に許容される誤差は 3～5%と言われており、本アンケート調査結果で生じるとされる誤差は最大でも約±1.24%であり、今回対象となった中山間地域の住民の意見を適切に反映した結果と考えられる。

### 1. 調査結果のまとめ（調査で把握された生活実態等）

#### 1 買い物や通院など日常生活に必要な施設の主な利用場所については、居住地域内（旧市町村内）が中心となっている。

- 日常生活に必要な施設（かかりつけの医療機関、食料品店、金融機関・キャッシュコーナー、ガソリンスタンド）の利用場所については、7割程度の住民が居住地域内（旧市町村内）にあると回答している。

<いつも利用する施設が居住地域内にあると回答した割合>

・かかりつけの医療機関（かかりつけ医）	67.4%
・食料品店	66.9%
・金融機関	77.8%
・ガソリンスタンド	69.8%

- 旧市役所・町村役場付近に医療機関や食料品店等があることも多いため、周辺部集落と比較して、基幹集落の住民の方が居住地域内の施設を利用している割合が高い。
- ヒアリング調査では、自動車を運転する人は、大型店舗のある現市町村の中心部や近隣の市部を利用する人も多く、休日等を利用してまとめ買いをするといった意見も多くあった。
- 眼科、皮膚科、耳鼻科などの専門的な診療科目の受診は、現市町村の中心部や近隣の市部に通っているとの意見が多くあった。
- 現市町村の中心部や近隣の市部に通勤する人は、買い物、通院等を通勤先など日常的な生活圏の中で行っているとの意見があった。
- 一方で、食料品やガソリンスタンドなどでは、品揃えが少なかったり、価格が高かったりしても、居住地域内の施設を維持していくために買い支える意識を持って利用するとの意見もあった。

## 2 半数程度の人が、日常生活に必要な施設に距離の遠さや不便さ等を感じており、公共交通機関の利用にも不便さを感じている

- 半数程度の人が、かかりつけ医、食料品店、金融機関までの距離が遠い、病院や診療所の受診日が限られていて不便、すぐに受診できる病院や診療所が少ない、身近な店で必要な食料品、日用品がそろわないと感じている。

<『思う』と回答した人の割合>

- ・ かかりつけ医が遠い 49.1%
  - ・ 食料品や日用品を買う小売店が遠い 58%
  - ・ 金融機関またはキャッシュコーナーが遠い 48.5%
  - ・ 病院、診療所の受診できる日が限られていて不便 49.2%
  - ・ すぐに受診できる病院、診療所が少ない 55.6%
  - ・ 身近な店では必要な食料品がそろわない 59.1%
  - ・ 身近な店では必要な日用品がそろわない 63.2%
- 身近になくて不便を感じている施設としては、眼科医院、衣料品を買える店と回答する割合が高くなっている。

<身近になくて不便を感じている施設>

- ・ 眼科医院：49.5%
  - ・ 衣料品を買える店：48.9%
- また、公共交通機関の利用に不便さを感じる人の割合が高くなっている。
    - ・ 公共交通機関が便利に利用できると『思わない』：63%

## 3 住民の多くは主に自動車で移動しており、今後、運転ができなくなった際の暮らしへの影響を心配している。

- 最も多く利用する移動手段について、82%の人が自動車と回答しており、75歳以上でも62.2%の人が自動車を主な移動手段としている。
- 自動車を運転できなくなった場合の暮らしへの影響を懸念する人は多く、54.1%の人が運転できなくなると「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答している。
- 基幹集落と比較すると、生活に必要な施設の少ない周辺部集落の方が「とても不便になり、暮らしにくくなる」と回答した人の割合が高く、自動車での移動が生活に必要だと考えられている。
- ヒアリング調査では、自動車による移動が生活の基本となっているため、実際に免許返納は難しいという意見が多くあった。

**4 移動販売は高齢者や自動車を運転できない人にとって重要な買い物手段となっており、インターネット等による通信販売も若年層を中心に利用されている。**

- 自動車を運転できる人と比較して、運転できない人の方が移動販売を利用している。
- また、移動販売を利用している人で「買い物手段が移動販売車しかない」と回答した人のうち8割程度は「運転できない」人となっている。
- ヒアリング調査でも、高齢者や自動車を運転できない人にとって、移動販売は重要な買い物手段となっているとの意見があった。
- インターネット等による通信販売を利用している人は55%となっており、若い世代で高くなっているが、65～74歳でも46.7%と半数程度が利用しており、買い物手段の一つとなっている。

**5 近くに住んでいる家族等による外出時の送迎、買い物などの手助けは、居住地域での安心した暮らしを支える要因となっている。**

- 別居の家族・親族で生活を手助けしてくれる人がいると回答した人は39.4%となっている。
- 生活を手助けしてくれる別居家族・親族のうち、57%が車で30分以内の地域に居住している。
- 手助けの内容は、外出の送迎が29.7%、買い物が27.5%と日々の暮らしを支えるものが高くなっている。49歳以下では子育てが49.7%と高く、75歳以上では外出の送迎が43.9%、買い物が34.3%と高くなっている。
- ヒアリング調査でも、一人暮らしの高齢世帯で買い物や通院などの手助けをしてもらっているとの意見があった。
- 手助けの回数が減ったり、手助けしてくれる人がいなくなった場合の暮らしへの影響は、24.4%の人が「とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答している。

**6 自治会活動をはじめとした地域での助け合いが住民の暮らしを支えている。**

- 地域の自治会等の活動に「いつも参加している」人は49.3%、「時々参加している」人は22.5%と、全体で7割程度が地域の活動に参加している。
- 地域の自治会等の活動が低下または休止した場合の暮らしへの影響について、現在の暮らしが「とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる」と回答した人は10.6%、75歳以上では15.7%となっており、自治会等の活動を頼りにしている人も一定数いる。
- ヒアリング調査でも、日常的な見守りや自主防災活動等により地域内で助け合っているため、安心して暮らせるとの意見が多くあったほか、通院や買い物の移動、草刈り、雪かきなどに困っている人を地域で支える体制もあり、地域の助け合いが高齢者等の暮らしを支えているとの意見があった。

7 生活に必要な施設・サービスが将来（5年後）も心配なく利用できるかについて、50～64歳で特に不安感が高くなっている。

- いつも利用している施設、サービスが将来（5年後）も心配なく利用できるかについて、日常生活に必要な施設、サービスについて、半数以上の人が『心配である（計）』（「とても心配である」「心配である」「やや心配である」の計。以下この項において同じ）と回答しており、特に、いつも利用する公共交通機関については『心配である（計）』が71%と高くなっている。
- 50～64歳では、他の年齢層と比べると、全ての項目で『心配である（計）』と回答した人の割合が高くなっている。

<『心配である（計）』と回答した割合>

・いつも利用する医療機関	全体：63.6%、50～64歳：71.3%
・いつも利用する食料品店	全体：59.6%、50～64歳：66.3%
・いつも利用する日用品店	全体：57.4%、50～64歳：63%
・いつも利用する金融機関等	全体：58.3%、50～64歳：67.3%
・いつも利用するガソリンスタンド	全体：54.2%、50～64歳：62.9%
・いつも利用する公共交通機関	全体：71%、50～64歳：79.1%

8 多くの住民は生活に何らかの不便を感じながらも、自立した生活ができる限りは、現在の居住地域で暮らし続けたいと考えている。

- 居住地域の暮らしについて、9割程度の住民は何らかの不便を感じて生活している。

<居住地域の暮らしやすさについての回答>

「不便なく、安心して暮らしている」	9.7%
「やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている」	57.2%
「不便を感じており、不安なことはあるが、なんとか暮らしている」	27.8%
「とても便利が悪く、暮らしにくい」	3.6%

- 一方で、8割程度の住民は、今後も現在の居住地域で暮らしたいと考えている。

今後も現在の居住地域で『暮らし続けたい』（「暮らしに不満はなく、暮らし続けたい」「暮らしにくいところもあるが、暮らし続けたい」の計）と考えている人は80.3%

- 居住地域で暮らし続けることができなくなる原因としては、「あなたの健康」が77.6%で最も高く、次いで「自動車の運転ができなくなる」が42.1%となっており、自立した生活ができる限りは住み慣れた地域で暮らし続けたいと考えている。
- また、49歳以下では「あなたの仕事」が50.1%と高くなっており、若い世代では、現在の居住地域で暮らし続ける上で、仕事が続けられる環境であることも重要なことの一つと考えている。

## 2. 調査結果を踏まえた中山間地域対策の方向性

島根県の人口は、一時的に増加する時期はあったものの長らく減少傾向が続いており、平成 22 年と令和 2 年の国勢調査を比較すると、10 年間で約 4.6 万人（6.4%）が減少し、高齢化率（65 歳以上人口の割合）は 5.3 ポイント増加している。

表 1 島根県の人口推移（国勢調査）

年	人口（人）					割合（%）	
	総数	0-14 歳	15-64 歳	65 歳以上	75 歳以上	65 歳以上	75 歳以上
H22	717,397	92,218	414,153	207,398	118,736	29.1	16.6
H27	694,352	86,056	376,877	222,648	121,398	32.5	17.7
R2	671,126	81,641	352,656	227,881	122,490	34.4	18.5
R2-H27	▲ 46,271	▲ 10,577	▲ 61,497	20,483	3,754	5.3	1.9

※国勢調査（総務省）の結果

※人口総数には年齢不詳を含めているため、各年齢区分の計と一致しない（R2 年の各年齢区分の人口は不詳補完前の数値）

県内の中山間地域においては、10 年間で約 5.3 万人（12.7%）が減少し、高齢化率（65 歳以上人口の割合）は 6.8 ポイント増加しており、県全体と比べて、人口減少及び高齢化が進んでいる状況にある。

表 2 中山間地域における人口の推移

年	人口（人）					割合（%）	
	総数	0-14 歳	15-64 歳	65 歳以上	75 歳以上	65 歳以上	75 歳以上
H22	420,816	49,217	232,110	139,058	82,583	33.1	19.6
H27	391,907	44,338	201,199	144,617	81,242	37.1	20.8
R2	367,324	40,336	179,035	145,681	81,496	39.9	22.3
R2-H22	▲ 53,492	▲ 8,881	▲ 53,075	6,623	▲ 1,087	6.8	2.7

※国勢調査（総務省）結果をもとに島根県中山間地域・離島振興課が算出

※中山間地域は令和 4 年 4 月 1 日時点の指定地域

平成 30 年 3 月に国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）がまとめた「日本の地域別将来推計人口」によると、県内の高齢者（65 歳以上）人口は、令和 2 年頃をピークに減少に転ずるが、高齢化率は引き続き増加する見込みとなっている。

前期高齢者（65～74 歳）人口についても、令和 2 年頃をピークに減少に転ずるが、団塊ジュニア世代の高齢化により、令和 22 年頃には再び増加することが見込まれている。

後期高齢者（75 歳以上）人口は、団塊の世代のさらなる高齢化により、令和 2 年から令和 12 年までの 10 年間では約 1.9 万人の増加が見込まれている。

表 3 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 3 月推計）」

年	人口(人)						割合(%)		
	総数	0-14 歳	15-64 歳	65 歳以上	65-74 歳	75 歳以上	65 歳以上	65-74 歳	75 歳以上
H2	781,021	143,884	494,253	142,061	82,161	59,900	18.2	10.5	7.7
H7	771,441	126,403	477,919	167,040	96,570	70,470	21.7	12.5	9.1
H12	761,503	111,982	460,103	189,031	103,346	85,685	24.8	13.6	11.3
H17	742,223	100,542	439,471	201,103	96,239	104,864	27.1	13.0	14.1
H22	717,397	92,218	414,153	207,398	88,662	118,736	29.1	12.4	16.6
H27	694,352	86,056	376,877	222,648	101,250	121,398	32.5	14.8	17.7
R2	669,797	81,489	355,208	233,100	107,424	125,676	34.8	16.0	18.8
R7	642,787	76,203	335,195	231,389	92,244	139,145	36.0	14.4	21.6
R12	615,424	71,080	319,377	224,967	80,748	144,219	36.6	13.1	23.4
R17	587,556	66,336	303,960	217,260	75,584	141,676	37.0	12.9	24.1
R22	558,290	62,832	280,285	215,173	80,881	134,292	38.5	14.5	24.1

※平成 27 年以前は国勢調査（総務省）

※令和 2 年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計値



県内市町村の人口について、令和2年国勢調査と社人研「日本の地域別将来推計人口」の令和7年推計値を比較すると、すべての市町村において総人口は減少し、松江市や出雲市、安来市を除く市町村では高齢者（65歳以上）人口についても減少する見込みとなっている。

また、後期高齢者（75歳以上）人口が多く市の町村で増加する見込みである一方で、美郷町及び津和野町では減少する見込みとなっている。

表4 市町村人口の状況

(単位：人)

市区町村	R2			R7			R7-R2		
	総人口	65歳以上	75歳以上	総人口	65歳以上	75歳以上	総人口	65歳以上	75歳以上
島根県	671,126	227,881	122,490	642,787	231,389	139,145	-28,339	3,508	16,655
松江市	203,616	59,498	31,598	198,604	63,306	37,782	-5,012	3,808	6,184
浜田市	54,592	19,445	10,545	52,030	18,897	11,462	-2,562	-548	917
出雲市	172,775	51,944	27,198	170,061	53,966	31,879	-2,714	2,022	4,681
益田市	45,003	17,017	8,997	42,382	16,896	10,022	-2,621	-121	1,025
大田市	32,846	13,264	7,284	29,727	12,972	7,697	-3,119	-292	413
安来市	37,062	13,835	7,521	34,802	14,051	8,844	-2,260	216	1,323
江津市	22,959	9,008	4,901	21,277	8,509	5,069	-1,682	-499	168
雲南市	36,007	14,422	7,878	33,610	14,254	8,615	-2,397	-168	737
奥出雲町	11,849	5,130	2,888	10,555	5,074	3,140	-1,294	-56	252
飯南町	4,577	2,114	1,254	4,089	2,026	1,296	-488	-88	42
川本町	3,248	1,433	836	2,807	1,327	873	-441	-106	37
美郷町	4,355	2,084	1,203	3,905	1,895	1,181	-450	-189	-22
邑南町	10,163	4,582	2,666	9,471	4,400	2,787	-692	-182	121
津和野町	6,875	3,337	1,932	6,091	3,070	1,924	-784	-267	-8
吉賀町	6,077	2,720	1,571	5,485	2,641	1,674	-592	-79	103
海士町	2,267	905	493	2,150	893	529	-117	-12	36
西ノ島町	2,788	1,289	668	2,549	1,246	738	-239	-43	70
知夫村	634	284	151	503	274	174	-131	-10	23
隠岐の島町	13,433	5,570	2,906	12,689	5,692	3,459	-744	122	553

※令和2年は国勢調査（総務省）

※令和7年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」の推計値

今後も、島根県、特に中山間地域においては、後期高齢者（75歳以上）人口が増加し、手助けが必要となる人がさらに増えることが見込まれる。

本調査の結果を踏まえた対策の方向性については次のとおりである。

## (1) 小さな拠点づくりの推進

島根県では、住民主体で生活機能の維持、確保などの仕組みづくりを行う「小さな拠点づくり」を市町村と連携して支援しており、令和5年1月末時点において中山間地域の全251公民館エリアのうち141エリアでこの取組が進められている。

各公民館エリアで進められている「小さな拠点づくり」の内容をみると、高齢者サロンや見守り・声かけ等の高齢者支援、自主防災組織の設立や防災マップ作成などの防災活動など、比較的取り組みやすい活動が多く地域で進められている。一方で、担い手の確保や仕組みづくりに時間がかかるものの、自治会輸送や自家用有償旅客運送などの移動支援、商店の運営や移動販売の誘致等の買い物支援などの取組は、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりに効果をあげている。

今回のアンケート調査結果をみると、自動車の運転ができなくなった際の暮らしへの不安感が高く、運転できない人の移動販売へのニーズが高いことなどが明らかとなった。

また、ヒアリング調査では、地域における日常的な交流活動や見守り、生活支援などが高齢者世帯等の住民の暮らしを支えているといった状況を確認している。

そのため、引き続き「小さな拠点づくり」の取組を支援し、地域の共助の仕組みにより、住民生活を支えていくことは重要であり、今後も、好事例の紹介や継続的な支援により、移動支援や買い物支援など住民主体で生活機能を維持、確保する取組を進めていくことが必要である。

### 【小さな拠点づくりによる好事例】

#### ○大田市 久利・大屋地区における自治会輸送の取組

- ・従来から学校を通じたつながりの強い両地区が連携して、大田市久利地区で実施していた互助による輸送（デマンド型自治会輸送）を大屋地区に拡大し、移動手段確保等の地域課題解決のための合同の推進組織を設立し、自治会輸送の取組を開始。

◇実施主体：久利・大屋地区小さな拠点推進協議会

◇運転者：地区住民

◇利用状況（令和3年度実績）：利用登録者数は43名（久利地区24名、大屋地区19名）。

#### ○浜田市 岡見地区づくり推進委員会によるわくわくマーケットの取組

- ・地区唯一のスーパーマーケットが閉店したため、アンケートで買い物弱者対策の必要性を把握し、移動販売車の誘致と店舗販売（わくわくマーケット）を実施。
- ・スーパーマーケットが交流の場も兼ねていたことから、店舗内に「にこにこサロン」を併設。買い物・交流の拠点となり、高齢者の引きこもりの防止、集うことの楽しみにつながっている。

◇実施主体：岡見地区まちづくり推進委員会

◇利用状況：毎回20人程度が訪れ賑わいをみせている

## (2) 日常生活に必要な施設の維持、確保

アンケート調査によると、買い物や通院など日常生活に必要な施設の主な利用場所については、約7割が居住地域内（旧市町村内）にあると回答している。また、ヒアリング調査では、休日に出かけた際や通勤時に、近隣の大型店舗等を利用している住民も多くいることも確認している。

日常生活に必要な施設の状況をみると、平成合併前の旧市町村単位（59 エリア）では、スーパーや商店などの買い物施設、病院や診療所の医療施設は 59 エリア全てで維持され、燃料の購入先となるガソリンスタンドは 1 エリアのみ店舗がない状況にあるが、調査時点においては、日常生活に必要な基礎的な機能は概ね確保されている。

表5 中山間地域の生活機能の確保状況

市町村 (19)	旧市町村 (平成合併前)	H30 中山間地域指定 (辺地を除く)	買い物		燃料	交通	医療	
			スーパー	コンビニ	G S	タクシー	病院	診療所
松江市	松江市	本庄、秋鹿、大野	2	1	1	2	0	4
	鹿島町	御津、恵曇、講武	0	3	-	2	1	0
	島根町	(全域)	0	0	1	0	0	2
	美保関町	(全域)	0	1	1	0	0	3
	八雲村	(全域)	1	1	1	0	0	3
	八束町	(全域)	1	1	1	1	0	2
浜田市	浜田市	(全域)	14	19	17	7	3	38
	金城町	(全域)	1	1	4	1	0	3
	旭町	(全域)	1	0	4	1	0	3
	弥栄村	(全域)	1	0	1	1	0	1
	三隅町	(全域)	2	1	3	0	1	3
出雲市	出雲市	園、朝山、稗原、乙立、上津	0	1	-	0	0	6
	平田市	鱒淵、西田、北浜、佐香、伊野	0	1	3	0	0	4
	斐川町	阿宮	0	0	-	0	0	0
	佐田町	(全域)	1	0	2	1	0	3
	多伎町	(全域)	1	1	1	1	0	1
	大社町	荒木、日御碕、鶉鷺	3	3	2	1	0	7
益田市	益田市	益田、安田以外	2	3	6	1	0	4
	美都町	(全域)	0	1	1	0	0	3
	匹見町	(全域)	0	0	1	1	0	3
大田市	大田市	(全域)	8	8	16	5	2	25
	温泉津町	(全域)	0	0	2	1	0	1
	仁摩町	(全域)	1	1	1	1	0	2
安来市	安来市	大塚、飯梨、宇賀荘	1	2	1	0	0	1
	広瀬町	(全域)	4	2	4	2	1	3
	伯太町	(全域)	0	1	1	1	0	5
江津市	江津市	(全域)	10	11	11	6	2	19
	桜江町	(全域)	1	1	1	2	0	4

表5 中山間地域の生活機能の確保状況（つづき）

市町村 (19)	旧市町村 (平成合併前)	H30 中山間地域指定 (辺地を除く)	買い物		燃料	交通	医療	
			スーパー	コンビニ	GS	タクシー	病院	診療所
雲南市	大東町	(全域)	4	2	5	2	1	4
	加茂町	(全域)	1	1	2	1	0	3
	木次町	(全域)	4	2	4	0	1	7
	三刀屋町	(全域)	3	4	3	1	1	5
	吉田村	(全域)	1	0	3	0	0	1
	掛合町	(全域)	1	1	2	1	0	3
奥出雲町	仁多町	(全域)	1	2	5	1	1	2
	横田町	(全域)	3	2	4	2	0	5
飯南町	頓原町	(全域)	1	0	3	1	1	1
	赤来町	(全域)	2	1	3	1	0	2
川本町	川本町	(全域)	3	1	4	1	1	0
美郷町	邑智町	(全域)	1	1	3	3	0	4
	大和村	(全域)	0	0	2	1	0	2
邑南町	羽須美村	(全域)	0	0	2	0	0	2
	瑞穂町	(全域)	0	2	5	1	0	5
	石見町	(全域)	3	1	7	2	1	4
津和野町	津和野町	(全域)	1	1	2	1	1	2
	日原町	(全域)	0	1	2	2	0	2
吉賀町	柿木村	(全域)	0	0	2	1	0	2
	六日市町	(全域)	2	1	5	1	1	1
海士町	海士町	(全域)	0	0	3	2	0	1
西ノ島町	西ノ島町	(全域)	1	0	3	2	1	2
知夫村	知夫村	(全域)	0	0	1	0	0	1
隠岐の島町	西郷町	(全域)	3	0	10	8	1	5
	布施村	(全域)	0	0	0	0	0	1
	五箇村	(全域)	0	0	3	1	0	1
	都万村	(全域)	0	0	2	1	0	2

注) ① 平成 30 年 4 月 1 日時点において、全域が中山間地域でない旧市町村（東出雲町、玉湯町、宍道町、湖陵町）は表に含まれていない

② GS（ガソリンスタンド）：平成 30 年度の中山間地域のガソリンスタンド等実態調査を基に聞き取り等により運営状況を確認（令和 4 年 8 月島根県中山間地域・離島振興課調査）

③ タクシー事業者：営業所数（令和 4 年 9 月島根県交通対策課調査）

④ スーパー、コンビニ：平成 30 年度地域実態調査（島根県中山間地域・離島振興課）

⑤ 病院、診療所：病院一覧、一般診療所一覧（令和 4 年 10 月島根県医療政策課調査）

⑥ - : データなし

県内の中山間地域においては、平成 22 年から令和 2 年の 10 年間で、後期高齢化率（75 歳以上人口の割合）は 19.6%から 22.3%と 2.7 ポイント上昇している（P99, 表 2）。今後も当面の間は上昇することが見込まれ（P100, 表 3）、運転できなくなる人のさらなる増加により、身近な場所で買い物、通院等ができることの重要性がますます高くなると考えられる。

また、若年層を中心に、中山間地域から都市部への人口流出が続いており、さらなる人口減少は避けて通れない状況にある。こうした状況下では、担い手不足や買い物客の減少等を発端とした経営の合理化等により、民間事業者の廃業、撤退等が進み、住民生活に支障が出る可能性がある。

これらの状況を踏まえ、今後は、旧市町村単位で日常生活に必要な機能を維持、確保していく取り組みを、行政がより関与しながら進めていく必要があると考えられる。

### （3）中年層（50～64 歳）の将来不安の解消

公共交通機関や医療機関、食料品店など、いつも利用している生活に必要な施設、サービスが将来も心配なく利用できると思うかについて、50～64 歳では、全ての項目で『心配である（計）』が最も高くなっている（P22, 問 5）。

その要因としては、以下の点が影響していると推察される。

- ・現在の居住地で暮らし続けることができなくなる理由として、49 歳以下では「あなたの健康」が 54.4%であるのに対し、50～64 歳では 83%と高くなっており、健康面での不安が顕在化する年代になっていること
- ・49 歳以下では 61.4%が「親」に、75 歳以上では 63.3%が「子」に手助けをしてもらっており、50～64 歳は 49 歳以下の「親」であり、また 75 歳以上の「子」である場合が多いため、親と子の両世代から生活の支援を期待され、生活に必要な施設等が身近な地域からなくなることで、負担がさらに増大する可能性があること
- ・自治会活動等の参加状況（P76, 問 25）をみると、「いつも参加している」が最も高いのは 65～74 歳（64.7%）であり、50～64 歳は将来的にこの年代となったときに、地域の中心となって活動することが期待されていること。

以上のことから、50～64 歳は、自身等の健康への不安を持ちつつ、家族間の手助けである「自助」と、自治活動等の地域における「共助」の主な担い手として期待を持たれるなど、様々な負担が大きくなる時期といえる。

また、50～64 歳が、生活に必要な施設、サービスの将来に対して多くの不安を抱え、地域での生活を「暮らしづらい」と感じた場合、居住地を移すことにつながる可能性もあり、地域の存続にも大きな影響を与えることが懸念される。

そのため 50～64 歳の年齢層のニーズを把握し、不安解消への対応を図り、中山間地域に住み続けられる環境づくりを進めていくことが重要と考えられる。

## 参考資料

1. 調査対象地域の選定
2. アンケート調査の標本誤差と信頼度
3. アンケート調査票
4. 調査対象地区別ヒアリングの主な意見

## 1. 調査対象地域の選定

○令和4年4月1日時点で中山間地域に指定されている平成合併前の旧59市町村から、人口及び集落の状況、人口推計、生活機能関連施設までの時間等を下記のとおり総合的に評価し、県と市町村で協議の上、調査対象地域を選定した。

○総合的な評価の指標としては、「全集落数に占める小規模高齢化集落数の割合」「10年後の推計人口」「集落から最寄りの生活関連施設への平均アクセス時間」「人口変化率」「一人暮らし高齢者世帯・高齢者夫婦世帯率」を用いた。

指標	内容	データ
指標A	・全集落数に占める小規模高齢化集落数の割合 (H30)	・平成30年地域実態調査 (島根県)
指標B	・10年後の推計人口 (R3-R13、後期高齢化率、人口減少率)	・将来人口推計 (島根県中山間地域研究センター)
指標C	・集落から最寄りの生活関連施設 (スーパーマーケット、病院、役場 (支所)、ATM等) までの平均アクセス時間 (H30)	・平成30年地域実態調査 (島根県)
指標D	・人口変化率 (H27-R2)	・国勢調査 (総務省)
指標E	・一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦世帯率 (R2)	・国勢調査 (総務省)





市町村	旧市町村	指標A		指標B		指標C											指標D		指標E		調査対象地域
		全集落数に占める小規模高齢化集落数の割合		10年後の推計人口		集落から最寄りの生活関連施設までの平均アクセス時間											H27-R2人口変化率		一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦世帯率(R2年)		
		H30年		R13年	R3-13年	H30年											最長項目数	11指標平均	%	割合	
		高齢化率50%以上かつ世帯数19戸以下	高齢化率70%以上かつ世帯数9戸以下	後期高齢化率	人口減少率	市役所・支所	コンビニ	スーパー	ATM(金融機関・コンビニ)	病院	病院(診療所含む)	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高校	介護施設(入所型)					
%	%	%	%	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	個	分	%	割合		
松江市	松江市	0.0	0.0	18.3	5.5	10.9	5.3	6.1	2.1	15.4	3.1	3.1	3.2	5.1	14.2	3.2	0	6.5	-1.3	22.0	
	鹿島町	7.4	0.0	28.5	20.2	5.1	2.8	2.5	2.0	5.1	4.3	2.2	2.4	4.1	11.8	3.5	0	4.2	-0.9	28.7	
	島根町	0.0	0.0	34.7	22.1	4.9	4.9	13.3	1.8	17.1	2.2	2.9	5.2	5.2	17.2	3.7	0	7.1	-10.5	33.1	
	美保関町	0.0	0.0	36.1	24.2	11.0	7.7	17.5	2.4	30.2	5.0	5.9	11.7	12.0	25.9	9.5	7	12.6	-9.8	36.1	
	八雲村	5.5	0.0	24.4	6.7	4.4	4.5	4.7	2.8	9.8	3.1	3.7	4.4	4.6	9.0	5.3	0	5.1	2.3	26.4	
	宍道町	0.0	0.0	25.8	10.8	12.5	10.3	11.7	6.7	10.8	6.6	4.5	4.3	6.6	10.8	7.2	4	8.4	5.9	24.1	
	八束町	0.0	0.0	24.3	8.0	2.8	2.6	2.4	1.4	21.1	2.4	2.4	2.8	2.8	15.9	3.1	0	5.4	-4.0	29.2	
浜田市	浜田市	8.1	0.8	24.0	14.9	6.6	2.5	3.0	1.6	5.1	1.9	2.0	3.0	3.9	5.2	2.9	0	3.4	-5.8	29.2	
	金城町	40.0	1.4	30.4	18.6	9.7	10.0	9.7	4.9	21.4	5.0	4.5	5.2	10.0	18.7	7.6	5	9.7	-7.6	34.6	
	旭町	38.6	1.8	29.8	15.9	7.0	17.1	6.6	2.1	23.0	4.0	6.1	10.9	8.2	20.8	5.4	4	10.1	-17.3	35.7	
	弥栄村	43.3	13.3	39.0	27.7	6.1	19.3	6.1	4.0	21.6	7.0	4.2	6.5	7.4	20.6	6.9	2	10.0	-13.0	43.1	
出雲市	三隅町	25.8	4.5	30.7	16.7	7.2	7.1	6.7	3.0	9.4	4.9	5.4	6.9	8.1	22.3	6.3	1	7.9	2.2	32.7	
	出雲市	0.0	0.0	16.0	-4.2	10.9	4.0	7.9	1.6	9.0	2.9	3.5	3.7	6.2	7.7	5.1	0	5.7	3.2	17.9	
	平田市	4.3	0.0	25.5	14.4	12.4	9.2	11.1	2.8	13.8	6.6	6.4	4.0	11.0	12.7	5.3	4	8.7	-6.6	24.4	
	斐川町	0.0	0.0	15.8	-10.7	8.1	4.4	4.6	3.0	8.6	3.5	3.9	4.0	7.8	9.9	4.9	1	5.7	3.7	16.1	
	佐田町	0.0	0.0	38.1	27.0	9.6	10.9	9.4	2.9	23.6	5.1	5.9	6.0	8.9	22.2	7.5	3	10.2	-12.3	34.5	
益田市	多伎町	0.0	0.0	32.5	19.1	5.7	5.8	5.9	2.1	17.3	5.6	12.7	6.2	6.3	17.3	2.9	1	8.0	-9.6	35.3	
	大社町	0.0	0.0	25.1	10.8	9.2	8.1	8.3	1.0	18.6	1.1	8.3	7.8	9.1	11.3	8.4	2	8.3	-3.0	28.9	
	益田市	16.0	2.7	25.5	12.3	15.5	9.6	8.5	2.9	12.7	6.2	3.9	4.8	5.0	13.9	6.9	1	8.2	-5.0	32.3	
	美都町	35.0	10.0	39.9	23.0	5.2	6.2	16.4	3.0	18.8	3.3	3.7	3.4	4.9	16.3	3.3	0	7.7	-14.4	44.6	
大田市	匹見町	67.4	28.3	50.0	32.8	10.7	29.2	30.6	5.6	39.8	7.7	12.3	11.1	10.5	36.6	10.3	10	18.6	-18.3	59.1	
	大田市	23.7	5.6	26.7	14.1	11.5	8.2	9.2	2.1	11.5	3.7	3.5	3.6	6.6	11.4	6.1	1	7.0	-5.2	33.0	
	温泉津町	36.8	1.3	35.8	24.7	7.1	10.7	14.5	3.0	19.8	4.9	4.5	8.4	15.4	14.8	6.6	10	10.0	-14.1	45.7	
	仁摩町	27.6	1.7	32.3	21.9	3.8	3.7	3.7	1.4	17.5	3.4	3.0	4.2	4.1	3.8	3.5	0	4.7	-10.8	39.9	
安来市	安来市	6.3	0.0	24.0	11.4	7.3	6.7	3.8	2.4	7.8	3.7	2.9	2.8	4.9	6.4	4.7	0	4.9	-4.8	24.7	
	広瀬町	23.7	2.1	31.5	20.8	11.2	9.7	6.4	3.2	11.3	6.0	4.9	4.2	10.9	18.2	6.4	8	8.4	-10.1	31.1	
	伯太町	25.0	2.7	29.4	20.0	7.5	7.3	10.5	2.8	17.5	2.8	3.5	3.6	7.7	16.2	6.5	3	7.8	-8.8	27.0	
江津市	江津市	10.5	1.6	25.7	12.1	9.3	3.2	5.5	1.6	8.1	2.0	2.7	3.7	4.9	6.0	3.4	1	4.6	-5.4	36.7	
	桜江町	9.7	6.5	35.6	24.1	6.7	7.6	6.0	2.7	20.3	3.3	5.6	7.0	6.9	20.3	5.6	10	8.4	-12.7	43.2	
雲南市	大東町	7.5	0.0	28.8	18.4	5.8	5.3	5.7	2.4	6.3	3.5	3.6	3.6	6.4	6.2	4.5	0	4.8	-8.7	27.5	
	加茂町	6.2	1.5	26.9	13.4	2.4	2.4	2.4	1.8	8.6	2.2	2.5	2.5	3.1	9.7	2.0	0	3.6	-5.7	24.5	
	木次町	11.1	0.9	25.5	15.6	6.2	5.2	4.0	1.6	5.1	2.0	2.8	2.2	4.8	8.8	3.5	0	4.2	-5.8	26.2	
	三刀屋町	17.9	2.6	29.3	17.4	5.3	5.0	7.5	2.2	6.6	4.4	4.0	5.0	5.7	5.6	4.3	0	5.1	-6.9	26.7	
	吉田村	12.5	0.0	38.0	26.4	7.5	14.8	6.9	4.3	18.1	4.6	10.6	10.3	14.1	14.3	11.1	9	10.6	-11.4	34.9	
奥出雲町	掛合町	27.3	3.0	34.3	25.8	8.3	8.3	12.2	1.7	15.5	4.0	8.1	8.0	8.3	8.0	6.9	2	8.1	-13.3	34.7	
	仁多町	9.4	0.0	31.6	20.4	7.5	6.4	7.6	2.6	7.4	5.4	2.9	2.8	7.4	17.4	4.8	4	6.6	-8.8	28.3	
飯南町	横田町	2.4	0.0	34.4	22.2	7.5	6.7	6.9	3.0	15.7	4.2	3.3	3.4	7.7	8.2	7.1	7	6.7	-9.8	33.5	
	頓原町	41.6	11.7	34.0	20.9	8.8	15.2	7.5	2.6	8.7	3.4	4.0	3.9	9.1	15.3	7.3	10	7.8	-10.9	37.5	
川本町	赤来町	25.0	0.0	29.1	12.0	4.6	4.5	3.1	2.3	13.7	2.5	3.2	3.4	5.2	6.8	4.0	1	4.8	-7.4	35.8	
	川本町	42.1	3.5	30.5	14.3	9.1	9.7	8.7	3.7	8.7	6.4	4.3	8.8	9.0	9.5	6.8	11	7.7	-5.6	41.5	
美郷町	邑智町	32.8	7.5	34.0	22.4	8.1	7.8	7.2	2.5	19.8	4.7	8.5	8.1	8.1	18.2	8.9	6	9.3	-11.0	43.4	
	大和村	50.0	4.5	34.8	20.0	5.8	16.9	16.7	2.9	29.3	4.3	5.6	5.9	5.6	23.7	4.6	5	11.0	-11.4	45.8	
津和野町	津和野町	36.4	6.1	36.0	18.2	8.9	8.6	8.4	3.2	8.8	7.0	4.9	5.2	8.6	8.5	8.0	5	7.3	-9.1	45.9	
	日原町	23.4	8.5	34.9	22.6	6.4	6.8	16.0	3.7	17.6	6.0	5.4	5.3	6.9	18.7	5.6	6	9.0	-11.5	39.9	
吉賀町	柿木村	28.6	0.0	36.3	16.8	6.0	20.6	20.5	5.7	21.5	5.9	6.4	6.3	6.1	14.7	6.4	9	10.9	-6.0	46.4	
	六日市町	33.0	8.3	29.6	12.4	7.6	8.2	7.3	3.0	7.7	7.1	4.2	3.5	4.2	8.9	5.0	2	6.1	-4.3	35.9	
海士町	海士町	14.3	0.0	21.8	-2.9	6.1	-	36.0	2.3	7.0	6.1	6.4	5.6	6.1	9.8	6.5	10	9.2	-3.7	36.3	
西ノ島町	西ノ島町	0.0	0.0	32.7	13.9	5.1	-	40.0	3.9	7.1	4.5	5.2	9.5	9.5	7.5	4.7	10	9.7	-7.9	42.2	
知夫村	知夫村	0.0	0.0	24.3	-16.0	4.0	-	52.0	4.0	16.0	3.9	4.3	4.0	4.0	17.5	16.0	10	12.6	3.1	46.5	
隠岐の島町	西郷町	4.7	0.0	26.4	10.5	6.2	-	7.4	1.7	8.2	3.8	2.8	3.5	7.1	7.6	4.1	0	5.2	-7.2	37.7	
	布施村	7.1	0.0	39.0	29.2	2.9	-	22.0	3.0	23.2	3.2	8.5	8.6	21.9	21.1	8.1	7	12.3	-13.7	48.7	
	五箇村	8.3	0.0	31.4	21.2	5.2	-	20.1	3.2	21.9	4.4	5.5	5.3	5.4	20.9	5.4	1	9.7	-9.4	38.7	
	都万村	6.7	6.7	30.2	15.8	6.3	-	19.8	3.5	20.6	4.2	6.5	6.4	6.8	20.6	6.7	2	10.2	-10.7	41.1	

※■のセルは現市町村内で最も下位の旧市町村。



## 2. アンケート調査の標本誤差と信頼度

### (1) 標本誤差と信頼度の概要

アンケート調査では、母集団※1 から無作為に抽出した標本データ※2 を元に、調査対象の全体を推計するため、得られた回答に誤差が生じる可能性がある。

その誤差は、標本誤差と呼ばれており、標本誤差の推定が 100 回のうち 95 回当たる、すなわちその度合いで正確さが保証できるという場合、信頼度 95% と呼ぶ。

通常のアンケート調査の場合は、信頼度 95% を用いるのが一般的であり、許容できる標本誤差の範囲は、3%～5% が望ましいとされている。

※1…今回の調査では、島根県中山間地域に居住する 18 歳以上の住民

※2…今回の調査では、アンケート回収数である 6,207 人

### (2) 標本誤差の計算式

母集団が N 人、標本データが n 人、ある選択肢の回答値が P% とすると、信頼度 95% における、標本誤差 E% の計算式（母集団が 10,000 人以上の場合）は、以下の通りとなる。

$$E = 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$$

※1.96 は信頼度 95% の係数

### (2) 本アンケートでの標本誤差

本アンケート調査では、6,207 人からの回答が得られており、例えば、ある選択肢の回答率が 50% であった場合、標本誤差は約 1.24%※3 となるため、母集団すなわち島根県中山間地域住民の当該選択肢の選択率は、95% の確率で 48.76% (50%-1.24%) から 51.24% (50%+1.24%) の間にあるといえる。

なお、標本誤差は、回答値が 50% の時に最も高く、回答率が 0% もしくは 100% に近づくほど減少する。

$$\text{※3…標本誤差 } E = 1.96 \times \sqrt{\frac{50 \times (100-50)}{6,207}} = 1.24$$

以上より、本アンケート調査では、標本誤差が最大でも ±1.24% となり、許容できる標本誤差の範囲である 3～5% を下回る水準にあるため、母集団に対し妥当な標本データ数を得ることができたといえる。

#### <早見表>

回答比率(p) 標本数(n)	5%または 95%程度	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
100	±4.27	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80
200	±3.02	±4.16	±5.54	±6.35	±6.79	±6.93
500	±1.91	±2.63	±3.51	±4.02	±4.29	±4.38
1,000	±1.35	±1.86	±2.48	±2.84	±3.04	±3.10
5,000	±0.60	±0.83	±1.11	±1.27	±1.36	±1.39
6,207	±0.54	±0.75	±1.00	±1.14	±1.22	±1.24
10,000	±0.43	±0.59	±0.78	±0.90	±1.06	±0.98

## 中山間地域住民の生活実態に関する調査

### ～ご協力をお願い～

島根県の中山間地域は、県人口の約 54%が暮らし、地域での助け合いや、人と人との絆の中で、県民の皆さまがいきいきと働き、暮らしていく場として、かけがえのない価値を持っています。

また、自然、歴史、伝統文化や地域資源をいかした観光・レジャーなどは、県外の皆さまにとっても、魅力あふれるものとして受け入れられています。

一方で、中山間地域では、若者を中心とした人口の流出、高齢化の進行により、担い手不足が深刻化し、買い物や通院への移動など日常生活に影響が出ている地域が増えてきています。

そのため、県では、今後も安心して住み続けることができるように、対策の検討を進めるため、このたび、中山間地域にお住まいの皆さまから、現在の生活実態をお聞きするアンケート調査を実施することとしました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年7月

※本調査は、島根県が市町村の協力を得て、中国創研・山陰合銀共同事業体（代表機関 公益財団法人中国地域創造研究センター）に委託して実施しています。

1. この調査は、県内の中山間地域（18 エリア）に住民登録をされている 18 歳以上の方 12,000 人を無作為に選ばせていただき、アンケート調査を行うものです。
2. 本アンケート調査の所要時間は約 20 分です。
3. お送りしたあて名のご本人がお答えください。ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意志を反映してご家族の方などがご記入をお願いします。
4. 転出や死亡等により住民基本台帳の記録が削除された方で、調査票が届きました場合、お手数をお掛けして申し訳ありませんが、破棄してください。
5. 調査票は無記名としており、どなたのものか分からないようになっています。お答えいただいた内容については、すべて統計的に処理し、本調査の目的以外に用いることはありません。
6. ご回答は、当てはまる番号を設問に記載する回答数だけ「○」で囲むか、回答欄に選択肢番号を直接ご記入ください。また、「その他」に当てはまるときは、具体的な内容を（ ）内にご記入をお願いします。  
なお、一部、住所をお尋ねする設問がありますので、記載例を参考にご記入をお願いします。
7. インターネットでの回答も可能です。お持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどから、下記 URL または二次元バーコードから回答用サイトに進んでいただき、ご回答をお願いします。

**回答用インターネットサイト**

URL <https://questant.jp/q/shimane2022chusankan1>

**二次元バーコード**



8. インターネットではなく、この「調査票」により回答される場合は、記入後、同封の返信用封筒に入れて、令和 4 年 8 月 5 日（金）までに郵便ポストにご投函ください。（切手は不要です。）
9. アンケートの集計結果につきましては、ホームページ等を通じて皆さまにお知らせする予定です。

<調査に関するお問い合わせ先>

島根県地域振興部中山間地域・離島振興課

電話：0852-22-5065

メール：chusankan-rito@pref.shimane.lg.jp

# 中山間地域住民の生活実態に関する調査 調査票

## 1. 生活利便性について

問 1

あなたは、日々の暮らしについてどのように感じていますか。  
(①～⑫の項目にそれぞれ○を1つ)

項 目	選 択 肢					
	とても そう思う	そう 思う	どちらか と そう 思う	どちらか と 思 わない	そう 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
①かかりつけ医が遠い	1	2	3	4	5	6
②食料品や日用品を買う小売店が遠い	1	2	3	4	5	6
③ガソリンスタンドが遠い	1	2	3	4	5	6
④金融機関またはキャッシュコーナーが遠い	1	2	3	4	5	6
⑤子どもを預ける保育所・幼稚園等が遠い	1	2	3	4	5	6
⑥子どもを通わせる小中学校が遠い	1	2	3	4	5	6
⑦子どもを通わせる高等学校が遠い	1	2	3	4	5	6
⑧病院、診療所の受診できる日が限られていて不便	1	2	3	4	5	6
⑨食料品や日用品を買える日が限られていて不便	1	2	3	4	5	6
⑩すぐに受診できる病院、診療所が少ない	1	2	3	4	5	6
⑪身近な店では必要な食料品がそろわない	1	2	3	4	5	6
⑫身近な店では必要な日用品がそろわない	1	2	3	4	5	6

問2

あなたが、近くになくて不便を感じている施設は何ですか。  
(○はいくつでも)

1. 内科医院	8. 食料品を買える店	15. 保育所・幼稚園等
2. 小児科医院	9. 日用品を買える店	16. 小学校
3. 整形外科医院	10. 医薬品を買える店	17. 中学校
4. 皮膚科医院	11. 衣料品を買える店	18. 高等学校
5. 産婦人科医院	12. 農業資材等を買える店	19. その他 ( )
6. 眼科医院	13. 金融機関・ キャッシュコーナー	
7. 歯科医院	14. ガソリンスタンド	

問3

あなたのお住まいの地域は暮らしやすいですか。(○は1つ)

1. 不便なく、安心して暮らしている
2. やや不便ではあるが、大きな問題はなく暮らしている
3. 不便を感じており、不安なことはあるが、なんとか暮らしている
4. とても便利が悪く、暮らしにくい

問4

あなたは、日々の暮らしの中で次の項目をどう思いますか。  
(①～⑤の項目にそれぞれ○を1つ)

項目	選択肢					
	とても そう思う	そう 思う	そう 思う	ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば	ま っ た く そ う 思 わ な い
①自家用車などでいつでも移動できる	1	2	3	4	5	6
②公共交通機関が便利に利用できる (JR・バス・タクシー・船など)	1	2	3	4	5	6
③自宅でインターネットが快適につながる	1	2	3	4	5	6
④携帯電話が不便なくつながる	1	2	3	4	5	6
⑤草刈りなど周辺地域の管理が行き届いている	1	2	3	4	5	6

問5

今後、人口減少や高齢化が進むと、生活に必要な施設が減っていく懸念があります。以下の①～⑦の施設やサービスについて、将来（5年後）を想像したときに、なくなったりしないかと、あなたが心配になるものはありますか。  
 (①～⑦の項目にそれぞれ○を1つ)

項目	選択肢				
	していない	まったく心配していない	あまり心配していません	やや心配です	心配である
①いつも利用する医療機関（かかりつけ医）	1	2	3	4	5
②いつも利用する食料品店（スーパーマーケット・商店等）	1	2	3	4	5
③いつも利用する日用品店 （スーパーマーケット・ドラッグストア・ホームセンター等）	1	2	3	4	5
④いつも利用する金融機関またはキャッシュコーナー	1	2	3	4	5
⑤いつも利用するガソリンスタンド	1	2	3	4	5
⑥子どもが通う小中学校、保育所等	1	2	3	4	5
⑦いつも利用する公共交通機関 （JR・バス・タクシー・船など）	1	2	3	4	5

問6

あなたがいつも利用している①～⑤の施設の場所と、その施設がなくなったとき代わりになると思う施設の場所を、記入例を参考に記載してください。  
 ※現在利用している施設や代わりとなる施設がない場合は「なし」、施設がどこにあるかわからない場合は「わからない」と記入してください。

施設	所在地	(1) 現在利用している施設	(2) 代わりとなる施設
(記入例) ①かかりつけの医療機関		江津市敬川町	浜田市浅井町
①かかりつけの医療機関 (歯科診療所を除く)			
②かかりつけの歯科診療所			
③食料品店 (スーパーマーケット、商店等)			
④金融機関または キャッシュコーナー			
⑤ガソリンスタンド			

2. 外出と移動手段について

問7

あなたは、一人で外出することができますか。(○は1つ)

1. 一人で外出できる	2. 一人では外出できない(手助けが必要)
-------------	-----------------------



問8 現在、普段の通勤等も含め、あなたはどの程度外出していますか。(○は1つ)

1. ほぼ毎日	2. 週に3~4日	3. 週に1~2日
4. 月に2~3日程度	5. 月に1日程度	6. ほとんど外出しない

問9 あなたが最も多く利用する移動手段は何ですか。(○は1つ)

1. 自動車	4. 公共交通機関 (JR、バス、タクシー、船など)
2. 自転車	5. 徒歩
3. バイク	6. その他 ( )

問10 あなたは、自動車の運転はできますか。(○は1つ)

1. 運転できる ⇒問11、13へ	2. 運転できない (運転をやめている) ⇒問14へ
-------------------	----------------------------

問11 問10で「1. 運転できる」と回答した方にお聞きします。  
あなたは、運転することに不安はありませんか。(○は1つ)

1. 不安はない	2. 不安がある ⇒問12へ
----------	----------------

問12 問11で「2. 不安がある」と回答した方にお聞きします。何か対応をしていますか。(○はいくつでも)

1. 長距離の運転を控えている
2. 運転免許証の返納を検討している ⇒ 返納を予定している年齢 _____ 歳
3. 必ず同乗者がいる状況で運転している
4. その他 ( )

問13 問10で「1. 運転できる」と回答した方にお聞きします。  
あなたは、もし、運転ができなくなった場合、現在お住まいの地域での暮らしに影響があると思いますか。(○は1つ)

1. あまり影響はなく、現在と変わりなく暮らすことができる
2. やや不便にはなるが、大きな問題はなく暮らすことができる
3. 不便になり、不安なことは多くなるが、暮らすことができる
4. とても不便になり、暮らしにくくなる

問14 問10で「2. 運転できない (運転をやめている)」と回答した方にお聞きします。  
運転できない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 自動車運転免許証を取得していない
2. 運転が不安になり免許証を返納した ⇒ 免許を返納した年齢 _____ 歳
3. 免許返納はしていないが、不安なので運転をやめた
4. その他 ( )

問 15 あなたは、外出の際、困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

1. 自家用車等の移動手段がない	5. 足腰が弱って一人での移動が難しい
2. 道路環境が良くない (道幅が狭い・カーブが多い・路面が荒れている 等)	6. 外出を手助けしてくれる人がいない
3. 公共交通機関の便数が少ない	7. その他 ( )
4. 駅やバス停、港まで遠い	

### 3. 移動販売・通信販売等の利用について

問 16 あなたは、移動販売や食材配達、通信販売を利用していますか。

(1) 移動販売車

①利用の有無 (〇は1つ)		②利用理由 (〇はいくつでも)	
1. 利用している ⇒②へ		1. 自宅近くまで来てくれる	
2. 利用していない ⇒③へ		2. 訪問回数が多い	
		3. 買い物手段が移動販売車しかない	
		4. その他 ( )	

③利用していない理由 (〇はいくつでも)		
1. 訪問場所が家から遠い	2. 訪問回数が少ない	3. 商品の品揃えが良くない
4. 商品の質が良くない	5. 時間等が合わない	6. その他 ( )

(2) 食材配達 (生協・スーパーマーケット等事業者のスタッフが配送するサービス)

①利用の有無 (〇は1つ)		②利用理由 (〇はいくつでも)	
1. 利用している ⇒②へ		1. 自宅まで配達してくれる	
2. 利用していない ⇒③へ		2. 配達回数が多い	
		3. 商品の品揃えが良い	
		4. 商品の質が良い	
		5. 買い物手段が食材配達しかない	
		6. その他 ( )	

③利用していない理由 (〇はいくつでも)		
1. 自宅近くの拠点まで取りに行く必要がある	2. 配達回数が少ない	3. 商品の品揃えが良くない
4. 商品の質が良くない	5. 商品を見て買い物したい	6. その他 ( )

(3) 通信販売（インターネット通販など）

①利用の有無（○は1つ）	②利用理由（○はいくつでも）
1. 利用している ⇒②へ	1. 自宅まで配達してくれる
2. 利用していない	2. いつでも注文できる
	3. 注文から到着までが早い
	4. 近くで買えない商品が選べる
	5. 安価に買うことができる
	6. その他（ ）

4. 情報通信機器の活用について

問 17 あなたは、携帯電話（スマートフォン）やパソコンなどの情報通信機器を利用していますか。

(1) 携帯電話（スマートフォン）

①で「1. 使っている」と回答された方のみお答えください。

①利用の有無（○は1つ）	②利用時の手助け（○は1つ）	③利用内容（○はいくつでも）
1. 使っている	1. 手助けは必要ない	1. 電話
2. 使っていない	2. 概ね自分で使えるが一部手助けが必要	2. LINE等の無料通信サービス
	3. 誰かの手助けがなければ使えない	3. インターネットで情報を見る
		4. メールの送受信
		5. ショッピング
		6. SNSの発信・閲覧
		7. Webミーティング
		8. その他（ ）

(2) パソコン・タブレット

①で「1. 使っている」と回答された方のみお答えください。

①利用の有無（○は1つ）	②利用時の手助け（○は1つ）	③利用内容（○はいくつでも）
1. 使っている	1. 手助けは必要ない	1. メールの送受信
2. 使っていない	2. 概ね自分で使えるが一部手助けが必要	2. LINE等の無料通話サービス
	3. 誰かの手助けがなければ使えない	3. インターネットで情報を見る
		4. ショッピング
		5. SNSの発信・閲覧
		6. Webミーティング
		7. その他（ ）

## 5. 別居の家族等との付き合いについて

問 18

あなたと別居の家族・親族、および近所の方が、日常的に会う頻度はどの程度ですか。最も親しい方との関係を想像してお答えください。

(1) 別居の家族・親族

①コロナ前（R2年4月以前）の状況（○は1つ）	②現在の状況（○は1つ）
1. 週に2回以上	1. 週に2回以上
2. 週1回程度	2. 週1回程度
3. 月2～3回程度	3. 月2～3回程度
4. 月1回程度	4. 月1回程度
5. 数ヶ月に1回程度	5. 数ヶ月に1回程度
6. その他（ ）	6. その他（ ）

(2) 近所の方

①コロナ前（R2年4月以前）の状況（○は1つ）	②現在の状況（○は1つ）
1. 週に2回以上	1. 週に2回以上
2. 週1回程度	2. 週1回程度
3. 月2～3回程度	3. 月2～3回程度
4. 月1回程度	4. 月1回程度
5. 数ヶ月に1回程度	5. 数ヶ月に1回程度
6. その他（ ）	6. その他（ ）

問 19

あなたと別居の家族・親族、および近所の方との、日常的な付き合いの内容はどのようなものがありますか。最も親しい方との関係を想像して、それぞれに該当する選択肢番号をすべてご記入ください。

(1) 別居家族・親族		(2) 近所の方	
-------------	--	----------	--

【選択肢】

1. 会話・声かけ	5. 冠婚葬祭	9. 地域のお祭り・イベント
2. 茶話会等の飲食	6. 趣味・スポーツ等の活動	10. 高齢者サロンへの参加
3. 家族の行事・イベント	7. 自治会等の会合	11. その他
4. お盆・正月の集まり	8. 地域の清掃活動	( )

## 6. 生活を手助けしてくれる家族・親族の状況について

問 20

あなたには、日常的に会う機会のある別居の家族・親族のうち、車で60分以内で行き来できる距離に住んでいる方は何人いますか。（親、子ども、孫、きょうだい、おじ・おばの人数をご記入ください。）

別居家族・親族の人数	_____人
------------	--------

問 21

あなたには、別居の家族・親族で生活を手助けしてくれる人はいますか。  
(○は1つ)

1. いる ⇒手助けをしてくれる人数を記入してください \_\_\_\_\_人
2. いない ⇒問 25 へ
3. 手助けを必要としていない ⇒問 25 へ

問 22

問 21 で「1. いる」と回答した方にお聞きします。  
あなたが手助けしてもらった理由を教えてください。(○はいくつでも)

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 体力に不安がある | 4. 自動車の運転ができない |
| 2. 健康に不安がある | 5. その他         |
| 3. 人手が足りない  | ( )            |

問 23

問 21 で「1. いる」と回答した方にお聞きします。  
最も手助けしてもらっている方2人について、以下の項目を教えてください。

項目 \ 対象	1人目	2人目
(1)手助けしてくれる人との続柄をご記入ください (例:親、子、孫、きょうだい、おじ・おば等)		
(2)手助けしてくれる人の居住地 (○は1つ)	1. 車で30分以内	1. 車で30分以内
	2. 車で30~60分	2. 車で30~60分
	3. 車で60分以上	3. 車で60分以上
(3)手助けの頻度 (○は1つ)	1. 週に2回以上	1. 週に2回以上
	2. 週1回程度	2. 週1回程度
	3. 月2~3回程度	3. 月2~3回程度
	4. 月1回程度	4. 月1回程度
	5. 年数回程度	5. 年数回程度
(4)手助けの内容 (○はいくつでも)	1. 家事	1. 家事
	2. 外出(買い物・通院等)の送迎	2. 外出(買い物・通院等)の送迎
	3. 買い物	3. 買い物
	4. 子育て	4. 子育て
	5. 農作業	5. 農作業
	6. 住宅・庭の管理	6. 住宅・庭の管理
	7. 墓地の管理	7. 墓地の管理
	8. 自治活動への参加	8. 自治活動への参加
	9. その他 ( )	9. その他 ( )

問 24

問 21 で「1. いる」と回答した方にお聞きします。

今後、手助けしてくれる人の高齢化等により、手助けの回数が減ったり、手助けしてもらえなくなった場合、あなたの暮らしは変化すると思いますか。(○は1つ)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. あまり影響はなく、現在と変わりなく暮らすことができる |
| 2. やや不安になるが、大きな問題はなく暮らすことができる |
| 3. 不安になるが、なんとか暮らすことができる       |
| 4. とても不安になり、自分だけでは暮らしにくくなる    |

## 7. 自治会等の活動について

問 25

あなたは、お住まいの地域の自治会等の活動に参加していますか。(○は1つ)  
※回覧板の回送や清掃・草刈等の環境美化活動、近所の見守り等を行う地域単位を想定してご回答ください。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. いつも参加している  | 4. 参加していない    |
| 2. 時々参加している   | 5. 活動が行われていない |
| 3. あまり参加していない |               |

問 26

あなたは、お住まいの地域の自治会等の活動が低下したり、休止された場合、現在の暮らしはどうなると思いますか。(○は1つ)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. あまり影響はなく、現在と変わりなく暮らすことができる      |
| 2. やや不便になると思うが、大きな問題はなく暮らすことができる   |
| 3. 不便になり、不安なことは多くなるが、なんとか暮らすことができる |
| 4. とても不便になり、自分だけでは暮らしにくくなる         |

## 8. 現在の地域に暮らしている理由と今後の居住意向について

問 27

あなたが、現在お住まいの地域で暮らしている理由として重要だと思っていることを教えてください。(①～⑨の項目についてそれぞれ○を1つ)

※家・田畑・山林を所有していないなど、①～⑨の項目があなたに該当しない場合は、「まったく重要ではない(該当しない)」をお選びください。

項目	選択肢					
	とても重要である	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	まったく重要ではない(該当しない)
①続けたい(やりたい)仕事がある	1	2	3	4	5	6
②一緒に暮らす家族がいる	1	2	3	4	5	6
③親しい友人・隣人がいる	1	2	3	4	5	6
④住み慣れた地域への愛着がある	1	2	3	4	5	6
⑤家族・親族が帰ってくる(Uターン・帰省)場所を残したい	1	2	3	4	5	6
⑥先祖から受け継いだ家や田畑、山林がある	1	2	3	4	5	6
⑦見慣れた風景・豊かな自然がある	1	2	3	4	5	6
⑧守りたい地域の伝統・文化がある	1	2	3	4	5	6
⑨子育てをする環境が良い	1	2	3	4	5	6
⑩その他※①～⑨の他に重要だと考える理由があれば具体的にご記入ください ( )						

問 28

仮に、あなたが現在お住まいの地域で暮らし続けることができなくなるとしたら、どのようなことが原因になると思いますか。(○はいくつでも)

1. あなたの健康	7. あなたの結婚
2. 家族・親族の健康	8. 自動車の運転ができなくなる
3. あなたの仕事	9. 生活を手助けしてくれる人がいなくなる
4. 家族の仕事	10. 地域の医療機関(かかりつけ医)の閉鎖
5. あなたの進学	11. 地域での助け合いができなくなる
6. 家族の進学	12. その他( )

問 29 あなたは、現在お住まいの地域で暮らし続けたいですか。（○は1つ）

1. 暮らしに不満はなく、暮らし続けたい
2. 暮らしにくいところもあるが、暮らし続けたい
3. 暮らしにくいところがあり、便利な場所（同じ市町村内）で暮らしたい
4. 暮らしにくいところがあり、便利な場所（異なる市町村内）で暮らしたい

問 30 ここまでお尋ねしてきた暮らしの状況を踏まえ、あなたの日々の暮らしについての幸福感を教えてください。（○は1つ）

1. とても幸せである	4. どちらかといえば幸せではない
2. 幸せである	5. 幸せではない
3. どちらかといえば幸せである	6. まったく幸せではない

問 31 あなたが現在お住まいの地域に住み続けるとしたら、月どのくらいの生活費が必要だと思いますか。（○は1つ）

1. 10万円未満	2. 10～20万円未満	3. 20～30万円未満
4. 30～40万円未満	5. 40～50万円未満	6. 50万円以上

## 9. あなたについて

問 32 最後に、あなたのことについて、お聞きします。

①性別（○は1つ）	1. 男性	2. 女性	3. 回答しない
②年齢	_____ 歳 ※年齢をご記入ください。		
③居住市町村	_____ 市・町・村 ※市町村名をご記入ください		
④現在の居住地に住んでいる年数（○は1つ）	1. 5年未満	2. 5～10年未満	
	3. 10～20年未満	4. 20年以上	
⑤住宅の形態（○は1つ）	1. 持家	2. 賃貸	3. その他（ ）
⑥同居家族の人数	_____ 人 ※あなたを含めた人数をご記入ください		





#### 4. 調査対象地区別ヒアリングの主な意見

地区	松江市・旧美保関町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧町内の医院を利用する人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧町内の医院か境港市の医療機関を利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧町内に店舗が3つ（個人商店で品は少ない）あり、近所の人はそこで買い物をする。</li> <li>高齢者は移動販売を利用するケースも多い。社交場的な側面もある。</li> <li>若い人、自動車を運転する人は境港市によく出かけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内に店舗はなく、旧町内ではコンビニを使う程度で買い物は境港市が基本。</li> <li>境港市までは道も良く、店舗の種類も多い。</li> <li>移動販売車が週1回、生鮮食品や総菜を販売に来る。多くの人利用しており、特に外出が難しい人は助かっている。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>車を運転したくなくても交通手段がないため運転を続けるといけない。</li> <li>車が運転できない、公共交通を利用できない人のために、地域で移送支援隊をつくって、移動を支援している。買い物と通院の移動支援がメイン。この支援があるから免許返納した人もいる。</li> <li>自宅からバス停までの移動が不便。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転できないと生活がとても困難になる。</li> <li>公共交通が不便なためぎりぎりまで運転したい。</li> <li>コミュニティバスは1日2便で使いづらい。</li> </ul>
金融機関		<ul style="list-style-type: none"> <li>境港市の金融機関を利用する人が多い。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元のガソリンスタンドを利用している。継続してほしいという願いも込めている。</li> <li>漁業者は船の給油もあり、地元の店を利用している。</li> <li>コミュニティバスも地元の店で給油。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>境港市のガソリンスタンドを利用することが多い。</li> </ul>
見守り		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人がお互いの様子を確認し合うなど、コミュニケーションを取っている。</li> </ul>
自治会		<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺道路の草刈りや立木の除去などは地域住民でやっている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院や買い物の移動の支援、草刈りや雪かきなどの生活支援を地域で行う体制があり、助け合いができています。</li> </ul>	

地区	浜田市・旧弥栄村	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や地区内で就業している人は、弥栄診療所を使う人が多い。</li> <li>・眼科、耳鼻科、整形外科、皮膚科等専門医や救急・入院は浜田方面に行く（浜田に行けば診療科目がだいたい揃っている）。</li> <li>・人工透析は広島県北広島町の病院を利用する人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弥栄診療所を利用している。</li> <li>・歯科は浜田市や金城町の施設を利用。</li> <li>・手術などになると浜田医療センター、島根大学医学部附属病院に行く。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的には地区内のスーパー、週末は旧浜田市方面のショッピングセンターやスーパーを利用。</li> <li>・通勤等で旧浜田市内に出ている人はそこですませている。</li> <li>・衣料品は旧浜田市内のショッピングセンターや衣料専門店を利用。</li> <li>・市外では、益田市が店舗も多く買い物しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧村内のスーパーや浜田市内のスーパーを利用。</li> <li>・旧村内のスーパーがなくなると困るので、できるだけ利用している。</li> <li>・勤務先の旧浜田市内で買い物している人も多い。</li> <li>・衣料品等は旧浜田市内、益田市、出雲市、広島などを利用。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車で旧浜田市に行くにはそれほど不便はない。</li> <li>・バスの便数はあるが、利用者は少ない。</li> <li>・デマンドタクシーはあるが弥栄地区内のみ。</li> <li>・タクシー会社の夜間運行がない。</li> <li>・バス路線が限られているし、デマンドは週一回しかないので、運転をやめるべき人が免許を返納できない状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車がないと生活できない。</li> <li>・免許返納をすると精神的ダメージがあるかもしれない。</li> <li>・公共交通はバス、乗合タクシー、デマンドタクシーがある。</li> <li>・敬老補助券を使ってタクシーを利用する人がいる。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局、JA があり、JA 利用の人が多い。ただし、来年度には窓口がなくなる予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA が1カ所（安城）、郵便局の ATM が2カ所（杵束、安城）ある。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の JA のガソリンスタンドを利用する。</li> <li>・地区内のガソリンスタンドを利用する意識が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA のガソリンスタンドを利用している。</li> <li>・地下タンクのやりかえに浜田市が補助金を出して維持していて、地域で後援会を立ち上げている。</li> <li>・価格面でも他店と比べて安い場合もあり、ありがたい。</li> <li>・農機具の修理もしてくれて、なくてはならない。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者で車の運転をできない人は、弥栄地区内の家族や親族に買い物、通院を手伝ってもらう人がほとんどである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔を見れば誰か分かる関係性である。</li> <li>・同じ弥栄地区に住んでいる別居家族や近所の人の手助けで生活しているが、その後は施設に入所されることがほとんどである。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会ごとに消防団があり、災害時は集落を一軒一軒回って安否確認を行う。</li> <li>・自主防災組織はあるところとないところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によっては自主防災組織があり、自主防災が強い。災害時にどこに連絡するか、家族構成の把握など、しっかり決めている。</li> <li>・車のある人が車のない人を乗せて一緒に避難することになっている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局、ガソリンスタンド、A コープ、薬局、診療所など、今ある施設を残してほしい。</li> </ul>	

地区	出雲市・旧佐田町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内にある3軒の医療施設を利用している。</li> <li>・個人医院の先生は高齢で閉院される可能もあり、不安。</li> <li>・旧町内にない診療科目は、旧出雲市の病院に行っている人も多い(30~40分程度かかる)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は地区周辺にある3軒の医療施設を利用している。</li> <li>・耳鼻科、眼科などは旧出雲市へ行く(40分程度かかる)。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧町内ではスーパー1軒と個人商店2軒を利用。</li> <li>・町外では、仕事帰り等で旧出雲市で買い物をすませる人が多い。</li> <li>・地区内であっても買い物に出かけるには車の運転が必須。</li> <li>・以前は移動販売があったが採算がとれず撤退した。</li> <li>・実質的に地区内には商店1つしかなく、後継の経営者もいるものの、利用者不足もあり存続への不安がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤先の旧出雲市等で買い物する人が多い。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車で移動できないと生活に困る。</li> <li>・福祉バスは基本予約方式。決められた乗車地点に行く必要があり、そこまで行くことが高齢者には負担。</li> <li>・隣近所で乗せてあげることはあまりない。</li> <li>・車による家族の送迎がないと厳しい。旧町外の親族が高齢の親等の送迎サポートをしている例は少なくない。しかし、サポートする側は仕事をしているためかなり大変。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉バス(旧町内のみ)と路線バスがあるが、福祉バスは誰も乗っていないことが多い。</li> <li>・自動車の運転ができない人は、バス利用や子ども・近所の人のサポートで移動している。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうちょとJAがある。</li> <li>・合銀佐田支店がなくなった。</li> <li>・車の運転が出来るか出来ないかで利用先は差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ATMがあれば日常的に困ることはない。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内にガソリンスタンドが2つある。</li> <li>・昔は地域内のガソリンスタンドを利用しようという意識があったと思うが、最近はその意識が薄くなっている。</li> <li>・旧出雲市内等の通勤途中で入れている人が多い。</li> <li>・高齢者は地域内ガソリンスタンドの灯油配達を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内にガソリンスタンドが2つある。</li> <li>・勤務地(旧出雲市等)で給油する人が多い。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし世帯では、他地域に居住している親族が週に数回、月に数回程度帰っているところもある。</li> <li>・長期的に家を空ける場合は隣近所に一声かけて出掛ける場合が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし世帯のうち、運転ができないところは、バス移動か近所の人のサポート、もしくは広島県に住んでいる子どものサポートを受けている。</li> </ul>

地区	出雲市・旧佐田町	
	基幹集落	周辺部集落
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で各種行事を数年間中止していたため、やり方を忘れていたり、人が集まらず準備で厳しい状況が生まれている。</li> <li>・地域行事も高齢化が進んでいるため負担が大きい。</li> <li>・次の代への世代交代に不安がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災組織があり、災害時には連携して安否確認などをするなど、組織化している。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近辺の町外に出た出身者には、今も自治会の付き合いをしている人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべくこの地区に住み続けたい。</li> </ul>

地区	益田市・旧匹見町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧町内にある医院の利用者が多い。医師が高齢で、後継者はいない状況。</li> <li>専門の診療科目は旧益田市内を利用。</li> <li>歯科は旧美都町の歯科医院から医師が週2回出張で診療している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧町内の診療所、個人医院を利用。</li> <li>専門の診療科や、歯科医は旧益田市内の医療施設を利用する。</li> <li>心臓病や人工関節等で、手術等が必要な際は、紹介状により広島や山口の病院に行く。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の商店、道の駅などを利用するが、他の用事と合わせて旧益田市内でまとめ買いすることが多い。</li> <li>町内商店を維持するため、利用したい気持ちもあるが、価格のこともあり旧益田市内で買うことも多くなる。</li> <li>地域内の商店が移動販売を実施しており、食料品全般を扱っているため利用している人はいる。</li> <li>衣類は地域内で購入できないので通販、ネット販売を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料品、日用品、衣類など、旧益田市内に行くことが多い（通院等に合わせて）。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に車移動は必須。</li> <li>運転できなくなると匹見では生活できないため、免許返納はなかなかできない。</li> <li>(近所で同乗させてもらうこともあるが、)トラブル回避(事故や白タク)のため同乗をやめた自治会もある。</li> <li>路線バス、やまびこバス(町内巡回バス)があるが、ダイヤが少なく不便。</li> <li>やまびこバスは前日までの予約が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>免許返納をすると生活が困る(90歳を超えても可能な限り運転している)。</li> <li>路線バスはない。</li> <li>やまびこバス(町内巡回バス)があり、前日までの予約が必要。</li> <li>近隣住民が乗り合いで助け合っている。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵便局(窓口、ATM)とJA(ATM)がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>匹見下簡易郵便局があるが窓口だけ。</li> <li>週に1回JAが渉外で各世帯をまわってくれて助かっている。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内にJAのガソリンスタンドが1軒ある。</li> <li>地域のガソリンスタンドは旧益田市内と比べて価格が高いため、買い物等の際に旧益田市内で給油することが多い。</li> <li>農機具等への給油については地域のガソリンスタンドを利用。ガソリンスタンドが地域から無くなると困る。</li> <li>地域のガソリンスタンドの灯油配達を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧益田市内に行った際について給油することが多い。</li> <li>ボイラータンクへの灯油補充は、匹見上のJAスタンドの配達を利用している人もいる。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守りが必要な世帯は80歳前後の一人暮らし世帯。</li> <li>主に民生委員が見守りを実施。</li> <li>一人暮らしの家族のもとに旧町外から通う負担が大きいこともあり、町内の福祉施設に入所した人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区外在住の家族が見守りに来ているところもある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員が固定化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は自主防災訓練を実施していたが、人手が足りなくやむなく止めた。</li> </ul>
その他		

地区	益田市・旧匹見町
	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の診療所を利用し、必要な場合は旧益田市内の専門医を利用する。</li> <li>・そのほか、旧益田市内の歯科医院や循環器内科などを利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧町内の JA か旧益田市内に行く。</li> <li>・道の駅の野菜を買っている人もいる。</li> <li>・生協の個別配達を利用している。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスが国道 191 号沿いを運行。</li> <li>・やまびこバスは予約が必要。タイヤが良くない。</li> <li>・通院にはバスとタクシーを併用しないと通えない。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ATM は旧町内の JA を利用することが多い。</li> <li>・近隣の郵便局は簡易局でATMがない。(ATMが無くても窓口で対応可能なので、あまり困らない)。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧町内の JA スタンドを利用。農機具への給油もしている。</li> <li>・旧益田市に買い物に行ったついでに給油することもある。</li> <li>・灯油は JA の配達。18L 缶では足りないので、ドラム缶に入れてもらっている。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3世代同居の世帯が多く一人暮らしは少ないが、見守りは地域の住民で実施している。自治会でも情報収集している。</li> <li>・一人暮らし世帯の見守りは旧益田市内や県外から家族が帰省して対応しているところもある。</li> <li>・冬季は雪が多く生活が大変なので県外（山口県）の子供の家に行く人もいる。</li> </ul>
自治会	
その他	

地区	大田市・旧仁摩町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の診療所、個人医院、個人歯科医院を利用。</li> <li>・眼科や皮膚科などの専門的な診断が必要となると大田市立病院や出雲市内の病院を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度の病気等では旧町内の診療所を利用する人が多く、それ以外では大田市立病院が多い。</li> <li>・専門の診療科では、島根大学医学部附属病院、県立中央病院を利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内にはスーパー、コンビニ、個人商店がある。地区外であれば旧大田市のショッピングセンターに行く。</li> <li>・閉店しないように地元のスーパーを利用しようとするが、価格が安い旧大田市内のショッピングセンターにも行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅野地区には個人商店とJAがある。</li> <li>・自動車を運転できる人の多くは旧大田市内のショッピングセンターを利用している。</li> <li>・旧大田市内で欲しいものが入手できない場合は、出雲市に行く。</li> <li>・民間の移動販売を利用している人もいる。</li> <li>・高齢者は生協を使っている人も多い。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で車を運転する人が多く、ほとんどの人が車を持っている（一人一台、一世帯2、3台は当たり前）。</li> <li>・自動車が運転できない高齢者ではバス利用が多い（バスは、一時間に一本程度）。</li> <li>・大田駅を降りた先の利用する交通手段がないため、JRよりバスの方が便利。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車で移動できる人は困る点はない。</li> <li>・バスには、宅野地区に入るバスと9号線だけのバスがある。</li> <li>・便数が少ないこと、時間が合わないことにより、バスを利用する人は多くない。</li> <li>・（バス利用者は）バスの時間に自分の生活を合わせている状況。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合銀ATM、郵便局、農協、信金支店を利用。</li> <li>・ローソンのATMを使う人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅野地区の郵便局を利用している。</li> <li>・買い物や仕事で旧大田市に行ったついでに利用する。</li> <li>・合銀の支所がなくなったため、旧大田市まで行くか、仁万地区にあるATMを使う。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は3箇所あったが、今は地区内に1箇所。なくなったら大変。灯油配達があり、助かる。</li> <li>・買い物ついでに旧町外で給油することも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近場のみ移動する高齢者は仁万地区のガソリンスタンドを利用している。</li> <li>・旧大田市のショッピングセンターでの買い物にあわせて給油する人もいる。</li> <li>・給湯器用の灯油はローリー車の配達で利用している。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の担い手不足で、同じ人が長い間やっている。後継者がいない。</li> <li>・地縁がある地域なので、ルールはないが、近所や班内での行き来の中で、気を配りながらやっている。</li> </ul>	
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進み、役員になる人も少なくなってきた。</li> <li>・世帯が減り、4、5軒の自治会もある。</li> </ul>	



地区	安来市・旧広瀬町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安来市立病院、地区内に2軒ある個人医院、旧安来市内の病院を利用することが多い。</li> <li>・安来市立病院に小児科と婦人科はあるが、産科はない。</li> <li>・地区内の2軒の個人医院は全般的に診てくれるがいずれも医師が高齢。</li> <li>・歯科は旧町内の個人歯科医院などを利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬地区の市立病院、2軒の個人医院をよく利用している。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料品や日用品は地区内のスーパーや魚屋等で買い物する。</li> <li>・魚屋と酒屋は無くなると困るので多くの人が利用している。</li> <li>・若い人はドラッグストアやコンビニを利用。</li> <li>・衣料品は安来市中心部で買う。</li> <li>・生協を利用している人も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬地区のスーパーに行くことが多い。</li> <li>・地区内の個人商店は品揃えが良くないため、利用していない。</li> <li>・生協は価格が高いが利用している。</li> <li>・移動販売や生協は一人暮らしにはとても助かる。</li> <li>・ネットが利用できる人は通信販売も利用している。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転が出来る人はあまり公共交通を利用しない。</li> <li>・公共交通は高校生、高齢者が利用するくらい。</li> <li>・イエローバスの便数が減少して不便になった。</li> <li>・バスで通院・買い物に行く人は半日仕事になる。</li> <li>・バス停までが遠くてバスを利用できない地域もある。</li> <li>・隣近所や近くに住んでいる親戚のサポートもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バス（イエローバス）のみ。</li> <li>・免許を持っていない高齢者はバスで移動する人もいるが、便が少なく自分の行きたい時間に移動できず困っている。</li> <li>・通院はバス、またはタクシー。</li> <li>・同乗による移動や親族の送迎などもある。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用するのはコンビニ、JA、合銀など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAが撤退した。</li> <li>・郵便局は年金などでよく使われる。郵便局がなくなれば、広瀬地区まで行くしかない。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（ガソリンスタンドがなくなることへの）危機感を持っており、旧町内のガソリンスタンドを利用しようと考えている人もいる。</li> <li>・地区内のガソリンスタンドはタイヤ交換、保険など何でもやってくれて助かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬地区内に2軒あり利用されている。灯油配達もしている。</li> <li>・価格の安い地区外で給油することもある。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の家は高齢者のみの世帯が増えてきているため、挨拶に行ったりして気にかけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢になると、草刈りなどもできないので、近所の人々が助けているというケースは多いが、時代が変わって、おせっかい（世話）ができにくくなってきている。</li> </ul>

地区	江津市・旧江津市	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>江津市内で最も医療施設が集中している地区なので困らない。</li> <li>ただし、小児科・耳鼻科・皮膚科は浜田に行く人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医は江津市中心部などが多い。</li> <li>地区内には2軒の個人医院があり、子どもが熱を出したときなどに利用する。</li> <li>個人医院の1つは診察が金曜の半日のみで不便（ここを利用する人は江津市中心部への交通手段がない人）。</li> <li>大きい病院に行く場合は、浜田市の医療センター、済生会などを利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパー、ショッピングセンター、ドラッグストアに行くことが多い。地域内にそろっているので、困らない。</li> <li>勤め先が浜田市の場合、通勤のついでに浜田で買い物することもある。</li> <li>洋服を買う店がない。</li> <li>子供用品の店が江津市内にはないので、出雲市か益田市に行かないと買えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内に商店はない。江津市中心部のショッピングセンターやスーパー、旧桜江町のスーパーを利用する人が多い。</li> <li>家族に買い物に連れて行ってもらう人もいる。</li> <li>生協を利用している人が多い。</li> <li>移動販売は週1回来ている。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの人が車を運転しており、車なしだと生活が成り立たない。</li> <li>バスは1時間に1便しかないので、実用的ではない。また、国道沿いしか走っていないので、家からバス停がある国道に出てくるのも大変。</li> <li>運転ができなくなった場合はタクシーを利用する。</li> <li>昔のように隣近所の人をお願いすることはない。</li> <li>中心部を外れると車がないと生活に支障が出るため、免許返納は難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスは一日上り下り合わせて12便で、それに合わせて買い物や病院へ行く。</li> <li>平成30年にJR三江線が廃線になり、代替交通として生活バス（週3便）・デマンドバスを運行してくれている。</li> <li>バスで通院すると、ちょうど良い時間の便がなくて不便。</li> <li>バス停に行くまでの交通手段を検討すべき。</li> <li>運転に自信のなくなった人は、駐車場の広いお店や曲がりやすい大きな道路を選んで走る。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内に銀行、ATMはそろっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金を引き出すのはJAが多い。</li> <li>合銀、信金、JAなどがある。JAのATMがなくなったため非常に不便。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内で給油することが多い。</li> <li>出雲市などに出たときに安いところで給油することもある。</li> <li>車を運転する人では、灯油はホームセンターで買う人が多い（安いから）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域にガソリンスタンドはなく、桜江、浅利、渡津地区などで給油する人が多い。</li> <li>通勤途中で給油する人も多い。</li> <li>灯油は配達してもらう人が多いのではないかと。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしの高齢者世帯は自治体が把握し、何かあれば民生委員が見守りをする事になっている。</li> <li>遠方の家族が見に帰ることや近所で助けあうこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしでも地域のつながりで支えてもらっている人もいる（おすそわけなど）。</li> <li>地域の中で見守りをしようという雰囲気はある。</li> <li>近くに住んでいる家族が買い物や通院の支援をすることはよくある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災活動は江津市内でも一番活発。</li> <li>コロナ禍で住民参加行事（運動会、盆踊り、敬老会）を3年間でできていないので、住民の交流がなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の担い手が偏っており、どこに行っても同じメンバー。</li> <li>若い人にダメ元でもしつこく声を掛け、年代が繋がっていくようなものをしていかなければ地域の繋がりが切れてしまう。</li> </ul>

地区	雲南市・旧吉田村	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内の診療所や雲南市立病院を利用。</li> <li>・ 歯科医は旧木次町を利用、小児科は旧三刀屋町を利用。</li> <li>・ それ以外の専門診療科は、出雲市内を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の診療所は週1回（火曜の午前）のみ。</li> <li>・ 耳鼻科、眼科、歯科は雲南市内（三刀屋、木次）にあるが、皮膚科は出雲市に行く。</li> <li>・ 大きい病院を利用する場合は、事前に旧三刀屋町、旧木次町、出雲市にある専門医で診てもらい、紹介状をもらって受診する。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内にスーパーがあるが、価格が高く、品ぞろえが少ないため、旧三刀屋町・旧木次町・出雲市内へ行くことが多い。週に1度のまとめ買い。</li> <li>・ 衣類は、出雲市内で購入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内に小さな商店が2つあり、日常的な買い物で困ることはない。</li> <li>・ 買い物は旧三刀屋町、旧木次町、奥出雲町などのスーパーに行くことが多い（吉田地区の店に行くことは少ない）。</li> <li>・ 地区によっては交通量の少ない奥出雲町の仁多に行く人もいる。</li> <li>・ 雲南市外に買い物しに行くことは少なくなったが、道路が良く、お店が集まっている出雲市に行くことが多い。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路線バスは、通学用や部活での利用が多い。</li> <li>・ オンデマンドバス（だんだんバス）も運用している。</li> <li>・ 近所の運転しない人と一緒に買い物に行くこともあるが、事故のことを考えると不安に感じることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デマンドバスを使うこともあるが、便数が少なく、病院等へ行く際は、乗り換えが必要で大変。</li> <li>・ タクシー利用は年金暮らしだと厳しい。</li> <li>・ 近所で車に乗せてあげることもあったりする。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JAのみ。</li> <li>・ 合銀は、窓口閉鎖後、ATMも廃止された。</li> <li>・ 給与振り込みは合銀の利用が多く、地域内に合銀がないのは不便。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には地元の郵便局とJAを利用。</li> <li>・ 土日はやっていないので不便。</li> <li>・ 買い物で出た際にお金を引き出す。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内はガソリンスタンドが2軒ある。</li> <li>・ 旧掛合町にもガソリンスタンドが2軒ある。</li> <li>・ 買い物や通勤にあわせて給油することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のガソリンスタンドが無くなって5～6年経過。</li> <li>・ 普段は旧木次町や旧三刀屋町、奥出雲町の三成のガソリンスタンドを利用。</li> </ul>
見守り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災計画書が作られており、災害時は交流センターを拠点にする体制ができています。</li> <li>・ 高齢者のみの世帯では、週一回、子どもや親戚が戻って、買い物などをしている場合もある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会単位で「盆踊り」「とんど」「清掃活動」を実施。</li> <li>・ 自治会加入率は高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍により活動が制限され、顔を合わせる機会が減っている。</li> <li>・ コロナ禍より高齢化のほうに活動に支障をきたしている。</li> </ul>

地区	奥出雲町・旧横田町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段は地区内の医療施設を利用する人が多い。</li> <li>・小児科は専門医ではないが地域の医療施設を利用するか八川の医療施設を利用。</li> <li>・専門の診療科は奥出雲病院よりも雲南市立病院に行くことが多い。</li> <li>・眼科と耳鼻科は三刀屋、皮膚科は松江、出雲を利用する人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的には旧町内の個人医院の分院や奥出雲病院を利用。</li> <li>・眼科や耳鼻科は雲南市（三刀屋・木次等）、松江市、出雲市が多い。</li> <li>・歯科は旧町内の歯科医を利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内にスーパー、ドラッグストア、ホームセンターもあり、買い物には困っていない。</li> <li>・衣料品などの購入は松江や出雲に行く。</li> <li>・出雲に出かける人が増えた印象があり、大きなショッピングセンターが二つあること、道路が整備されたことが大きな理由。</li> <li>・町内では子供の服が買えない。</li> <li>・毎週土曜には移動販売も来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内のスーパー、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニなどを利用。</li> <li>・衣服は出雲市のショッピングセンターに行くことが多い。</li> <li>・若い人は出雲市や松江市に行く。</li> <li>・生協を利用している人もいる。</li> <li>・JAの移動販売が2022年12月から始まる。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車を持っている人は、公共交通機関はまず使わない。</li> <li>・一人暮らしで車の運転ができない人はいない。</li> <li>・循環バスもあるので、ルートに近い地区ではあまり問題はない。</li> <li>・バス路線で困っている人はいる。奥出雲病院までの路線が遠回りするルートしかない。また、便数も少ないため、診療が長引くと帰りのバスに乗れない。</li> <li>・子や親戚等に頼むことは少なく、急ぐときはタクシーを利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関は利用しない。</li> <li>・バス停が遠い。バスの時間が合わない。便数が少ない。</li> <li>・自宅からバス停が遠いので、タクシーを利用する。</li> <li>・近所の人に送迎してもらうこともある。</li> <li>・遠方の病院へはバスでは利用時刻もあわないので困る。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA、ゆうちょ銀行、しまね信用金庫がある。</li> <li>・合銀の店舗が閉鎖になり、不便になった。仁多支店まで行く必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ATMには困っていない（郵便局、JA、ファミリーマート、合銀）。</li> <li>・合銀が出張所になり不便。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンスタンドはまだ地区に数軒ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内のガソリンスタンドを利用。</li> <li>・旧町内にあるJAスタンドは価格が安く利用している。</li> <li>・松江市に用事に出た際に給油することもある。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会長は、町内世帯の連絡先（携帯電話）を控えており、万一の時には連絡が取れる体制としている。</li> <li>・災害時は民生委員が高齢者に目を配る。</li> <li>・それぞれが昔からある家だが、家同士のつながりが希薄になってきている。主に車移動なので、道を歩いて挨拶することも少ない。いざというときに助け合える関係づくりはできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な見守りについて、各地域できている。</li> <li>・ボランティアで高齢世帯の送迎を行っている人がいる。</li> <li>・親族が帰ってきて通院や買い物に連れて行ったり、近所をお願いして買ってもらうなどの例もある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、役員を集めて会合を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援者名簿など自治会単位で緊急連絡網ができている。</li> </ul>

地区	飯南町・旧頓原町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に個人病院はなく、飯南病院がかかりつけ医となっている。</li> <li>・眼科は三次市、出雲市などに行く人が多い。</li> <li>・小児科は飯南病院では週1回しかないため、旧三刀屋町、三次市、出雲市、松江市などに連れて行く。</li> <li>・大きな病気の場合は、島根大学医学部附属病院、県立中央病院を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯南病院を利用する人が多い。</li> <li>・少し大きな病院を利用する場合は出雲市へ行く。</li> <li>・週1回の公民館での出張診療所を利用する人もいる（移動できない高齢者にとってはありがたい）。</li> <li>・飯南病院に耳鼻科や皮膚科がなく、耳鼻科は大田市を利用。</li> <li>・島根大学医学部附属病院で出産をしたが、距離が遠いので不安があった。</li> <li>・出雲市や大田市の病院に公共交通機関で行くには、バスを乗り継いで、通院する必要がある。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮食品は地区内のスーパーを利用する人が多い。</li> <li>・勤め先が町外の場合はその近辺で買う人もいる。</li> <li>・雲南市加茂の24時間営業のスーパーまで買い物に行く人もいる。</li> <li>・移動販売は赤名のコンビニが運営している。車の運転ができないお年寄りが利用していて社交場にもなっている。とても喜ばれている。</li> <li>・生協を利用している人もいる。</li> <li>・衣料品などはネット通販を利用。</li> <li>・出雲市や三次市に出る若い人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつき会館（「ささえさん」）はちょっとした買い物に利用。多くは頓原のスーパーまで買いに行く。近隣地区の個人商店（酒店）の利用者もいる。</li> <li>・なくならないように地元の商店を支えていこうという気持ちは住民の中に強い。</li> <li>・自動車を運転する人は、用事（病院など）で出雲市や大田市に行ったついでに、まとめ買いをする。</li> <li>・車が運転できない人は移動販売を利用。</li> <li>・スーパーとコンビニの移動販売が来ている。コンビニの移動販売は生鮮食品がなく、値段も高い。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車は必需品である。</li> <li>・家族で運転出来る人がいれば、免許返納している人もいる。一人暮らしの人は手段がないため運転している。</li> <li>・車の運転ができない人はタクシー、電動カーを利用している。</li> <li>・バスを利用している人はあまりいない。</li> <li>・コミュニティバスがあるが、頓原の街中（商店街）は通らない。スーパー、JA、郵便局などが徒歩圏内にあり、地区外に出ることはあまりない。</li> <li>・近所の人ではなく、友人や親類に送迎を頼む人はいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の運転をしているが、高齢のため、近場しか行かない。</li> <li>・車が運転できない人は、デマンドバスやタクシーを利用している。</li> <li>・友人等への同乗は少数。</li> <li>・バスは便数が少なく、家からバス停まで距離があるため使いづらい。</li> <li>・自動車の運転ができなくなると生活が非常に困難になる。</li> <li>・同居する子、孫は平日仕事のため、送迎は頼めない。</li> <li>・バスの増便よりもタクシー助成をしてほしい。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAの利用者が多い。</li> <li>・JAも規模縮小で窓口業務のみになり、住んでいる人にとっては非常に不安になる。</li> <li>・合銀は出張所の廃止があり、JAに預け替えた人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内にはゆうちょやJAのATMがある。</li> <li>・合銀は頓原地区や旧佐田町に行って利用。</li> <li>・地区中心部にあるさつき会館（公民館）に隣接するJAしまね志々店ATMを無くさないように、チラシなどを作成し、利用促進を呼びかけている。</li> </ul>

地区	飯南町・旧頓原町	
	基幹集落	周辺部集落
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点でガソリンスタンドは地区内に2軒ある。将来的には1軒になるのではないかと思われる。</li> <li>・町内で給油する人が多い。価格は出雲市と比べると10円程度は高い。</li> <li>・車に乗れない高齢者は灯油を配達してもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頓原地区や志津見地区にあるガソリンスタンドを利用。</li> <li>・住民は地区内外のガソリンスタンドを使い分けている。若い人は出雲市内などの買い物ついでに給油する例も多い。</li> <li>・頓原地区のガソリンスタンドは各家庭のタンクまで灯油の配達をしてくれて助かっている。</li> <li>・故障したときにすぐに対応してもらえる店があるのはとても安心なので、なくならないように利用している。</li> <li>・車の給油、農機具の燃料、暖房の灯油など利用することが多いため、特に高齢者で旧町内のガソリンスタンドを利用しようという意識が高い。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の時に避難の手助けをしようという人は各組で把握し、名簿がある。</li> <li>・他地域に住む家族（子供）のサポートが多い。広島、松江だけでなく大阪から毎週帰ってくる人もいる。</li> <li>・草刈りや除雪などは地域内で助け合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り活動は公民館が中心となり地区単位で行っている。</li> </ul>
自治会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会の担い手や後継者の確保が課題である。</li> </ul>

地区	川本町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内には、いくつか病院があり、特段困っていない。</li> <li>・地区内の民間病院は全般的に診療が可能で、眼科、耳鼻科、皮膚科の医師も来ている（診療日が限られていて不便）。</li> <li>・人口透析は邑智病院か大田市内を利用。</li> <li>・邑智病院（邑南町中野）はバスで通院。</li> <li>・歯科医は、川本町内の2軒を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の民間病院や邑智病院を利用。</li> <li>・民間病院は小児科があり、訪問診療（月2回）もある。</li> <li>・小児科を受診する際は大田市を利用する人もいる。</li> <li>・民間病院はIターン者の就業場所となっており、一つの産業となっている。</li> <li>・耳鼻科と眼科がない。</li> <li>・救急の際は、大田の病院を利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内のスーパーを利用している。</li> <li>・因原地区の道の駅やドラッグストアへ行くこともある。</li> <li>・生協を利用している人も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮食品は生協で買い物することが多い。</li> <li>・民間の移動販売は生鮮食品も販売しているので助かる。</li> <li>・若い人は、週末に、大田市、出雲市、江津市に日用品や衣料品をまとめ買いに行く。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内は自家用車で移動する。</li> <li>・バスを利用する人はあまりいないが、無くなったら困る。</li> <li>・バスを利用することもあるが、帰りは時刻があわずタクシーを利用せざるを得ない。</li> <li>・JRがなくなって不便になった。JRの駅は近かったがバス停は遠いため、バス停に行くまでに時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車が必須な地域であり、免許返納後の生活が課題。</li> <li>・バスの便数は通学に合わせてあるので、3～4回/日となっている。</li> <li>・通院にはデマンドタクシー（週2～3回）を利用する。利用範囲は町内のみに限られている。</li> <li>・親しい人同士での送迎はあまりされていない。</li> <li>・支え合いの地域づくりを進めている中で、有償ボランティア移送を役場と話し合っているが、なかなか難しい。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵貯、JA、合銀、信用金庫のATMを利用している。</li> <li>・合銀は窓口があり、相談ごとができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金はゆうちょ銀行なので、なくなると困る。</li> <li>・移住者は都市銀を利用している方も多い。都市銀行がないので不便である。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内に1軒、因原地区に1軒ガソリンスタンドがある。</li> <li>・日曜日に閉店していることや価格が大田市内と比較して高いことが不満である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田市、出雲市などに出たときに給油することもあるが、町内のガソリンスタンドも利用している。</li> <li>・地区内のガソリンスタンドは軽油や灯油を配送してくれるので助かっている。無くなると困る。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし世帯の見守りは自治会長、民生委員が担当している。</li> <li>・災害時などの安否確認方法は、電話や直接顔を見に行くなどしている。</li> <li>・コロナになってから近所と顔を合わせるものが減った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りが必要な世帯は多く（一人暮らしの高齢者、高齢夫婦）、50軒はある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水被害が多いので意識が高く、自治会単位で防災活動を実施している。</li> <li>・要支援者へは、自治会長から隣人に指示があり、一緒に避難している。</li> <li>・現在行事をしている人が年を取ると、伝統的な行事をどのようにやっていたかが分からなくなるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者間では、ラインなどの共通のグループ内で、逐次イベント情報や行事の参加依頼を行い、積極的に交流を図っている。</li> </ul>

地区	美郷町・旧大和村	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和診療所を利用することが多い。</li> <li>・遅くまで診療している作木診療所を利用する人もいる（特にこどもの診療）。</li> <li>・三次市の中央病院等に通院する人も多いが、バス通院は時間的に不便（三次までのバスは1日2往復しかない）で、家族に連れて行ってもらう人が多い。</li> <li>・入院は三次市、大田市、邑南町の病院を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和診療所、町内の波多野診療所、個人医院を利用。</li> <li>・専門の診療科は大田市立病院、三次市の病院を利用。</li> <li>・休日の診療は大田市立病院の休日外来など。</li> <li>・歯科医は三次市、邑南町などを利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粕淵のスーパー、都賀西のスーパー、個人商店、上野の個人商店を利用している。</li> <li>・週末に大田市、出雲市、三次市でまとめ買いをしている。</li> <li>・大田市からの移動販売車もある。JA も宅配対応している。</li> <li>・若い人はネット通販を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日は旧邑智町のスーパー、都賀行地区の商店を利用。なるべく町内の商店を利用する意識がある。</li> <li>・休日は町外（大田市、出雲市、三次市）に行つて衣料品などを含めて買い物することが多い。</li> <li>・生協は戸別配送している。</li> <li>・地区によっては民間の移動販売が来ている。</li> <li>・置き薬を利用している人も多い。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三次市までのバスがあるが2往復/日である。復路の最終便の時間が早く、使い勝手は良くない。</li> <li>・三次市から途中の邑南町口羽地区までは便数が多いが、大和地区までは来ない。</li> <li>・高齢者は家族（子）に送迎してもらっている模様である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの便数は少ない。</li> <li>・比之宮地区で有償運送がある（予約制）。</li> <li>・免許返納者は家族等に送迎を頼んでいる。</li> <li>・車を利用できない人は、バスで通院するが、待ち時間等も有り、帰りはタクシー利用の場合が多く、負担が大きい。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局、JA を利用する人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合銀、島根中央信用金庫を利用している人が多い。前はそれぞれ旧大和村に支所があった。現在は粕淵地区に支所がある。</li> <li>・JA と郵便局は旧大和村にある。ATM も設置されている。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンは地元で給油する人が多い。灯油は小型ローリーで自宅まで配達してくれる。</li> <li>・町外通勤者はその途中で給油する人も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元には2軒（大和1、比之宮1）ある。店舗の存続のために、利用している。灯油の配達もしてくれる。</li> <li>・町外に出るついでに給油する人も多い。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が広島等から、月数回、週末に帰ってきて世話をするようなケースも少なくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りが必要な高齢者は親族や近隣住民が対応しているが、元気な高齢者が多い。一人暮らしが出来ない高齢者は親族の家や施設入所などしている。</li> <li>・民生委員の見守り活動もあると思うが、人材不足。</li> </ul>
自治会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連合自治会役員は2年毎に各自治会から選出。再任が多い。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店の経営者は高齢で、後継者もいなくて、今後が心配。</li> <li>・地元ガソリンスタンドの地下タンクの耐用年数期限がせまっております、廃業にならないか不安。</li> </ul>	



地区	津和野町・旧津和野町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の2軒と旧柿木村の2軒の個人医院などを利用。</li> <li>・耳鼻科、皮膚科、産婦人科など専門の診療科は益田市、山口市、救急は益田日赤病院を利用。</li> <li>・大きな病院の場合は、かかりつけ医からの紹介で、山口済生会・日赤、益田日赤・医師会病院などを利用。</li> <li>・歯科医は旧津和野町内に2軒、旧日原町内に1軒で不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間病院や2軒の個人医院を利用する人が多い。</li> <li>・旧町内に眼科、皮膚科、耳鼻科はなく、益田市や山口市の医療施設を利用。</li> <li>・大きな手術は、益田日赤、益田医師会、山口日赤、山口済生会のどこかを利用。</li> <li>・高齢者は路線バスや近所の人に乘せてもらって通院する。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内のスーパー、旧柿木村の個人商店、道の駅を利用している。</li> <li>・地区内にはコンビニもある。</li> <li>・日用品は旧六日市町のドラッグストアを利用。</li> <li>・衣料品等は益田市、若い人は山口市に行くことも多い。</li> <li>・生協の宅配を使っている人が多い。</li> <li>・町営の買い物支援サービスがある。月火木金の週4回（利用料500円/月）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜や生鮮食品は津和野地区のスーパー、コンビニへ行く。</li> <li>・旧津和野町内でだいたいの買い物はすむ。</li> <li>・益田市や山口市で働いている人は、通勤途中で買い物をする。</li> <li>・休日に益田市や山口市でまとめ買いする人もいる。（ショッピングセンター、衣料品専門店など）</li> <li>・店舗購入と生協を併用している。</li> <li>・買い物支援センター（町営の買い物代行サービス）があり、高齢者は助かっている。</li> <li>・地区の個人商店の仕入れを地域の人が代行している。（地域の人が益田市まで商品を取りに行っている）</li> <li>・社協が買い物支援の事業をしている。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に車で移動。車がなければ生活困難。</li> <li>・運転しない人は、デマンドバス、タクシー、路線バスを利用。</li> <li>・町営バスがあり、津和野地区のスーパーまで走っている。</li> <li>・デマンドバスは事前予約制。</li> <li>・タクシーはあるが、台数が少なく終業時間が早い。</li> <li>・近所の人と乗り合わせて買い物に行くこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動はほぼ車。80代でも運転する。</li> <li>・車がなければ、どこに行くのも不便。バス、電車に乗る機会がほとんどない。</li> <li>・バスで通院すると帰りの便に困ることがある。</li> <li>・デマンド交通はない。</li> <li>・運転できない場合は、町営バスを使っているのを見る。</li> <li>・バス停に行くまでも距離がある。</li> <li>・近所の人に乘せてもらうことはよくある。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行は、ゆうちょ、JA、合銀、西中国信用金庫がある。</li> <li>・JAはATMはあるが、窓口は旧六日市町までいかないといけない。</li> <li>・合銀の日原出張所がATMのみになったため、不便。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内にゆうちょ銀行とJAがある。</li> <li>・スーパーかコンビニのATMを利用。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内で給油している。</li> <li>・地区内ガソリンスタンドは灯油の配達もしてくれる。</li> <li>・灯油はホームセンターでも購入することがある。</li> <li>・通勤途中や外出先で給油することもよくある。</li> <li>・地元のスタンドを利用しようという意識もある（特に高齢者）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内にガソリンスタンドはない。津和野町駅近くや益田市で給油する。</li> <li>・店舗の存続のため、町内のガソリンスタンドを利用している。</li> </ul>

地区	津和野町・旧津和野町	
	基幹集落	周辺部集落
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の運転が出来ない人は地域の人たちで助け、共助の関係が出来上がっている。</li> <li>・自治会で何かやるというより、組内で話をすることが多い。</li> <li>・地域によって、自治会より小さい単位で地域を把握しているところと自治会単位で把握しているところがある。</li> <li>・目は行き届いているが、住民だけでは限界がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通院や買い物に近所の手助けを借りている世帯は10軒ほどある。</li> <li>・近隣の市町に住んでいる子供がまとめて買い物をしているケースもある。</li> <li>・共助という考え方でいけば、近所での助け合いがメインになる。</li> <li>・防災や見守りを地域でやったらどうかという意見がある。</li> </ul>
自治会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停まで歩くことも困難な人も出てきており、地域の中で共助の仕組みが必要である。</li> <li>・役員の2割が固定化され、8割は持ち回りで動いている。</li> <li>・役員の高齢化が懸念される。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者がいなくて店がつぶれてしまう。地域の生活基盤がなくなるのは困る。</li> </ul>	

地区	吉賀町・旧柿木村	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医は地区内の個人医院、歯科は地区内の個人歯科、六日市病院を利用。</li> <li>・皮膚科は益田市内、救急は益田日赤病院を利用。</li> <li>・津和野町には送迎をしてくれる個人医院がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医は旧村内の個人医院を利用。</li> <li>・町内の六日市病院、個人医院を利用する人も多い。</li> <li>・六日市病院は小児科、眼科もあるが週1回。</li> <li>・耳鼻科、皮膚科は益田市を利用。</li> <li>・津和野町の個人医院はバスを運行しており、高齢者の利用が多い。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の個人商店、道の駅、吉賀町内のスーパーを利用。</li> <li>・日用品は六日市地区のドラッグストアを利用。</li> <li>・食材配達を利用する人もいる。</li> <li>・重い物はインターネット販売を利用することもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料品は七日市・六日市地区、ホームセンターやドラッグストアなどは六日市地区を利用する。</li> <li>・柿木地区に買い物に出ることはあまりない。</li> <li>・岩国市・周南市に行く人が多い。</li> <li>・移動販売車は前はあったが、店が10月に閉店したため移動販売もなくなった。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転しない人は、デマンドバス、タクシー、路線バスを利用。</li> <li>・近所の人と乗り合わせて買い物に行くこともある。</li> <li>・バスの便数が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンドバスからタクシー助成に切り替えて支援されている。</li> <li>・運転できない人の移動では、近所の人に乘せてもらう人のほうが多い。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局、JAがある。</li> <li>・信用金庫は六日市地区にある。</li> <li>・キャッシュレスでの買い物が多く、ATMの利用頻度は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA柿木支店がありATMはあるが、手続き関係は六日市地区まで行かなければならない。</li> <li>・融資などの相談は、合銀だと出張所扱いであるため津和野町まで行かなければならないことが不便。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の2軒のガソリンスタンドを利用。</li> <li>・他地域への外出のついでに給油することもある。</li> <li>・灯油は、配達を利用することもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンスタンドは2カ所あり、利用場所は通勤先などで決まる。</li> <li>・益田市に行ったついでにそこでガソリンを入れる人が多い。</li> <li>・高齢者の中にはセルフスタンドの利用が難しい人もいる。</li> </ul>
見守り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・別居家族が近くにいる人が多く、別居家族が車に乗せてあげたりしてサポートしている。</li> <li>・一人暮らし世帯は結構あるが、デマンドバスを使ったり、近所の人に乘せてもらったりしており、そんなに不便ではない。</li> <li>・バスの利用より、近所の人に乘せてもらう人のほうが多いかもしれない。</li> <li>・地域内で声を掛け合うなど支援をしている。</li> <li>・地域行事より、防災や見守りなどを地域でやったらどうかという意見がある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会単位で清掃活動を継続して実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災活動として、自主防災組織がある。</li> </ul>

地区	海士町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>海士診療所、海士歯科診療所を利用。</li> <li>診療所の紹介で島外の専門の診療科を利用。</li> <li>海士診療所の医師が小児科医なので子どもの受診は困らない。</li> <li>眼科など専門科医師が常駐していないので不便。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やや距離がある島北部の海士診療所、海士歯科診療所を利用。</li> <li>かかりつけ医は、みんなの顔（患者のことを）をよく知っている。</li> <li>専門診療科の医師が常駐しておらず不便。</li> <li>眼科は定期的に医師が来る。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>日用品は地区内の商店でそろそろ。支え合いの気持ちもあり、地区内で買うが、価格も気になるのでネット通販を利用することもある。</li> <li>生鮮食品の価格が高い。</li> <li>洋服は本土で買う。</li> <li>医薬品は置き薬利用者もいる。</li> <li>ネット通販は利用する。送料負担はあるが島内で購入できないものなどは負担も仕方がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣料品以外は地区内の商店で買っている。経営者の高齢化で閉店しないかと心配している。ないものはネットで買っている。</li> <li>住民みんなが地区内で買い物して支える意識がある。</li> <li>社協による配達サービスを受けている世帯もある。</li> <li>ネット通販は Amazon 等配送料無料を探して利用。ただし高齢者の利用は難しい。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店、診療所等は近くにあるのでバスの利用は少ない。</li> <li>島外へは病院利用の際に出かける。診療時間等を含めて一泊は必要。</li> <li>内航船の便数が昔より減っている。特に午後便が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車を運転しない人はバスを利用。</li> <li>バスの便数がなく、通院時は行きはバス、帰りはタクシーとなってしまふ。</li> <li>タクシー利用の割引があると良い。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内には合銀、JA があるが、郵便局がなく不便。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA の支店は閉鎖。郵便局、漁協を利用。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>幹線道路（県道 317 号）沿いに 3 軒ある。</li> <li>インフラとして維持するためには将来的には行政による何らかの補助等が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海士町内に 3 店舗ある（中里に 2 つ、菱裏 1 つ）。</li> <li>灯油はガソリンスタンドが配達してくれる（タンクに入れてくれる）ので、特に高齢者は助かっている。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り等の支援が必要な高齢者への対応は近隣住民や親族で決めている。</li> <li>町の健康福祉課の対応も機能している。</li> <li>老人会で 2 か月に 1 回の会食サービスを実施していたがコロナ禍で中止している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしの高齢者が多い状況。平時の民生委員の見守りは機能しているが、体調不良などにより緊急搬送が必要な際は、その民生委員も高齢であり対応の困難が予想される。緊急時の対応体制整備が必要。</li> <li>昭和 56 年から、地区で老人のための給食サービスを実施。月に 30 食、一食 300 円。地区の自然のものを使った給食として提供している。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の清掃活動があるので I ターン者も含め顔はわかる。</li> <li>昔と比較して住民同士のつながりが弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の清掃活動を定期的実施。高齢化が進んで、今は維持をしているが、なかなか難しくなってきた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護施設のキャパシティが少ない。本土での入所が必要な場合もあるため、島内に残ることが可能な施策が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島内の高齢者福祉施設への入所は順番待ちの状況。また入所には島内に親族がいること等の条件があるため、皆が入所できる状況ではない。</li> </ul>

地区	西ノ島町	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島前病院、浦郷診療所を利用。</li> <li>・場合によっては本土の病院を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島内は隠岐島前病院、浦郷診療所のみ。</li> <li>・島外に行くことになれば、隠岐の島町よりは本土に行く。</li> <li>・本土の医療施設を利用するには宿泊する必要がある、負担感が大きい。</li> <li>・置き薬を利用している人は多い。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内のスーパーを利用する。</li> <li>・なるべく地元のお店を使おうという意識がある。</li> <li>・普通の日用品は町内でそろう。</li> <li>・ネットで買うと、地元がおろそかになるが、島内で揃うものでもネットで買う場合もある。</li> <li>・子ども用品は少なく、ネット購入が多い。</li> <li>・本土（米子市、松江市）に行ったときにまとめ買いする人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内のスーパー、個人商店の利用が多い。</li> <li>・車に乗れない人は週1回の移動販売をよく利用している。移動販売だけでも十分。高齢者はバスに乗ってまで買い物にはいかない。</li> <li>・コロナ前は乗り合いで買い物に行っていた。</li> <li>・ホームセンターがない（松江市か隠岐の島町に行く）。</li> <li>・衣料品はネットで買うことが多い。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身で運転できないと回りに迷惑をかけることになるので、免許返納が先延ばしになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車移動が前提。</li> <li>・町営バスは便数が少ないので、行きはバス、帰りはタクシーを利用せざるを得ない（行き帰りバスでは、用事を済ませるのに十分な時間が確保できない）。</li> <li>・80歳以上は町営バスが無料になる。</li> <li>・タクシー利用の割引があるとよい。</li> <li>・浦郷地区で乗り換える必要があり、面倒。</li> <li>・土日はバスの運行がない。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協、JA、ゆうちょ、合銀があるので困っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局、銀行、漁協、JAで浦郷地区にしかない。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に3カ所ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別府地区、船越地区、浦郷地区に、一つずつ、計3つあり、無くなるとは思わない。</li> <li>・灯油は配達してもらって、家のタンクに入れてもらう。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横のつながりがあれば大丈夫。</li> <li>・孤独死問題があり、昨年度2人あった。見守り等のサポートや近所付き合いがない人は発見が遅れる。</li> <li>・浦郷地区では、三日間都会に出る（家を空ける）場合は組長に連絡。</li> <li>・地域の助け合いをサポートできる仕組みが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風前に2～3軒くらいは声をかけたりしている。</li> <li>・近所の助け合いはたまにある。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会役員の確保ができない。人材不足を感じている。</li> <li>・地域のつながりが強く住民同士でお互いにサポートしている。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝承文化継承は維持継続が非常に厳しくなってきた。</li> </ul>	

地区	知夫村
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村内の診療所を利用。</li> <li>・ 専門診療科になれば紹介により本土の病院を利用。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に島内で買い物する。衣料品など買えないものはネットで買う。</li> <li>・ 島内では医薬品を買える場所がない。</li> <li>・ 生魚が買えない。</li> <li>・ 栄養バランスのよい弁当がない。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島内移動は、基本車。あるいは徒歩。</li> <li>・ 港や診療所、商店へ行く高齢者が、バスに少しは乗っている印象。</li> <li>・ 親族、近所で乗せあうこともある。</li> <li>・ タクシーが 19 時までしか営業していないので夜間の移動が困る。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA、郵便局を利用している。</li> <li>・ ネットバンキングも利用。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島内には 1 カ所のみ。</li> <li>・ 施設整備（タンクの更新など）として役場が補助を出している。</li> <li>・ 担い手人材の問題はある。</li> </ul>
見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援護者台帳がある。高齢者の状況はほぼ把握している。</li> <li>・ 支援する地区割はできている。</li> </ul>
自治会	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不便は感じながらそれなりに暮らしている。</li> <li>・ 閉鎖的という感じはなく、I ターン者を受け入れる体制・環境がある。</li> <li>・ 受け入れないと、将来的に島が成り立たないことを島民が理解している。</li> </ul>

地区	隠岐の島町・旧布施村	
	基幹集落	周辺部集落
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内中村地区の診療所を利用する人が多く、ここでの治療が難しい場合は、紹介状をもらい本土の病院を利用。</li> <li>・本土の病院で入院する際に、付き添いの人が泊まれる場所を確保してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布施診療所を利用し、検査や専門的なことになると旧西郷町の隠岐病院に行く（卵敷）。</li> <li>・町内中村地区の診療所を利用している人が多い（飯美）。</li> <li>・歯科は地区内にはない。隠岐病院に行く。</li> <li>・高速船が運休・休航することがあるため、本土の病院を受診する際は泊まる準備が必要。</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車を利用できる人は中村地区の商店や近場のJAを利用している。</li> <li>・JAの撤退を防ぐため、あえてJAを利用している。</li> <li>・車を利用できない人はバスで旧西郷町の商店を利用している。</li> <li>・生協を利用している人もいる。</li> <li>・移動販売車もあり、運転できない人が利用している。品揃えが良くない。</li> <li>・衣料品等はネット通販を利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物は主に旧西郷町です。</li> <li>・通院などにあわせて旧西郷町のスーパー、ホームセンターで買い物する人も多い。</li> <li>・中村地区にも食品などちょっとした買い物ができる商店がある。</li> <li>・JA（布施）が撤退しないよう、あえてJAを利用している。</li> <li>・移動販売はNPOと個人経営の2社が行っており、それぞれ週2回来るので助かっている人もいる。</li> <li>・ネット通販も利用する。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くが自家用車利用。</li> <li>・小学校が閉校になり、それにともないバス路線がなくなる等、公共交通がどんどん不便になっている。</li> <li>・バス停から家まで遠いため、デマンド交通やタクシーを使うこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の運転ができる人は生活に不便は感じていない。</li> <li>・バスは1日3便程度で不便。</li> <li>・バス利用者は少ないが通院にはかかせない人もいる。</li> <li>・デマンドタクシーもある。町の補助があり、医療機関にかかるときは安くなる。</li> <li>・運転ができなくなったときの不安が大きい。家族親戚と助け合うしかない。</li> <li>・近所の人と乗り合わせで買い物に行くことはない。</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の郵便局・ATMを利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAがなくなった。</li> <li>・布施郵便局がある。</li> <li>・買い物や通院の際にATMを利用する。</li> </ul>
ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村地区のガソリンスタンドをよく利用する。</li> <li>・手数料を払えば、燃料を配達してくれる。</li> <li>・旧西郷町の方が価格が安いので、若者は仕事のついでにそこで給油する人も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村地区に2軒あるガソリンスタンドを利用。旧西郷町まで出るの遠い。</li> <li>・通院等のついでで旧西郷町で給油する人も多い。</li> <li>・中村地区のガソリンスタンドが灯油の配達をしてくれる。</li> </ul>
見守り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常적으로お互いに声を掛け合っているため、病気をしていないかなど自然と把握できる。</li> </ul>
自治会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の掃除やごみ拾いは、みんなで協力して実施している。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IJターンの住民がいるが交流は全くない。町役場からの移住者の紹介等がないため、コミュニケーションが取れない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島外から転入してきた人がおり、祭りや清掃などで交流している。</li> <li>・この地域で生涯暮らして骨をうずめたいという希望はあるが、地区がいつまで持続できるのか漠然とした不安は常にある。</li> </ul>





中山間地域住民の生活実態に関する調査報告書（令和5年3月）

発行者：島根県地域振興部中山間地域・離島振興課

TEL 0852-22-5065

調査・分析：中国創研・山陰合銀共同事業体